沖縄県文化財調査報告書　第136集

湧田古窯跡（Ⅳ）

―県民広場地下駐車場建設に係る発掘調査―

1999年　3月

沖縄県教育委員会

② Ⅱ地区　窯検出前

① Ⅰ地区　溝状遺構C

③ Ⅱ地区　窯検出後

⑤ Ⅲ地区　井戸

④ Ⅱ地区　瓦列遺構

⑥ Ⅲ地区　集石遺構

巻首図版（1）

⑦　坩堝

⑧　瓦質土器文様の型

⑨　軽石製品

⑩　瓦質土器

⑪　沖縄産無釉陶器・瓦質土器　型物

⑫　円盤状土製品

⑬　沖縄産施釉陶器碗　銘入り

巻首図版（2）

序

本報告書は平成７年度に実施した県民広場の地下駐車場建設工事に伴う緊急発掘調査の成果をまとめたものであります。

行政棟・議会棟・警察棟の建設が順次進められ、1993年の警察棟竣工により一連の新庁舎建設事業が終了しております。ご承知のように、行政棟建設に先立って実施しました緊急発掘調査の成果により、新庁舎建設予定地はかつての一大窯場であることが判明いたしました。焼物関係者の間では沖縄の窯業の始まりとして県内数ヶ所の窯場が知られており、本地域一帯にはその中のひとつ湧田村の存在が知られておりました。しかしながら、古文献にでてくる湧田古窯の場所の特定までには至らず、行政棟地区の発掘調査になったわけであります。

その成果についてはすでに報告書が刊行され、また、発掘調査中にはマスコミ報道や一般の県民、焼物関係者などへの公開をおこない、センセーショナルな話題として多くの県民の注目を浴びたものであります。夥しい量の瓦、それを焼いたとみられる窯跡の検出、作業場、穴のなかに埋められたブタの頭、また、作業をした集団の生活の様子を示すような青磁・白磁・染付などの輸入陶磁器、レンガや瓦を利用した遺構、瓦と同じような質の大鉢などの雑器類や網の錘などをはじめ、数ヶ所の井戸などもみつかりました。焼物集団の生活の場や、作業場が明瞭に発掘され、間違いなく本地域一帯が湧田古窯跡との位置付けがなされたわけです。

以上の成果をもとに、当教育委員会は順次進められた議会棟・警察棟の建設に際しても事前の発掘調査を実施し、その成果を刊行してきたところであります。このような地域の一角を占める県民広場においても湧田古窯跡と関連することが予想され、関係当局にその旨を伝えるとともに調整を行ったところであります。その調整により確認調査を実施し、湧田古窯関連の遺物包含層が確認されたことから県民広場全体の発掘調査になったわけであります。その結果、窯跡の確認、多量の瓦や輸入陶磁器、溝状に長く掘られた跡、石で囲まれた井戸など、当初の予想を上回る成果が得られ、さらに、数ヶ所で見つかった石垣は戦前・戦後のこの地域の様子を窺わせているようであると聞いております。

このような多くの成果をまとめた本報告書が県民の文化財に対する理解や保護意識の高揚のために活用され、さらに、地域史の研究など学術研究の一助として多方面に寄与するものと確信しております。

最後になりましたが、発掘調査および報告書刊行に際して多くの指導・助言をいただきました諸先生方並びに関係各機関に厚く御礼申し上げるとともに、発掘調査や資料整理・報告書作成に携わってこられた多くの方々のご苦労に対し、心から感謝申し上げる次第であります。

平成11年３月

沖縄県教育委員会
教育長　安室　肇

例　　言

1、本報告書は、地下駐車場（県民広場）建設事業に伴い、1995（平成７年度）年に実施した調査の発掘成果をまとめたものである。

2、発掘調査は、県土木建築部道路維持課からの依頼を受けて沖縄県教育委員会文化課が実施した。

3、本書で使用した航空写真は国土地理院 93 OKINAWA C49－８を複写した。

4、第Ⅱ章で掲載した『那覇市読史地図』（明治初年の那覇）は嘉手納宗徳氏の制作によるものである。

5、第Ⅱ章で使用した国土基本図は（１／2,500）は建設省国土地理院発行によるものである。
地形図（１／10,000）は那覇市制作の成果資料である。

6、本書に表示した高度値は、すべて海抜高で方位は磁北である。

7、出土遺物の同定並びに鑑定は下記の方々による。記して謝意を申し上げます。

獣・魚骨・・・・・金　子　浩　昌（早稲田大学考古学研究室）
陶磁器・・・・・・大　橋　康　二（佐賀県教育庁文化課）
石器・・・・・・・大　城　逸　朗（沖縄県教育センター）
貝・・・・・・・・久　保　弘　文（沖縄県栽培漁業センター）
古文書・・・・・・田名真之・他（那覇市歴史資料室）、比嘉　聡（那覇国際高校）

8、本書の編集は上原清乃、島袋春美の協力を得て、島袋　洋が行った。
執筆分担は下記の通りである。

島　袋　　洋	第Ⅰ章、第Ⅳ章第３節、第Ⅴ章第１～４節、第Ⅵ章
金　城　　透	第Ⅱ章、第Ⅲ章、第Ⅳ章第１節
仲　座　久　宜	第Ⅳ章第３節、第Ⅴ章第15、16節
上　原　清　乃	第Ⅳ章第２節、第Ⅴ章第５～13、19、31～33節、第Ⅵ章
仲與根　ゆかり	第Ⅴ章第20～22節
島　袋　春　美	第Ⅴ章第14、17、18、27～30、34節
古　屋　聡　洋	第Ⅴ章第23節
藤　崎　　京	第Ⅴ章第24～26節
金　子　浩　昌	第Ⅴ章第35節

9、遺物の写真撮影は長田　剛が行った。

10、発掘調査で出土した遺物及び本書作成の記録は、すべて沖縄県教育委員会文化課にて保管している。

目　　次

巻首図版
序
例　言
報告書抄録
第Ⅰ章　調査に至る経緯……1
　第1節　調査に至る経緯……1
　第2節　調査体制……1
第Ⅱ章　位置と環境……3
第Ⅲ章　調査経過……7
第Ⅳ章　層序と遺構……10
　第1節　Ⅰ地区……10
　第2節　Ⅱ地区……16
　第3節　Ⅲ地区……26
第Ⅴ章　出土遺物……31
　第1節　青　磁……31
　第2節　白　磁……35
　第3節　染　付……37
　第4節　褐釉陶器……37
　第5節　中国色絵……42
　第6節　タイ鉄絵……43
　第7節　青磁染付・銹釉染付……43
　第8節　瑠璃釉……44
　第9節　翡翠釉……44
　第10節　三　彩……45
　第11節　その他の中国産陶器……45
　第12節　本土産磁器……47
　第13節　本土産陶器……48
　第14節　沖縄産施釉陶器……50
　第15節　沖縄産無釉陶器……63
　第16節　陶質土器……70
　第17節　瓦質土器……74
　第18節　土　器……79
　第19節　煙　管……80
　第20節　土　錘……81
　第21節　青銅製品……82
　第22節　鉄製品……85
　第23節　古　銭……86
　第24節　円盤状製品……88
　第25節　円盤状土製品……88
　第26節　碁　石……92
　第27節　石製品・石器……93
　第28節　骨製品……95
　第29節　貝製品……95
　第30節　ガラス製品……97
　第31節　坩　堝……99
　第32節　製作道具……99
　第33節　その他……101
　第34節　貝　類……102
　第35節　那覇市湧田古窯跡地下駐車場地区出土の魚・鳥・獣類遺体……105

第Ⅵ章　総　括……112

図 目 次

第１図　沖縄本島及び那覇市の位置と湧田古窯跡（『湧田古窯跡(Ⅱ)』1995より）…… 4
第２図　湧田村の古地図（『湧田古窯跡(Ⅱ)』1995より）…… 5
第３図　湧田古窯跡の範囲とその周辺（『湧田古窯跡(Ⅱ)』1995より）…… 6
第４図　県庁舎と遺跡の調査区と今回の調査箇所 …… 8
第５図　グリッド設定 …… 9
第６図　Ⅰ地区　層序 …… 13
第７図　Ⅰ地区　スー３１石列 …… 11
第８図　Ⅰ地区　グリッド設定と遺構 …… 12
第９図　Ⅰ地区　溝状遺構Ａ・Ｂ …… 11
第10図　Ⅰ地区　溝状遺構Ｃ・Ｄ …… 15
第11図　Ⅱ地区　グリッド設定と遺構 …… 16
第12図　Ⅱ地区　上：ﾄﾚﾝﾁ層序　下：石積み断面 …… 17
第13図　Ⅱ地区　チー３２瓦列遺構（平面・立面図）…… 18
第14図　Ⅱ地区　ター３２瓦列遺構（平面・立面図）…… 18
第15図　Ⅱ地区　炭溜まり断面 …… 19
第16図　Ⅱ地区　炭溜まり及びピット平面図 …… 20
第17図　Ⅱ地区　土壙（断面図）…… 20
第18図　Ⅱ地区　窯 …… 21
第19図　Ⅱ地区　石積み遺構（平面・立面図）…… 23
第20図　Ⅱ地区　石組み遺構（平面・断面図）…… 25
第21図　Ⅲ地区　集石遺構 …… 27
第22図　Ⅲ地区　石積み遺構（平面・立面図）…… 28
第23図　Ⅲ地区　井戸 …… 28
第24図　Ⅲ地区　層序 …… 29
第25図　Ⅲ地区　溝状遺構Ｅ …… 29
第26図　青磁（１）碗・鉢 …… 33
第27図　青磁（２）皿・盤・瓶・壺・香炉 …… 34
第28図　白磁 …… 36
第29図　染付（１）碗 …… 38
第30図　染付（２）皿・小碗・小杯・瓶・鉢・その他 …… 39
第31図　褐釉陶器 …… 41
第32図　中国色絵 …… 42
第33図　タイ鉄絵・青磁染付・銹釉染付 …… 43
第34図　瑠璃釉・翡翠釉・三彩 …… 44
第35図　その他の中国産陶器 …… 46
第36図　本土産磁器 …… 47
第37図　本土産陶器（１）薩摩焼 …… 48
第38図　本土産陶器（２）その他の陶器 …… 49
第39図　沖縄産施釉陶器（１）碗 …… 54
第40図　沖縄産施釉陶器（２）小碗 …… 55
第41図　沖縄産施釉陶器（３）皿 …… 56
第42図　沖縄産施釉陶器（４）鉢 …… 57
第43図　沖縄産施釉陶器（５）鍋 …… 58
第44図　沖縄産施釉陶器（６）急須・蓋 …… 59
第45図　沖縄産施釉陶器（７）酒器・瓶 …… 60
第46図　沖縄産施釉陶器（８）火取・香炉・火炉 …… 61
第47図　沖縄産施釉陶器（９）灯明具・その他 …… 62
第48図　沖縄産無釉陶器（１）碗・皿・急須・火取・その他 … 66
第49図　沖縄産無釉陶器（２）擂り鉢・鉢・蓋・その他 …… 67
第50図　沖縄産無釉陶器（３）壺・瓶・その他 …… 68
第51図　沖縄産無釉陶器（４）大鉢・甕・その他 …… 69
第52図　陶質土器（１）皿・鍋・鉢・火炉 …… 72
第53図　陶質土器（２）火炉・急須・瓶・壺・鉢・蓋・型物その他 … 73
第54図　瓦質土器（１）植木鉢 …… 76
第55図　瓦質土器（２）鉢・壺・香炉 …… 77
第56図　瓦質土器（３）火炉・竈 …… 78
第57図　瓦質土器（４）蓋・瓶・小壺・その他 …… 79
第58図　土器（１・２）タイ産土器（３）…… 79
第59図　煙管 …… 81
第60図　土錘 …… 82
第61図　青銅製品 …… 84
第62図　鉄製品 …… 85
第63図　古銭 …… 87
第64図　重さによる内分け …… 88
第65図　円盤状製品ａ …… 89
第66図　円盤状製品ｂ …… 90
第67図　円盤状土製品 …… 91
第68図　碁石 …… 92
第69図　石製品・石器 …… 94
第70図　骨製品・貝製品 …… 96
第71図　ガラス製品（ボタン）…… 97
第72図　貝製品 …… 98
第73図　坩堝 …… 99
第74図　製作道具 …… 100
第75図　その他 …… 101
第76図　夜光貝の殻と蓋の残存部比率 …… 102
第77図　ブタ歯咬耗度分布 …… 111
第78図　各地区の主な出土遺物 …… 114

表 目 次

第１表　Ⅱ地区　ピット計測一覧 …… 19
第２表　青磁出土一覧 …… 32
第３表　染付出土一覧 …… 37
第４表　褐釉陶器観察一覧 …… 40
第５表　無釉陶器（宜興窯）出土一覧 …… 45
第６表　沖縄産施釉陶器観察一覧 …… 51
第７表　沖縄産無釉陶器観察一覧 …… 64
第８表　陶質土器観察一覧 …… 71
第９表　瓦質土器観察一覧 …… 74
第10表　煙管出土状況 …… 80
第11表　煙管観察一覧 …… 80
第12表　土錘観察一覧 …… 81
第13表　簪出土状況 …… 83
第14表　簪観察一覧 …… 83
第15表　鉄製品出土状況 …… 85
第16表　古銭出土状況 …… 86
第17表　古銭観察一覧 …… 86
第18表　円盤状製品出土状況 …… 89
第19表　円盤状土製品観察一覧 …… 92
第20表　碁石観察一覧 …… 92
第21表　石製品・石器出土状況 …… 93
第22表　石球計測一覧 …… 93
第23表　骨製品出土状況 …… 95
第24表　骨製品観察一覧 …… 95
第25表　ガラス玉観察一覧 …… 97
第26表　坩堝観察一覧 …… 99
第27表　窯道具観察一覧 …… 99
第28表　貝類出土状況　巻貝 …… 103
第29表　貝類出土状況　二枚貝 …… 104
第30表　サメ類脊椎計測一覧 …… 107
第31表　魚類出土量 …… 108
第32表　ウミガメ出土一覧 …… 108
第33表　トリ出土一覧 …… 108
第34表　ニワトリ出土一覧 …… 108
第35表　ネズミ出土一覧 …… 108
第36表　イヌ出土一覧 …… 108
第37表　ジュゴン出土一覧 …… 108
第38表　シカ出土一覧 …… 108
第39表　ヤギ歯出土量 …… 108
第40表　ブタ出土量 …… 109
第41表　ヤギ出土量 …… 110
第42表　ブタ歯出土量 …… 110
第43表　ウシ歯出土量 …… 110
第44表　ウシ出土量 …… 110
第45表　ネコ出土一覧 …… 111
第46表　ウマ歯出土量 …… 111
第47表　ウマ出土量 …… 111

図 版 目 次

巻首図版（1）　①Ⅰ地区溝状遺構C　②Ⅱ地区窯検出前
③Ⅱ地区窯検出後　④Ⅱ地区瓦列遺構
⑤Ⅲ地区井戸　⑥Ⅲ地区集石遺構

巻首図版（2）　⑦坩堝　⑧瓦質土器文様の型
⑨軽石製品　⑩瓦質土器　⑪沖縄産無釉陶器・瓦質土器　型物　⑫円盤状土製品
⑬沖縄産施釉陶器碗　銘入り

図版1　現場遠景…… 119
図版2　Ⅰ地区…… 120
図版3　Ⅱ地区（1）…… 121
図版4　Ⅱ地区（2）…… 122
図版5　Ⅲ地区（1）…… 123
図版6　Ⅲ地区（2）…… 124
図版7　青磁（1）碗・鉢…… 125
図版8　青磁（2）皿・盤・瓶・壺・香炉…… 126
図版9　白磁…… 127
図版10　染付（1）碗…… 128
図版11　染付（2）皿・小碗・小杯・瓶・鉢・その他…… 129
図版12　褐釉陶器・中国色絵…… 130
図版13　タイ鉄絵・青磁染付・銹釉染付・瑠璃釉・翡翠釉三彩…… 131
図版14　その他の中国産陶器・本土産磁器…… 132
図版15　本土産陶器　薩摩焼・その他の陶器…… 133
図版16　沖縄産施釉陶器（1）碗…… 134
図版17　沖縄産施釉陶器（2）小碗…… 135
図版18　沖縄産施釉陶器（3）皿…… 136
図版19　沖縄産施釉陶器（4）鉢・鍋…… 137
図版20　沖縄産施釉陶器（5）急須・蓋…… 138
図版21　沖縄産施釉陶器（6）酒器・瓶…… 139
図版22　沖縄産施釉陶器（7）火取・香炉・火炉…… 140
図版23　沖縄産施釉陶器（8）灯明具・その他・土器　坩堝…… 141
図版24　沖縄産無釉陶器（1）碗・皿・急須・火取　その他…… 142
図版25　沖縄産無釉陶器（2）擂り鉢・鉢・蓋・その他…… 143
図版26　沖縄産無釉陶器（3）壺・瓶・その他…… 144
図版27　沖縄産無釉陶器（4）大鉢・甕・その他…… 145
図版28　陶質土器（1）皿・鍋・鉢・火炉…… 146
図版29　陶質土器（2）火炉・急須・瓶・壺・鉢・蓋・型物・その他…… 147
図版30　瓦質土器（1）植木鉢・鉢…… 148
図版31　瓦質土器（2）鉢・壺・香炉・火炉・竈…… 149
図版32　瓦質土器（3）蓋・瓶・小壺・その他…… 150
図版33　煙管・土錘…… 151
図版34　青銅製品・鉄製品…… 152
図版35　古銭…… 153
図版36　円盤状製品…… 154
図版37　円盤状土製品・碁石・玉（ガラス製品）…… 155
図版38　石製品・石器…… 156
図版39　骨製品・貝製品…… 157
図版40　貝製品…… 158
図版41　製作道具・その他…… 159
図版42　貝類（1）巻貝…… 160
図版43　貝類（2）巻貝…… 161
図版44　貝類（3）巻貝・二枚貝…… 162
図版45　貝類（4）二枚貝…… 163
図版46　骨（1）上：サカナ・ウミガメ・ニワトリ　下：ヒト・ネコ・イヌ・ジュゴン…… 164
図版47　骨（2）ウマ…… 165
図版48　骨（3）上：シカ・ヤギ　下：ブタ…… 166
図版49　骨（4）ブタ…… 167
図版50　骨（5）ウシ…… 168

報告書抄録

ふりがな	わくたこようあと
書名	湧田古窯跡（Ⅳ）
副書名	県民広場地下駐車場建設に係る発掘調査
巻次	
シリーズ名	沖縄県文化財調査報告書
シリーズ番号	第136集
編著者名	金城　透・島袋　洋・仲座久宜・上原清乃・仲與根ゆかり・島袋春美・古屋聡洋・藤崎　京・金子浩昌
編集機関	沖縄県教育委員会　文化課
所在地	〒900-8571　沖縄県那覇市泉崎1－2－2　　TEL 098-866-2731
発行年月日	西暦1999年3月31日（平成11年）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
わくたこようあと 湧田古窯跡	おきなわけん 沖縄県 なはし 那覇市 いずみざき 泉崎	47201		26° 13′ 34″	127° 40′ 59″	試掘調査 1994.12/13 ～12/28 本調査 1995.2/20 ～10/31	3,000㎡	県民広場地下駐車場建設のため

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
湧田古窯跡	生産遺跡	近世	Ⅰ地区 ・ピット群 ・石列遺構 Ⅱ地区 ・窯跡 ・瓦列 ・炭溜まり Ⅲ地区 ・井戸 ・集石遺構 ・溝状遺構 ・石積み遺構	瓦 沖縄産陶器 本土産陶磁器 中国産陶磁器 陶質土器 瓦質土器 土製品 骨製品 古銭 軽石製品 その他	・Ⅲ地区の集石遺構　坩堝と一緒に染付、薩摩焼、沖縄産施釉、無釉陶器が一括して出土。湧田古窯跡の時期・製作活動を知る上で貴重な手がかりとなる。 ・銘入りの沖縄産施釉陶器皿が出土、時代を知る上で貴重。

第Ⅰ章　調査に至る経緯

第1節　調査に至る経緯

1993年の警察棟の完成により、行政棟・議会棟と進められてきた一連の県庁舎建設は終結をみた。行政棟の北側（議会棟の東側）一帯は那覇署が移転したあとその建物が取り壊された。そのあとの広場に芝が張られ、県立芸術大学の作品が展示・発表の場として、また、県民の憩いの場となる県民広場として利用されている。

その県民広場の地下に駐車場建設を計画していることが県土木建築部道路維持課から県文化課にもたらされた。県文化課はこれまでの県庁舎建設に先立って実施してきた緊急発掘調査により、一帯は『球陽』にみられる湧田窯が営まれた場所であることが判明している旨の説明を行ない、計画予定地内でも湧田窯が出る可能性のあることを申し入れた。これまでの県庁舎建設に伴う協議・調整の例にならい、早速、計画予定地内の文化財の取り扱いについて協議・調整が行なわれ、まず、計画予定地内に湧田古窯跡の時期の遺物包含層がどのように広がっているのか確認することとし、その結果をふまえて再度協議することになった。

そのため、県民広場に13箇所の試掘穴を設けて遺物包含層の延びを確認する目的で、県文化課は12月に確認調査を実施した。その結果、6箇所でスラグの堆積層が、また、行政棟側では湧田古窯の時期の遺物包含層も確認されるなど、計画予定地内のほぼ全域に湧田古窯の時期の遺物包含層の広がっていることが判明した。県道路維持課にその報告を行い、再協議した結果、地下駐車場計画予定地の約3000㎡の緊急発掘調査を県文化課が実施し、それに係る費用は県道路維持課が捻出することでまとまった。

県道路維持課が発掘調査に係る費用を県文化課に分任し、県文化課はそれを受け1995年4月から地下駐車場建設に係る緊急発掘調査をスタートさせることになった。

第2節　調査体制

発掘調査（平成6年度）から資料整理および報告書の刊行（平成10年度）まで、下記の体制で実施した。

調査主体……沖縄県教育委員会

教育長……嘉陽正幸（平成5年度～平成6年度）
〃……仲里長和（平成7年度～平成8年度）
〃……安室肇（平成9年度～平成10年度）
文化課課長……西平守勝（平成6年度～平成7年度）
〃……大城將保（平成8年度～平成10年度）
文化課課長補佐……知念勇（平成5年度～平成6年度）
〃……新垣末子（平成6年度～平成7年度）
〃……日越国昭（平成7年度～平成9年度）
〃……稲嶺靖子（平成8年度～平成10年度）
〃……當眞嗣一（平成10年度）

調査事務

文化課管理係係長……比屋根正治（平成6年度～平成8年度）
〃……大浜節（平成9年度～平成10年度）
主　査……新垣和子（平成5年度～平成7年度）
〃……村山佐代（平成8年度～平成10年度）
〃……砂川邦子（平成9年度～平成10年度）
副主査……宮城直子（平成5年度～平成6年度）
〃……新崎文子（平成6年度～平成7年度）
〃……新垣敏子（平成7年度～平成9年度）
主　任……伊波盛治（平成5年度～平成6年度）
〃……當間保智（平成7年度～平成8年度）

主　任……島　袋　正　都（平成９年度～平成10年度）
主　事……上　原　直　樹（平成８年度～平成９年度）
〃　……當　真　清　美（平成10年度）

調査総括

埋蔵文化財係長……大　城　　慧（平成５年度～平成９年度）
〃　……島　袋　　洋（平成10年度）
主任専門員……岸　本　義　彦（平成６年度～平成10年度）
主　任……金　城　　透（平成８年度～平成９年度）
〃　……長　嶺　　均（平成６年度～平成９年度）
専門員……金　城　　透（平成６年度～平成７年度）
〃　……仲　座　久　宜（平成８年度～平成10年度）
嘱託員……上　原　清　乃（平成７年度～平成10年度）
〃　……仲與根　ゆかり（平成７年度～平成９年度）

発掘作業員

新城　恵、田中ゆきの、呉我フジ子、新垣美智子、中田邦子、嘉数キミエ、堀切敬子、柚木崎末子、松本倫子諸見里幸子、島袋文子、稲福フミ子、玉城信子、仲里ハル子、田場直樹、呉屋盛三、呉屋　救、宮国恵子、与那嶺勢津子、中塚末子、新垣ヒデ、与那城好子、津波古美津江、大城節子、照喜名武子、平安名哲子、安次富マサ子、奥濱悦子、神谷長範、神谷ハツ、洲鎌武雄、喜舎場盛安、安次嶺政寿

資料整理作業員

大城直美、大城美和子、長田　剛、友利映子、嘉数加代子、比嘉なおみ、安和千代子、遠山正子、金城さおり瑞慶覧尚美、池原直美、玉城恵美利、城間智子、折田衣代、石垣奈美、外間　香、渡邊尚子、高宮とり、高良三千代、高里桂子、上原美穂子、崎原美智子、大島栄子、中村昌子、饒平名安子、比嘉妙子、島當広美、慶ふじ子、上原和枝、大城美智子、真境名百合子、吉田トヨ子、大村由美子、金城洋子、牧志加代子、国吉春美、我那覇悠子、津覇古良子、崎浜陽子、金城敬子、林麗陽、照屋直美、大城りな、上原悦子、大城成子、玉寄智恵子、金城　薫、仲村良枝、中村智子、請盛智秋、備瀬枝美子、石橋朝子、源河秀子、手嶋永子、嘉数禮子、島袋春美、古屋聡洋、藤崎　京

第Ⅱ章　位置と環境

第１節　位置

沖縄本島南部に位置する那覇市は、東西約11㎞、南北約８㎞の総面積37.81㎢を占め、北に浦添市、東に西原町、東南に南風原町、南には豊見城村の各市町村に隣接している。かつての那覇は、西に東シナ海をのぞむ大小の島々からなり、首里王府時代には貿易港として発達・繁栄した港町であった。現在は、国の出先機関や沖縄県庁とその関連施設、博物館・図書館など多数の官公署や施設が集中した沖縄の政治・経済の中心地であり、人口約30万人（平成11年３月現在）を越える県下第一の都市である。その那覇市のほぼ中央にあたる那覇市泉崎１～２丁目及び壺川の一部を、古くは湧田村と呼称していたようである。

遺跡の所在する湧田村は、城岳台地から北西部にかけて緩やかに傾斜する丘陵縁端部に形成され、標高約５ｍの低地に立地しており、那覇港へ流入する国場川下流の漫湖の入り江に近く、城岳台地と周辺には湿地帯が広がっていたとされている。（第２図）

この湧田村は、琉球における陶業の始まりの地といわれており、17世紀後半に各地に点在していた窯場を現在の壺屋町に統合するまでの約60年間、最大かつ中心的な窯行地として栄えた場所であった。古窯地は広範囲にわたると言われているが、その中心は現県庁敷地内の南側付近が中心であったようである。さらに湧田村では上焼や荒焼、それに瓦類を焼いたとされる窯が地域に分散していたと伝えられていたが、これまでの県庁舎建設に伴う調査などから各窯の築かれた地域がほぼ判明してきている。

今回の調査は、湧田古窯村跡の一角である県庁敷地内の議会棟北側（泉崎２丁目付近）において、地下駐車場建設に伴い発掘調査が行われた。

第２節　自然環境

那覇市の地形は、首里周辺の琉球石炭台地と東シナ海に面した那覇の低地部とに大別される。三方を天久、首里・識名・小禄の琉球石灰岩に囲まれ、西側に緩やかに傾斜していく標高２～10ｍの海岸低地を形成している。その中を西側の低地へ向かって北に安謝川、中ほどに安里川、南に国場川が東シナ海に注いでいる。

地質は、新第三系泥岩（島尻層群）を基盤とし、内陸部では琉球石灰岩、さらに風化土である島尻マージが堆積している。海岸低地は残積粘土や海浜堆積土で覆われているが、南西に位置する小禄には新第三系泥岩のほか同系の砂岩（ニービ）が分布している。

湧田村は、那覇市のほぼ中央の低地部に位置し、周辺には楚辺や城岳一帯の琉球石灰岩の丘陵地があり、その西側には湿地帯が広がっていた場所で、久茂地川と国場川の両川を利用できる位置にあり、海上交通の要害の地ともなっていたと考えられる。

第３節　歴史環境

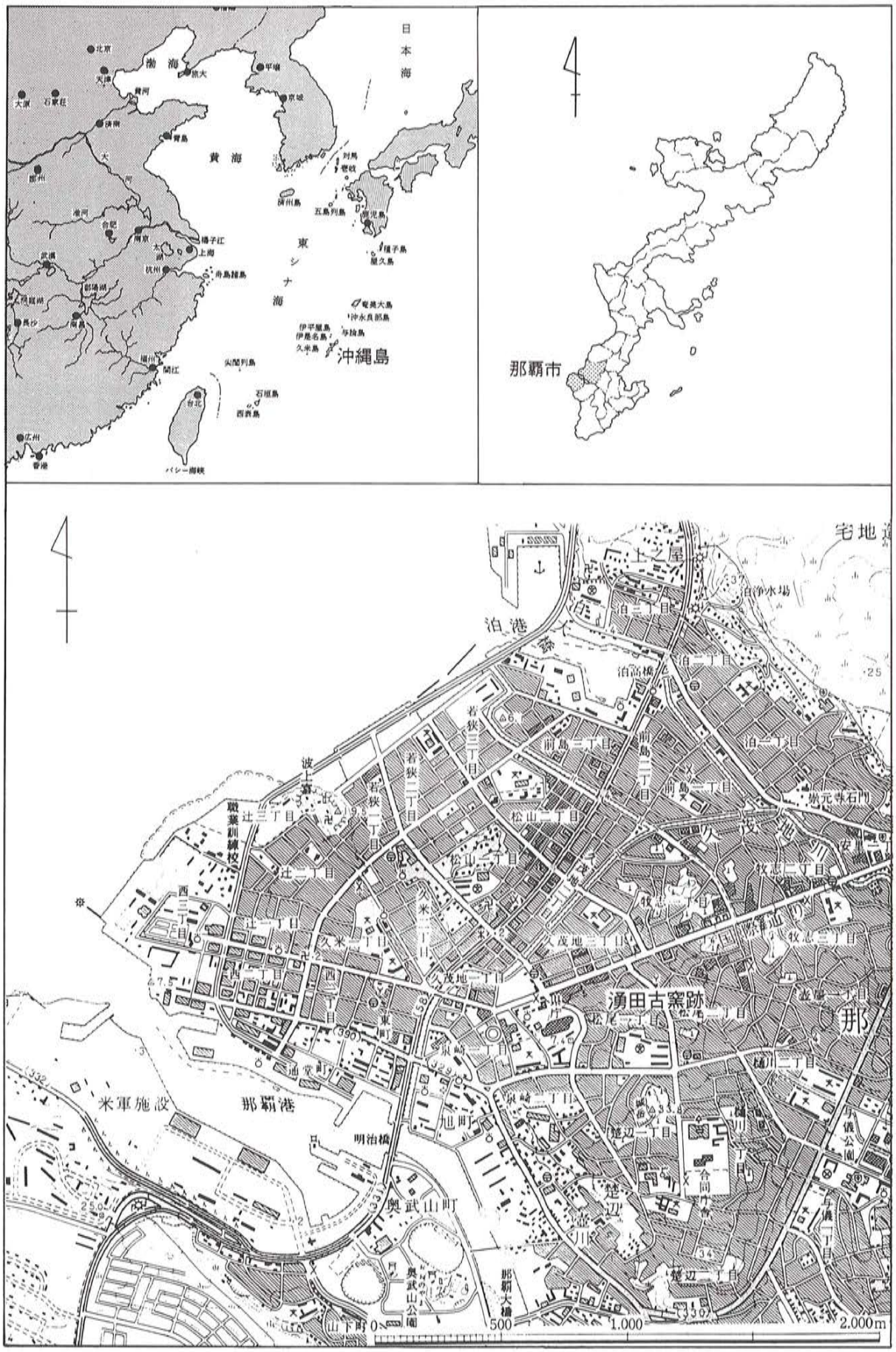
湧田村とは、王府時代の通称地名であり、地名の由来に関しては「琉球国由来記」にワクタガー（湧田井）と呼ばれた井戸名にちなんでいることが見られる。ワクタガーは、中国から琉球へ赴いた冊封使一行の飲料水供給の地として使用されている。1865年（尚泰18）には井戸の管理等が記された碑文が建立されるなど、王府期から重宝されてきた井戸であった。そのワクタガーは碑文とともに先の大戦にて破壊されてしまい、今日にその痕跡を残していない。

沖縄における製陶業の始まりは、国賓として薩摩に赴いた佐敷王子朝昌（後の尚豊王）が連れ帰ったとされる朝鮮人陶工の一六（張献功）・一官・三官によって1616年（万暦44）に伝えられたとされ、その朝鮮人陶工らが窯場を開いた場所が湧田村であるといわれている。その後、湧田村は首里王府のお抱えの琉球最大かつ中心的な窯業地として大いに栄えていたが、1682年（尚貞14）に壺屋に窯場が統合されることで徐々に衰退していったと考えられる。

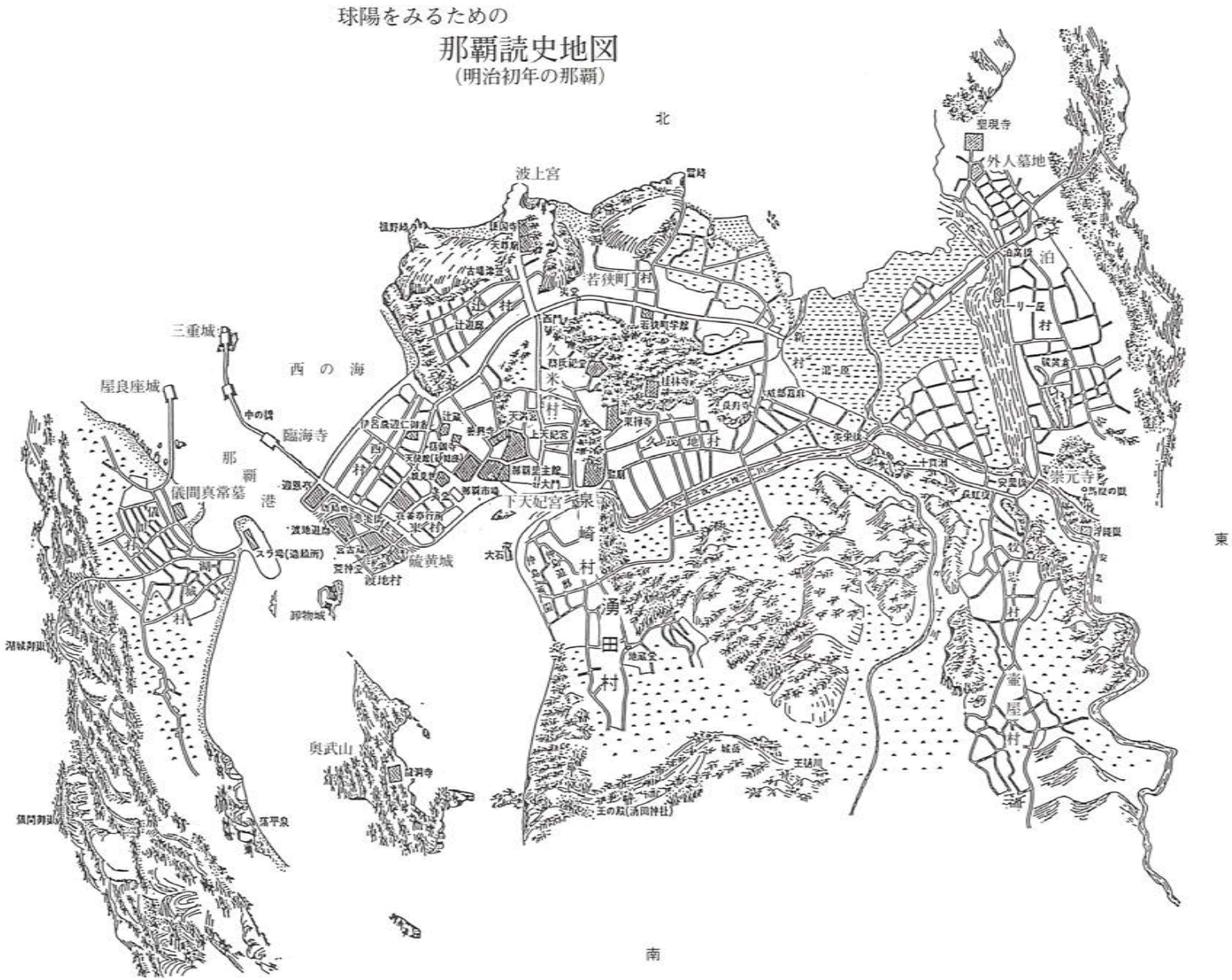
この地からは、首里城正殿の竜頭瓦の製作で知られる平田典通（1641～1722）や王府の命令で八重山に陶業を広めた仲村渠致元（1696～1754）などの名陶工を輩出している。

17世紀後半には、行政区域が整われたことで湧田村は泉崎村（旧泉崎）に組み込まれ、湧田村の地名は消滅してしまった。そして大正期には、一帯に沖縄県庁や図書館等が建ち並び、沖縄県の政治・経済の中心地として繁栄した。

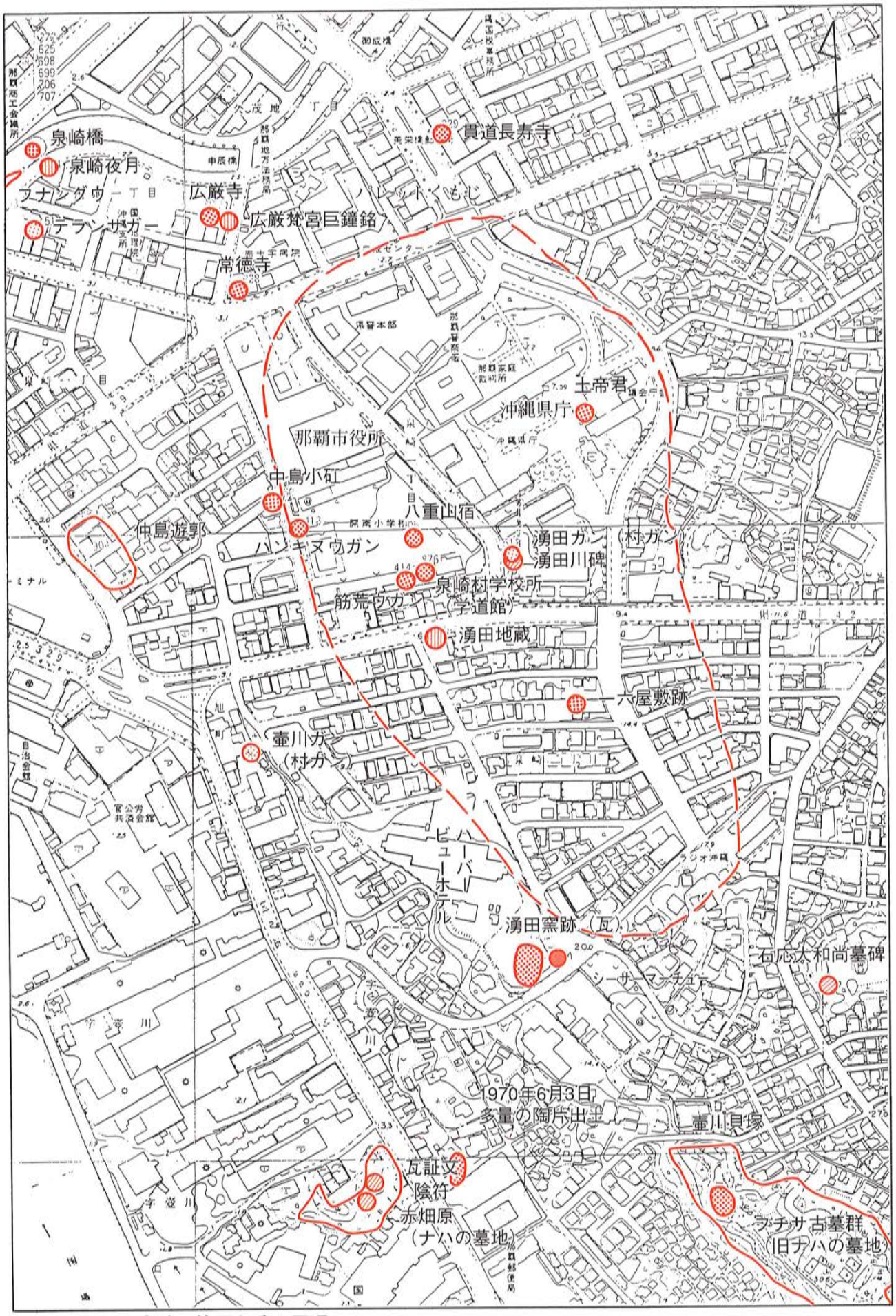
昭和20年、那覇市の街は先の大戦において廃虚と化したが、その後の復興により一帯には琉球政府の行政府ビルなどが建設され、再び政治・経済の中心地として現在に至っている。



第１図　沖縄本島及び那覇市の位置と湧田古窯跡（『湧田古窯跡（Ⅱ）』1995より）



第２図　湧田村の古地図（『湧田古窯跡（Ⅱ）』1995より）



第3図　湧田古窯跡の範囲とその周辺（『湧田古窯跡（Ⅱ）』1995より）

第Ⅲ章　調　査　経　過

今回の発掘調査は県民広場の地下駐車場建設に伴う緊急発掘調査で、約3000㎡の計画予定地が発掘調査の対象範囲となり、約７ケ月という長い調査期間を見込んでの調査であった。調査地区のほとんどが建物の基礎工事の際に掘削されて客土となっており、地山面の直上まで現代遺物が混ざっている状況であったが、調査区南西側のⅡ地区において検出された瓦の集中部や窯跡遺構などはひとつの成果であった。

調査の途中、何度かの台風接近や天候不順などにより調査スケジュールが心配されたものの、当初の予定通りの調査期間で無事終了することができた。以下、今回の発掘調査経過の概要について略述する。

発掘調査は12月に実施した確認調査の成果をもとに、現地表面から約２ｍの厚さを有す整地・造成土をバックホーにより剥ぎ取ることから開始した。表土剥ぎがほぼ終了した時点でグリット設定を行なった。調査地の東隅に設けた基準点を通る南北方向の直線を基準ラインとした。

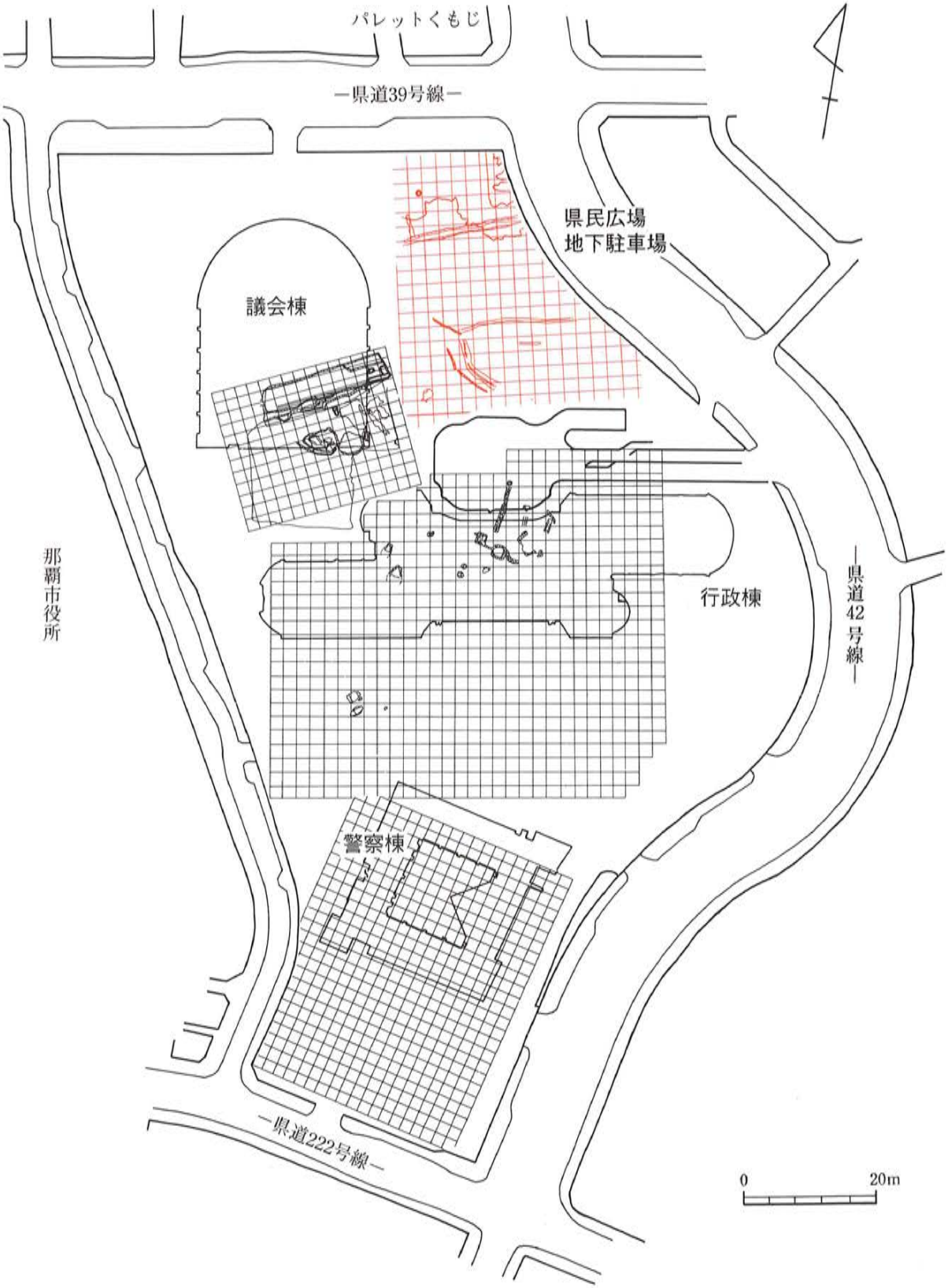
その基準ラインと直交する東西のラインを設け、調査区全体に４ｍ×４ｍを単位とする方眼枠を組み、南から北へ32・31・30…と算用数字、東から西へア・イ・ウ…と五十音を付した。グリットの呼称は南西隅の杭を示準し、カ－31・キ－30・ク－29とした。(第５図)。

約3,000㎡の調査範囲を有しているため、県民広場として利用されている現状のアスファルト敷きT字路を利用して、調査対象地域を３地区に分けた（第５図)。Ⅰ地区は調査範囲の南東側で行政棟に近く、以前の発掘調査により確認された遺物包含層などの期待が持たれた地区である。Ⅱ地区は南西側のやや小高くなった場所で、前述したように行政棟の調査で確認されたような窯跡遺構や瓦の集中部などが検出されている。Ⅲ地区は北側一帯の平坦な場所で、試掘によりスラグの堆積層が確認された最も広い地区である。

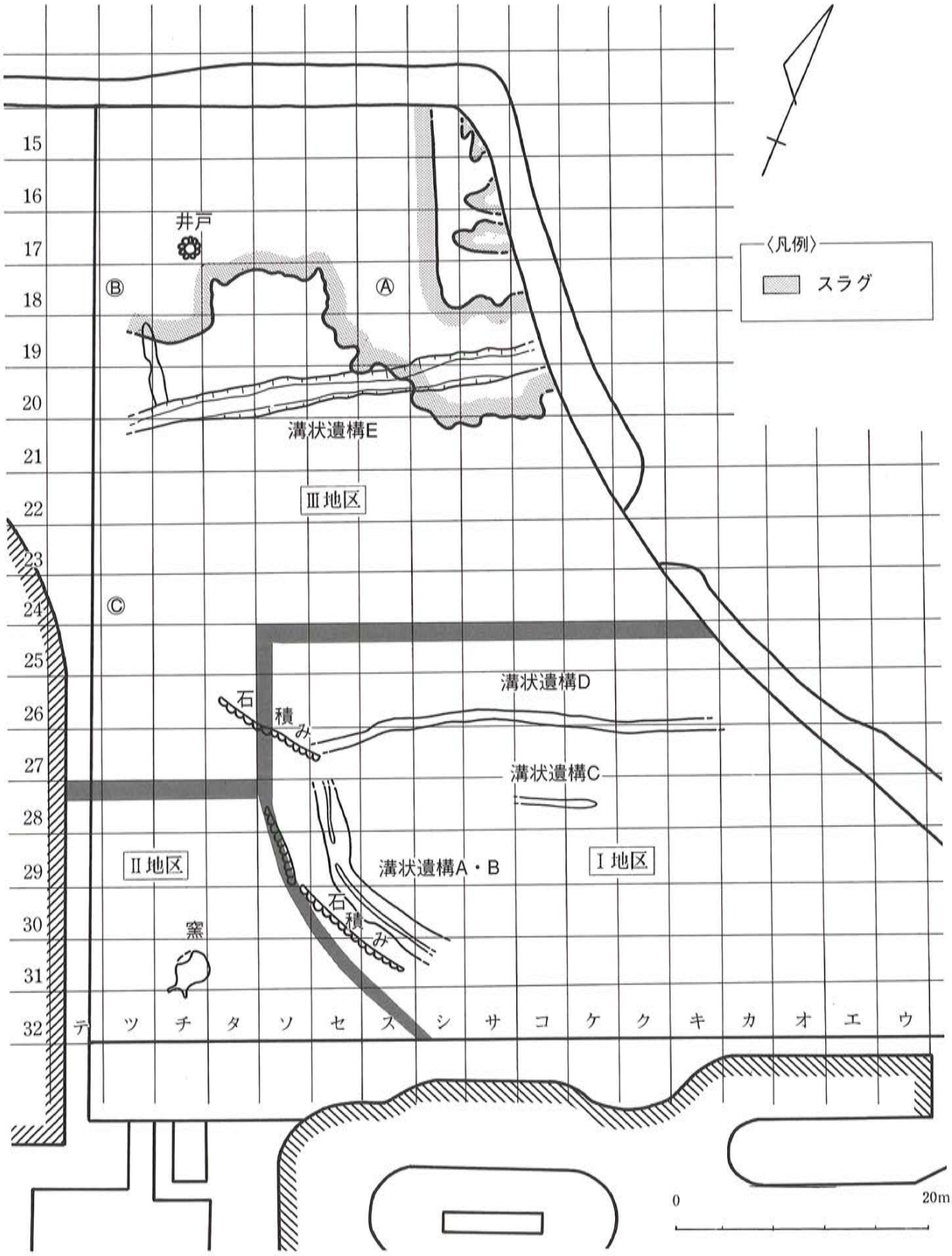
作業員を投入しての手掘りによる包含層の発掘はⅠ地区から開始した。まず、堆積層の確認を行なうために、本地区を十字に切るように29ラインの北側、キーライン西側に約80㎝幅のトレンチを設けた。そのトレンチで堆積層の確認を行い、各層ごとの発掘を全体に広げていった。その結果、本地区の堆積層は南側から北側へ傾斜して堆積しており、南側（行政棟側）は地山面まで撹乱を受けており、北側の方に包含層が残っていることが判った。本地区とⅡ地区を分けるように検出された近代の石垣（Ⅰ地区の南側へ弧状に延びる）の前面部にあたる本地区の南側を削り、北側へ客土として造成したようである。撹乱を免れた北側では湧田古窯の時期の遺物包含層や地山面に掘り込まれた溝状遺構やピットなどが検出された。

Ⅰ地区の状況がある程度つかめた頃にⅡ地区の調査も平行しておこなった。Ⅰ地区より一段高くなった地区であり、旧来の地山面を残していた。本地区もかなり撹乱を受けているが、そのところどころに行政棟地区で検出された遺構と一連のものとみられる瓦の集中部や瓦列、窯跡遺構などが検出された。範囲的には狭いものの、検出遺構の写真撮影や実測作業などかなりの時間を費やした。

Ⅰ・Ⅱ地区の状況が判明してきたところでⅢ地区の調査に移っていった。他の地区と同様、本地区の場合もシーライン、20ラインにトレンチを設け、堆積層の確認を行なってから全体の発掘に入っていった。しかし、本地区はかなり水はけが悪く、雨の日の後は池のように水嵩があがり、発掘どころではなくなるような状態となった。そのため調査区の周りに雨水対策用の深い溝を廻らせて、調査を進めていった。表土の造成層を除去すると21ライン以北にスラグの層がほぼ全面に露出した。その下方は基本的にはⅠ地区と同じような状況の堆積層がみられた。南側に石垣や地山面を掘り込んだ溝状遺構、南側で琉球石灰岩を丸く積み重ねた井戸などが検出された。各地区とも検出遺構や堆積層などの写真や実測、また、発掘状況の写真撮影などを行ないながら調査を進めていった。最後に調査地域全体の完掘写真を撮り、今回の発掘調査を完了した。



第４図　県庁舎と遺跡の調査区と今回の調査箇所


15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
テ ツ チ タ ソ セ ス シ サ コ ケ ク キ カ オ エ ウ
井戸
Ⓑ
Ⓐ
Ⓒ
〈凡例〉
スラグ
溝状遺構E
Ⅲ地区
溝状遺構D
石積み
溝状遺構C
Ⅱ地区
溝状遺構A・B
Ⅰ地区
石積み
窯
0
20m

第５図　グリッド設定

第Ⅳ章　層序と遺構

今回の発掘調査地区は、これまでに行われた行政棟・議会棟の調査地区と隣接していること、さらに試掘調査結果のもとに便宜上、調査地を３地区にわけ調査を実施した。

Ⅰ地区…調査地の南側にあたり、約1,500㎡と最も広い調査地区である。調査区の北側は地山面が200～300㎝ほど落ち込み、傾斜に沿って近世の遺物包含層が堆積していた。遺物の出土量が最も多かった地区で、溝状遺構などが地山面で検出できた。

Ⅱ地区…調査地の南西部にある約300㎡と今回の調査地で最も小さい調査地区である。窯跡や瓦列など行政棟と関連する遺構が検出された。

Ⅲ地区…調査地の北側半分にあたる約1,200㎡の地区で、以前は那覇警察署の建物が建っていた地区である。その為、調査前まではかなりの破壊を受けていると予想されたが、建物基礎跡以外は保存状況が良く、近代期の井戸などが検出された。
Ⅲ地区では作業の方法・進行上、A・B・C（第５図）とさらに細分にわけ、掘り下げを進めていった。

全地区とも地表面から約200～300㎝が旧庁舎に伴う整地層で礫混ざりであり、その下に幾つかの遺物包含層が確認された。

第１節　Ⅰ地区

a. 層序

Ⅰ地区では部分的な堆積層が確認されたが、基本的な堆積状況は第６図のとおりである。

１層：全面を覆う造成層からなる。礫混じりの土層で北側に緩やかに傾斜しており、層厚は厚いところで約200㎝を測る。Ⅰ地区東側に便宜上、黄土山と仮称した厚さ100～130㎝程度の橙褐色土の造成土が見られた。

２層：全面的に広がる暗褐色土層である。１層と同様の造成層であり、層厚が約20㎝前後で鉄釘やガラスなどの現代遺物を多量に含んでいる。

３層：灰褐色土層の撹乱層である。２層で一部切断されているため、その部分の土層を３ｂ層として便宜上分けている。北側へ緩く傾斜しており、北側のⅢ地区までのびる土層である。鉄釘やガラスなどの現代遺物を多量に含んでいる。

４層：黄灰色土の近世の包含層である。層厚20～100㎝を有する。本地区の主体をなす土層である。

５層：明茶褐色土の近世の包含層である。層厚30～60㎝を有する。本地区の主体をなす土層で瓦や塼が集中して出土している。

６層：黄灰色粘土の近世の包含層である。層厚20～40㎝を有する。本地区の主体をなす土層でⅢ地区の４層に相当し、土層中には一部レンズ状に堆積した少し白味を帯びた土層が見られる。

７層：青灰色粘土・クチャ（地山）からなり、無遺物層である。

b. 遺　構

本地区では、石積遺構・石列と溝状遺構、ピットが検出された。

１．溝状遺構（第９図・第10図）

近代に組まれた石積み（Ⅱ地区）の北側と本地区中央で４本の溝状遺構が検出された。その内の溝状遺構Ｄで

は溝内にピットの確認できた。

・溝状遺構A・B（第９図）

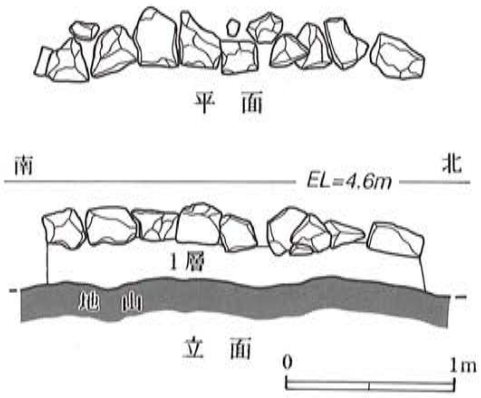
シ～セ－28～30で検出された遺構で地山面に掘り込まれている。平行した２本の溝で、弧を描くように走っている。溝Aは幅約30～40㎝、深い所で約30㎝を溝Bは幅約30～40㎝を測る。両溝とも東側は行政棟側の斜面部分へと続いており確認することは出来なかった。西側は石垣同様に旧那覇警察署の建造物により破壊されたと考えられ確認できなかった。

・溝状遺構C（第10図）

中央グリット（ケ～サ－28）で検出、４・５層面に掘り込まれている。直線的に走り、幅約40㎝、深さは10㎝弱を測る。遺構の深さが極端に浅いこと、と両端の検出状況からして後世の破壊を受けたと推測される。

・溝状遺構D（第10図）

本地区の全域を南北に切るように走る遺構で西端で緩やかに南側へ走る。溝中にはピットが検出。ピット中に木杭の打ち込まれたものもある。幅約30～40㎝、深い所で約30㎝を測る。



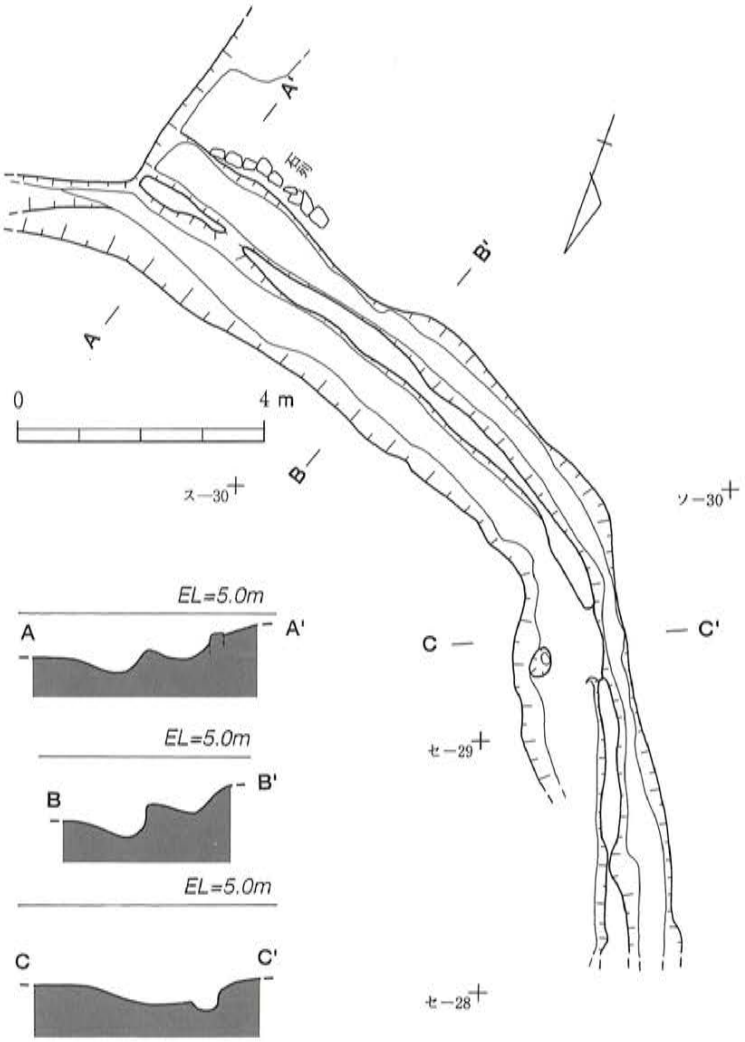
第７図　Ⅰ地区　ス－31　石列

２．石列（第７図）

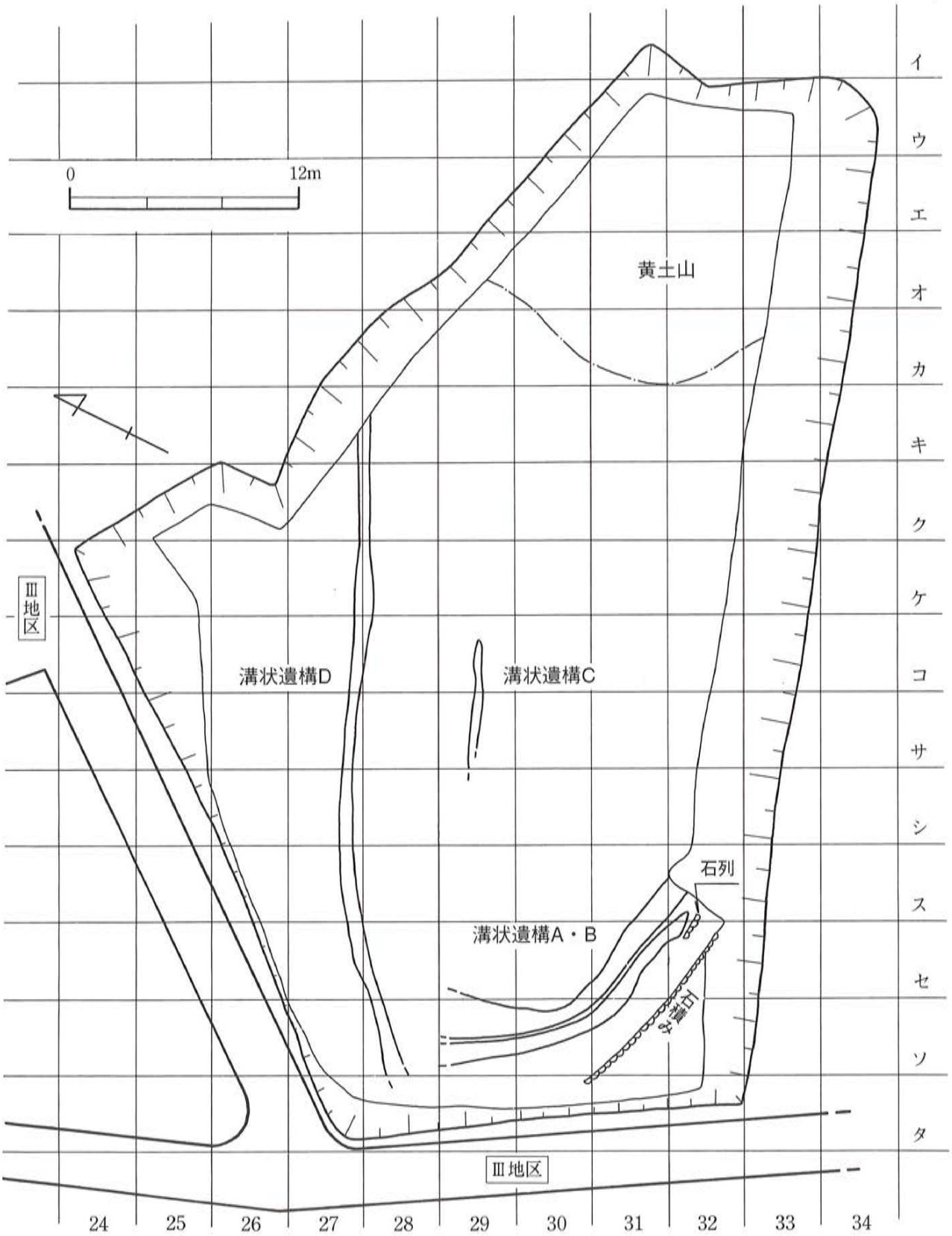
前述した溝状遺構A・Bの東隅（ス－31）の１層面上で検出された石列である。琉球石灰岩からなる石列で、長さは２ｍを測る。南側流れ込み土の１層上面に乗る。

３．ピット群

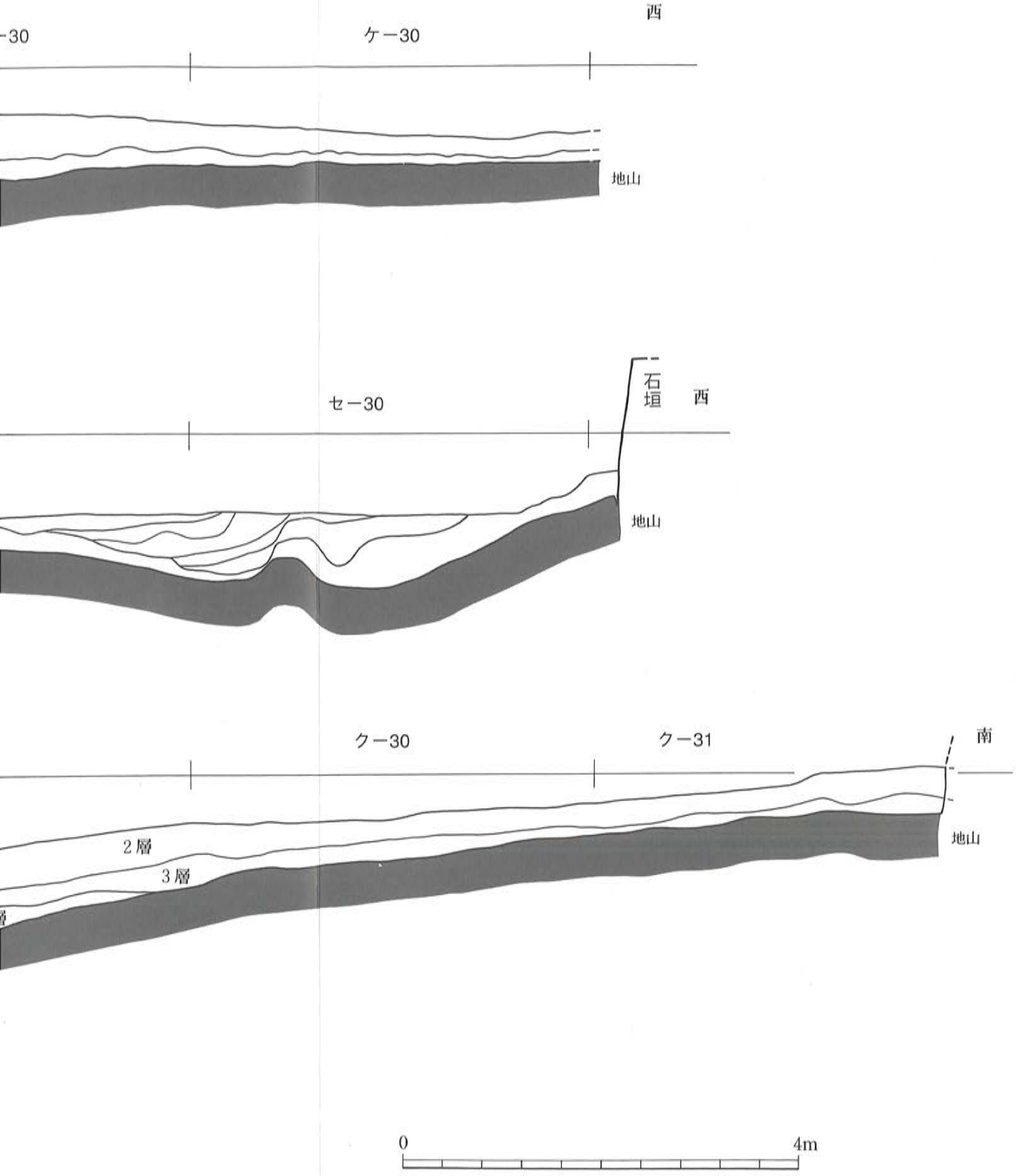
ケ～サ－30・31の地山面で５箇所のピットが検出されたが、プランの検出までは至らなかった。



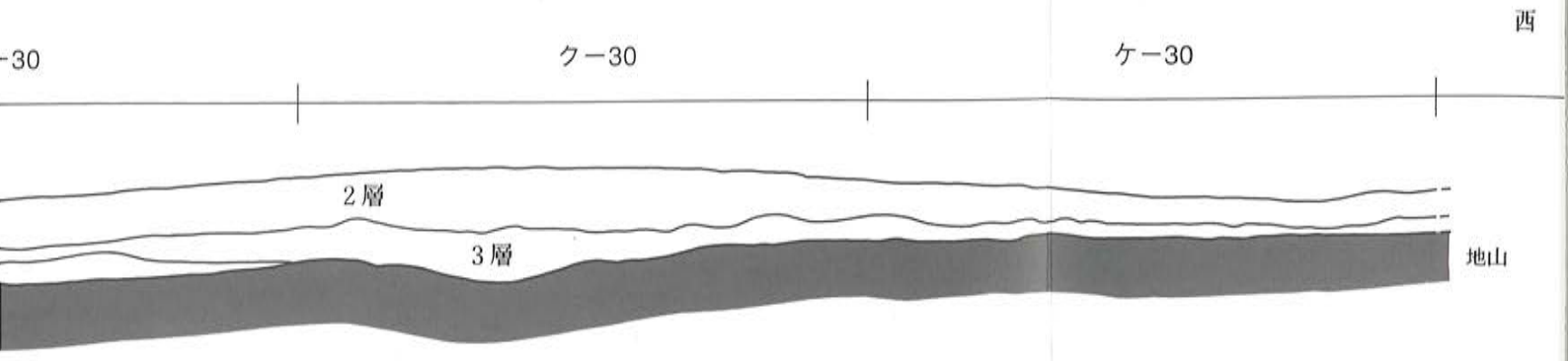
第９図　Ⅰ地区　溝状遺構A・B



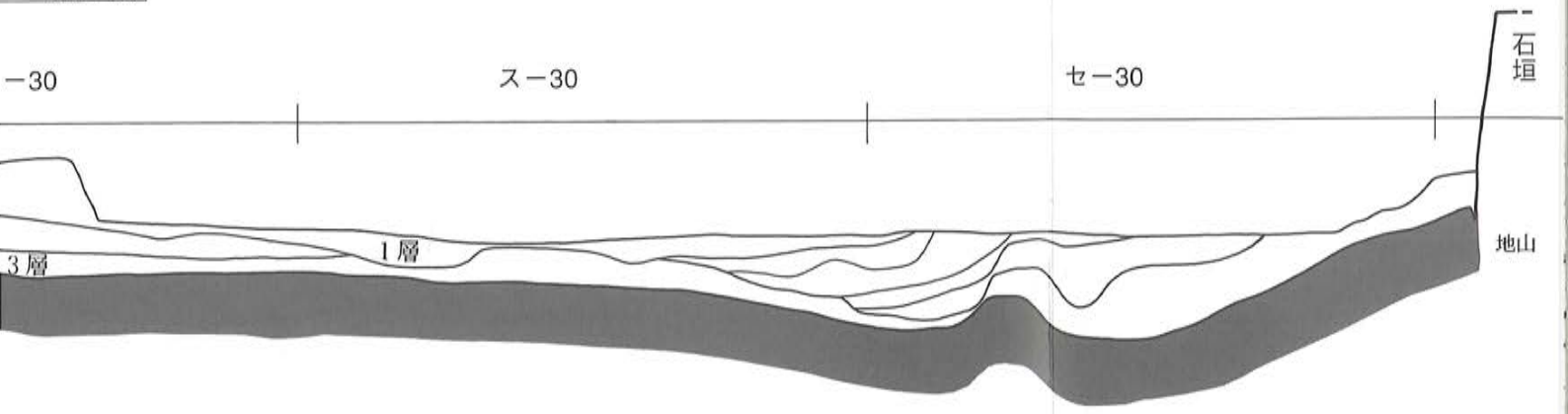
第8図　Ⅰ地区　グリッド設定と遺構


西
ケ－30
地山
石垣
西
セ－30
地山
ク－30
ク－31
南
2層
3層
地山
0
4m

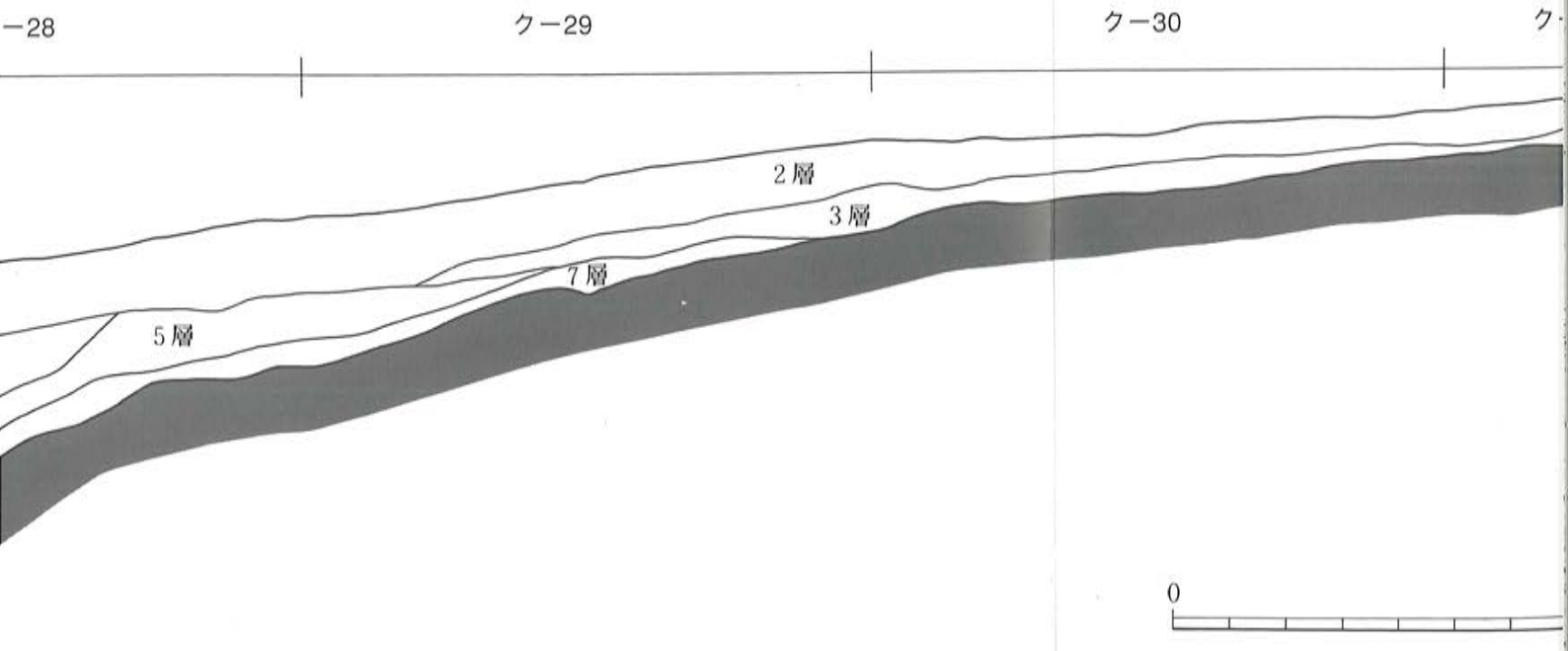
ン　南壁①

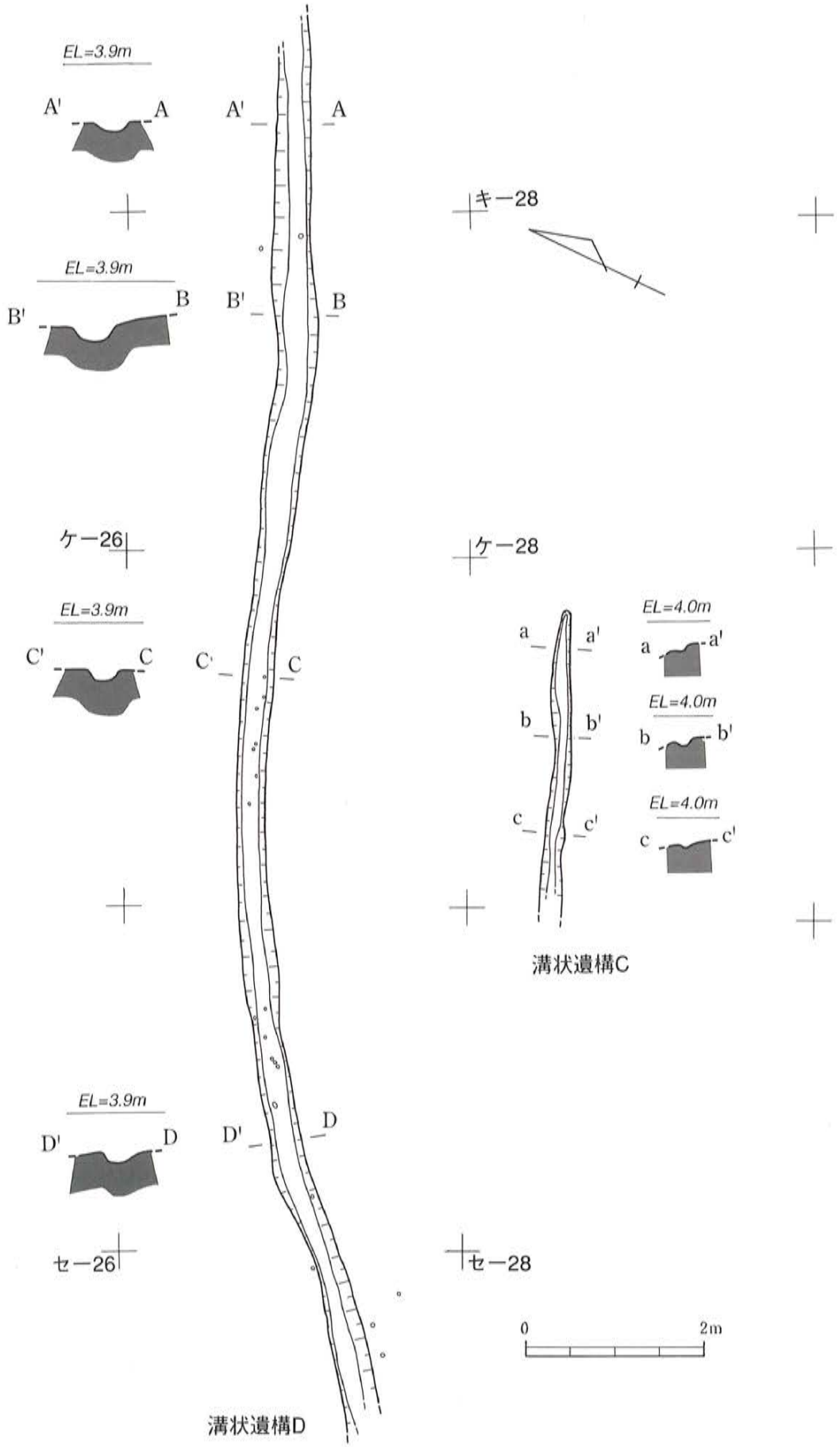


ン　南壁②



ン　西壁



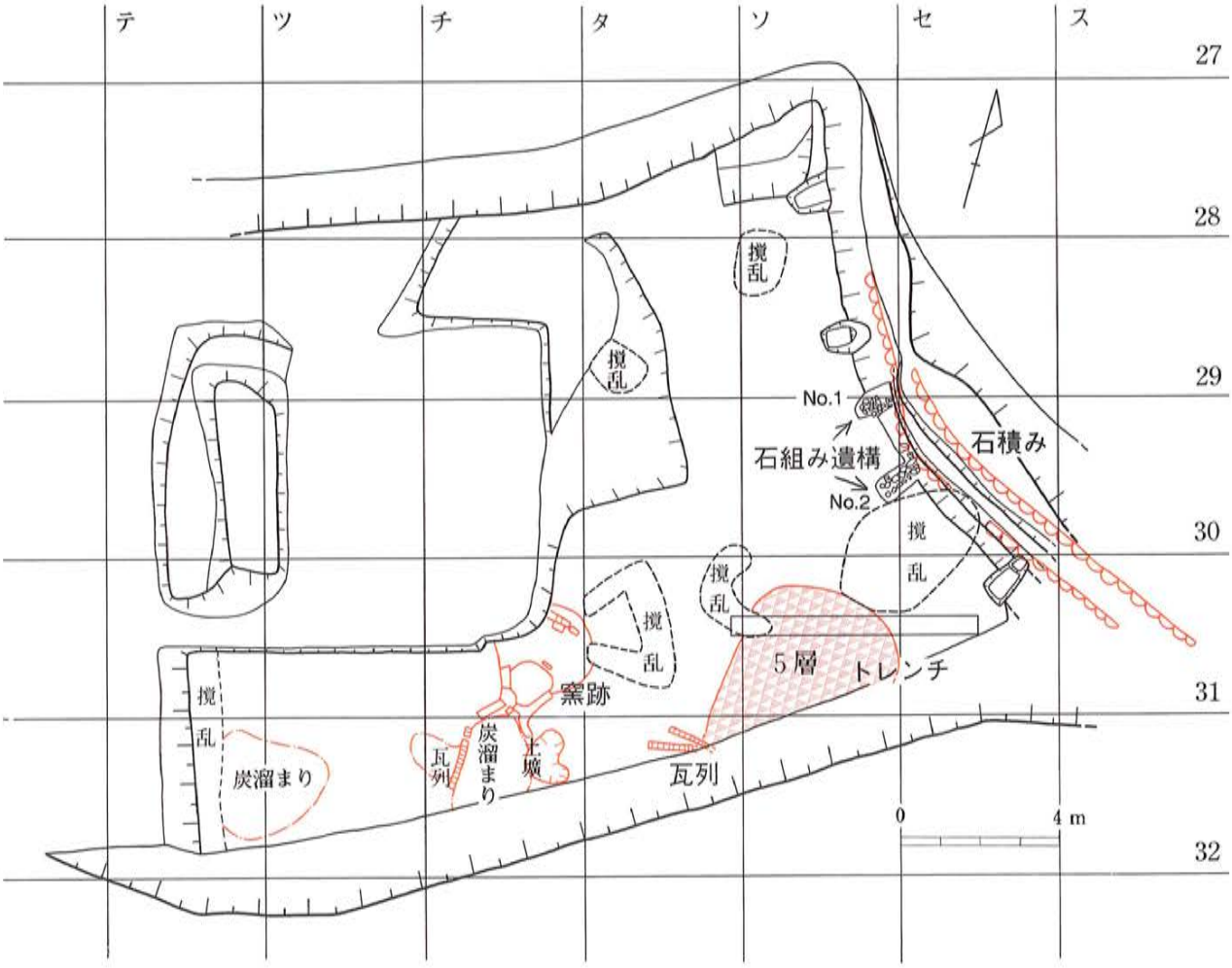


第10図　Ⅰ地区　溝状遺構C・D

第2節　Ⅱ地区

Ⅱ地区は、1995年度調査対象地域の南西側にあって調査面積が300㎡と狭い範囲である。行政棟、議会棟に隣接し、標高は約5.5ｍと他の調査区に比べ２～３ｍ高く、行政棟の調査区域であった丘陵の一部分といえる。遺構は瓦窯、瓦列などの湧田古窯跡に関するものが検出されたが、近代以降の建築工事によって本地区の三分の一は失われ、残されていた包含層も植樹などにより、部分的に撹乱を受けていたため、遺跡の保存状況は良好ではなかった。

以下、本地区で確認された層序と検出された遺構の概略を記す。



第11図　Ⅱ地区　グリッド設定と遺構

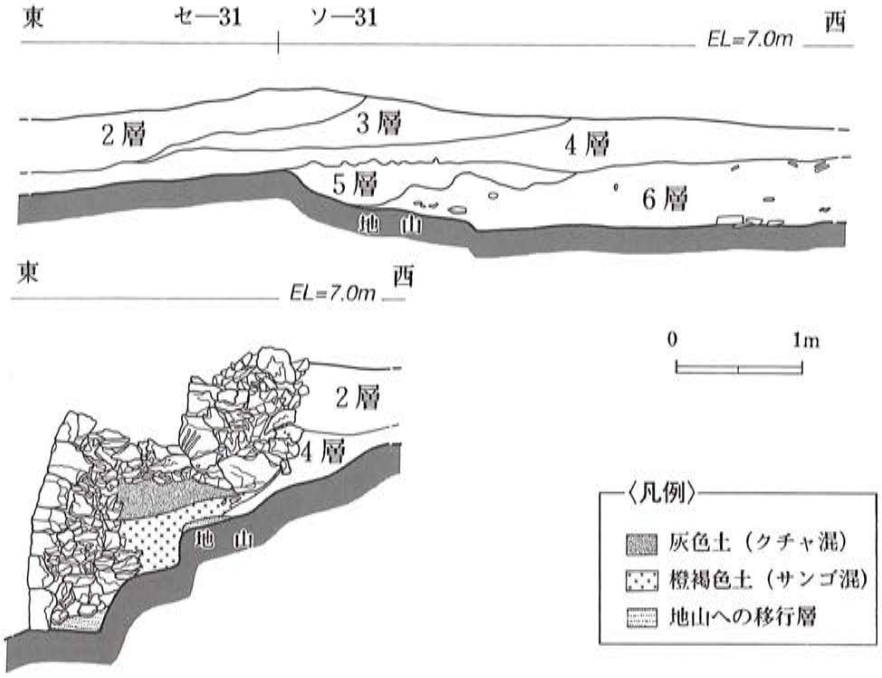
a. 層　序

本地区では、地山面を併せ、７層が確認されたが、チーラインから西側には２～５層は堆積しておらず、表土の下にすぐ６層が露出するような状態であった。

表土は旧庁舎に伴う客土の造成層で、重機による剥ぎ取りを行った。２層から４層は小破片の遺物がほとんどで、スンカイマカイなどの近代磁器やガラスの破片などが混ざる近代以降の堆積土である。５層は赤色土と瓦類の層で、タ－31・32グリットにのみ部分的にみられた。６層は粘質が強い黄灰色土で、瓦や塼などの遺物が多量に出土し、櫛描き連弁文の青磁碗や、見込み十字花文の染付小皿など16～17世紀の遺物が混ざる遺物包含層である。瓦列は本層から確認された。また、窯を境に31ラインの西側に６層の堆積はみられなかった。７層は地山層で青灰色粘土（クチャ）である。窯や瓦列などの遺構は地山面に築かれていた。

b. 遺　構

Ⅱ地区で検出された遺構は、瓦列、窯、炭溜まりなど瓦窯に関係するものが主体である。遺構のほとんどは地山面に築かれ、31・32ラインに集中しており、行政棟の延長線にあると考えられる。以下、各遺構ごとに概略を述べる。Ⅰ地区に面したⅡ地区・北側斜面の石積み（第12・19図）は、明治以降の近代遺構で、湧田古窯が廃業になった後に建てられた建築物の一部と考えられる。



第12図　Ⅱ地区 上：トレンチ層序　下：石積み断面

1．窯　体（第18図）

今回の調査で確認された窯は、行政棟Ⅰ地区の3号窯と同様で、焼成室が丸く膨らみ、燃焼室にかけて焚き口の方へすぼまり逆三角形の空間がつくられる単室の平窯である。残念ながら、焼成室の一部分は削り取られているため完全な形ではないが、焼成室、燃焼室、焚き口と検出することができた。窯は地山のクチャを削って築かれており、主軸はN－30°－Eを示し、焚き口から窯尻までの長さは約3.3ｍである。

焚き口の幅は約40㎝、レンガと石灰岩を積み上げ、焚き口前庭部に向かってハの字状に開いている。焚き口前庭部は地山直上のレンガと同レベルで炭溜まりが確認された。厚さ10㎝前後で、窯糞や赤いレンガのくず状のものが、黒い炭の粒と混ざって堆積しており、範囲は約6㎡で、焚き口全面・南西側瓦列の下にも延びている（第16図・第18図参照）。おそらく、窯の使用後に燃焼室から灰を掻き出す際に積もったのではないかと考えられる。地山面に直径約40㎝前後のピット（No41・39）が2つ検出できたがピットの直上は炭溜まりの層が途切れており、窯が機能しなくなってからできた遺構と考えられる。

燃焼室は漆喰で嵩上げされ、焼成室とほぼ同じ高さになっている。掘り方面から測ると、漆喰は厚いところで30㎝程度で、燃焼室の中心部分にピット状の掘り込みが3ヶ所確認でき、北側の掘り込みは下場が2つの穴に分かれている。掘り込みの深さは40㎝前後、覆土は6層で3～5㎝大の灰色瓦の破片を主体に赤瓦、黒い釉の掛かった小豆色の瓦片が少量検出された。焚き口側、漆喰の上部（約8㎝）は赤色化しており、火熱によって変色したものと推測できる。燃焼室の最大幅は1.1ｍで、傾斜は10～16°で焼成室へ立ち上がり、焼成室との境にはレンガが並んでいる。東側半分でしか確認できないが、焼成室と燃焼室の窯壁は耐火レンガが積まれていたと考えられる。燃焼室は地山面を掘り込んで漆喰を厚く塗り固め、傾斜を大きくしている。赤色化した地山面に漆喰とクチャでかさ上げをして、漆喰を重ねている。

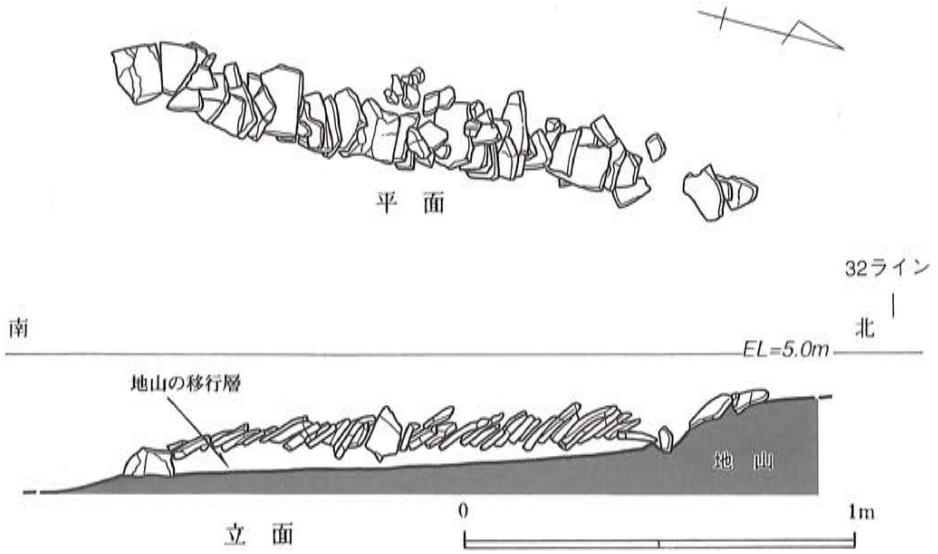
焼成室には、窯壁がくずれた際に生じたと考えられる赤色土、凝固した赤色土の塊、瓦や塼の破片、20㎝大の石灰岩などが乱雑に10～15㎝の厚さで積もっていた。それらを取り上げると長さは不揃いだが、厚さと幅は8×13㎝でほぼ均一な耐火レンガが焼成室の窯壁に沿って円を描くように二重に並んでいるのが検出された。二重に並ぶ耐火レンガの間に幅約10㎝、厚さ8㎝で黒い窯糞が溜まっていた。その下には赤色化した土が堆積し、さらにその下、地山面に幅30㎝前後で深さ約10㎝の溝が走っていた。焼成室の床面はほぼ水平で、最大幅は残存部分から推測しても約2ｍ程度である。完掘後、燃焼室から焼成室にかけて地山面は赤色化し、焼成室と燃焼室の境になる漆喰が途切れる部分はクチャが非常に凝固し、叩くと金属音がした。調査の結果を考慮すると少なくとも2回以上の窯の作り替えが行なわれていたと考えられる。

2．瓦列遺構
(第13図・第14図)

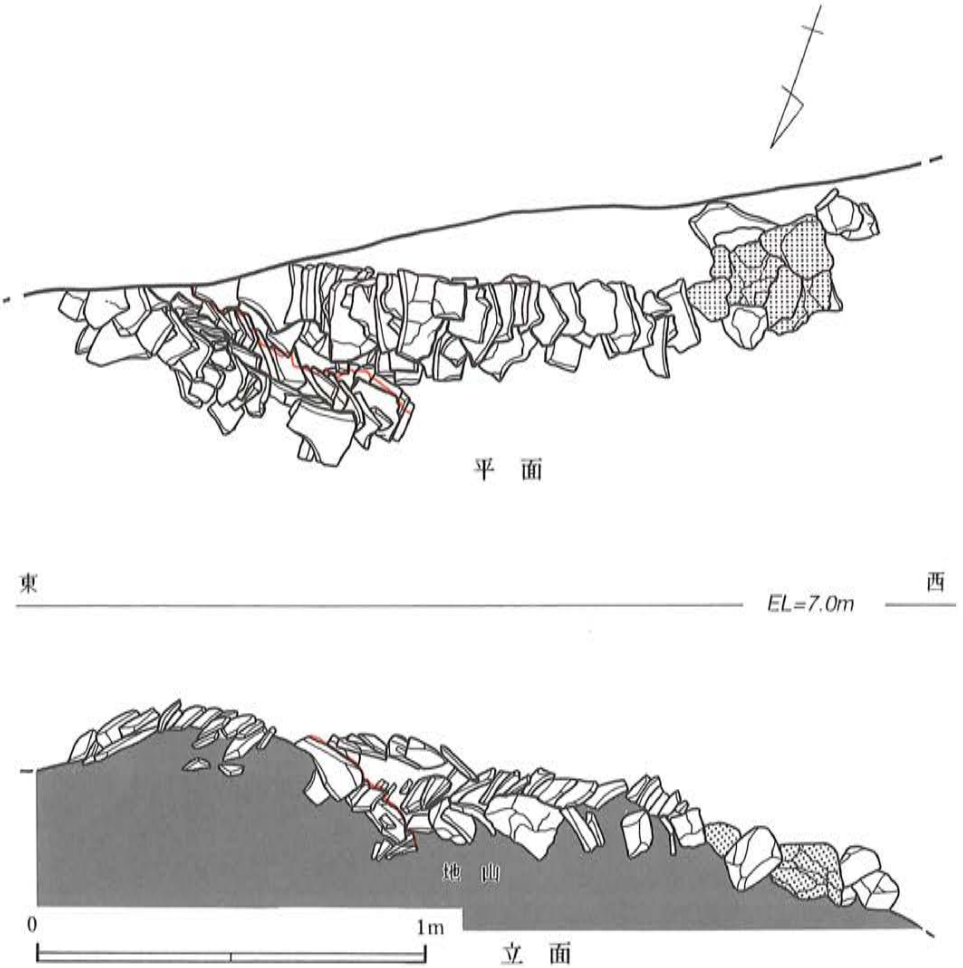
3本の瓦列が確認できたが、1本（第13図）は1段だけの重なりで、他の2本（第14図）は折り重なるように崩れかけた状態で検出された。

前者（第13図）は窯の南西側にあり、焚き口の前面に堆積した炭溜まりの上に並べられている。並んでいる瓦はどれも破損しており、完成品を並べていたものとは考えにくい。

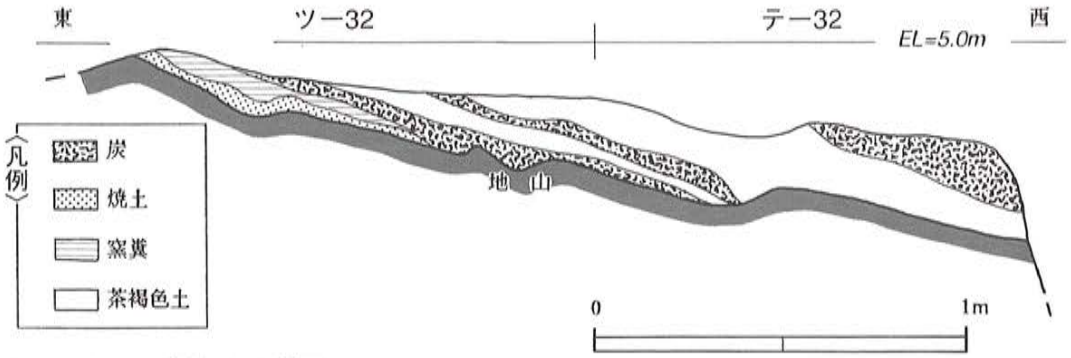
後者（第14図）は窯の南東側で、行政棟との境になっている土壁際にあり、地山の傾斜に沿って積み重ねているが、前述のように崩れた状態であった為、北側の瓦列を外せば、土壁際の瓦列も一緒に崩れるような状況で、積まれた瓦の保存状態も悪かった。北側の瓦列は4段に積み上げ、南側は瓦列の西側・端の地山直上に焼けた土と思われる赤色土の塊を数個、無造作に固めたものと石灰岩を支えにして、3段に積み上げているのが確認できた。



第13図　Ⅱ地区　チ－32瓦列遺構（平面・立面図）



第14図　Ⅱ地区　タ－32瓦列遺構（平面・立面図）



第15図　Ⅱ地区　炭溜まり断面

3．炭溜まり（第15図、第16図）

焚き口の前面チ－32グリットと焚き口から南に３～４ｍ離れたテ－32グリットの２ケ所で検出され、いずれも地山直上に堆積していた。

前者は窯の項目で詳細を述べたのでここでは割愛する。後者は西に向かって下がる傾斜面に沿って、くず状の瓦や塼を含んだ窯糞の層、黒い炭の層、瓦や塼の破片を含んだ茶褐色土が交互に重なって堆積しており、厚さ10cm前後で、約５㎡の範囲で扇形を描くように広がっている。西側は撹乱により断ち切られている。

4．ピット群・土壙

土壙は窯体・焚き口の南東側に約１ｍの大きさで地山を掘り込むように造られており、15cm大の平瓦の破片が数枚重なって検出された。埋土は６層でピットも同様である。

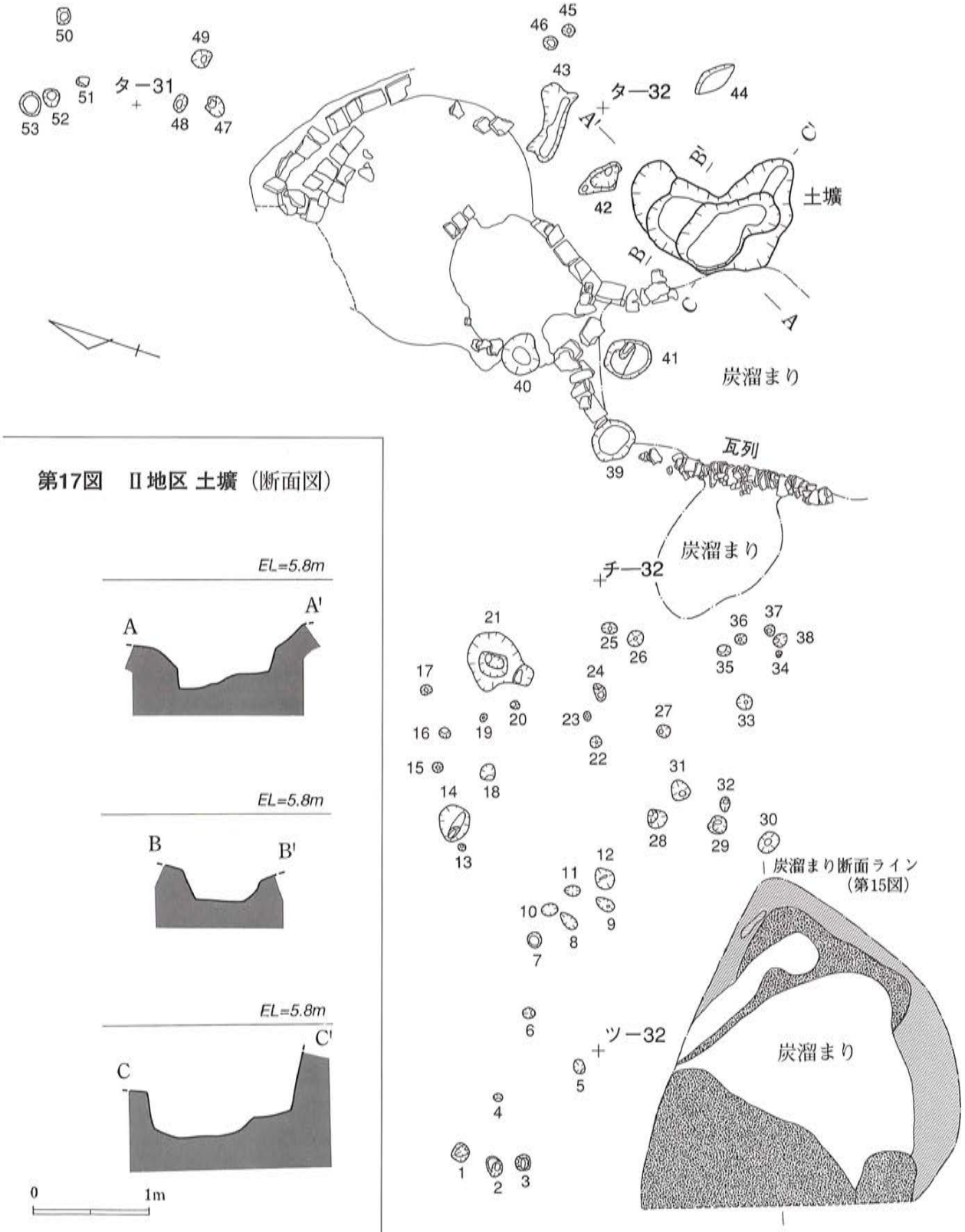
窯の南西と北東でピットが集中して検出された。大体が無遺物で、大きさが直径５～10cm前後、深さは20cm未満のピットが多く、ピット群の並びには規則性がみられないため、建物や柵列などの柱痕とは考えにくく、その為、瓦生産の作業過程に手がかりを求めた所、地面に直接差し込んで使用する瓦の回転台の軸棒の痕ではないかと考えられた。参考までに那覇市立壺屋焼物博物館の展示資料[註1]を調べると、計測値は直径3.5cm前後とわかった。これからすると窯の南西側で検出した直径５～７cm大のピットは瓦の回転台・軸棒痕の可能性もあると思われる。

第１表　Ⅱ地区 ピット計測一覧

単位：cm

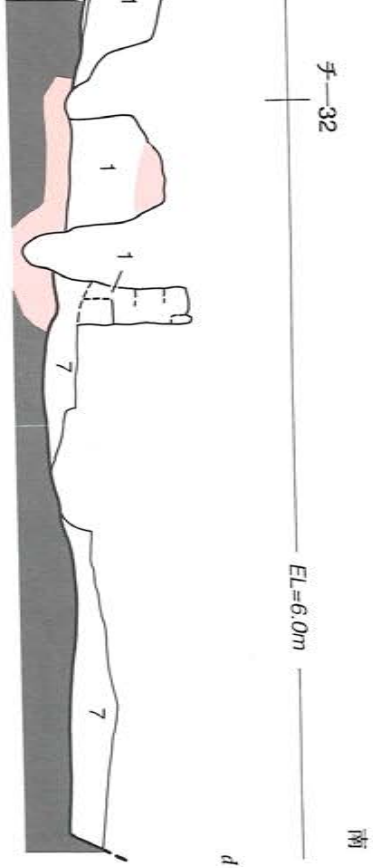
番号	短径	長径	深さ	分類	遺物及び補足
1	12	14	25	A	
2	12	13	15	A	
3	13	14	15	B	
4	6	7	15	B	瓦の回転台の可能性。
5	9	11	10	A	
6	9	10	14	A	
7	11	13	9	B	
8	12	12	15	A	
9	9	14	18	A	
10	11	13	27	A	
11	7	13	20	A	
12	15	16	14	A	
13	5	6	5	A	瓦の回転台の可能性。
14	22	32	13	A	段状になっている。
15	8	9	7	A	
16	9	9	9	A	
17	9	10	13	A	
18	13	14	12	B	
19	6	7	8	A	瓦の回転台の可能性。
20	7	8	12	A	瓦の回転台の可能性。
21	42	63	40	B	底で２つに分かれる。
22	10	10	10	B	
23	6	7	9	A	瓦の回転台の可能性。
24	9	14	11	A	
25	9	13	12	B	
26	13	14	12	B	
27	10	11	25	B	
28	12	15	18	A	段状になっている。
29	13	15	14	A	段状になっている。
30	17	18	5	A	
31	14	15	20	A	
32	8	12	14	A	
33	13	13	15	B	
34	4	5	12	A	瓦の回転台の可能性。
35	9	12	16	A	
36	9	10	15	B	
37	8	9	12	A	
38	8	11	21	A	
39	34	37	15	A	ピット表面が地山面の傾斜とは逆の傾き。
40	33	33	20	A	同上。赤瓦の破片。
41	35	40	43	A	
42	22	42	30	A	
43	23	63	17	A	
44	18	41	16	A	
45	11	15	5	A	
46	13	13	10	B	
47	16	17	18	A	
48	11	14	14	A	
49	15	16	26	B	
50	11	14	15	A	
51	8	11	14	A	
52	15	15	13	B	
53	19	20	10	B	

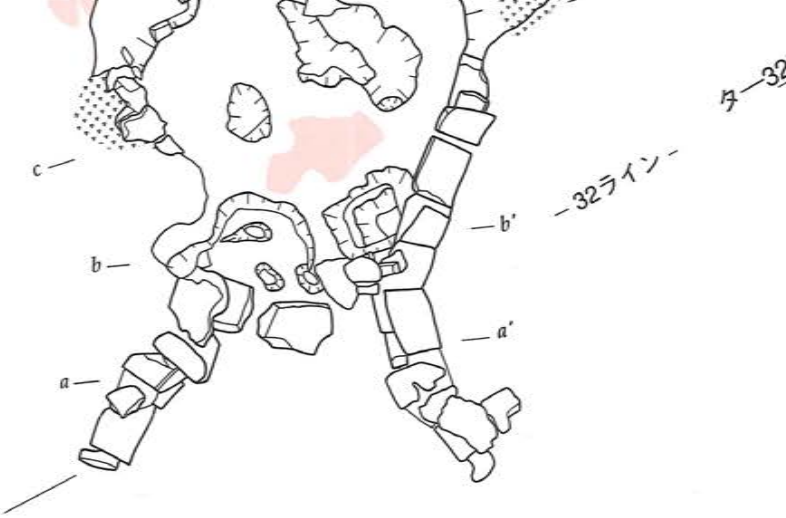
凡例　A：地山面に対して直角のピット
B：地山面に対して斜めのピット
「番号」は第16図に一致

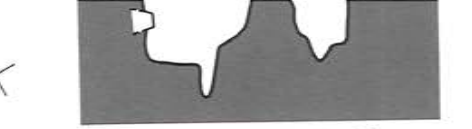


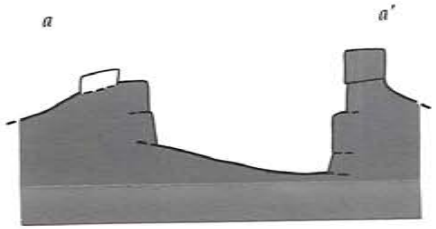
第17図　Ⅱ地区 土壙（断面図）

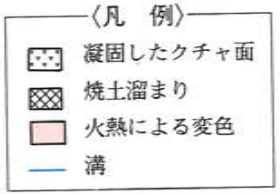
第16図　Ⅱ地区　炭溜まり及びピット平面図

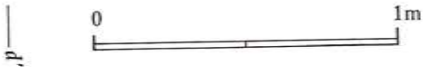


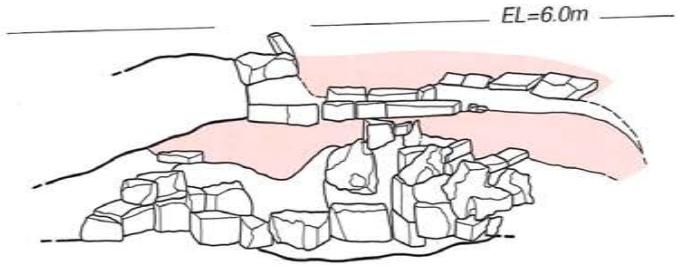






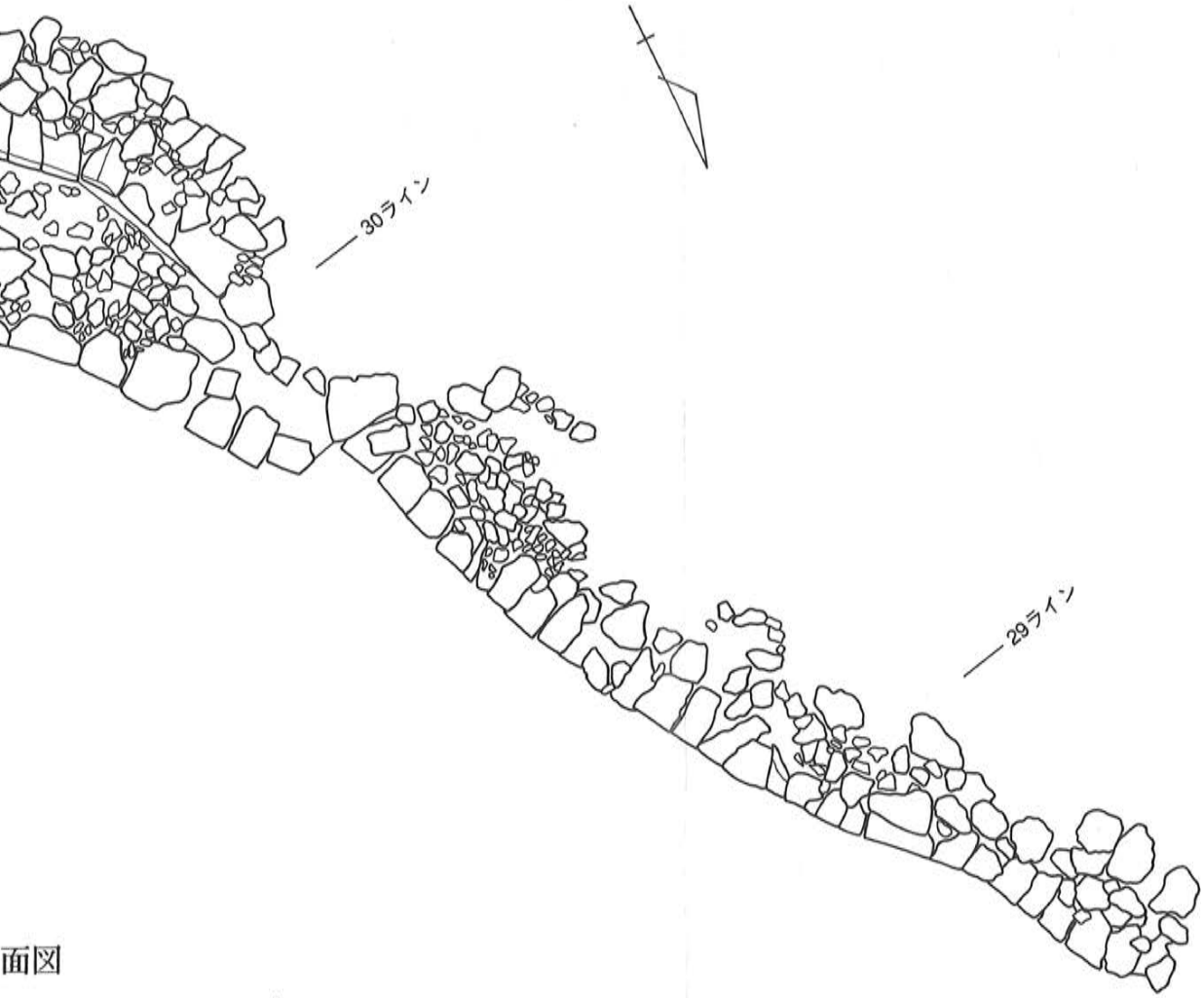




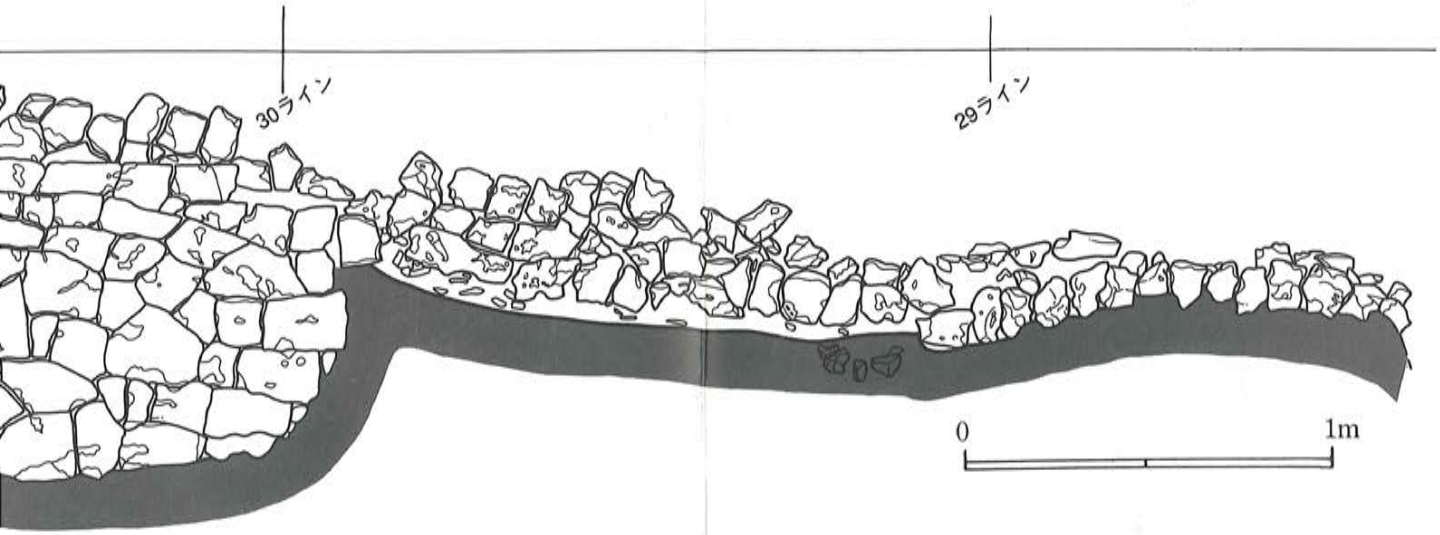


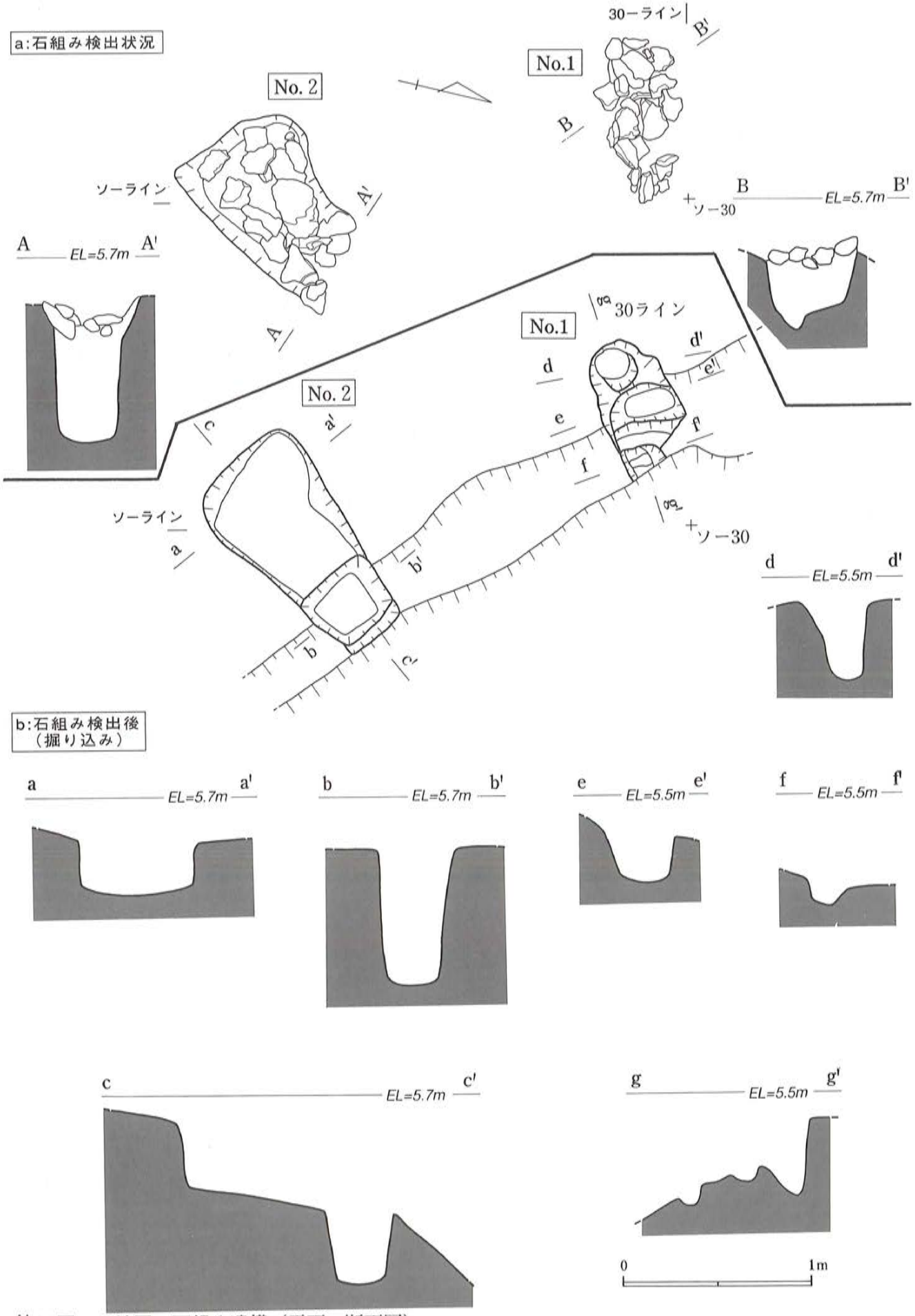
1 漆喰
2 焼土
3 赤色土
4 炭混赤色土
5 赤色土混淡褐色土
6 クチャ（地山）
7 炭溜まり

平面図



面図





第20図　Ⅱ地区　石組み遺構（平面・断面図）

5．石積み・石組み遺構

第19図は近代に築かれた石積みである。当初、旧県庁舎時代の建造物と推測したが、現地に建てられた最も古い県庁舎は、鉄筋コンクリート造りで周囲はブロック塀で囲われていたため、それ以前の建物に伴うものと考えられる。可能性として明治末に建てられた南陽館の石垣ではないかと思われるが、残念ながら近距離から撮影した写真やその当時の資料を探し出すことができず確証がない。しかしながらⅠ地区セ－28　7層から“共進會”の字が書かれた急須（第44図102）や那覇商業高等学校の校章が入った青銅製のボタン（第61図18）などの、南陽館[註2]に縁のある遺物が得られている。石積みの方法は相方積みで、大きさは50cm大のもの、10～20cm大のものとまばらである。石材はほとんどがサンゴ石で、部分的に琉球石灰岩が使用されている。Ⅰ地区の地山からⅡ地区の北側を断ち切るように築かれ、二重積みになっている。一段目の石積みは高さ160～170cm、二段目の石積みは上端が破壊されていたので、50cm程度しか残っていなかった。石積みを取り除くと、２基の**石組み遺構**（第20図）が確認された。**遺構**No.1は20～30cm大の琉球石灰岩の集石があり、その下の地山面には段々に掘り込みがみられ、その中に直径20×23cmのピットが検出できた。深さは約50cmを測る。**遺構**No.2は地山面を約110×60cmの長方形に約30cm掘り込んで20～30cm大の琉球石灰岩の集石が確認された。集石を除去すると北側に大きさ34×40cm深さ約70cmの四角い掘り込みが検出された。同様の地山面の掘り込みが他に３基確認できたが（第11図）、そこにはピットや集石といった遺構はみられなかった。

第３節　Ⅲ地区

本地区は今回の調査区の北側一帯を占める。先述したように、県民広場として利用される以前は那覇警察署があった場所である。かなり撹乱を受けているものと考えられたが、発掘調査の結果、建物の基礎以外は比較的良好な状態であった。東西方向に検出された溝状遺構や石垣、遺物溜まりや琉球石灰岩を積んでつくった井戸の検出など、予想もしなかったような成果が得られている。特に、本地区のほぼ全面に広がるスラグの層は注目されよう。以下、本地区で確認された層序および遺構について簡記する。

a．層　序

本地区で確認された堆積層は表土撹乱層と地山の青灰色粘土（クチャ）層を除けば３枚である。３枚とも基本的にはⅠ地区からの延長で捉えられる土層であるが、様相の異なる部分も見受けられた。以下、今回の調査で確認できた層序について略述する。

１層：地表面が平坦に整地された造成層。場所によって異なるものの、基本的にはコーラルや青灰色粘土（クチャ）とその上部の客土から構成されており、110～150cmの厚さを有している。赤色・灰色の瓦や陶磁器類、ビン、ハンガー、鉄釘などが得られている。21ライン以北では造成層の下層にはほぼ全面にスラグ（製鉄・鍛冶作業の際にでる不純物）層の広がりがみられた。ほぼ水平に堆積しており、厚いところで約20cmを測る。遺物はほとんど含まれないが、下層との関連でみると先の大戦前後の頃にできた層かとみられる。

２層：緑褐色土層。本地区のほぼ全面に広がっていたものとみられる。Ⅰ地区の３b層と同じ層である。つまり、Ⅰ・Ⅲ地区に広がっている層のようであり、本地区の南側、20・21ライン付近から以北へはほぼ水平に堆積し、40cm前後の厚さを測る。本層までは部分的にコンクリートを流し込んだ建物の基礎がみられる。鉄釘やガラス、沖縄産陶器、本土産陶磁器などが出土しており、後世の堆積土層と考えられる。

３層：淡黄褐色土層。最も厚く堆積している層で、本地区の主体をなす。中央付近で特に厚く堆積しており、80cm前後の厚みを有す。基本的にはⅠ地区の４層と同様であるが、場所によっては状況に差異が見受けられ、細分も可能である。つまり、ジャリが多く混入する部分、遺物の集中する部分、堆積土の色合いが若干異なる部分などである。しかしながら、これらの状況の変化する場所は第25図に示した溝状遺構の検出された場所であり、本来的には本層から切り離されるべきものかと考えられる。出土遺物は18～19世紀頃のものとみられる中国産の染付や肥前系磁器、沖縄産施釉・無釉陶器、瓦類、坩堝、ジーファーなど多種多様な遺物が得られている。また、Ⅰ地区から延びる明赤褐色土層（４b層）が23ライン南側までみられる。以北にはおよばない。

４層：灰色土層。Ⅰ地区の６層に相当するもので、南側（Ⅰ地区側）で40cm前後の厚さを有し、北側へ厚さを減じる。本層は全面に広がるものではなく、薄くみられる箇所や確認できない場所なども見受けられ、そういうところでは３層下は直接地山の青灰色粘土層になる。出土遺物は陶磁器類や坩堝などが得られている。

５層：青灰色粘土層。本地域一帯の基盤をなす土層で、いわゆる地山。無遺物層で、上面には溝状遺構が検出（第25図）されたり、本層まで掘り下げた井戸（第23図）などが確認されている。

10は鍔上面に鍔端の稜花に沿うように１本の線刻文、その内側に３本１組の線刻文を配す。内体面には草花文を配すようである。また、本資料は鍔部の外面を階段状に整形している。11は低い高台の底部資料で、底径は約13cm。畳付けは平坦。畳付けまでを施釉し、外底面は露胎。高台脇と内底面に１本の圏線を廻らすが、内底面のものは不明瞭。内底面と外底面には溶着痕が認められる。５点ともⅠ地区から得られており、７はクチャ混じり、８は４層、９・10は６層、11は５層から出土している。

瓶：口縁部２点、胴部２点、底部３点を第27図12～18に示した。12・13の口縁部は2点とも外反するが、12は上端部が折れ曲がるように強い外反を示す。また、頸部に文様の一部が認められる。推算口径は12が約6.8cm、13が約4.4cmを測る。12はⅡ地区２層、13はⅠ地区から出土。14・15は胴上部の資料で、14は２本の圏線の上下に、15は２本の圏線の下方に文様を配す。14は内面が露胎であるが、15は表面と同じような釉が薄くかかる。２点ともⅠ地区から得られ、14は６層、15は２層から出土。16は安定感のある底部資料で、底径は約７cmを測る。高台は低く、畳付けは平坦。畳付けの外側を斜めに面取りする。釉は高台内側までみられ、外底面は無釉である。外底面には溶着物の痕が残る。高台際に片切り彫りの短い蓮弁文を廻らす。その際の弁尻の一部が高台外面におよんでいる。内底面も施釉されているが、胴部では釉が途切れる箇所があり、内面全体に施釉されたわけではないようである。17も瓶の底部資料で、底径の大きさや全体的な器形、高台部の形状などは16と似通っている。高台畳付け部およびその外面を釉剥ぎして整形しており、その他は全釉となっている。内底面が中央部の方へくぼみ、外底面も下方へ膨らむ感じである。胴部の方へ器壁が薄く、腰部に２本の沈線を廻らし、それと高台の間に幅の狭い蓮弁文を配す。18は外底面があげ底状になる瓶の底部である。底面からの立ち上がり部にはヘラ削りの部分もみられる。推算底径が約5cmを測る。外面は底面から約2cmの箇所までが施釉の対象のようで、そこから外底面にかけては露胎となっている。内底面は露胎であるが釉垂れがみられる。3点ともⅠ地区から得られている。

19は花瓶の口縁部資料である。頸部から口縁部へ外反するように向かい、上端部の約１cmを直方向に立てており、その外面は凹面をなす。頸部から直方向への折れ曲がり部は丸みを帯びる。内外面とも施釉されるが、内面の方が薄い。推算口径は約12cmを測る。

香　炉：口縁部１点、底部１点、足部１点を第27図20～22に示した。20・21は筒形のようである。20は寄口口縁で、推算口径が約10cmを測る。口唇下約２cmの箇所に２本の細沈線を廻らす。内外面ともほぼ同じ厚さで施釉されている。21は外底面が平坦になるとみられる底部資料で、推算底径は約４cm。外底面の方へ若干すぼまるように低くつくられている。腰折れ部に千鳥足を配すものであるが、矮小化して装飾的なものになっている。腰折れ部の推算径が約８cmを測る。22は腰折れ部の下方に付された段状の足で、上段の幅は約2.5cm、下段の幅は約1.3cm。半円形状につくられ、高さは約1.5cm。３点ともⅠ地区から得られており、20は５層、21は２層、22は７層からの出土。

第２表　青磁出土一覧

単位：cm

図	番号	器種	部位	口径	器高	底径	出土地
第26図・図版7	1	碗	口	—	—	—	Ⅰ ケ−28 5層 下部
	2			15.7	—	—	Ⅲ−Bタ−20 3層 遺物溜まり
	3		底	—	—	5.8	Ⅰ 5層
	4		口	14	—	—	Ⅰ コ−28 5層
	5			12.2	—	—	Ⅰ ク−28 6層
	6		底	—	—	4.2	Ⅰ シ−26 4層b
	7		口/底	13.8	7.8	5.1	Ⅱ チ−31 6層 遺物溜まり
	8		口	11	—	—	Ⅰ ケ−28 5層 下部
	9		底	—	—	5.2	Ⅰ キ−29 5層
	10			—	—	5.4	Ⅰ キ−28 4層 北側
	11			—	—	4.4	Ⅰ カ−27 4層
	12			—	—	5	Ⅰ カ−28 赤土
	13			—	—	3.8	Ⅰ コ−27 4層
	14			—	—	4.8	Ⅰ キ−28 4層（北側）
	15			—	—	6	Ⅰ シ−26 6層
	16	小碗	口	7.4	—	—	Ⅰ オ−30 2層
	17	小鉢	口	9.6	—	—	Ⅰ カ−29
第27図	1	Ⅲ	口	9.4	—	—	Ⅰ カ−29 2層
	2			12	—	—	Ⅰ セ−28 7層
第27図・図版8	3	Ⅲ	口	11.6	—	—	Ⅰ ク−28 5層
	4			12.6	—	—	Ⅰ ス−27 6層
	5		底	—	—	5	Ⅰ カ−27 4層
	6	小杯	底	—	—	2.4	Ⅰ セ−28 7層
	7	盤	口	—	—	—	Ⅰ クチャ混じり
	8			—	—	—	Ⅰ コ−26 4層b
	9			—	—	—	Ⅰ キ−29 6層
	10			—	—	—	Ⅰ ケ−28 6層
	11		底	—	—	13	Ⅰ ケ−28 5層＋コ−27 4層
	12	瓶	口	6.8	—	—	Ⅱ ソ−30 2層
	13			4.4	—	—	Ⅰ キ−2 ?
	14		胴	—	—	—	Ⅰ カ−29 6層
	15			—	—	—	Ⅰ ス−27 2層
	16		底	—	—	7	Ⅰ ソ・タ−19 畦
	17		底	—	—	6.8	Ⅰ ク−28 5層
	18		底	—	—	6.1	Ⅰ コ−28 4層
	19	花瓶	口	12	—	—	Ⅰ コ−27 4層
	20	香炉	口	10	—	—	Ⅰ カ−30 5層
	21		底	—	—	3.7	Ⅰ 2層
	22			—	—	—	Ⅰ セ−29 7層

第V章　出 土 遺 物

第1節　青　磁

中国産陶磁器類の中では最も多く出土している。ほとんどがⅠ地区からの出土であり、Ⅱ・Ⅲ地区からはそれほど多くはなかった。得られた資料は時期的な面や種類などからすると、行政棟地区[註3]や議会棟地区[註4]から報告されているものと大差はない。しかし、第26図16に示した小碗や同図17の小鉢、第27図19の花瓶などは注目される。また、全形の窺える碗（第26図７）はⅡ地区チ－31　6層遺物溜まりからの出土。今回得られた資料の中から目に付いたものを第26図および第27図に示した。

以下、図示したものについて器種別にその概略を述べる。

碗：雷文帯、蓮弁文が確認できる。１は篦描きの、２はスタンプの雷文帯を配し、２点ともその下方にも文様を配す。２は推算口径が15.7cmを測る。３は雷文帯の底部とみられ、畳付けは平坦にし、その外側を斜めに面取りする。外底面を蛇の目状に釉剥ぎする。底径は5.8cm。高台脇に文様の一部がみられる。１・３はⅠ地区５層、２はⅢ地区３層から出土。

４～８は剣先蓮弁文の資料で、４～６は弁幅がやや広く、７・８はやや密になる。４・５の口縁部は直線的に外側へ開くが、７・８は口縁部上端が直方向に向う。７は推算口径13.8cm、高さ7.8cm、底径5.1cmを測る。全形の窺える唯一の資料で、このタイプの典型的なものである。内底面に花文を配す。推算口径は４が14cm、５が12.2cm、８が11cmを測り、６は推算底径が4.2cmである。４は蓮弁文が短く、釉も外面胴下部で途切れる。６は畳付けまで施釉し、７は外底面を蛇の目状に釉剥ぎする。７は外底面に胎土目が溶着している。４・８はⅠ地区５層、５・６はⅠ地区６層・４層、７はⅡ地区６層の出土。

９～14は底部の資料である。いずれも外面に文様はみられないが、内底面に文様を配す。10は福の字で他は花文。６点とも畳付けは斜めに整形。９は高台内側の全部と外底面の中央部にも施釉するが、他は高台内側の途中までの施釉で、そこから外底面にかけては露胎である。14は高台外面までの施釉で、内底面も釉剥ぎしている。底径は4.8cm前後。12・13は高台が若干高くつくられている。13は他の資料に比べ、薄いつくりである。いずれもⅠ地区から得られており、９は５層、12は赤土、他は４層から出土。

15は大振の碗の底部資料である。推算底径は約６cm。高台はしっかりしたつくりで、畳付けを平坦に仕上げ、その外側を斜めに面取りしている。畳付けおよび外底面は無釉。淡緑色の失透釉で、内外面に貫入が密にみられる。Ⅰ地区６層からの出土。

16は口縁部上端が外反する小碗の資料である。外面の胴部中央付近に１本の沈線を廻らし、その上下に３本１組の縦位沈線を配す。この縦位沈線は区画文のようである。内体面には線彫りの蓮弁文を施している。暗緑色の釉を割と厚く施釉している。17は胴部中央付近が膨らみ、口縁部がやや内湾する小鉢の資料かとみられる。全釉のようであるが、口唇部とその両側の釉を剥ぎ取る。口唇部は平坦に整形。もっとも膨らんでいる胴部中央付近に沈線を廻らし、断面が３の字状になるようにアクセントをつけている。暗緑色の釉を丁寧に施釉している。外面がやや厚く施釉される。推算口径は約9.6cm。

皿：口縁部４点、底部１点を第27図１～５に示した。口縁部資料は直口（１）、外反（２・３）、稜花（４）で、２だけが無文である。１は内面だけに凹線による蓮弁文を配し、４も口縁部内面に３本１組の弧状の沈線を描くだけである。３は内外面に唐草文を描く。３・４は腰部の稜が比較的明瞭である。いずれも推算口径が算出でき、１は9.4cm、２～４は12cm前後を測る。５の底部資料は推算底径が約５cmを測る。高台は低く、畳付けの外側を大きく斜めに面取りしており、内側の僅かな部分が平坦面となっている。外底面は無釉、内底面も中央部を大きく円形状に釉剥ぎしている。５点ともⅠ地区から得られており、１は２層、２は７層、３は５層、４は６層、５は４層から出土している。

小　杯：１点だけ第27図６に示した。碁笥底の資料で、推算底径は約2.4cmを測る。施釉は腰部下端までで、そこから畳付け、外底面にかけては無釉である。Ⅰ地区７層からの出土。

盤：口縁部４点、底部１点を第27図７～11に示した。口縁部は直口（７）、上端部が僅かに外反（８）、鍔縁（９・10）のものである。７は内外面の口縁部に１本の圏線を廻らし、８は内面の口縁部に１本の圏線その下方に櫛描きの蓮弁文を描いている。９は鍔上面の中央部が凹線状になり、内体面に幅広の篦により蓮弁文を廻らす。

第V章　出土遺物

第1節　青　磁

中国産陶磁器類の中では最も多く出土している。ほとんどがⅠ地区からの出土であり、Ⅱ・Ⅲ地区からはそれほど多くはなかった。得られた資料は時期的な面や種類などからすると、行政棟地区[註3]や議会棟地区[註4]から報告されているものと大差はない。しかし、第26図16に示した小碗や同図17の小鉢、第27図19の花瓶などは注目される。また、全形の窺える碗（第26図７）はⅡ地区チ－31　6層遺物溜まりからの出土。今回得られた資料の中から目に付いたものを第26図および第27図に示した。

以下、図示したものについて器種別にその概略を述べる。

碗：雷文帯、蓮弁文が確認できる。１は篦描きの、２はスタンプの雷文帯を配し、２点ともその下方にも文様を配す。２は推算口径が15.7cmを測る。３は雷文帯の底部とみられ、畳付けは平坦にし、その外側を斜めに面取りする。外底面を蛇の目状に釉剥ぎする。底径は5.8cm。高台脇に文様の一部がみられる。１・３はⅠ地区５層、２はⅢ地区３層から出土。

４～８は剣先蓮弁文の資料で、４～６は弁幅がやや広く、７・８はやや密になる。４・５の口縁部は直線的に外側へ開くが、７・８は口縁部上端が直方向に向う。７は推算口径13.8cm、高さ7.8cm、底径5.1cmを測る。全形の窺える唯一の資料で、このタイプの典型的なものである。内底面に花文を配す。推算口径は４が14cm、５が12.2cm、８が11cmを測り、６は推算底径が4.2cmである。４は蓮弁文が短く、釉も外面胴下部で途切れる。６は畳付けまで施釉し、７は外底面を蛇の目状に釉剥ぎする。７は外底面に胎土目が溶着している。４・８はⅠ地区５層、５・６はⅠ地区６層・４層、７はⅡ地区６層の出土。

９～14は底部の資料である。いずれも外面に文様はみられないが、内底面に文様を配す。10は福の字で他は花文。６点とも畳付けは斜めに整形。９は高台内側の全部と外底面の中央部にも施釉するが、他は高台内側の途中までの施釉で、そこから外底面にかけては露胎である。14は高台外面までの施釉で、内底面も釉剥ぎしている。底径は4.8cm前後。12・13は高台が若干高くつくられている。13は他の資料に比べ、薄いつくりである。いずれもⅠ地区から得られており、９は５層、12は赤土、他は４層から出土。

15は大振の碗の底部資料である。推算底径は約６cm。高台はしっかりしたつくりで、畳付けを平坦に仕上げ、その外側を斜めに面取りしている。畳付けおよび外底面は無釉。淡緑色の失透釉で、内外面に貫入が密にみられる。Ⅰ地区６層からの出土。

16は口縁部上端が外反する小碗の資料である。外面の胴部中央付近に１本の沈線を廻らし、その上下に３本１組の縦位沈線を配す。この縦位沈線は区画文のようである。内体面には線彫りの蓮弁文を施している。暗緑色の釉を割と厚く施釉している。17は胴部中央付近が膨らみ、口縁部がやや内湾する小鉢の資料かとみられる。全釉のようであるが、口唇部とその両側の釉を剥ぎ取る。口唇部は平坦に整形。もっとも膨らんでいる胴部中央付近に沈線を廻らし、断面が３の字状になるようにアクセントをつけている。暗緑色の釉を丁寧に施釉している。外面がやや厚く施釉される。推算口径は約9.6cm。

皿：口縁部４点、底部１点を第27図１～５に示した。口縁部資料は直口（１）、外反（２・３）、稜花（４）で、２だけが無文である。１は内面だけに凹線による蓮弁文を配し、４も口縁部内面に３本１組の弧状の沈線を描くだけである。３は内外面に唐草文を描く。３・４は腰部の稜が比較的明瞭である。いずれも推算口径が算出でき、１は9.4cm、２～４は12cm前後を測る。５の底部資料は推算底径が約５cmを測る。高台は低く、畳付けの外側を大きく斜めに面取りしており、内側の僅かな部分が平坦面となっている。外底面は無釉、内底面も中央部を大きく円形状に釉剥ぎしている。５点ともⅠ地区から得られており、１は２層、２は７層、３は５層、４は６層、５は４層から出土している。

小　杯：１点だけ第27図６に示した。碁笥底の資料で、推算底径は約2.4cmを測る。施釉は腰部下端までで、そこから畳付け、外底面にかけては無釉である。Ⅰ地区７層からの出土。

盤：口縁部４点、底部１点を第27図７～11に示した。口縁部は直口（７）、上端部が僅かに外反（８）、鍔縁（９・10）のものである。７は内外面の口縁部に１本の圏線を廻らし、８は内面の口縁部に１本の圏線その下方に櫛描きの蓮弁文を描いている。９は鍔上面の中央部が凹線状になり、内体面に幅広の篦により蓮弁文を廻らす。

10は鍔上面に鍔端の稜花に沿うように１本の線刻文、その内側に３本１組の線刻文を配す。内体面には草花文を配すようである。また、本資料は鍔部の外面を階段状に整形している。11は低い高台の底部資料で、底径は約13cm。畳付けは平坦。畳付けまでを施釉し、外底面は露胎。高台脇と内底面に１本の圏線を廻らすが、内底面のものは不明瞭。内底面と外底面には溶着痕が認められる。５点ともⅠ地区から得られており、７はクチャ混じり、８は４層、９・10は６層、11は５層から出土している。

瓶：口縁部２点、胴部２点、底部３点を第27図12～18に示した。12・13の口縁部は2点とも外反するが、12は上端部が折れ曲がるように強い外反を示す。また、頸部に文様の一部が認められる。推算口径は12が約6.8cm、13が約4.4cmを測る。12はⅡ地区２層、13はⅠ地区から出土。14・15は胴上部の資料で、14は２本の圏線の上下に、15は２本の圏線の下方に文様を配す。14は内面が露胎であるが、15は表面と同じような釉が薄くかかる。２点ともⅠ地区から得られ、14は６層、15は２層から出土。16は安定感のある底部資料で、底径は約７cmを測る。高台は低く、畳付けは平坦。畳付けの外側を斜めに面取りする。釉は高台内側までみられ、外底面は無釉である。外底面には溶着物の痕が残る。高台際に片切り彫りの短い蓮弁文を廻らす。その際の弁尻の一部が高台外面におよんでいる。内底面も施釉されているが、胴部では釉が途切れる箇所があり、内面全体に施釉されたわけではないようである。17も瓶の底部資料で、底径の大きさや全体的な器形、高台部の形状などは16と似通っている。高台畳付け部およびその外面を釉剥ぎして整形しており、その他は全釉となっている。内底面が中央部の方へくぼみ、外底面も下方へ膨らむ感じである。胴部の方へ器壁が薄く、腰部に２本の沈線を廻らし、それと高台の間に幅の狭い蓮弁文を配す。18は外底面があげ底状になる瓶の底部である。底面からの立ち上がり部にはヘラ削りの部分もみられる。推算底径が約5cmを測る。外面は底面から約2cmの箇所までが施釉の対象のようで、そこから外底面にかけては露胎となっている。内底面は露胎であるが釉垂れがみられる。3点ともⅠ地区から得られている。

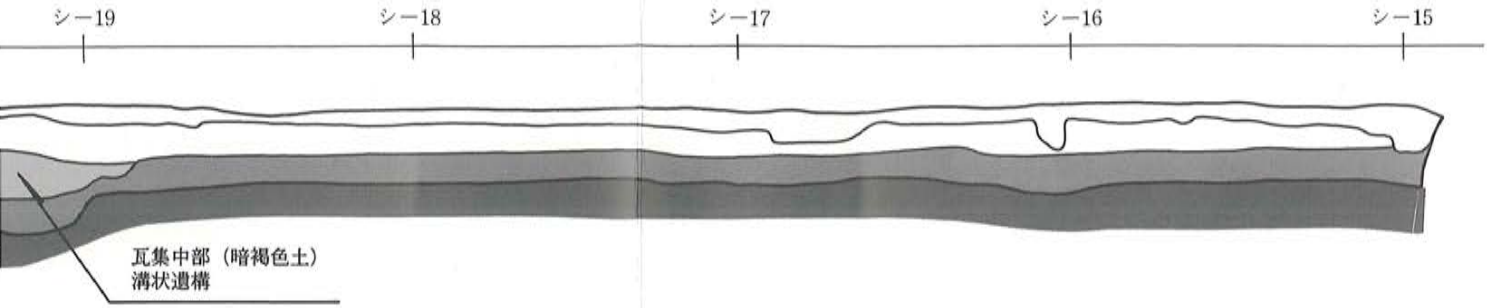
19は花瓶の口縁部資料である。頸部から口縁部へ外反するように向かい、上端部の約１cmを直方向に立てており、その外面は凹面をなす。頸部から直方向への折れ曲がり部は丸みを帯びる。内外面とも施釉されるが、内面の方が薄い。推算口径は約12cmを測る。

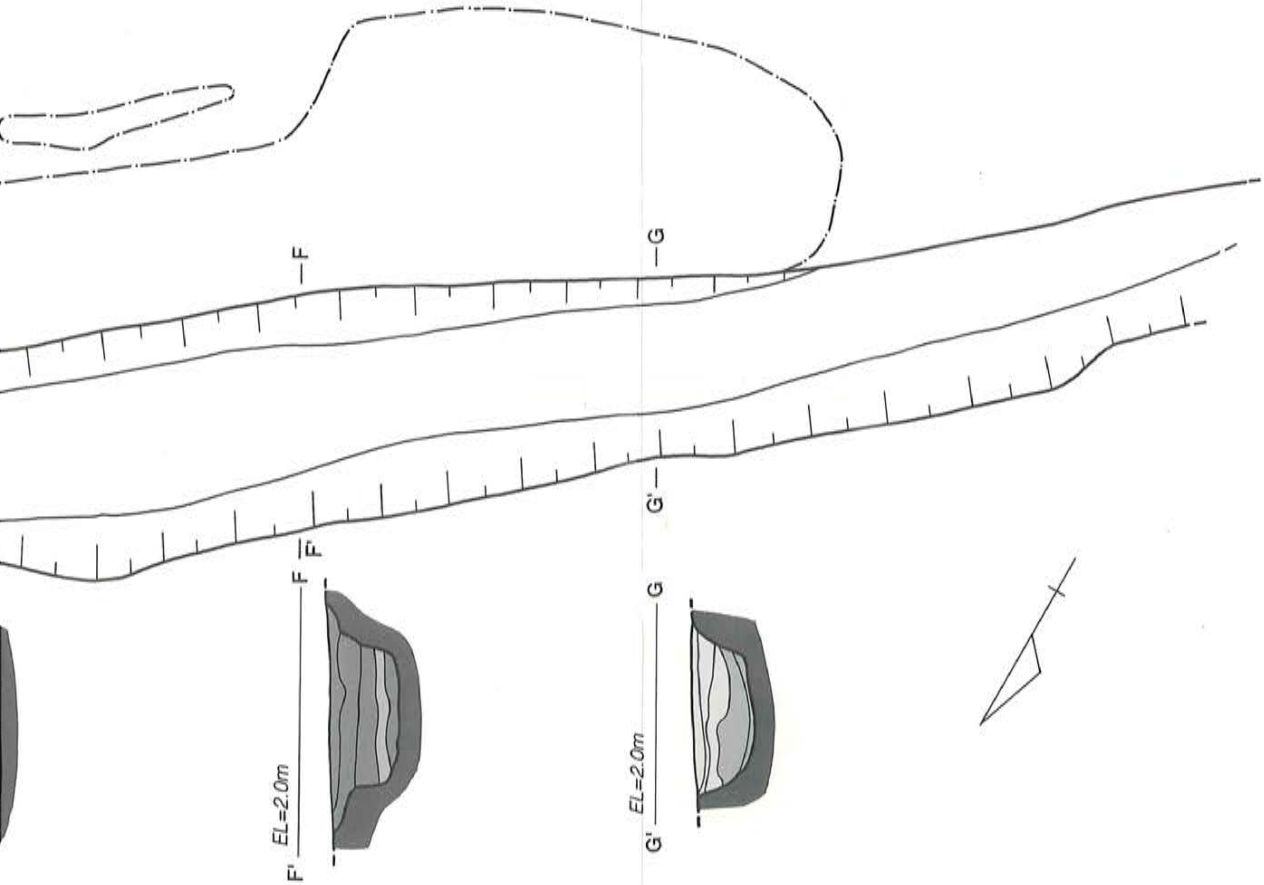
香　炉：口縁部１点、底部１点、足部１点を第27図20～22に示した。20・21は筒形のようである。20は寄口口縁で、推算口径が約10cmを測る。口唇下約２cmの箇所に２本の細沈線を廻らす。内外面ともほぼ同じ厚さで施釉されている。21は外底面が平坦になるとみられる底部資料で、推算底径は約４cm。外底面の方へ若干すぼまるように低くつくられている。腰折れ部に千鳥足を配すものであるが、矮小化して装飾的なものになっている。腰折れ部の推算径が約８cmを測る。22は腰折れ部の下方に付された段状の足で、上段の幅は約2.5cm、下段の幅は約1.3cm。半円形状につくられ、高さは約1.5cm。３点ともⅠ地区から得られており、20は５層、21は２層、22は７層からの出土。

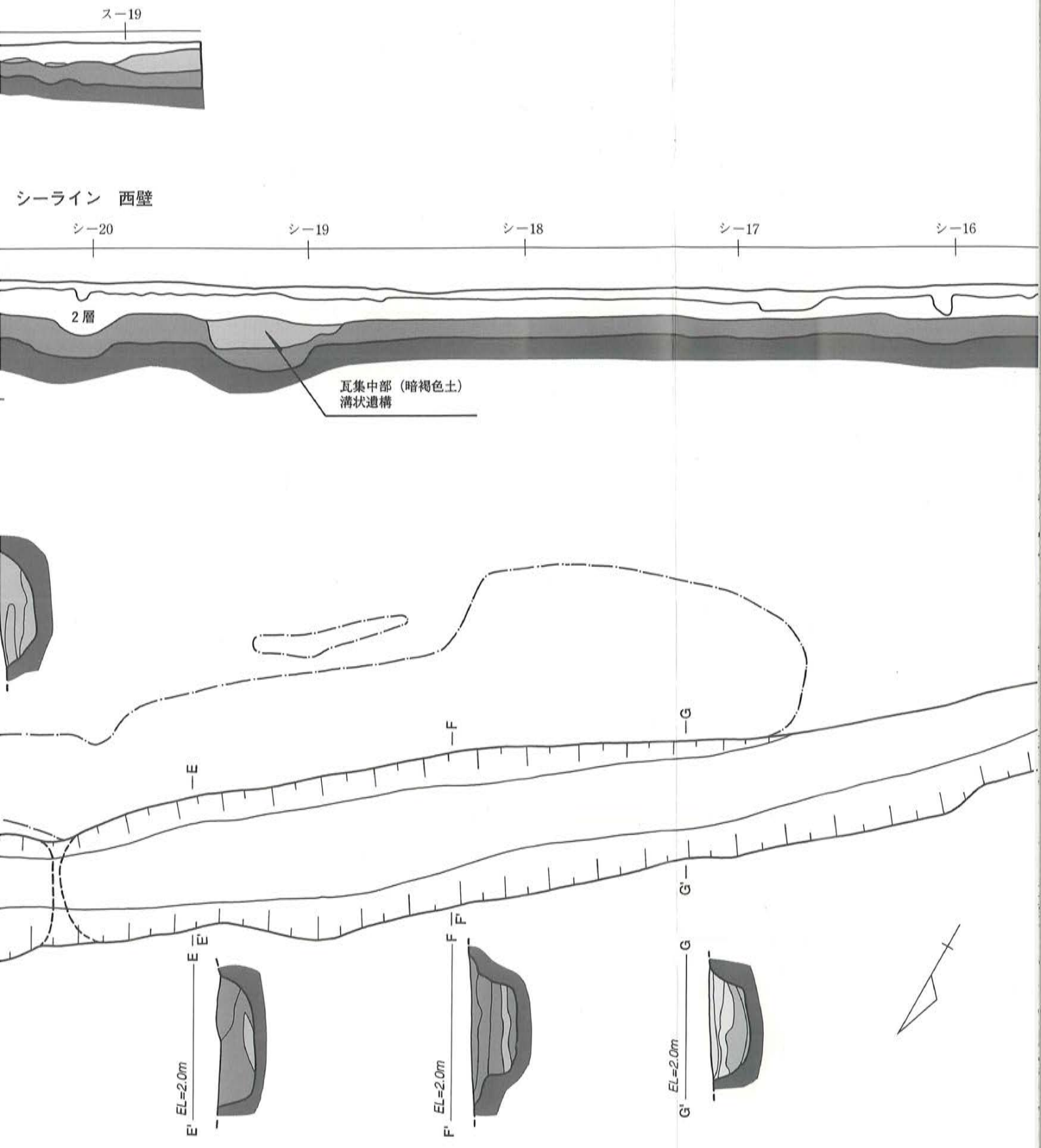
第２表　青磁出土一覧

単位：cm

図	番号	器種	部位	口径	器高	底径	出土地
第26図・図版7	1	碗	口	—	—	—	Ⅰ ケ−28 5層 下部
	2			15.7	—	—	Ⅲ−B タ−20 3層 遺物溜まり
	3		底	—	—	5.8	Ⅰ 5層
	4		口	14	—	—	Ⅰ コ−28 5層
	5			12.2	—	—	Ⅰ ク−28 6層
	6		底	—	—	4.2	Ⅰ シ−26 4層b
	7		口/底	13.8	7.8	5.1	Ⅱ チ−31 6層 遺物溜まり
	8		口	11	—	—	Ⅰ ケ−28 5層 下部
	9		底	—	—	5.2	Ⅰ キ−29 5層
	10			—	—	5.4	Ⅰ キ−28 4層 北側
	11			—	—	4.4	Ⅰ カ−27 4層
	12			—	—	5	Ⅰ カ−28 赤土
	13			—	—	3.8	Ⅰ コ−27 4層
	14			—	—	4.8	Ⅰ キ−28 4層（北側）
	15			—	—	6	Ⅰ シ−26 6層
	16	小碗	口	7.4	—	—	Ⅰ オ−30 2層
	17	小鉢	口	9.6	—	—	Ⅰ カ−29
第27図	1	Ⅲ	口	9.4	—	—	Ⅰ カ−29 2層
	2			12	—	—	Ⅰ セ−28 7層
第27図・図版8	3	Ⅲ	口	11.6	—	—	Ⅰ ク−28 5層
	4			12.6	—	—	Ⅰ ス−27 6層
	5		底	—	—	5	Ⅰ カ−27 4層
	6	小杯	底	—	—	2.4	Ⅰ セ−28 7層
	7	盤	口	—	—	—	Ⅰ クチャ混じり
	8			—	—	—	Ⅰ コ−26 4層b
	9			—	—	—	Ⅰ キ−29 6層
	10			—	—	—	Ⅰ ケ−28 6層
	11		底	—	—	13	Ⅰ ケ−28 5層＋コ−27 4層
	12	瓶	口	6.8	—	—	Ⅱ ソ−30 2層
	13			4.4	—	—	Ⅰ キ−2 ?
	14		胴	—	—	—	Ⅰ カ−29 6層
	15			—	—	—	Ⅰ ス−27 2層
	16		底	—	—	7	Ⅰ ソ・タ−19 畦
	17		底	—	—	6.8	Ⅰ ク−28 5層
	18		底	—	—	6.1	Ⅰ コ−28 4層
	19	花瓶	口	12	—	—	Ⅰ コ−27 4層
	20	香炉	口	10	—	—	Ⅰ カ−30 5層
	21		底	—	—	3.7	Ⅰ 2層
	22			—	—	—	Ⅰ セ−29 7層


シー19
シー18
シー17
シー16
シー15
瓦集中部（暗褐色土）
溝状遺構


F
F'
EL=2.0m
G
G'
EL=2.0m


スー19
シーライン　西壁
シー20
シー19
シー18
シー17
シー16
2層
瓦集中部（暗褐色土）
溝状遺構
E
F
G
E'
F'
G'
EL=2.0m
EL=2.0m
EL=2.0m

1．井戸遺構

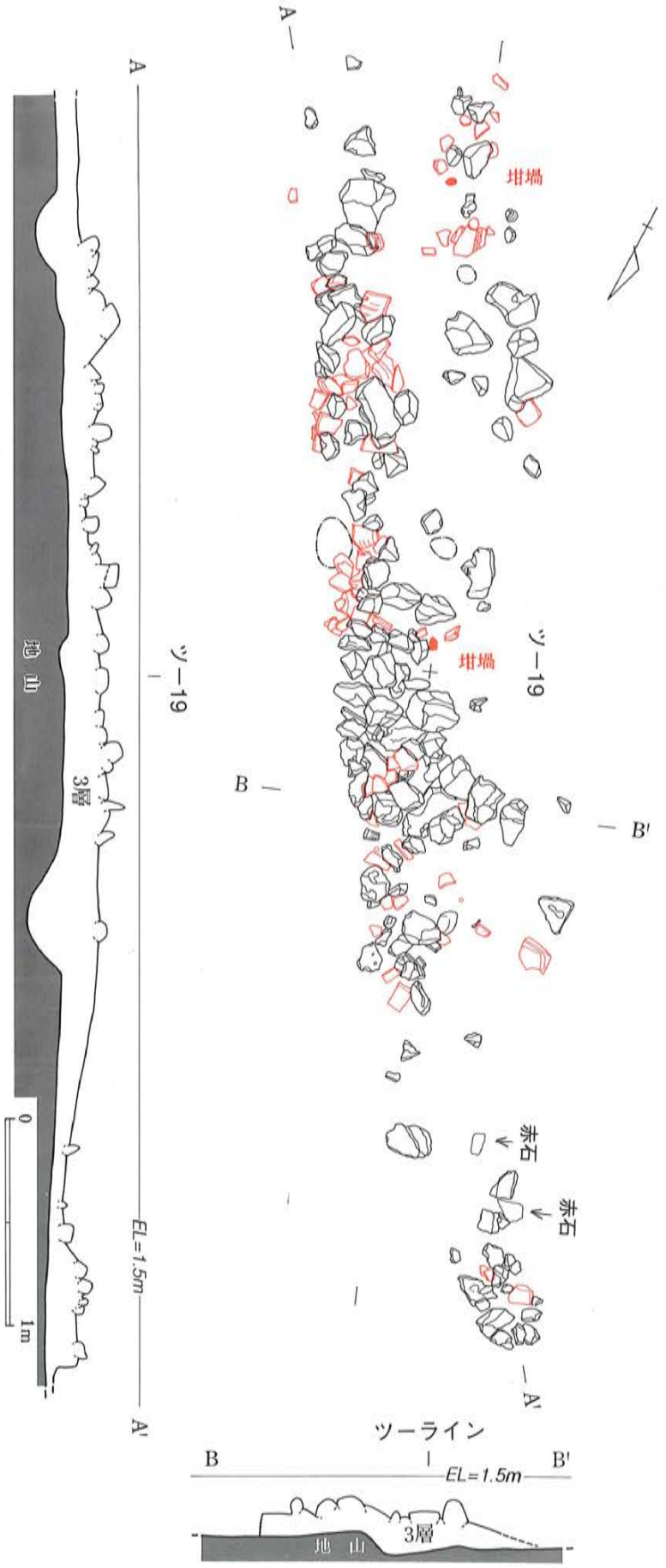
第23図に示す１基だけで、ツー18で検出された。琉球石灰岩を円形に積み上げたもので内面だけを丁寧に整形している。内側の径が約120㎝を測り、深さは350㎝である。下部は水が湧きだし、確認することができなかった。井戸の周りにスラグの層がみられないことから、スラグの層が形成される頃には既に利用されており、その周りは井戸を利用する際の広場になっていたかと考えられる。しかしながら、２層面から石積みがみられ、また、井戸の中から琉球石灰岩や白砂、鉄パイプ、板ガラス、プラスチック、土管などが出土しており、それほどの古さは感じられない。

2．集石遺構

Ⅲ地区Bチ・ツー18・19グリッド３層下部から検出された遺構である。ツーラインに沿って長さ約６ｍ、幅約１ｍの範囲で拳大ほどの石灰岩が集中してみられ、その中に薩摩焼をはじめとした陶磁器などがまとまって出土してる。なかでも炭化した坩堝や鋳型と考えられる石製品・金属製品の出土は、遺構内から柱穴状の炭溜まりが３ケ所にみられることからも、本遺構が何らかの施設もしくはその廃棄場であった可能性を示唆している。しかし、遺構西側は調査前に排水溝として重機で掘削したため破壊されており、遺構の全形を窺うことはできない。

3．溝状遺構E

本地区では、大小多数の溝状遺構が検出されているが、ここでは特徴的なものとして溝状遺構Eにしぼって述べる。Ⅲ地区のA・Bにまたがり、北東から南西方向に調査地を分断するような形で検出された本遺構は、３・４層および地山面を掘削してつくられ、幅２ｍ前後、深さ80㎝前後を測り一定方向にのびる。断面は概ね鍋底状で、北東から南西にかけてわずかに傾斜している。溝の内部には主に黄褐色土が堆積しており、その中から瓦や塼をはじめとした遺物が集中して出土してい

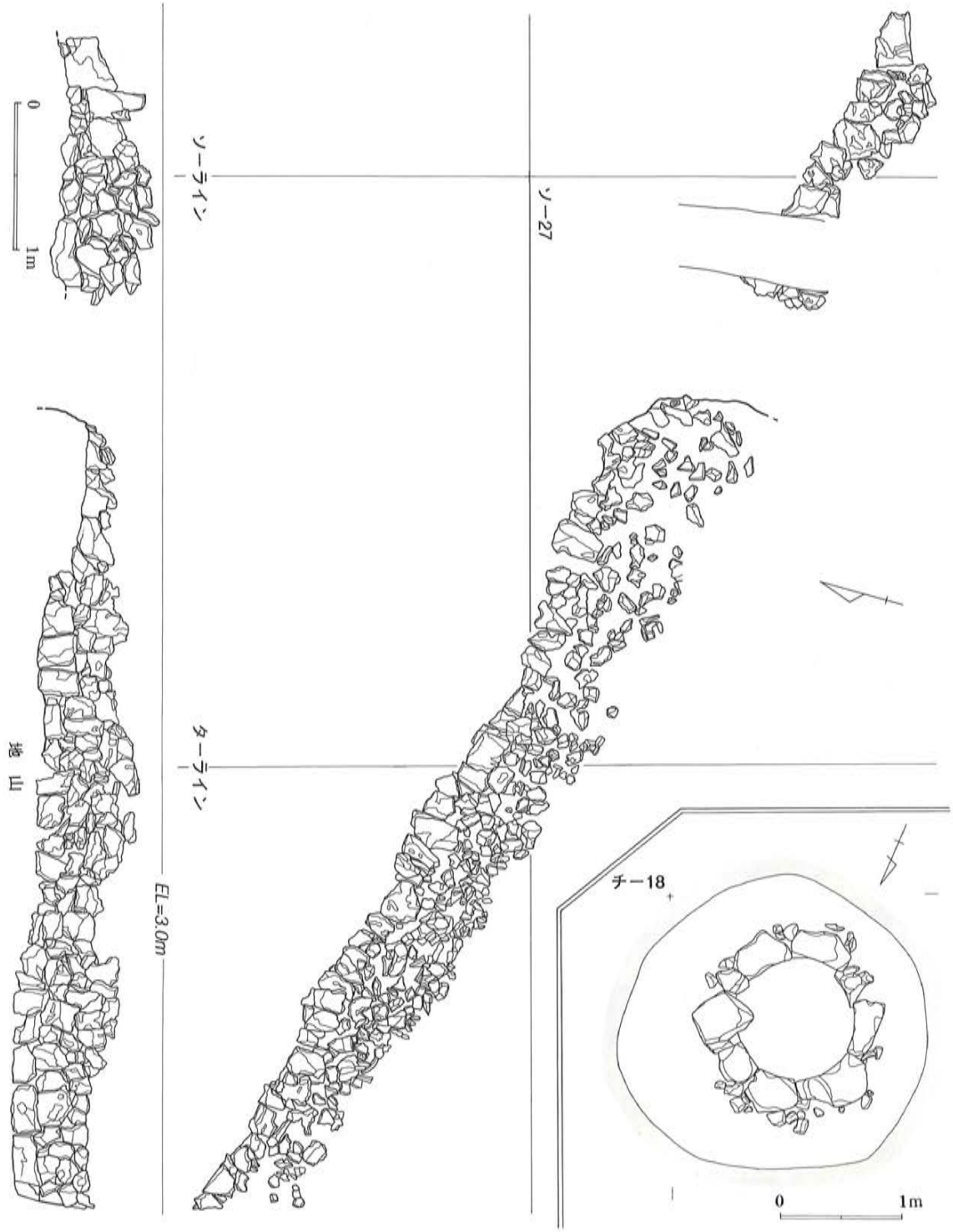


第21図　Ⅲ地区　集石遺構

る。この点でⅠ地区で検出された溝状遺構A～Cとは性格を異にしたものとなっている。本遺構が水と関わりのあるものであれば、調査地の近隣に久茂地川をはじめとした河川が流れていることから、周辺の水場との関係を考える必要があると思われるが、全体の状況が把握できないため本来の用途は不明。

4．石積み遺構

Ⅲ地区C南端（ソ・ター27）、Ⅰ・Ⅱ地区との境界付近に位置している。遺構は東西方向にのびており、最大高約80㎝、最大幅約80㎝、長さ約８m50㎝を測るが、西側部分は壁面に入り込んでいるため全長は不明。下段は粗加工の切石を配し、上部は野面の石を雑に積む。上面は後に破壊されたのか乱雑な状態で検出され、裏込めには細かい石灰岩礫が詰められている。石積みはⅡ地区からの土圧により部分的に北側に傾斜していることから、Ⅱ地区から流出する土砂の土止めとしての機能が考えられる。



第22図　Ⅲ地区　石積み遺構（平面・立面図）

第23図　Ⅲ地区　井戸

5．石積み・石組み遺構

第19図は近代に築かれた石積みである。当初、旧県庁舎時代の建造物と推測したが、現地に建てられた最も古い県庁舎は、鉄筋コンクリート造りで周囲はブロック塀で囲われていたため、それ以前の建物に伴うものと考えられる。可能性として明治末に建てられた南陽館の石垣ではないかと思われるが、残念ながら近距離から撮影した写真やその当時の資料を探し出すことができず確証がない。しかしながらⅠ地区セ－28　7層から“共進會”の字が書かれた急須（第44図102）や那覇商業高等学校の校章が入った青銅製のボタン（第61図18）などの、南陽館[註2]に縁のある遺物が得られている。石積みの方法は相方積みで、大きさは50cm大のもの、10～20cm大のものとまばらである。石材はほとんどがサンゴ石で、部分的に琉球石灰岩が使用されている。Ⅰ地区の地山からⅡ地区の北側を断ち切るように築かれ、二重積みになっている。一段目の石積みは高さ160～170cm、二段目の石積みは上端が破壊されていたので、50cm程度しか残っていなかった。石積みを取り除くと、２基の**石組み遺構**（第20図）が確認された。**遺構No.1**は20～30cm大の琉球石灰岩の集石があり、その下の地山面には段々に掘り込みがみられ、その中に直径20×23cmのピットが検出できた。深さは約50cmを測る。**遺構No.2**は地山面を約110×60cmの長方形に約30cm掘り込んで20～30cm大の琉球石灰岩の集石が確認された。集石を除去すると北側に大きさ34×40cm深さ約70cmの四角い掘り込みが検出された。同様の地山面の掘り込みが他に３基確認できたが（第11図）、そこにはピットや集石といった遺構はみられなかった。

第３節　Ⅲ地区

本地区は今回の調査区の北側一帯を占める。先述したように、県民広場として利用される以前は那覇警察署があった場所である。かなり撹乱を受けているものと考えられたが、発掘調査の結果、建物の基礎以外は比較的良好な状態であった。東西方向に検出された溝状遺構や石垣、遺物溜まりや琉球石灰岩を積んでつくった井戸の検出など、予想もしなかったような成果が得られている。特に、本地区のほぼ全面に広がるスラグの層は注目されよう。以下、本地区で確認された層序および遺構について簡記する。

a. 層　序

本地区で確認された堆積層は表土撹乱層と地山の青灰色粘土（クチャ）層を除けば３枚である。３枚とも基本的にはⅠ地区からの延長で捉えられる土層であるが、様相の異なる部分も見受けられた。以下、今回の調査で確認できた層序について略述する。

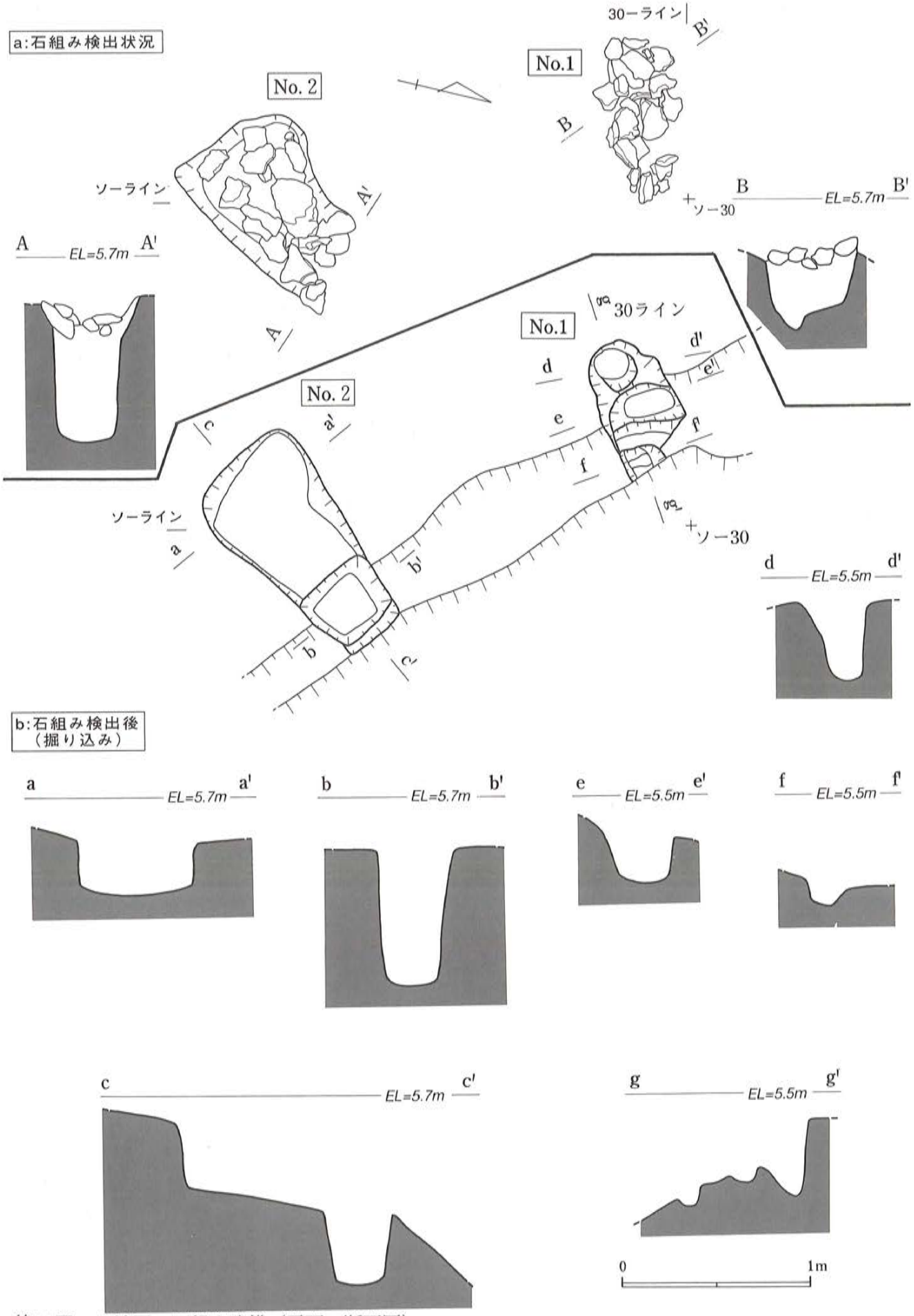
１層：地表面が平坦に整地された造成層。場所によって異なるものの、基本的にはコーラルや青灰色粘土（クチャ）とその上部の客土から構成されており、110～150cmの厚さを有している。赤色・灰色の瓦や陶磁器類、ビン、ハンガー、鉄釘などが得られている。21ライン以北では造成層の下層にはほぼ全面にスラグ（製鉄・鍛冶作業の際にでる不純物）層の広がりがみられた。ほぼ水平に堆積しており、厚いところで約20cmを測る。遺物はほとんど含まれないが、下層との関連でみると先の大戦前後の頃にできた層かとみられる。

２層：緑褐色土層。本地区のほぼ全面に広がっていたものとみられる。Ⅰ地区の３b層と同じ層である。つまり、Ⅰ・Ⅲ地区に広がっている層のようであり、本地区の南側、20・21ライン付近から以北へはほぼ水平に堆積し、40cm前後の厚さを測る。本層までは部分的にコンクリートを流し込んだ建物の基礎がみられる。鉄釘やガラス、沖縄産陶器、本土産陶磁器などが出土しており、後世の堆積土層と考えられる。

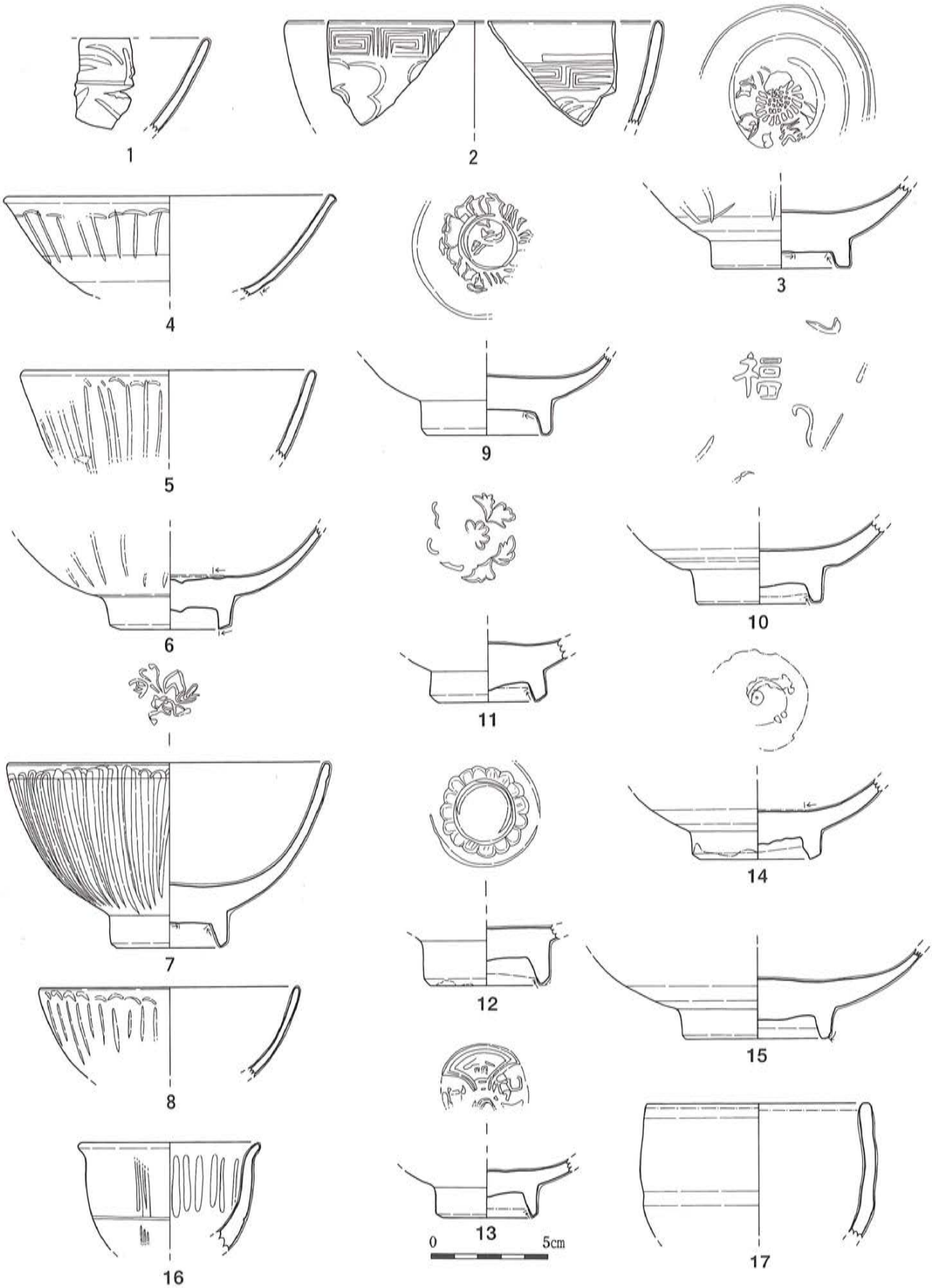
３層：淡黄褐色土層。最も厚く堆積している層で、本地区の主体をなす。中央付近で特に厚く堆積しており、80cm前後の厚みを有す。基本的にはⅠ地区の４層と同様であるが、場所によっては状況に差異が見受けられ、細分も可能である。つまり、ジャリが多く混入する部分、遺物の集中する部分、堆積土の色合いが若干異なる部分などである。しかしながら、これらの状況の変化する場所は第25図に示した溝状遺構の検出された場所であり、本来的には本層から切り離されるべきものかと考えられる。出土遺物は18～19世紀頃のものとみられる中国産の染付や肥前系磁器、沖縄産施釉・無釉陶器、瓦類、坩堝、ジーファーなど多種多様な遺物が得られている。また、Ⅰ地区から延びる明赤褐色土層（４b層）が23ライン南側までみられる。以北にはおよばない。

４層：灰色土層。Ⅰ地区の６層に相当するもので、南側（Ⅰ地区側）で40cm前後の厚さを有し、北側へ厚さを減じる。本層は全面に広がるものではなく、薄くみられる箇所や確認できない場所なども見受けられ、そういうところでは３層下は直接地山の青灰色粘土層になる。出土遺物は陶磁器類や坩堝などが得られている。

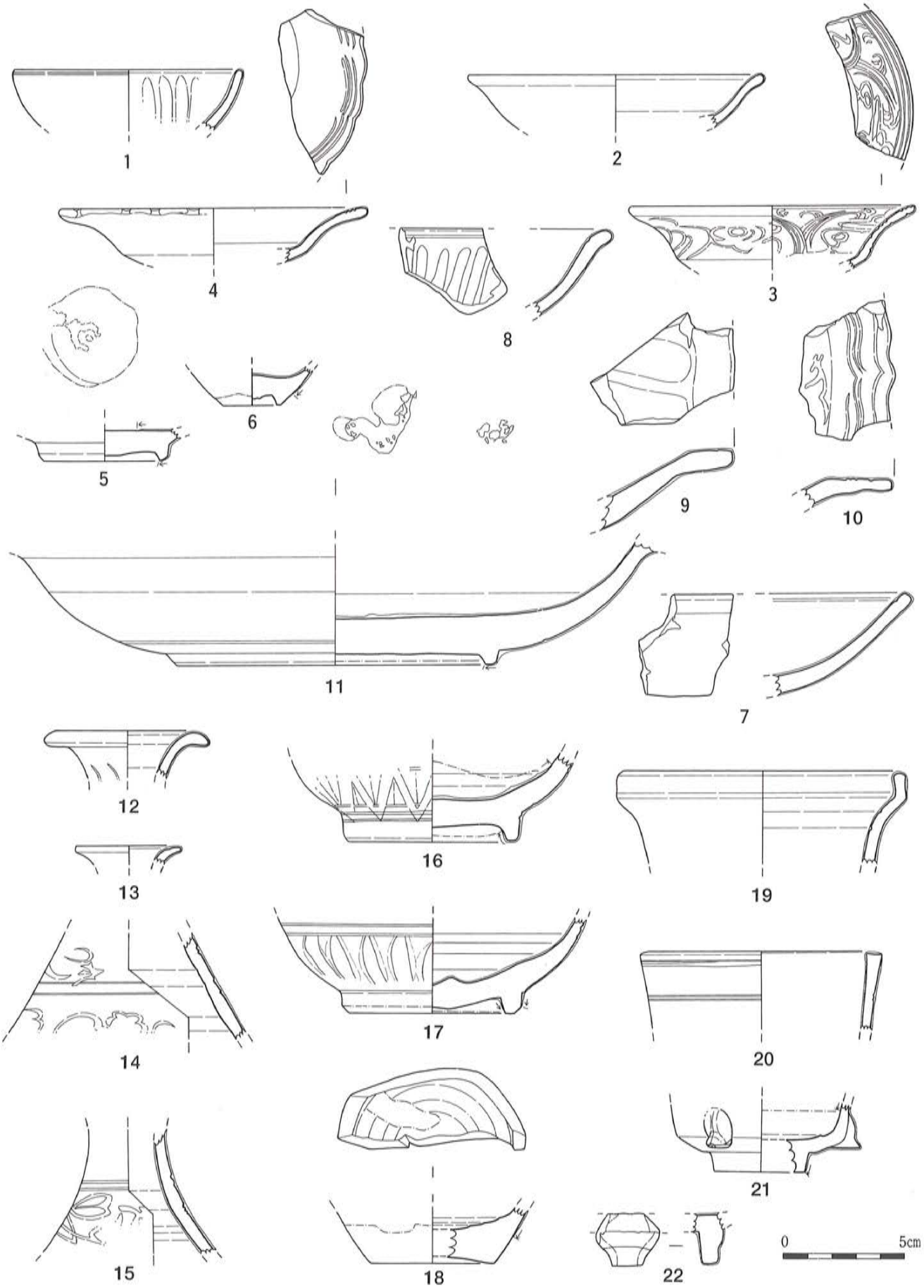
５層：青灰色粘土層。本地域一帯の基盤をなす土層で、いわゆる地山。無遺物層で、上面には溝状遺構が検出（第25図）されたり、本層まで掘り下げた井戸（第23図）などが確認されている。



第20図　Ⅱ地区　石組み遺構（平面・断面図）



第26図　青磁（1）碗・鉢



第27図　青磁（2）皿・盤・瓶・壺・香炉

第2節　白　磁

量的にはそれほど多くないが、器種的にはバラエティーに富んでいる。碗・皿・小鉢・小杯・瓶・水注・灯明皿・灯明具・蓋などで、時期的には14世紀～19世紀頃までと幅広い。特徴的なものを第28図に示した。図示したもののほとんどがⅠ地区の４～７層から出土している。以下、図示した資料について器種別に簡記する。

碗：１～３に示したもので、１は口縁部、２・３は底部の資料である。１は胴部から口縁部の方へ直線的に開きながら至るもので、推算口径は約19cmを測る。口縁部上端に浅く幅広の凹線様のものを廻らしており、口縁部が若干肥厚する感じにみえる。17世紀頃の所産かとみられ、Ⅰ地区ケ－25茶褐色土層の出土。２・３は底部の資料で、両者とも高台際から外底面および内底面は露胎である。いずれも内底面に文様がみられ、２は卍文が、３は雷文に囲まれた中に堂の字が認められる。２は高台径が６cmで、外底面の削りが浅く、３は高台径が５cmで、高台の削りは青磁的である。また、３は外面に櫛描き文も認められる。いずれも、14世紀後半～15世紀半頃のものとみられ、２はⅠ地区５層、３はⅠ地区４層から出土している。

皿：４～９に図示したものである。４はⅡ地区撹乱層から、６・８はⅠ地区５層から、他の３点はⅠ地区第４層からの出土である。４は切り高台の小皿の資料で、推算口径が約10cm、推算高台径が約4.5cm、高さが２cmを測る。全釉の資料で、本タイプの特徴の一つとされる重ね焼きの際の剥がれが内底面に残る。また、高台接着部には溶着痕が認められる。５は直口口縁の小皿の資料で、推算口径が約10cm、推算高台径が約４cm、高さが２cmを測る。非常に薄く施釉されており、高台から外底面および内底面は露胎。15～16世紀頃。６は外反口縁皿の資料である。全釉のあと高台畳付け部の釉を掻き取っている。推算口径は約11cm、推算高台径は約6.4cm、高さが2.5cmを測る。16世紀頃のものかとみられる。

７は碁笥底の資料で、直線的に外側へ開きながら胴部へ移行する。底径は約４cmを測る。外面の胴部下端から外底面および内底面は無釉となっている。16～17世紀頃。８は稜花形の口縁をなすもののようで、窯は福建省あたりかとみられる。推算口径は約12cm、推算高台径は約５cm、高さは約3.5cmを測る。全釉のあと、高台畳付け部の釉を掻き取り、内底面を蛇の目状に釉剥ぎする。高台際や高台内面および外底面に砂粒の溶着が著しい。17世紀頃。９は直口口縁の資料で、型成形とみられる。いわゆる口禿げの資料で、高台畳付け部の釉も掻き取る。推算口径が約９cm、推算高台径が約6.5cm、高さが2.3cmを測る。18世紀頃。

小鉢：10に示す腰折れの資料で、そこから口縁部へ直線的に立ち上がる。やや口唇部寄りの胴部に凸帯様のものが１条廻る。腰部から口縁部の方へ漸次薄くなる。推算口径は約９cm、推算高台径は約５cm、高さは約５cmを測る。16世紀頃の景徳鎮窯のものとみられる。Ⅰ地区から得られている。

小杯：11に示すもので、推算口径が約４cm、推算高台径が約２cm、高さが約２cm。全釉の資料で、高台畳付け付近にもみがらの溶着がみられる。型成形の可能性もある。17～18世紀頃。Ⅰ地区４層からの出土。

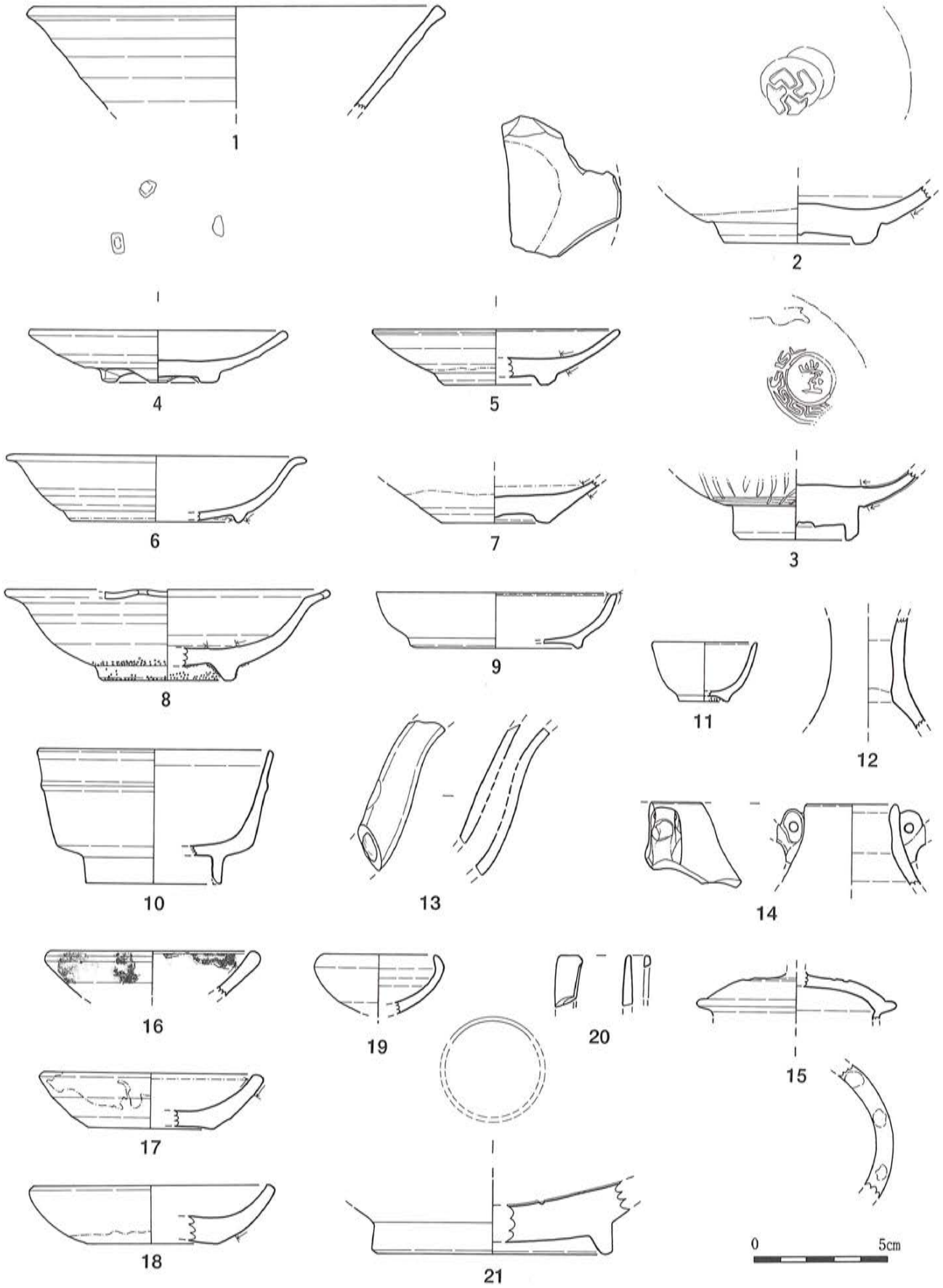
瓶：12に示す頸部資料で、明代の景徳鎮窯のものとみられる。内外面とも施釉される。Ⅰ地区５層出土。

水注：13・14に示すもので、13は注口、14は口縁上部に把手の付く直口口縁の資料である。２点とも明代の景徳鎮窯のものとみられる。13は上下端とも破損しており、現存長は約６cm。14は胴部から口縁部の方へすぼまるように向かい、推算口径が約３cmを測る。13は出土地不明。14はⅠ地区７層からの出土。

蓋：15に示すもので、甲部の中央に撮みを有する資料のようである。破損のため撮みの状況は不明。その周囲に２本の沈線を配す。甲部だけに施釉している。推算径は約７cm。Ⅲ地区３層からの出土。

灯明皿：16～18に示すもので、ほぼ似たような形状、大きさのようである。16・17は内面が施釉の対象のようで、内面の口縁部上端から口唇部および外面は露胎としている。口唇部の周辺には煤の付着がみられる。17は全形が窺えベタ底である。18は胴部下端から外底面だけが無釉である。口唇部や外面も施釉されているところが16・17と異なる。18は釉の状況などから青磁の可能性もある。17は推算口径が約９cm、推算底径が約５cm、高さが約２cmを測る。18はそれより一回り大きめである。３点ともⅠ地区から得られ、16は褐色土層、17は５層、18は６層からの出土。いずれも明代。19・20はヒョウソクの受皿と芯部の資料で、17～19世紀頃のものかとみられる。19はⅠ地区４層、20はⅠ地区７層の出土である。

21はタイ産の青磁で、皿か鉢の底部の資料かとみられる。内面にだけ青緑色の釉が施され、外面は無釉。内底面は中央部の方が凹み、１本の圏線が廻る。火熱を受けているようで、高台部および外底面に赤味を帯びる部分がみられるほか、内面の釉もアバタ状の箇所がみられる。14～15世紀頃。Ⅰ地区４層から出土。



第28図　白磁

第3節　染　付

比較的多くの資料が得られている。ほとんど破片であるが、第29図1・16～19に示す碗や第30図24・25・27に示す皿、29・31の小杯などは全形が窺える。得られた資料の全体的な様相は行政棟地区[註5]、議会棟地区[註6]から報告されているものと大差ないようである。特徴的なものを第29図および第30図に示した。

図示した資料を時期的な面からみると15世紀後半～19世紀頃と幅広く、器種的には碗が圧倒的で、皿・小杯の他、鉢・瓶・小瓶・壺など比較的バラエティーがみられる。以下、図示した資料について略述する。法量や出土地などは第3表に示した。

第29図に示したのは8が小碗で、他は碗・鉢の資料である。1～3・5～7・9は15～16世紀頃の所産かとみられる。1は外面に蕉葉文、口縁部に波濤文、内底面に巻貝を配し、2は外面にアラベスク文と圏線、内底面に圏線と十字花文、3は外面の文様は判然としないが、内底面に圏線と花唐草文を配すもので、いずれも類例資料の多い直口タイプの碗である。9は外反口縁の資料で、外面の口縁部に亀甲繋ぎ文、内面の口縁部に1本の圏線を廻らしている。8は外面に圏線と梵字文を配す小碗の資料で、16～17世紀頃のものかとみられる。
15は外面に赤壁賦という詩と反対側に船の絵を描くもののようで、17世紀前半頃のものか。蛇の目高台で広くつくり、畳付けから外底面は露胎。内底面には成化年製の文字を配し、その周りに花文帯を廻らす。16・17は外面に丸文を配し、18・19は外面に草花文とその下方に蓮弁文、高台外面に圏線を施している。20は内底面にダミ技法を用いて花文をあしらい、外底面に人面を描いている。いずれも18世紀頃のもの。

第30図22～28は皿の資料である。25は内底面が露胎のようであるが、他は内底面に施釉し、文様を配す。22・23は碁笥底の底部で、他は高台を有す。26・27は口径・底径が大きくなり、低く造る。22・23は16世紀頃、24・25は16～17世紀頃、26・27は18世紀頃のもののようである。29～34は小杯の資料である。29・31は全形が窺え、29は外反口縁、31は直口口縁の資料である。30は碁笥底。32は明治頃の瀬戸・美濃産もののようである。35～38は瓶の資料で、35・36は明代の、37・38は清代のものか。38は筒型のもので、外面に花唐草文を描く。

39は中型壺の資料で、外面には山水文を描き、口銹を施す。18世紀頃の所産とみられる。40は行政棟[註7]地区の報告書の中で小瓶（18～19世紀頃）としているものに似ている。41・42は内底面を蛇の目釉剥ぎする鉢の底部資料で、42は類例資料が行政棟[註8]地区の報告の中にみえる。

第3表　染付出土一覧

単位：cm

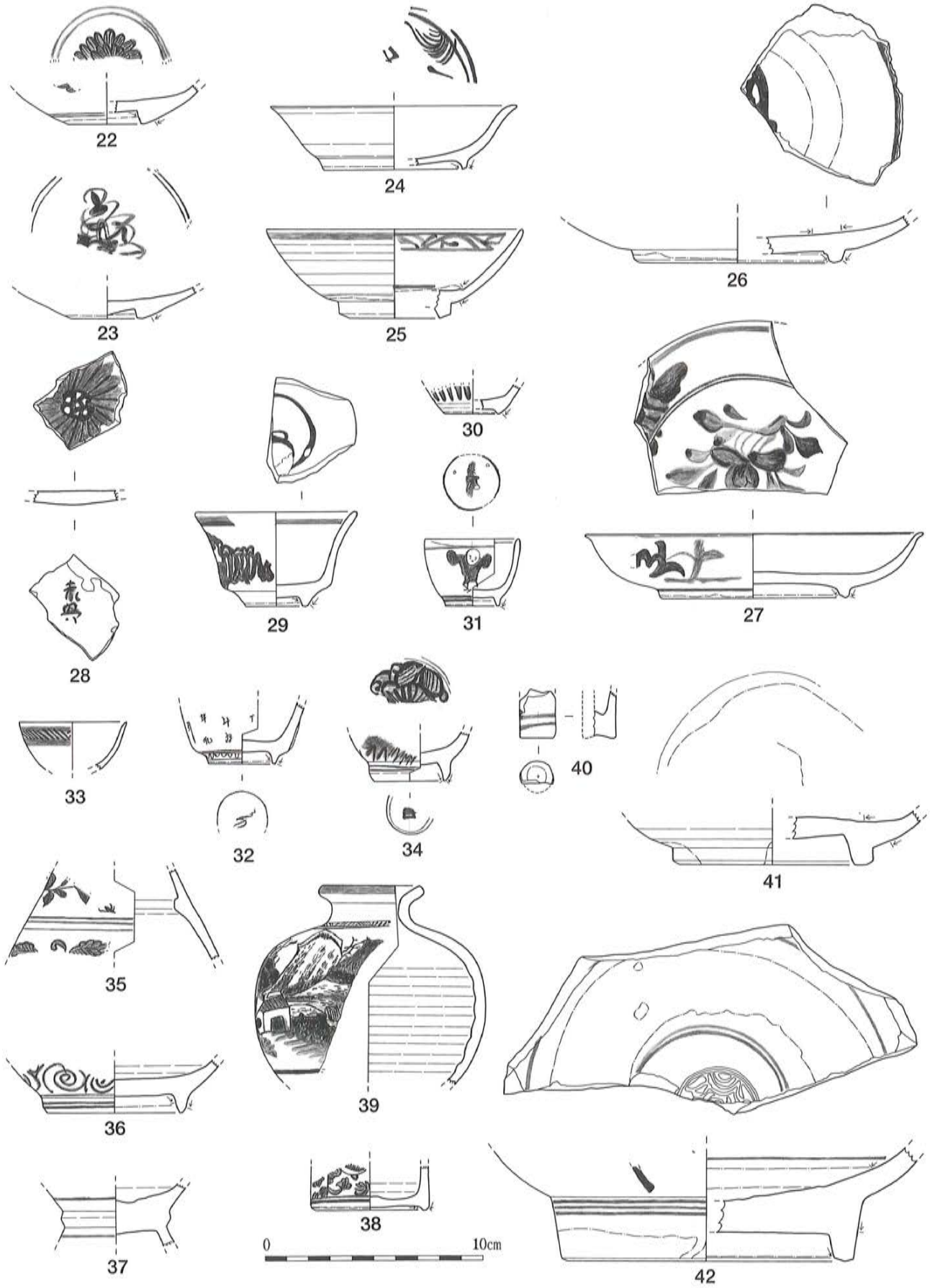
図	番号	器種	部位	口径	器高	底径	出土地	備考
第29図・図版10	1	碗	口/底	12.8	6.4	5.2	Ⅱ タ－31 1層	15c～16c中
	2		底	－	－	5.4	Ⅰ サ－28 5層	15c末～16c中
	3			－	－	5	Ⅰ オ－29 6層	15c末～16c中
	4		胴	－	－	－	Ⅲ チ－19 集石遺構	18c～19c
	5	鉢	胴	－	－	－	Ⅰ ク－28 2層	15c～16c
	6			－	－	－	Ⅰ シ－27 6層	15c～16c
	7	碗	口	16.4	－	－	Ⅰ ク－28 4層	16c後
	8	小碗	口	9.6	－	－	Ⅰ ケ－28 4層	16c～17c
	9	碗	口	14.2	－	－	Ⅰ サ－28 5層	15c
	10	鉢	底	－	－	8	Ⅰ シ－28 5層	15c
	11	碗	底	－	－	6.6	Ⅰ ク－28 5層	15c
	12			－	－	4.4	Ⅱ セ－30 4層	15c
	13			－	－	5.2	Ⅰ 1層	15c
	14		口	12.8	－	－	Ⅰ サ－29 2層	17c
	15		底	－	－	6.5	Ⅰ ク－28 5層	17c前
	16		口/底	15.2	7	7.8	Ⅲ 集石遺構	18c
	17			12.8	5.9	5.6	Ⅲ チ－18 遺物溜	18c
	18			12.6	5.6	6.2	Ⅲ チ－19 集石遺構	18c
	19			15.4	6.7	7.5	Ⅲ チ－19 集石遺構	18c
	20		底	－	－	7	Ⅲ セ－19 3層 遺物集中	18c
	21	鉢	口	16.5	－	－	Ⅰ キ－29 5層	18c

図	番号	器種	部位	口径	器高	底径	出土地	備考
第30図・図版11	22	皿	底	－	－	3.4	Ⅰ カ－29 4層	16c
	23			－	－	3.2	Ⅰ ク－28 5層	16c
	24		口/底	11.2	2.8	6.3	Ⅰ 2層	16c
	25			11.6	4	4	Ⅰ ス－26 4層b	16c～17c
	26		底	－	－	9	Ⅰ 1層	17c～18c
	27		口/底	15.2	2.9	8.2	Ⅲ サ－19 3層	18c
	28		底	－	－	－	Ⅰ 2層	18c
	29	小杯	口/底	7.6	4.2	2.7	Ⅱ タ－31 5層	16c～17c
	30		底	－	－	2.4	Ⅱ セ・ソ－31 石敷	16c～17c
	31		口/底	4.2	3	2.4	Ⅰ コ－27 4層	17c～18c
	32		底	－	－	3	Ⅰ 6層 アゼ	18c
	33	杯	口	4.8	－	－	Ⅰ ク－25 4層b	18c
	34	小碗	底	－	－	3.3	Ⅰ セ－30 7層	17c～18c
	35	瓶	胴	－	－	－	Ⅱ ソ－31 瓦集中部2	15c～16c
	36		底	－	－	6.2	Ⅰ セ－29 7層	15c～16c
	37			－	－	－	Ⅰ カ－28 5層	18c
	38			－	－	5	Ⅰ シ－31 7層	19c
	39	壺	口	4.4	－	－	Ⅲ 集石遺構	18c
	40	その他	底	－	－	1.5	Ⅱ ソ－31 4層	18c～19c
	41	鉢	底	－	－	8.4	Ⅰ ケ－28 5層	17c～19c
	42			－	－	12.4	Ⅲ チ－19 4層	17c～19c

第4節　褐釉陶器

第31図に特徴的なものを示した。図示したもので言えば中国産、タイ産、中国南部か東南アジア産のものが得られている。中国産、タイ産のものは15～16世紀頃のもので、後者のものは18～19世紀頃のものが含まれるようである。器種的には壺が主体である。第31図10のタイ産の双耳瓶や13のたたき目の残る壺などは注目されよう。以下、中国産、タイ産、中国南部か東南アジア産に分けて略述する。

第29図　染付（1）碗



第30図　染付（2）皿・小碗・小杯・瓶・鉢・その他

a. 中国産

第31図１～７・９に示すもので、壺形の資料である。１～５は口縁部、６は胴部、７・９は底部の資料である。１・２は玉縁状の口縁部で、推算口径は１が約12cm、２が約8.8cmを測る。１は直立する頸部を有すが、２は無頸の資料である。１は薄手のもので、２はわりと厚くつくられている。２は破片の下部に外耳の痕跡がみられるほか、口唇部に重ね焼きのあとの剥がれ部が認められる。

３～５は口縁部断面が方形状を呈すものであるが、５は幅広く平坦に仕上げられた口唇部が外傾するため、口唇部が水平な３・４と異なる形状をつくる。３点とも頸部は内傾し、４・５は頸部外面に稜が廻る。推算口径は３・４が約17cm、５が28.3cmを測る。３・４は全釉のようであるが、釉の剥落が著しい。５は口唇部が無釉のようで、内外面の釉は風化のためか濁っている。３・４は薄手のもので、５は厚みのある資料である。６・７に示したものは、３・４のような口縁部資料の胴部および底部になるとみられる。６は波打つ感じの凹凸を有す胴下部の資料で、７は上げ底の底部である。外底面を除いて全釉であるが、６・７とも内面の釉はほとんど剥がれ落ちている。７は外底面に押し潰された感じの胎土目の付着がみられ、推算底径は約15cmを測る。

８は頸部が内湾気味に若干膨らみ、口縁部は逆Ｌ字状に外反する擂り鉢の口縁部資料である。口唇部は内側から中央付近まで平坦にし、そこから外端部へは斜めに削っている。口唇部外端は比較的明瞭な稜がみられ、内側には浅い圏線が１本廻る。内面の櫛目は口縁部上端付近までみられ、約１cmの間隔で近接する縦位の２本の平行沈線と１本の沈線が認められる。現資料では内外面および口唇部とも露胎。推算口径は約18cm。比較的細かな素地であるが、白色鉱物の砂粒や大きめの砕片などが散見される。

９は底面から直線的に外側へ開きながら胴部へ向う平底の資料で、推算底径は約23cmを測る。７とは異なる器形の壺とみられる。底面に近い部分では不明瞭な削り調整が認められる。底面からの立ち上がり部付近は20mm前後と厚いものの、底面部は約10mmと薄くつくられる。外底面はアバタ状を呈す部分や１～２cmの楕円形状の剥がれ部などがみられる。本資料では外面は無釉、内面は施釉であるが、内面の釉はほとんど剥げ落ちている。

b. タイ産

第31図10・11に示すものである。10は推算口径約３cmの小型の双耳瓶で、あまり例をみない資料である。キャリパー状に膨らむ口縁部から頸部が締まり、肩部がほとんど膨らまずに下方へ向かう。現資料の下端部の推算径が約５cmを測る。頸部にはブリッジ状の縦耳が付される。外面は全釉のようであるが、内面は胴部下半以下は無釉のようである。素地は灰白色の細かなもので、黒色粒が散見される。11は口縁部が大きな玉縁状の壺で、推算口径は約21cmを測る。口唇部はほぼ平坦にするが、中央部付近に浅い凹線様のものを廻らす。口唇外端部は摩滅して平滑面をなす。外面の頸部中央付近から以下に施釉しており、外面の口縁部から内面は無釉のようである。

c. 中国南部か東南アジア産

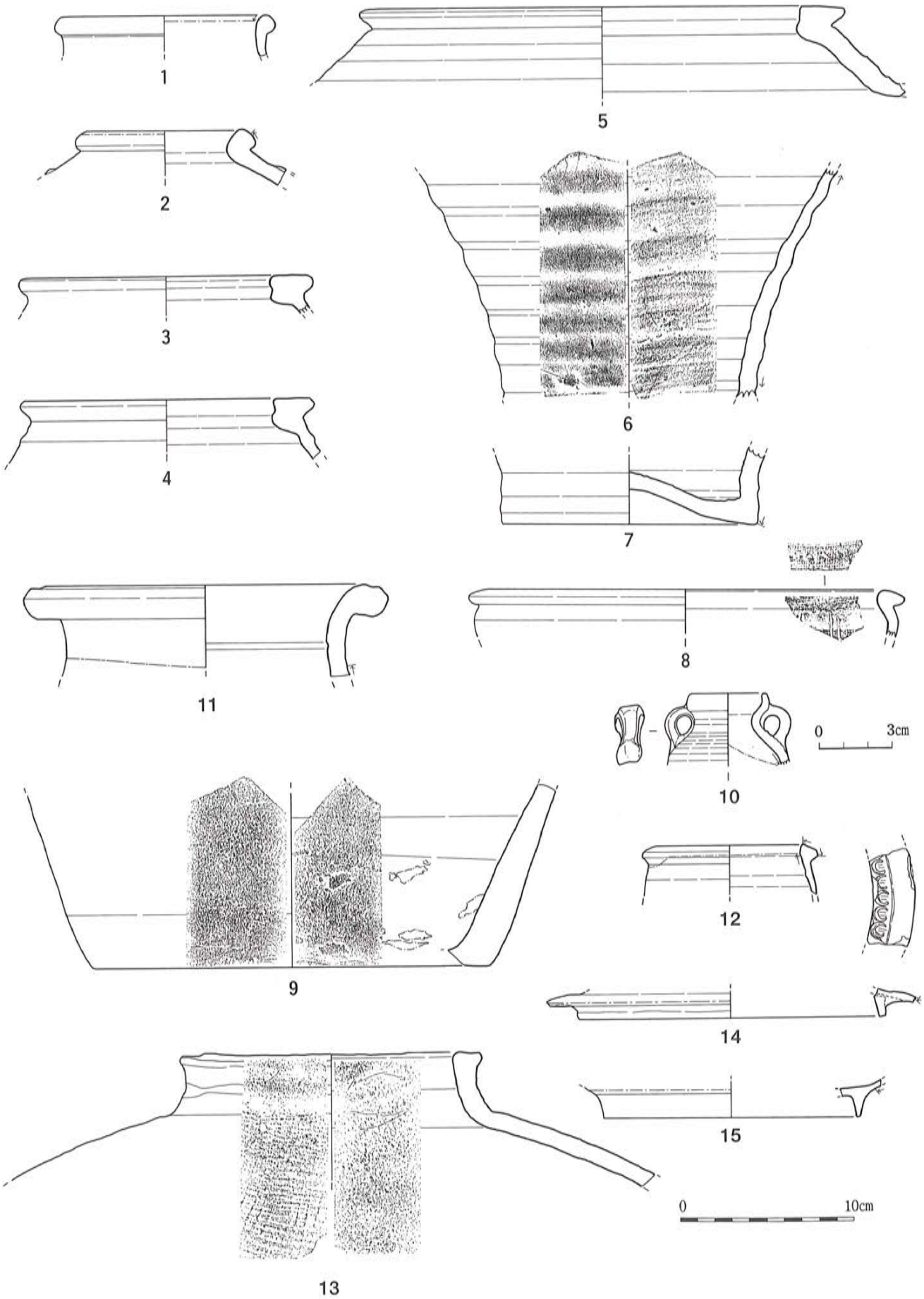
第31図12～15に示すもので、12・13は壺、14は蓋、15はⅢの資料である。いずれも県内ではあまり類例の報告を聞かないものである。12はほぼまっすぐの頸部を有すもので、口縁部は肥厚部外面を平坦に整形し、断面が台形状を呈す。口唇部は外傾し、若干凹面をなすため、内側が尖る。薄手のつくりで、他の資料とは趣を異にし、口唇部および外面、内面の口縁部以下に施釉している。13は肩部の張りが強い壺形の資料で、口縁部上端が両側へ張り出す。口唇部は広く、凹面をなし、外端部はわりと雑な整形である。頸部の中央付近に浅い凹線様のものを廻らす。肩部には格子目状のたたき痕が明瞭に残るが、当て具の痕跡は認められない。特徴的な整形技法で、素地に砂粒を密に含む。無釉の資料のようであるが、施釉の痕跡かと思われる部分も見受けられる。

14は蓋の鍔部の資料で、推算径は約21.4cm、かえし部の推算径が約18cmを測る。鍔部は弧状になり、端部が下がり気味になる。かえし部はほぼまっすぐにつくられ、底面部は平坦。鍔端の約１cmは一段高く平坦に仕上げ、端部外面は平坦に整形している。一段低くなった箇所には円形の中に２本の短線を配した文様が陽刻され、それが連続的に廻る。表面にだけ施釉され、鍔部内面やかえし部は露胎となっている。15はⅢの底部資料で、推算高台径は約15cmを測る。高台は細く畳付けの方へすぼまるようにつくり、畳付けは平坦に仕上げる。高台内側をほぼまっすぐに削る。外面高台脇まで施釉し、高台および外底面は無釉のようである。

第４表　褐釉陶器観察一覧

単位：cm

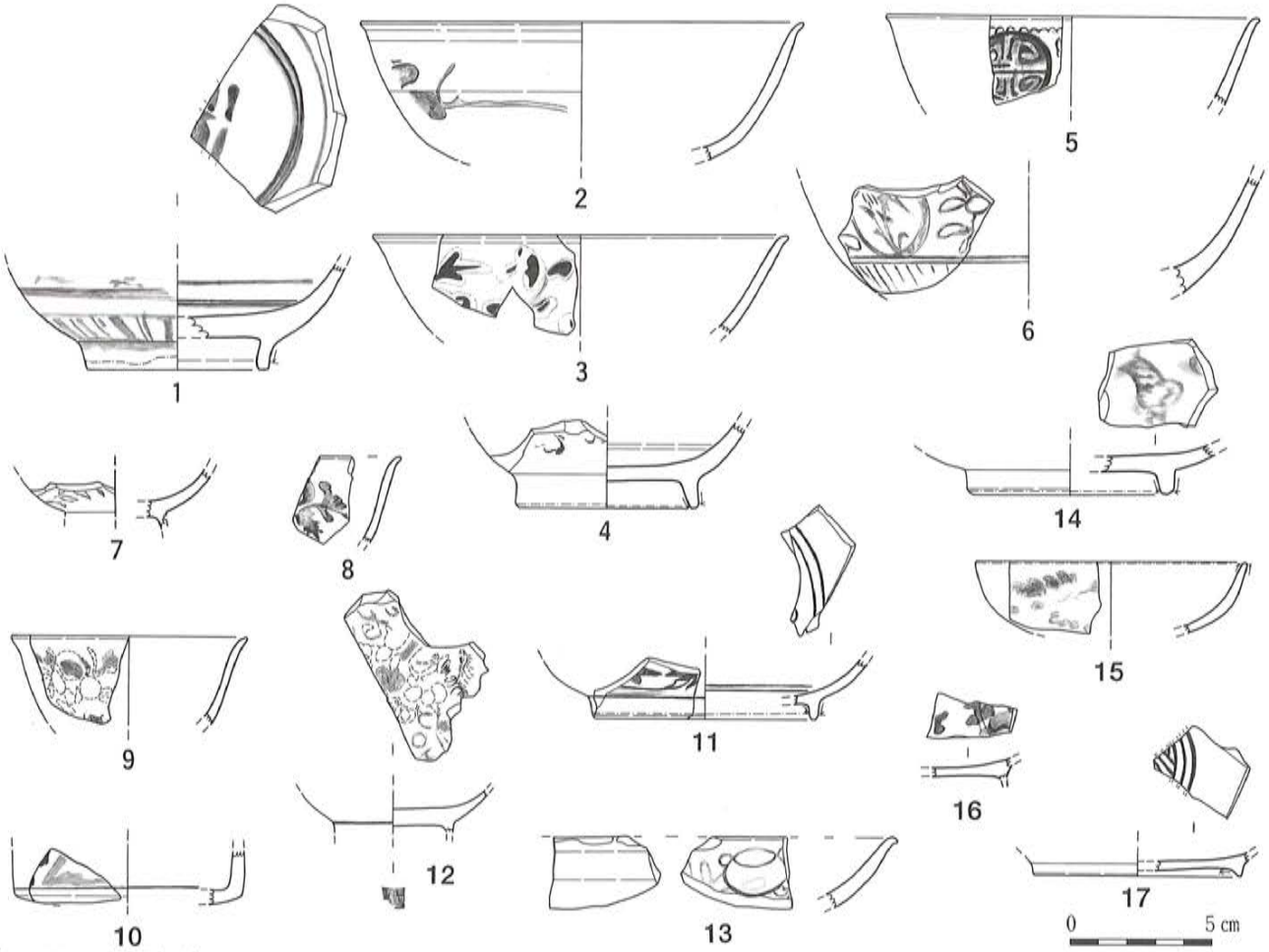
図	番号	器種	部位	口径	器高	底径	出土地
第31図・図版12	1	壺	口	12	—	—	Ⅲ-Aソ-19　3層1/3
	2			8.8	—	—	Ⅲ-Aソ-19　3層1/3
	3			16.8	—	—	Ⅰ褐色土
	4			16.6	—	—	Ⅲ-Aソ-19　3層1/3
	5			28.3	—	—	Ⅰケ-28　5層下部
	6・7		胴・底	—	—	14.6	Ⅰケ-28　5層
	8	擂り鉢	口	17.8	—	—	Ⅲ-B　集石遺構
第31図・図版12	9	壺	底	—	—	23	Ⅰコ-28　5層
	10	小瓶	口	3	—	—	Ⅰ2層（グリット不用）
	11	壺	口	21.2	—	—	Ⅰケ-28　5層　下部
	12			8.6	—	—	Ⅲ-A　ソ-19　3層1/3
	13			17.4	—	—	Ⅲ-Bツ-18　集石遺構
	14	蓋	口	21.4	—	—	Ⅰセ-28　7層
	15	Ⅲ	底	—	—	15	Ⅰコ-28　4層



第31図　褐釉陶器

第５節　中国色絵

16世紀から19世紀にかけての碗、小碗、皿などが得られている。第32図１～６が碗で、１は景徳鎮系で16世紀の資料である。見込みには福字と見られる文様が染付で描かれ、外面の文様は赤絵で描かれる。底径6.4cm、Ⅱ地区テ－32灰色土層。２～６は18世紀の福建省のもので、２～４は青を主体とする色絵のタイプである。２は口径15.8cm、Ⅰ地区コ－27、４層からの出土である。３は口径14.8cm、Ⅰ地区セ－30、７層から出土。４は底径6.6cm、Ⅱ地区北側斜面石積み下からの出土。５・６は五彩タイプで、５は外面に丸文が描かれ、黄色と赤色の配色が認められ、口径は13.2cmを測る。Ⅰ地区グリット不明の１層出土である。６は外面に草花文で、赤色と緑色の配色である。７～９は小碗で、７は景徳鎮系の17世紀か18世紀の色絵である。絵付けは剥げ落ちているが、草花文が描かれているようである。Ⅰ地区ク－30、３層出土である。８は福建省徳化窯の口禿げの小碗で、小破片であるが外面には緑色の葉が描かれているのがわかる。19世紀前半の資料で、Ⅲ地区Aサ－19、３層上面・遺物集中部からの出土である。９は絵付けが剥がれ、石灰分の付着もみられるが、19世紀中頃の小碗である。口径8.4cm、Ⅰ地区黄土山からの出土である。10は小鉢と考えられる資料で、16世紀か17世紀のものと考えられる。外面に染付と赤絵で絵付けされているが、図柄は不明瞭である。Ⅰ地区グリット不明２層。11～17は皿で、11は景徳鎮系の皿で外面は花唐草文、配色は赤色を基調に黄色と緑色を取り入れている。16世紀のもので、底径は8.1cm、Ⅰ地区コ－28、５層下部からの出土である。12は皿ではない可能性も考えられる資料であるが、見込みは絵付けが剥がれ、蔓草文が描かれていると推察される。17世紀のもので、Ⅰ地区オ－30、３層。13と14は福建省の18世紀の皿で、見込みは五彩で絵が描かれている。13はⅠ地区グリット不明２層からの出土である。14は底径7.3cm、Ⅲ地区Bソ－20、３層上面（溝状遺構内遺物溜まり）出土。15～17は徳化窯の19世紀前半の皿である。15は皿以外の可能性もある資料で、口禿げで外面に絵付けしている。色は薄れているが緑色を配色している。口径9.6cm、Ⅰ地区キ－27層序不明である。16は型作りの皿で、見込みに草花文らしい図柄が描かれ、配色は黄色と緑色が認められる。17は型作りで、焼成不良の生地に絵付けをしており、見込みに赤色で丸文が描かれる。底径7.4cm、Ⅰ地区キ－28、２層出土である。



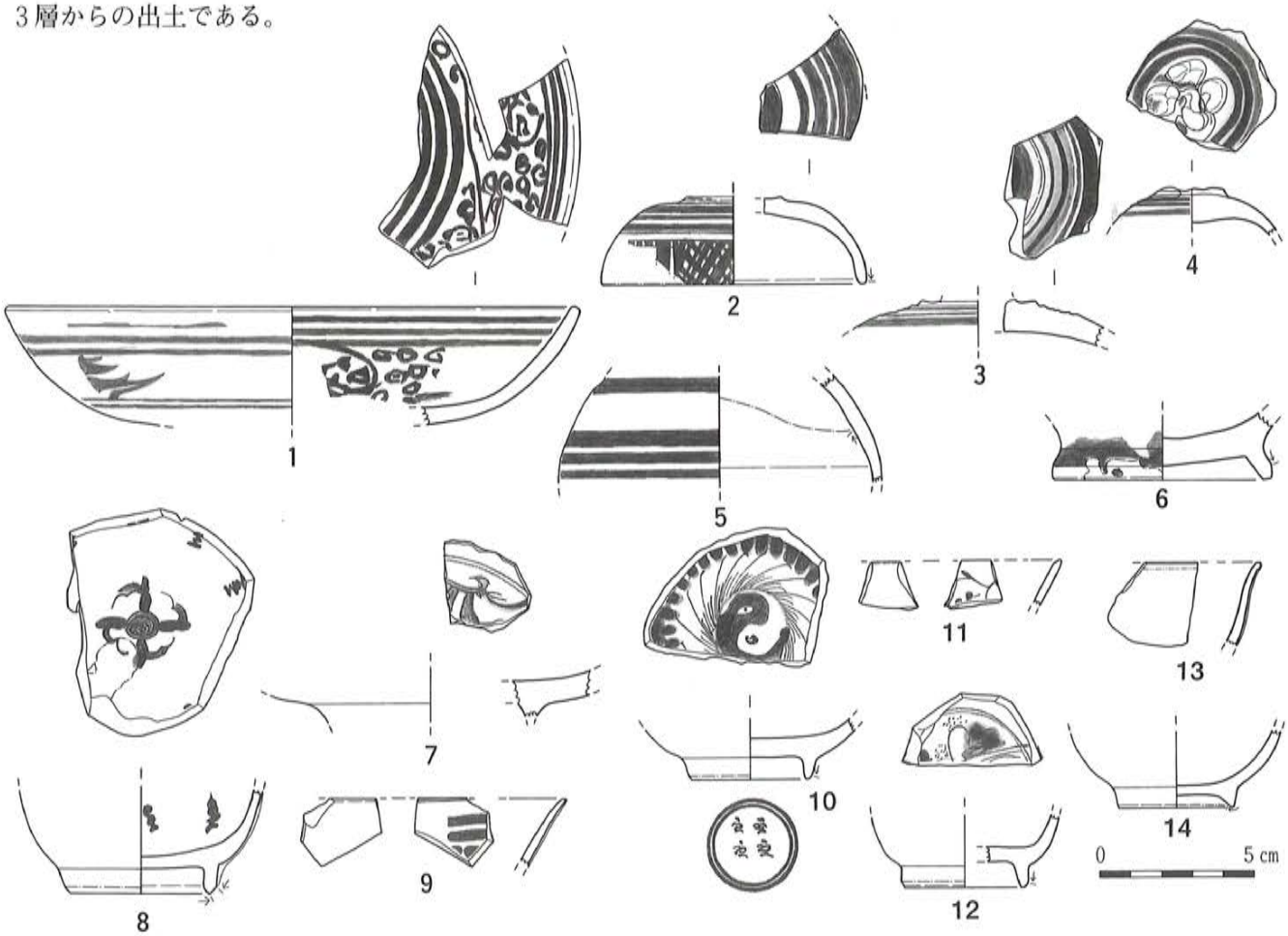
第32図　中国色絵

第６節　タイ鉄絵

６点のタイ鉄絵を図化した。皿が１点、他は合子や袋物で、年代は15・16世紀のものが中心である。大方の資料は生地が灰白色で黒色の粒子が多く混入している。第33図１は見込み唐草文の皿で、口径は18.8㎝、Ⅰ地区コ－28、５層下部からの出土である。２～４は合子の蓋で、２は圏線の下に縦線と斜め格子文が描かれる。口径3.2㎝、器高2.85㎝で、Ⅰ地区コ－28、５層出土である。３は２や４よりも径が大きくなると推測できるⅠ地区サ－29、２層からの出土。４は摘み部分が残り、今回出土したタイ鉄絵の中では生地が白っぽいのが特徴である。Ⅰ地区シ－27、５層出土の資料。５は瓶類の胴部で、Ⅰ地区カ－29、１層出土の資料である。６は袋物の底部で高台に窯道具の溶着痕が残っている。Ⅰ地区ク－28、５層からの出土である。

第７節　青磁染付・銹釉染付

第33図７～14は中国を産地とする青磁染付と銹釉染付である。同図７～10・13が青磁染付で７と８は碗である。７は産地が景徳鎮で年代は17世紀のもので、Ⅰ地区キ－28、２層出土である。８は器表面の青磁が濃オリーブ色で見込みに花文が入る。景徳鎮のもので年代は18世紀である。底径が4.6㎝で、Ⅰ地区セ－30、６層からの出土である。９・10・13は小碗で、９・10は内側面に八卦文で見込みに太極図を描くタイプの破片で、この図柄は明代の染付からよくみられ、これまでの湧田古窯跡の調査でも数点出土している。９はⅢ地区Aサ－19遺物集中上層からの出土で、10は底径3.8㎝、Ⅱ地区セ－27石積み周辺出土。13は青磁の掛け分けであるが、小破片であるため器種は断定はできない。口に口銹釉が塗られた痕が薄く残っている。景徳鎮系で19世紀前半頃のものである。Ⅰ地区コ－28、２層からの出土である。同図11・12・14は銹釉染付で、同図11は皿の口縁部と考えられる資料で、景徳鎮系の17世紀後半～18世紀前半のものである。Ⅰ地区ク－25、４層からの出土。12・14は小杯で、12は見込みに山水文が描かれ、年代は17世紀後半～18世紀前半で景徳鎮のものである。底径は4.0㎝を測り、Ⅲ地区Bチ－20、３層出土。14は銹釉掛け分けで見込みには透明釉が掛かる。型作りによる技法で作られ、底部には粘土の縮れが見られ、高台が台形を呈している。徳化窯系で18世紀～19世紀前半頃のもので、底径3.8㎝、Ⅰ地区ソ－29、３層からの出土である。



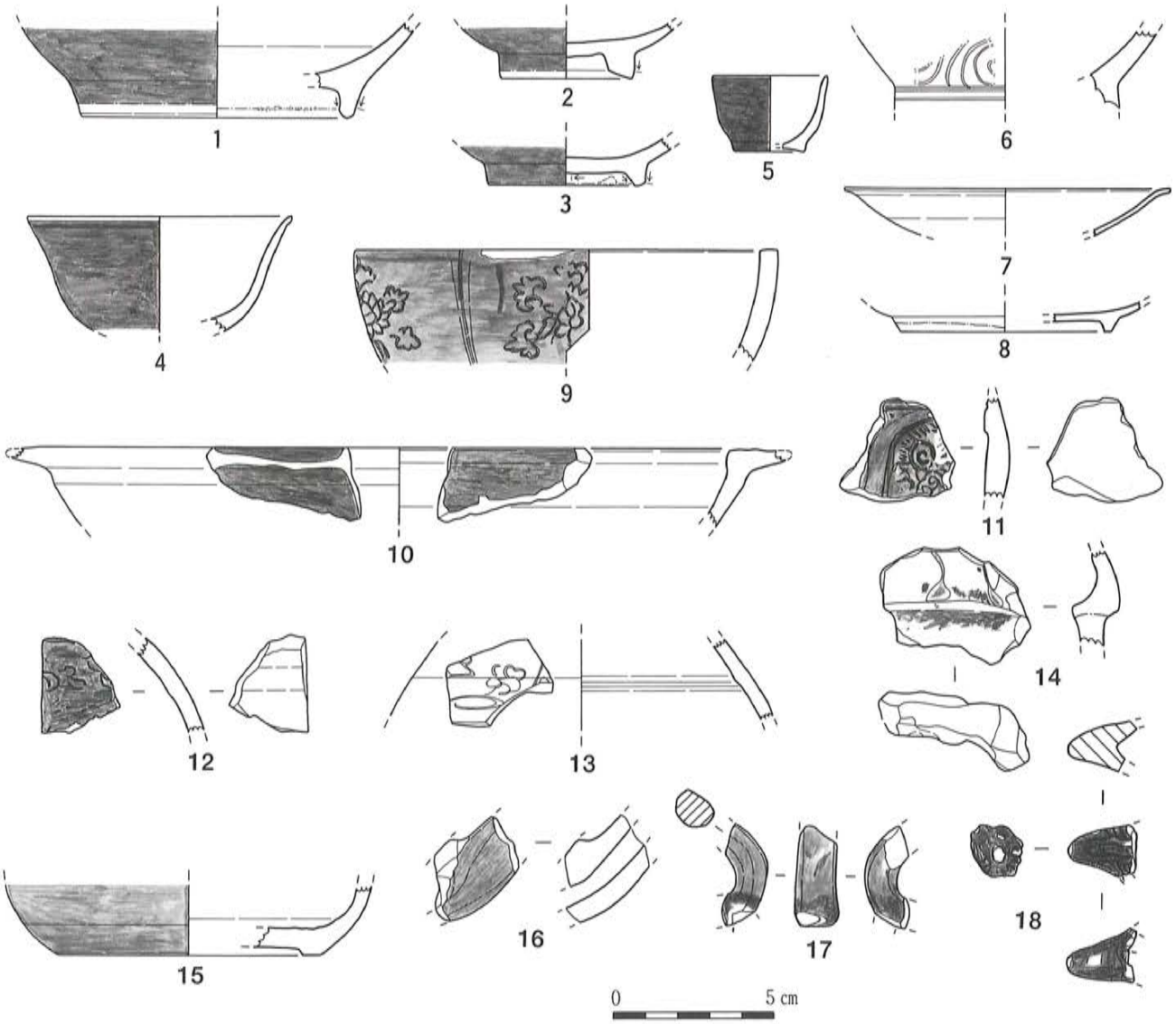
第33図　タイ鉄絵・青磁染付・銹釉染付

第８節　瑠璃釉

瑠璃釉の資料を５点図化した。種類は碗、小碗、小杯が得られており、すべて掛け分けで器表面にのみ瑠璃釉を掛ける。第34図１は碗と考えられるが、高台径8.4cmと碗としては大きめである。釉が他の資料と比べて鮮やかな発色で、畳付けには砂目が残る。Ⅰ地区キ－29、６層からの出土である。同図２～４は小碗で、２は蛇の目高台の資料で景徳鎮系、時代は17世紀という年代が得られている。高台径は4.1cmを測る。３は型作りで高台内に粘土の縮れが見られる。釉が器表面全体に施され、畳付けは釉剥ぎされている。高台径は4.8cmである。４は口唇が外反する小碗で、口径8.1cmを測る。Ⅰ地区セ－28、７層出土の資料である。５は小杯で型作り、釉は器全体に施す。口径3.6cm、器高2.3cm、高台径2.2cmである。Ⅰ地区１層より出土。

第９節　翡翠釉

第34図の７・８が翡翠釉磁器の皿で、今帰仁グスク[註9]で類例が得られており、時代は17世紀という年代が得られている。７は外反する口縁資料で見込みは釉が剥げ落ちている。Ⅰ地区ク－28、２層出土である。８は皿の底部で高台径は6.4cm、７と同様に見込みの釉は剥げている。Ⅰ地区キ－29、６層から出土している。同図６は瓶の底部であるが、釉がほとんど剥げ落ちて生地が露出し、線彫りの文様に僅かに釉が残る。16世紀頃であろうという年代が得られている。Ⅰ地区ス－27、４層より出土している。



第34図　瑠璃釉・翡翠釉・三彩

第10節　三　彩

a. 磁器

第34図９は緑釉磁器の碗で、16～17世紀頃の景徳鎮のものである。口径は13cmを測り、口縁が輪花で、器表面に線彫りの文様が描かれる。口縁に溶着痕がついており二次焼成を受けたものと考えられる。Ⅰ地区ケ－28、５層下部から出土している。

b. 陶器

第34図10～18はすべて中国・明代の資料で、瓶や袋物の種類が多く、他には鉢、置物の小破片が得られている。大方のものが生地の上に白化粧を施し、緑釉が掛けられる。第34図10は緑釉の盤と考えられ、口径は推算24cmである。Ⅰ地区シ－27、６層より出土している。同図11～13は瓶類の破片で、11は緑釉と黄褐色釉が使われ、Ⅰ地区セ－27、７層から出土している。12と13は器表面に線彫りの文様を施した緑釉陶器と考えられ、12は生地が濃い橙褐色である。Ⅰ地区、１層の出土である。13は生地が白色で僅かに黒色の微粒子が含まれる。同図14・15は袋物の破片で、14は三彩であるが釉がほとんど剥げ落ち白化粧が露出している。生地は肌色を呈する。Ⅰ地区ケ－28、４層より出土。15は袋物の底部で、生地が灰色で白化粧をして緑釉を施す。Ⅲ地区Bソ－20、３層出土の資料である。16・17は袋物や水注などの破片資料である。16は注ぎ口部分の破片と考えられ、Ⅰ地区、５層からの出土である。17は把手部分の破片で表採によって得られた資料である。18は三彩で置物の破片と考えられ、鼻の長い動物の顔のように見える。生地は肌色で白化粧は掛からない。Ⅰ地区、２層からの出土である。

第11節　その他の中国産陶器

a. 銅緑釉陶器

清朝時代の銅緑釉が掛かった陶器で、鉢類や蓋などが得られている。生地は乳白色で茶色と黒色の混入物が含まれる。第35図１は蓋で型作りの成形である。径は14.2cm、器高は1.9cmである。Ⅰ地区溝状遺構Dから出土。２は上面に穴があく器形で、火入れなどが考えられる資料である。口径は11.8cm、Ⅰ地区ク－30、３層からの出土。３～７は鉢類で、３・４が口縁部、５～７は底部資料である。３は他の資料に比べ白っぽい発色をしている。Ⅰ地区グリット不明２層からの出土である。４は口径が26.2cmを測り、Ⅰ地区黄土山からの出土である。６は平底で底径16.1cmを測る。Ⅰ地区ケ－28、２層出土。５は見込みに幅0.2cm、深さ0.1cmの彫りが１本入っている。底径は17cm、Ⅰ地区キ－31、２層からの出土である。７は底径が23.2cm、Ⅰ地区ク－27、３層出土。

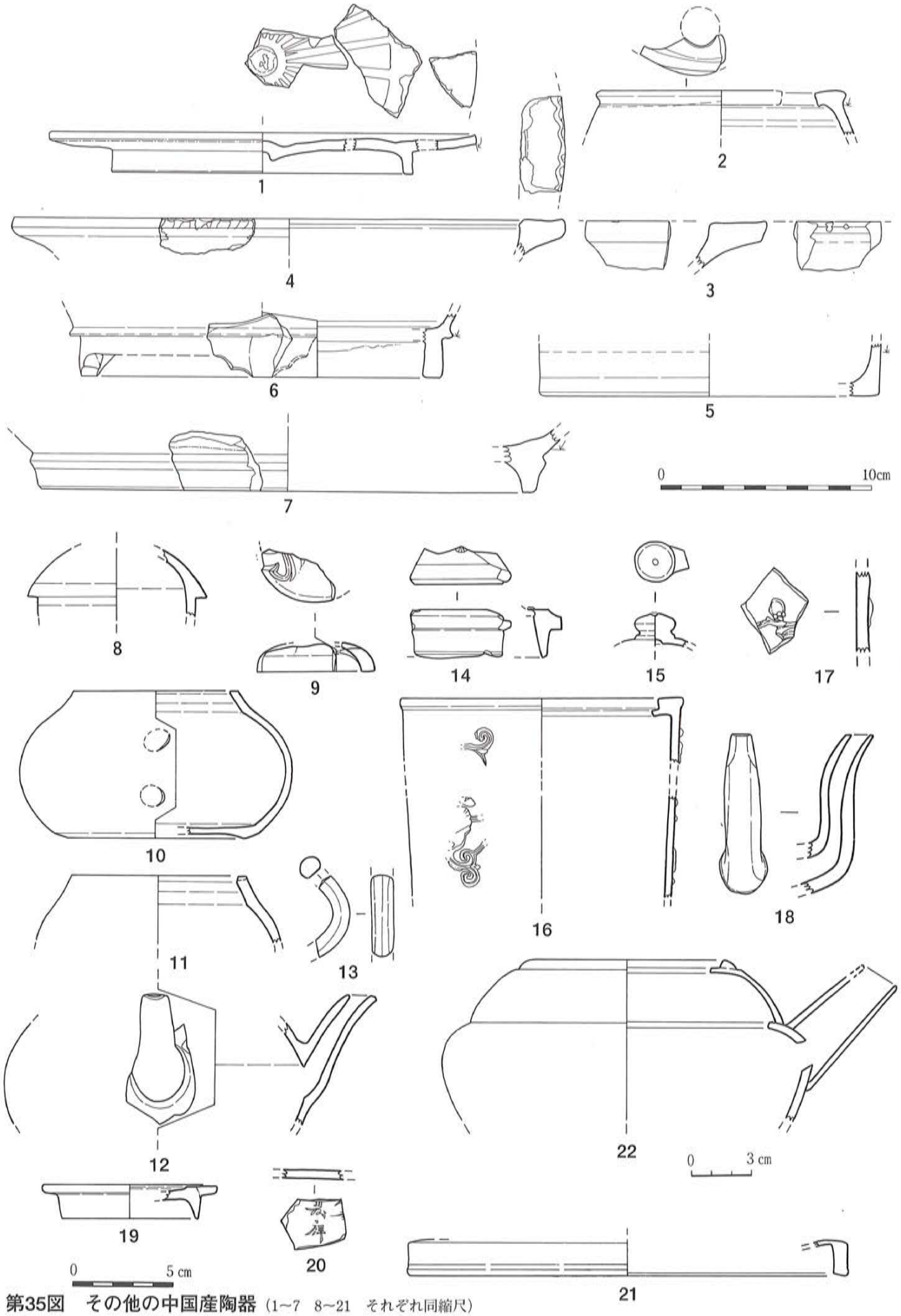
b. 無釉陶器（宜興窯）

中国江蘇省宜興窯の茶具類が得られている。17世紀～19世紀頃の砂泥の陶器で、器面は磨かれている。下記に特徴を述べるが、計測値・出土地については第４表にまとめて記載する。第35図８～13が朱泥で、８・９は蓋、10～12は茶具、13は把手の資料である。14～18は紫泥で、14・15が蓋、16・17が茶具、18は注ぎ口の資料である。９は白盛装飾が施されており、あまり見かけないタイプである。16も同じく盛上であるが、こちらは生地と同色で絵付けが施される。19・20は宜興窯のものであるが19は生地が暗茶褐色を呈した蓋、20は茶具の底部と考えられ、文字が刻まれている。生地は赤味のある紫泥である。21は宜興窯と考えられる資料で、年代は清代と思われる。蓋と推測され生地は赤味のある紫泥である。22は産地不明、年代不明の急須で、出土層からは18世紀前後の資料が多く、その時期のものと考えられる。生地は砂泥（朱泥）で器面は磨かれているが艶がない。型作りで、張り合わせた部分に注ぎ口を付けている。宜興窯の資料と比較すると粗雑な作りである。最後に、湧田古窯跡（Ⅱ）の第10節で常滑焼と見られた資料は宜興窯の無釉陶器である可能性があることを注記しておく。

第５表　無釉陶器（宜興窯）出土一覧

単位：cm

図	器種	口径	底径	器高	出土地
8	蓋	9.1	－	－	Ⅰ　ク－28 2層
9	蓋	4.2	－	－	Ⅰ　5層 グリット不明
10	茶具	5.8	6.2	5.15	Ⅲ地区B
11	茶具	6.2	－	－	Ⅲ地区B　ター19　3層1/3
12	茶具	－	－	－	Ⅰ　2層（グリット不明）
13	把手	－	－	－	不明
14	蓋	－	－	－	Ⅰ　キ－31 2層
15	蓋	－	－	－	Ⅰ　黄土山
16	茶具	－	－	－	Ⅰ　ク・ケ－27 4層
17	茶具	－	－	－	Ⅰ　カ－29 2層
18	注ぎ口	－	－	－	表採
19	蓋	8.8	－	－	Ⅰ　ス－26 2層
20	茶具	－	－	－	Ⅰ　ク－30 8層
21	蓋	－	－	－	Ⅰ　ス－26 4層b
22	急須	9.6	－	－	Ⅲ地区B　シ－20 3層 上面



第35図　その他の中国産陶器（1～7　8～21　それぞれ同縮尺）

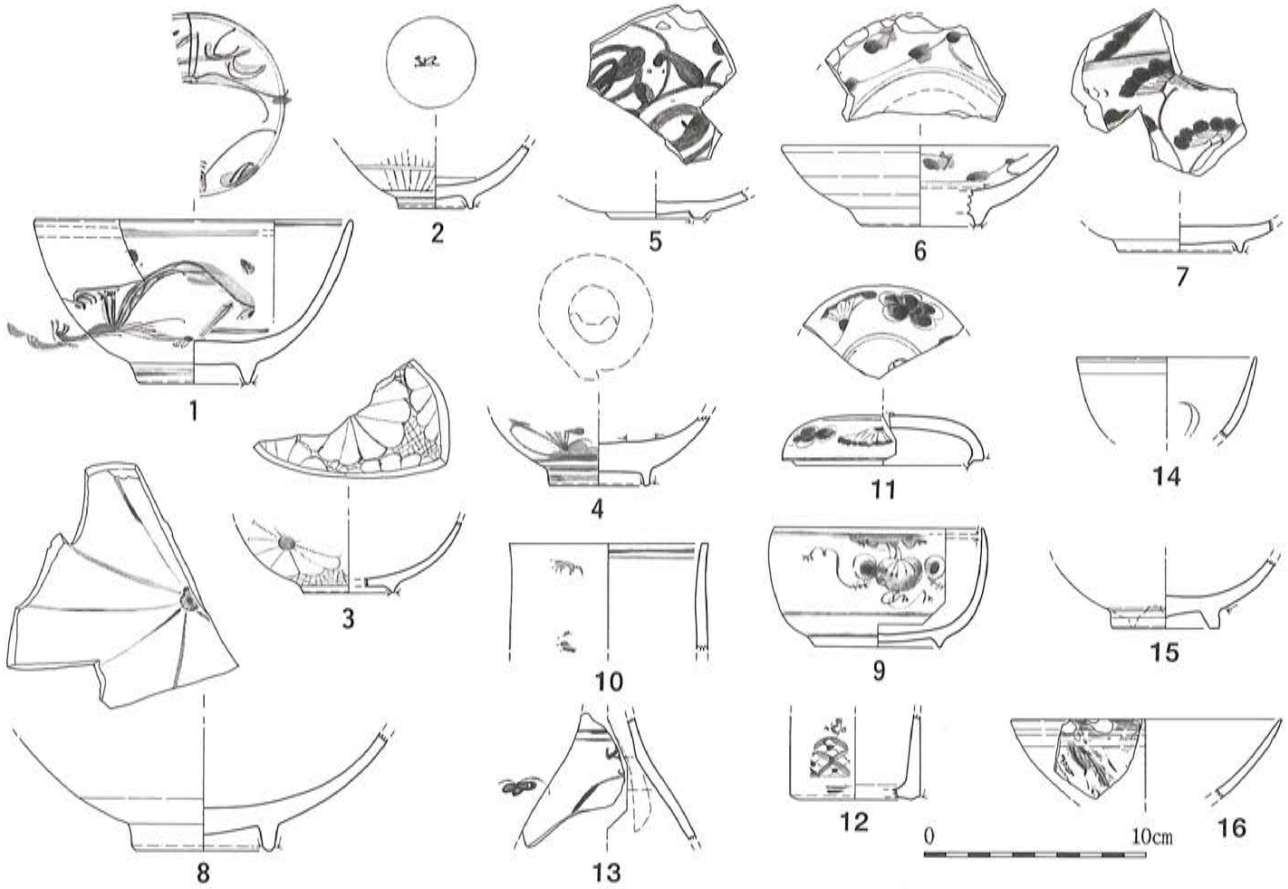
第12節　本土産磁器

a. 染付

第36図１～12は肥前染付で、17世紀～19世紀の資料が得られている。１～４は碗で、１は外面は龍鳳文で見込みに荒磯文が描かれる。過去の湧田古窯跡調査からも出土しており、17世紀後半の資料である。口径14.2cm、底径4.9cm、器高7.2cmを測る。Ⅰ地区カ－29、５層出土である。２は外面に梵字文が描かれている。肥前系と考えられる碗で、1780年～19世紀始めまで見られる文様である。底径3.4cm、Ⅱ地区表土面清掃中に出土。３は器の内外面ともに菊花散らし文と氷裂文で、年代は18世紀、底径が４cmを測る。Ⅲ地区Bソ－19橙褐色土遺物溜まり出土である。４は外面に草花文、見込みは蛇の目釉剥ぎで、18世紀後半の資料である。底径は4.3cm、Ⅰ地区ク・ケ－27、４層からの出土である。５～７は皿で、５は見込みに唐草文を施したもので1640年～1650年の製作で、底径４cmを測る。Ⅰ地区オ－29、２層出土。６は器内面蔓草文、見込みは蛇の目釉剥ぎが施されている。18世紀頃のもので、１と同様に前回の調査でも得られている資料である。Ⅲ地区Aサ－19、３層出土。７は見込みに山水文を描いた焼成不良の皿で、19世紀～幕末の頃のものである。底径は5.5cm、Ⅰ地区シ－30、７層から出土している。８は鉢で、見込みは菊花文で年代が1630年～1640年の資料である。底径が6.3cm、Ⅰ地区ケ－28、５層下部から出土。９は蓋付の小鉢で、器外面に蔓草文が描かれる、18世紀後半のものである。口径は9.6cm、器高5.3cm、底径は6.6cmを測る。Ⅲ地区集石遺構出土。10は筒型碗か猪口になると見られる資料で、18世紀後半の資料である。口径8.8cm、Ⅲ地区Bチ－18、３層出土。11は袋物の蓋で、外面に銀杏文を描く18世紀のものである。器高2.3cm、口径7.8cm、上部径９cm。Ⅰ地区茶褐色土５層から出土。12は平底の蓋物で、外面に四方繋ぎ文が描かれる。年代は18世紀。底径は５cmで、Ⅰ地区ク－31、２層から出土している。13は瓶であるが17世紀後半の資料で、火熱している。Ⅱ地区タ－30、撹乱部分から得られている。

b. その他の磁器

第36図14～16は染付以外の本土産磁器である。すべて肥前の磁器で17世紀と18世紀のものである。14は青磁掛け分け碗で18世紀のものである。口径は8.0cm、Ⅰ地区シ－27、畦から出土。15は鉄釉掛け分け碗で1630年～1640年頃の資料である。底径4.8cm、Ⅰ地区カ－29、６層出土。16は黄釉皿で年代は17世紀後半、Ⅰ地区ク－26、４層から出土。

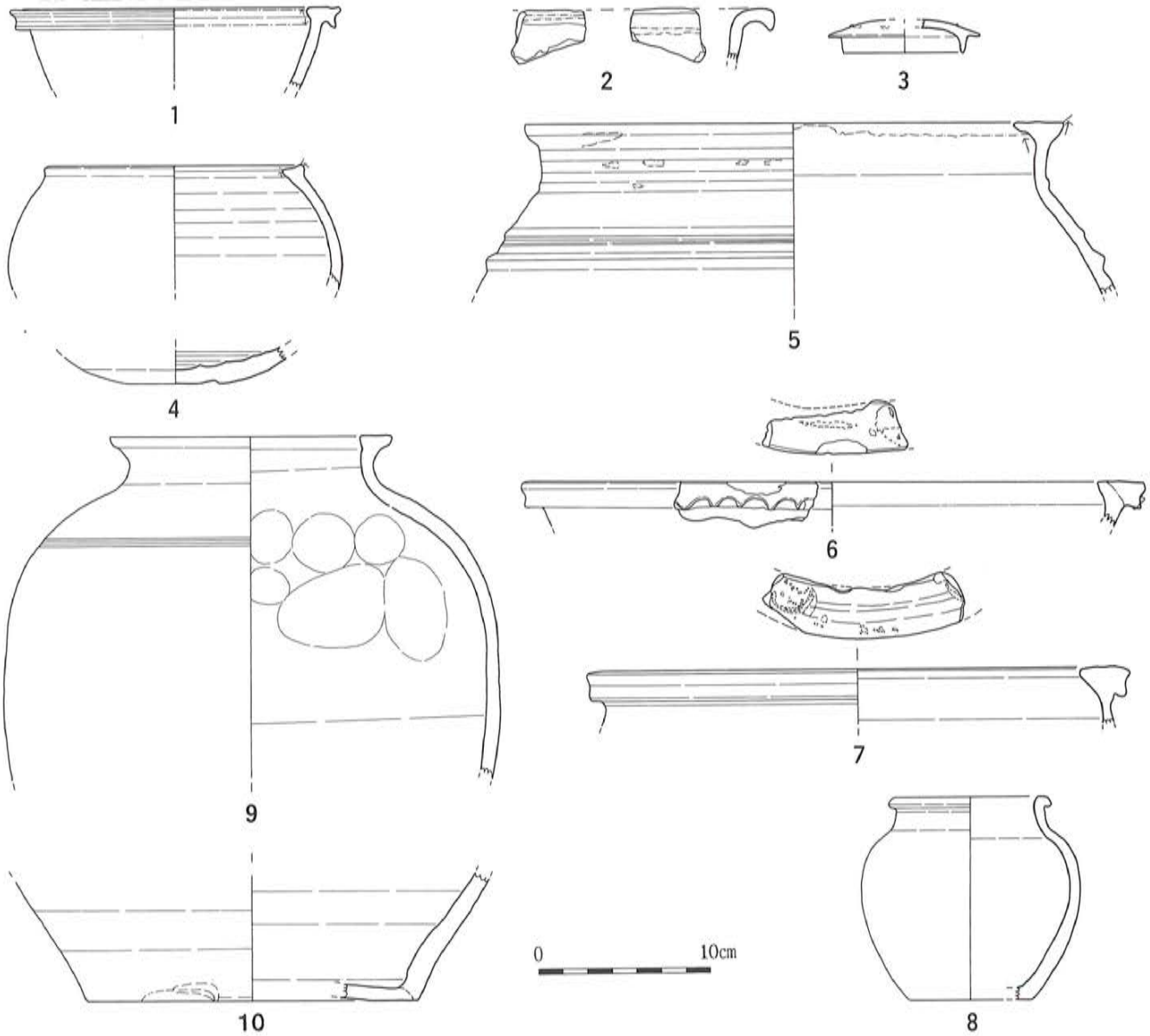


第36図　本土産磁器

第13節　本土産陶器

a. 薩摩焼

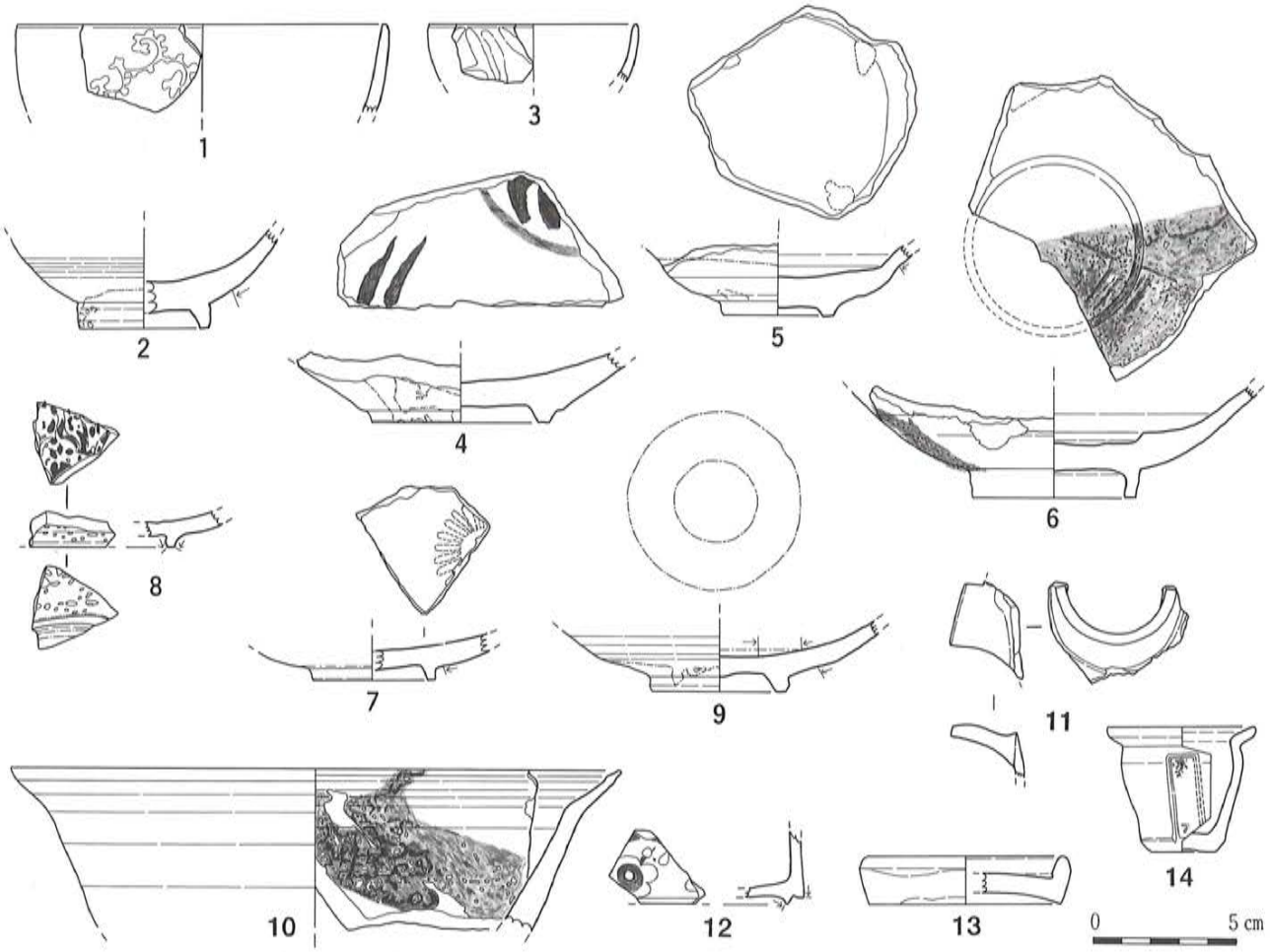
17世紀頃～19世紀頃の黒物で、鉢、土瓶、甕、壺などが得られている。生地別にみると第37図の３と８は、生地が黒褐色で、混入物には粒の細かい砂粒などが確認できる。同図の１は赤褐色、２・４～７の生地は桃褐色であるが、混入物は砂粒や赤色の鉱物、黒色の鉱物、石英などが確認できる。釉は灰釉が掛けられる。９・10は生地と混入物が５と同じで、釉は灰釉でも黒色の発色が強い。大方の資料に共通して見られる傾向として、釉は器内外面に掛かるが、口唇部は釉剥ぎされている。第37図１は鉢で17世紀後半～18世紀のものである。この資料は見込みには釉が掛かっていない。口径は19cm、Ⅰ地区ソ－19西側畦から出土。２は擂り鉢で17世紀～18世紀の年代を得ている。釉は器の外面と口唇部を除いた見込みに掛かる。Ⅲ地区グリット不明３層から出土。３は土瓶の蓋で18世紀～19世紀のものである。口径は6.8cm、縁径は8.8cm、器高は２cmを測る。Ⅲ地区Aグリット不明２層出土。４は土瓶類で年代は18世紀～19世紀で、口縁部と底部資料を図上復元したものである。口径は15cm、底径は７cm、Ⅲ地区Aサ－19、３層からの出土。５～７は甕で17世紀～18世紀頃のもので、５は口径が30.2cmを測る。Ⅲ地区Bタ－20、３層出土。６は17世紀の資料で、口径は35.8cm、Ⅱ地区北側斜面石積みの下からの出土である。７は口唇部に貝目が残る17世紀の資料である。口径が34.2cm、Ⅲ地区Aシ－20東西畦３層からの出土である。８・９は壺類で、８は口径10cm、底径7.2cm、器高11.5cmの小壺である。Ⅲ地区Bチ－19、３層からの出土である。９・10は、同一個体の可能性がある資料で、両方ともⅢ地区集石遺構からの出土である。９の口径が16.2cm、10の底径は19cmを測る。



第37図　本土産陶器（1）薩摩焼

b. その他の陶器

肥前と関西系の陶器が得られている。器種は碗・皿・鉢類・段重・ミニチュア陶器などで、17世紀～19世紀頃の資料が得られている。第38図１・２は碗で、１は色絵であるが、絵付けは残っていない。関西系で18世紀のもので、口径は12.8cm。Ⅲ地区タ－19、３層からの出土。２は器外面に銅緑釉を掛ける肥前・内野山窯の碗である。年代は17世紀～18世紀で、底径は4.4cm、Ⅰ地区キ－28、５層からの出土である。３は関西系の色絵の小碗であるが絵付けは残っていない。18世紀のもので、口径は7.2cm、Ⅰ地区ク－27、４層出土である。４～９は皿で、４・５・９は肥前のものである。４は見込みに鉄絵で文様が描かれ、制作年代は1590年～1610年である。底径は6.2cmを測る。Ⅰ地区オ－29南北トレンチ１層からの出土である。５は見込みに目積みの痕が残る。1590年～1610年の皿である。底径は3.8cm、Ⅰ地区ク－28、５層出土。９は内野山窯の皿で器外面に銅緑釉が施される。17～18世紀のもので、底径は4.6cmである。Ⅰ地区ケ－28、５層出土である。６は17世紀か18世紀の関西系か山口と考えられる資料で、全体に暗茶褐色の釉を掛け、見込み半分に黄色釉を掛け分けている。生地はきめの細かい灰色である。底径は5.6cm、Ⅰ地区ク－27畦からの出土である。７は関西系の色絵で18世紀のもので、見込みに赤で花（菊？）が描かれる。底径は4.2cmで、Ⅰ地区グリット不明６層出土の資料である。８は関西系か萩焼きと考えられる鉄釉皿で、型作りの張り付け高台である。18世紀～19世紀頃のもので、Ⅰ地区ケ－31、３層からの出土である。10は鉢で、産地、年代、生地と釉の特徴は６と同様である。口径は21cmを測り、Ⅰ地区コ－28、６層の出土である。11は片口鉢の注ぎ口で、関西系の18世紀～19世紀の資料である。Ⅰ地区ク－29、２層からの出土。12は色絵の段重で、外面に梅の花が描かれ、花芯は青で、花びらと蕾は白、枝は茶色で彩られる。18世紀の関西系の資料である。13は器種不明、産地、年代ともに不明の資料である。天地逆転して器台になる可能性も考えられるが、見込みの器面調整が丁寧であったので、図のように示した。生地は灰白色で、口径７cm、器高1.7cm、底径6.6cm、Ⅰ地区ク－27、４層からの出土である。14はミニチュアの低火度釉陶器で、釉の発色は黄褐色、生地は肌色である。関西系の18世紀～19世紀のもので、外面に“京…”の押文が施される。口径５cm、器高4.3cm、底径2.2cmを測る。Ⅰ地区ケ－30、２層出土の資料である。



第38図　本土産陶器（2）その他の陶器

第14節　沖縄産施釉陶器（第39～47図）

本品は碗、小碗、皿、鉢、急須、蓋、鍋、酒器、小瓶、瓶、火取、香炉、火炉、灯明具、その他の器種が確認できた。釉の掛け具合と器種に関連性が高いと思われ、施釉の方法でⅠ類ー白化粧の施していないもの（灰釉、鉄釉、黒釉）Ⅱ類ー掛け分け、Ⅲ類ー白化粧を施したもの（呉須や線彫りなどの装飾を含む）、Ⅳ類ーその他の手法に分ける。必要に応じて器種の中で分類した。

碗：Ⅰ類ー灰釉で見込みがフィガキーになるもので、直口（1、2）で見込みに鉄釉で丸文（3）、口縁有段（4）などがある。Ⅱ類ー掛け分けで口縁は玉縁で見込みが蛇の目（6）、内面に圏線の文様（5）があり、底部にアルミナが見られる。Ⅲ類ー外反し、見込みが蛇の目（9）になるもので、外面に文様を施すものがあり、呉須で草花文（12、13）、丸文（15）、格子文（14）、鉄釉で花文(21)、二彩の丸文（16）、線彫りの丸文(19)、圏線(17、18）、さらに上から鉄釉(22)をかけたもの。Ⅳ類ー総釉で丸碗、鉄釉（8）、灰釉で外面に文様（10、11）があり他に筒碗で二彩(23)が出土した。

小碗：Ⅰ類ー灰釉、フィガキー、直口口縁（26、27）で内底に丸文(28)、外面に鉄釉で文様(29)を施すもの。また、総釉（31）になるものもある。Ⅱ類ー掛け分け（30）で内面は白化粧、見込みは蛇の目、Ⅲ類ー見込みに蛇の目（35）、面取り(36)で外面に呉須を施釉するもの（33、34）、内外面に呉須で文様を施すもの(38）がある。Ⅳ類ー透明釉に白粘土で「共」(38)、「進」(39）の銘があり、総釉である。これは後述する急須(102）とセットであろう。筒型の小碗(40)は灰釉に薄く呉須で文様を施す。

小杯：Ⅰ類ー無文（43）、ベタ底(41)、Ⅱ類ー若干大きい（42）、Ⅲ類ー玉縁に呉須(44)が出土。

皿：Ⅰ類ー鉄釉で蛇の目でベタ底（45）、高台(46)、フィガキー(47、48）と灰釉(49)、内面に文様(50、51、52、54）を施すもの、鉄釉で花弁状の口縁(64)があり、特に47の底部は高台外底に**「中城御殿御用聞方五拾之内」**の銘があり、貴重な資料[註10]である。51は大きいタイプである。Ⅱ類ー内面に文様（55）。Ⅲ類ー内面に呉須で草花文（56、57）、線彫りに二彩で（58、60、61）、波状口縁（62）。Ⅳ類ー大振りのⅢで、総釉（63）になり、別の産地の可能性も考えられる。

小鉢：Ⅱ類（66）、Ⅲ類(65)があり、いずれも面取りされ、前者は内側に二彩、後者は外面に二彩で葉の文様が施されている。

鉢：Ⅰ類は内湾（68、69）、肥厚（71、72）、角（80）「L」字の薄手（77）、厚手（79）、底部では三島手（81）。Ⅱ類は内湾（70）、外反（73）、波状(74)、直口（75）、「L」字（78）、底部は（82、83、84）がある。Ⅲ類は直口に縄目凸帯文(76)朝顔状に外反線彫りで呉須を施すもの(67)が出土した。

鍋：白化粧を施さないで外面は鉄釉か飴釉を口縁から胴下部、内面の胴上部から底部に掛けて斑に施釉するものである。器形は大きく、口縁を外に「く」字に湾曲し、胴部が張るものをAタイプと口縁は直口で胴部に鍔を付けるものをBタイプ（95、96）、直口で耳を持つものをCタイプ（97）に大きく分けられる。Aタイプは更に小振り（88、89）、大振りで胴の張りが弱いもの（85、87、90、91）、口縁が内に段を有し、胴の張りの強いもの(86、93、94）がある。これらは口縁断面の形により、さらに細かく分類が可能だと思うが今回は記述にとどめておく。量的にはAタイプが全体の8割である。Aタイプは議会棟[註11]のⅠ類。BタイプはⅡ類に相当する。

急須：Ⅰ類は三島手（99、100）、Ⅲ類は線彫りに三彩（101）、Ⅳ類は白粘土で「共進會」と絵付け（102）が出土。

把手：Ⅰ類のみで鉄釉（103、105）、灰釉（104）が出土。

蓋：摘みを有し、胴が平らになるものをAタイプ、さらに摘みが丸（a）、鉄釉（107）、偏平（b）で側孔を有する。Ⅰ類は線彫り（113）、三島手（110）、Ⅲ類は(108）、線彫りで青で単彩（114、111）、二彩（112）、中央に孔（106）、また、摘みの中央が凹もの(109）がある。身が膨らむものをBタイプ、高台になるものをCタイプはⅠ類（120、121）、青で施文（122）され、筒碗の蓋と考えられる。さらに脚が付くもの（123）はアンダガーミの蓋である。摘みの無いものはDタイプ（119）がある。

酒器：いわゆる「カラカラ」で胴部が丸（A）のものはⅠ類の銹釉（126）、三島手(125）、Ⅲ類は二彩（127）、胴部が角になるもの（B）はⅢ類（128、129）、胴部が台形状のもの（C）はⅠ類（130）、胴部が筒型（D）になるものはⅠ類の銹釉（131）、Ⅲ類で呉須を施す（132）、いわゆる「抱瓶」（E）で、底面が三日月状になるもので黒釉（140）である。

瓶：長頸（A）は黒釉（144、146）、脚台（B）は灰釉に鉄釉で文様を施すもの（148）、黒釉（150、151）、双耳（C）は紐を「S」(142）、耳が獣面（143、145）でいずれもⅢ類である。無頸（D）は破片で玉縁状（152）になる。油壺（E）はⅠ類の黒釉(154）、嘉瓶（F）はⅠ類で口縁（153）と小振りの（149）がある。

火取：Ⅰ類ー口唇が内側に突出し、灰釉（156、157）、黒釉（160）、Ⅱ類ーやや直口で三島手の文様を施す（158、159、165）。Ⅲ類ー鉄釉で凹文を（161）、Ⅳ類ー白化粧（163）、呉須（164）、さらに線彫り（162）を施したものがある。

香炉：167のみで口縁は「L」字に外反し、黒釉を施す。

火炉：Aタイプは口縁部が内湾し、さらに大きく抉るもの（175、176、178）、Bタイプは前者と同じように内湾するが、内側に三角状の突起を持つもので口縁断面が舌状タイプ（177、179）と口縁断面が四角タイプ（173、170、171）さらに文様を施すもの（172）。Cタイプは直口で有段で孔が四角になるもの（181）、Dタイプは「く」に湾曲し、複数の孔を持つもの（180）である。その他に胴部、底部では「く」に曲がるもの（174）、筒状（169）になるものがある。また、182は獣面の外耳で火炉に付くものである。

壺：Aタイプは有頸で白粘土で斑点様の文様を施す（184）Bタイプはいわゆるアンダガーミで四耳、黒釉（183）、Cタイプは薄手の壺で褐釉に類似（185、186）、のほか大振りの壺の底部と思われる(187)もある。

灯明具：Aタイプは黒釉（188）、透明釉（189、190）。Bタイプは底部が二段（191、192）、Cタイプは燭台(193)がある。

その他：サカナの型物（197）、亀の張り付け（196）、獣面の外耳（194）、脚（195）が出土した。

第6表　沖縄産施釉陶器観察一覧（1）　　単位：cm

図	番号	器種	部位	口径	器高	底径	観　　察	出　土　地
第39図・図版16	1	碗	口/底	13.2	6.5	7.2	Ⅰ：灰釉。直口、底部はストレート、フィガキー。器厚2.8㎜	Ⅲ チー19集石遺構
	2		口/底	14.2	6.5	6.8	Ⅰ：灰釉。直口、底部若干張る、フィガキー。胎土：白地。	Ⅲ チー18集石遺構
	3		口/底	13.6	4.8	6.8	Ⅰ：灰釉。直口、底部は緩やかに立ち上がる、フィガキー。内底ー鉄釉で丸文。器厚2.9㎜	Ⅲ 集石遺構
	4		口/底	13	5.7	6.6	Ⅰ：飴釉。直口で有段、底部若干張る、フィガキー。	Ⅲ スー18・19畦
	5		口/底	12.6	5.7	6	Ⅱ：外面ー鉄釉、内面ー灰釉。玉縁。蛇の目、高台脇～無釉、アルミナの痕。文様：鉄釉で口縁と胴部に圏線。器厚3.8㎜	Ⅲ グリット不明
	6		口/底	12.2	6.2	5.9	Ⅱ：外面ー鉄釉、内面ー灰釉。玉縁。蛇の目、高台脇～無釉。器厚2.9㎜	Ⅲ ス・セー19畦
	7		口	―	―	―	Ⅲ：外面ー呉須、内面ー白化粧。外反。器厚3.9㎜	Ⅱ ソー30 4層
	8		口/底	12.4	6.6	6	Ⅳ：黒釉。直口、底部張る。総釉、高台脇～無釉。胎土：赤褐色。器厚4.1㎜	Ⅲ ソー19橙褐色遺物溜
	9		口/底	12	5.7	5.2	Ⅲ：灰釉。外反、底部張る。蛇の目、高台内施釉、畳付け削り、アルミナの痕。胎土：白地。	Ⅲ チー20 3層
	10		口	11.6	―	―	Ⅳ：灰釉。直口。文様：薄い青で蓮弁様文。器厚3.5㎜	Ⅲ 2層　南側
	11		口/底	11.4	5.8	4.6	Ⅳ：灰釉。直口、底部丸み。総釉、高台脇～無釉。文様：鉄釉で縦に施文。器厚3.0㎜	Ⅲ 集石遺構
	12		口	12.6	―	―	Ⅲ：外反。文様：呉須で内面「↑」「○」の文様組み合わせ、口縁に施文、外面ー全面に菊花文。器厚4.7㎜	Ⅰ シー30 7層
	13		口	13.8	―	―	Ⅲ：外反。文様：呉須、外、内面ー圏線と葉文の組み合わせ。器厚5.2㎜	Ⅰ セー27 7層
	14		底	―	―	5.3	Ⅲ：総釉、高台内施釉、畳付け削る。文様：呉須で斜めに格子文。	Ⅰ スー27・28遺物溜
	15		口/底	13.2	5.75	6	Ⅲ：外反。蛇の目、高台内施釉、畳付けにアルミナ。文様：呉須で「丸文」3ヵ所に配す、内面に薄い文様のあと有。器厚5.5㎜	Ⅰ セー29
	16		口	13.8	―	―	Ⅲ：外反。文様：中央に鉄釉で丸文、その回りに青の斑点で円状に囲む。器厚4.9㎜	Ⅰ ケー31 3層
	17		口	12.3	―	―	Ⅲ：外反。蛇の目。文様：胴部に二本の圏線その間に飴釉。器厚3.8㎜	Ⅲ コー19 3層0/20
	18		底	―	―	5.8	Ⅲ：蛇の目、高台内施釉、畳付け無釉。文様：胴下部に横位5条の沈線文。	Ⅰ 2層（グリット不明）
	19		底	―	―	5.4	Ⅲ：底部ー丸味。総釉、径5.4の目痕、高台低い、高台内施釉、畳付けにアルミナ。	Ⅰ クー31 3層
	20		底	―	―	6	Ⅲ：蛇の目、高台内施釉。畳付けアルミナ。文様：蛇の目の跡に黒釉。	Ⅲ サー19、3層0/20
	21		口	11.9	―	―	Ⅲ：直口。文様：鉄釉の斑点で丸文にしてさらに組み合わせ。器厚4.3㎜	Ⅰ 褐色土
	22		口/底	13.6	6	6.6	Ⅲ：外反。蛇の目、高台内施釉、畳付けアルミナの痕。文様：線彫りで草花文、その上に飴釉。器厚3.4㎜	Ⅰ セー30 7層
	23		口	9.4	―	―	Ⅳ：白化粧。筒碗。直口。口唇ー無釉。文様：鉄釉で丸文、他は青を塗る。	Ⅲ 2層　東側
	24		口	11	―	―	Ⅳ：黒釉。外反、胴「く」に湾曲。胎土：白地。器厚5.5㎜	Ⅲ 集石遺構
	25		底	―	―	4.8	Ⅳ：内底ー総釉、轆轤痕明瞭。高台脇無釉。天目に類似。口（写真のみ）	Ⅰ シー27 5層
第40図・図版17	26	小碗	口/底	9	3.8	4.2	Ⅰ：灰釉、フィガキー。直口、底部若干張る。胎土：白地。器厚3.3㎜	Ⅲ チー17 3層東側
	27		口/底	9	4	3.8	Ⅰ：鉄釉、フィガキー。直口、底部若干張る。器厚3.1㎜	不明
	28		口/底	9.6	3.8	5.8	Ⅰ：鉄釉、フィガキー。やや外反、底部若干張る。文様：見込みに丸文。器厚3.2㎜	Ⅰ 黄土山
	29		口	8	―	―	Ⅰ：灰釉、総釉か。直口。文様：外面に鉄釉で葉文。器厚4.3㎜	Ⅲ ツー18集石遺構
	30		口/底	9.2	4.4	4	Ⅱ：外面：鉄釉、内面：白化粧。外反。蛇の目、アルミナ、高台内施釉。器厚3.5㎜	Ⅲ ソー20南側半分
	31		口	8.4	―	―	Ⅰ：灰釉、総釉。直口。	Ⅰ ター19 3層3/5
	32		底	―	―	3.6	Ⅰ：灰釉。総釉、高台内無釉。胎土：乳白色地。	Ⅰ ター19 3層3/5
	33		底	―	―	3.7	Ⅲ：総釉、高台内施釉、アルミナ。文様：呉須で見込みに花文と圏線、外面に唐草文	Ⅰ スー30 7層
	34		口/底	8.5	4.4	3.6	Ⅲ：外反強い。総釉、高台低い、高台内施釉。外面：草花文と圏線。	Ⅱ 石垣斜面
	35		口/底	8.5	4.1	3.9	Ⅲ：直口。蛇の目、高台内施釉、アルミナ、畳付け削り。	Ⅰ 2層（グリット不明）
	36		口/底	8.4	4.4	3.6	Ⅲ：面取り。やや外反。蛇の目、高台内施釉、畳付け削り。	Ⅰ セー27 2層クチャ部分
	37		口	―	―	―	Ⅲ：面取り。玉縁。外面は全面に呉須。	Ⅰ 褐色土（仮5層）
	38		口	8	―	―	Ⅳ：直口。白で外面に「共」の文字。器厚3.4㎜	Ⅰ ケー31 3層
	39		底	―	―	3.7	Ⅳ：総釉、アルミナ。文様：外面に「進」の銘、見込みに渦巻文。器厚4.3㎜	Ⅰ 5層＋Ⅰ シー30、2層
	40	筒碗	口/底	7.8	5.2	4	Ⅳ：灰釉。筒碗。口唇無釉。総釉、外面は腰部まで施釉。薄手。呉須で絵付け。器厚3.1㎜	Ⅲ チー18遺物溜
	41	小碗	口/底	4.8	2.5	2.5	Ⅰ：灰釉。直口、ベタ底。総釉。器厚3.0㎜	Ⅰ コー27 3層b
	42		口	7.4	―	―	Ⅱ：外面鉄釉、口唇緑釉、内面白化粧。外反強い、胴部は「く」の字に湾曲。器厚4.1㎜	Ⅲ グリット不明 3層
	43	小杯	口/底	2.7	1.5	1.6	Ⅰ：かなり小さい。直口。総釉。高台内無釉。器厚2.4㎜	Ⅰ カー31 2層
	44		口/底	4.6	2.4	2.2	Ⅲ：外反。総釉、高台内無釉。文様：外面ー呉須で圏線、胴下部に飴釉で斑点。器厚1.6㎜	Ⅰ コー28 2層

注「観察」ー施釉（Ⅰ：白化粧無し、Ⅱ：かけわけ、Ⅲ：白化粧有り）、形態、文様、施釉範囲、胎土、器厚の順で観察。「出土地」－10～20㎝→1/2、接合「＋」と表記

第６表　沖縄産施釉陶器観察一覧（2）

単位：cm

図	番号	器種	部位	口径	器高	底径	観　　察	出　土　地
第41図・図版18	45	Ⅲ	底	－	－	5.6	Ⅰ：鉄釉。蛇の目、ベタ底or脚か。底部に炭。器厚3.8mm	Ⅰ セ－30 7層
	46		底	－	－	4.4	Ⅰ：鉄釉。蛇の目、高台内無釉。	Ⅰ セ－30 7層
	47		底	－	－	6	Ⅰ：鉄釉。フィガキー。高台内「中城御殿御用聞方五拾之内」の銘有。器厚3.5mm	Ⅲ セ－18 3層 地山直上
	48		口/底	14.2	3.6	7.2	Ⅰ：鉄釉。直口。フィガキー、高台内無釉、畳付け砂目。内面の施釉は幅１cm弱。蓋。	Ⅰ シ－30 7層
	49		口/底	14.2	3.8	6.8	Ⅰ：灰釉。口縁有段。フィガキー。胎土：白地。	Ⅲ セ－19
	50		口/底	14	4.1	6.6	Ⅰ：灰釉。口縁有段。フィガキー、見込みに施釉、砂目付着、高台内無釉。文様：内面に鉄釉で施す。胎土：白地。器厚6.1mm	Ⅲ チ－18 3層
	51		底	－	－	7.6	Ⅰ：灰釉。大。フィガキー、見込みにアルミナを塗る。文様：内面に鉄釉で施文。胎土：白地。器厚4.0mm	Ⅲ 集石遺構周辺
	52		底	－	－	8.8	Ⅰ：フィガキー。文様：見込みに鉄釉で丸文。胎土：乳色地。器厚6.6mm	Ⅰ コ－27 4層
	53		口/底	13.7	4.1	6.5	Ⅰ：灰釉。蛇の目、高台内無釉。胎土：白地。文様：内面に青で花文、３箇所、見込みに丸文。	Ⅰ ソ・タ－19 畦
	54		口	20	－	－	Ⅰ：灰釉。直口。フィガキー。文様：内面に鉄釉で口唇及び胴下部に圏線。器厚5.0mm	Ⅰ コ－26 2層
	55		底	－	－	9.2	Ⅱ：外－鉄釉、内－白化粧無。蛇の目、高台脇～無釉、畳付け－アルミナ。文様：見込みに白粘土の斑点で円を描く。器厚5.4mm	Ⅰ シ－30 7層
	56		口	22	－	－	Ⅲ：大。外反。文様：内面に呉須で草花文。	Ⅰ セ－27 7層
	57		口/底	13.2	3.8	6.9	Ⅲ：直口。蛇の目。文様：内面に呉須で圏線と草花文。	褐色土
	58		底	－	－	6.8	Ⅲ：蛇の目、高台内施釉、アルミナ。文様：内面に線彫りの後、呉須で施釉、魚か。	Ⅰ セ－27 7層
	59		底	－	－	4	Ⅱ：外面－鉄釉、内面透明釉。蛇の目、高台内施釉、アルミナ。文様：内面に放射状の線彫りの後、薄い青で施釉。	Ⅰ セ－29 地山清掃
	60		底	－	－	7	Ⅲ：蛇の目、高台内施釉、アルミナ。文様：内面に線彫り、二彩（鉄釉と緑釉）。	Ⅰ セ－30 7層
	61		底	－	－	7.8	Ⅲ：総釉、高台内有段、施釉。文様：内面に線彫りの後、呉須で施釉、魚と草文。	Ⅲ シ－20 3層 東西畦
	62		口/底	13.7	4.4	6.7	Ⅲ：波状口縁。蛇の目、高台内施釉。焼きは弱い。	Ⅰ セ－28 7層
	63		底	－	－	10	Ⅳ：大、外面－灰釉、内面－白化粧。口縁は有段。総釉、見込みに５箇所砂目、高台内無釉、畳付け太い。文様：内面に鉄釉で施文。本土産か。	Ⅰ ケ－28 5層
	64		口	－	－	－	Ⅰ：鉄釉。口縁は花弁状。胎土：白地。小鉢の可能性も有り。	Ⅰ ウ－32 3層
第42図・図版19	65	鉢	口/底	14.4	7.0	7.4	Ⅲ：小振りの深鉢。面取り。蛇の目、高台内施釉。文様：外面に葉文。二彩（鉄釉、薄い青）。器厚5.9mm	Ⅰ セ－30 4層・7層
	66		底	－	－	5.0	Ⅱ：小振りの深鉢。外面－鉄釉、内面－白化粧無。総釉、高台内施釉。文様：内面－緑釉と鉄釉の二彩。器厚4.9mm	Ⅲ 2層　南側
	67		口	17	－	－	Ⅲ：口縁：朝顔状に開く。文様：細い線彫りの後、呉須で仕上げる、格子文と葉文。外唇にも呉須。	Ⅰ キ－29 2層C
	68		口	17	－	－	Ⅰ：灰釉。口縁：内湾、断面：丸。器厚4.3mm	Ⅰ 黄土山
	69		口	18.8	－	－	Ⅰ：鉄釉。口縁：内湾、断面－舌状。器厚6.0mm	Ⅰ カ－27 4層
	70		口	23	－	－	Ⅱ：鉄釉、内面白化粧。口縁：内湾、断面：舌状。器厚9.4mm	Ⅲ タ－20 3層
	71		口	18.6	－	－	Ⅰ：灰釉。口縁：三角に肥厚。文様：外面－文様の痕。器厚4.4mm	Ⅲ ソ－20 南側半分
	72		口	－	－	－	Ⅰ：灰釉。口縁：肥厚。文様：外面－鉄釉で葉文。器厚4.4mm	Ⅰ 黄土山
	73		口	21.3	－	－	Ⅱ：外反。内面：白化粧無。文様：内面－白粘土で圏線。	Ⅲ サ－19 3層4/6
	74		口	－	－	－	Ⅱ：外面－鉄釉、内面－白化粧無。口縁：暖ゆかな波状、断面：舌状。器厚5.9mm	Ⅰ セ－27 7層
	75		口	－	－	－	Ⅱ：外面鉄釉、内面白化粧無。直口。文様：外面－縄目凸帯文。内面－白粘土で模様。器厚4.9mm	Ⅰ セ－30 7層
	76		口	21.8	－	－	Ⅲ：口縁：直口。文様：外面－縄目凸帯文。器厚7.2mm	Ⅱ 石垣平面清掃
	77		口	24	－	－	Ⅰ：鉄釉。「Ｌ」字に外反。薄手、器厚4.7mm	Ⅰ セ－27 7層
	78		口	28.9	－	－	Ⅱ：外面鉄釉、内面白化粧。口縁：「Ｌ」字に外反。器厚5.7mm	Ⅰ シ－30 7層
	79		口	－	－	－	Ⅰ：鉄釉。口縁：「Ｌ」字に外反。器厚8.7mm	Ⅰ シ－31 7層
	80		口	22.6	－	－	Ⅰ：鉄釉。口縁：角、外面に尖る。器厚6.7mm	Ⅱ セ－27 石積周辺
	81	Ⅲ	底	－	－	10	Ⅰ：灰釉。総釉、高台無釉。文様：内面－三島手の波状文。器厚7.3mm。本土産の可能性もあり。	Ⅰ オ－28 2層 西側
	82	鉢	底	－	－	9	Ⅱ：外面－鉄釉、内面－白化粧。蛇の目、高台内施釉、畳付け研磨。器厚9.6mm	Ⅰ セ－26 2層
	83		底	－	－	11	Ⅱ：外面－鉄釉、内面－白化粧無。蛇の目、高台内施釉、アルミナ。文様：内面に白粘土で縦に施文。	Ⅰ セ－29 7層
	84		底	－	－	12	Ⅱ：外面－鉄釉、内面－白化粧。蛇の目、高台無釉、畳付け研磨。器厚10.8mm	Ⅰ セ－27 遺物集中部
第43図・図版19	85	鍋	口	17.8	－	－	ⅠA：飴釉。口唇幅13.3mm。施釉：外面－口縁～胴下部、内面－胴部～底部。外底にすすが有。器厚4.1mm	Ⅲ チ・ツ－19＋集石遺構
	86		口	16.2	－	－	ⅠA：飴釉。施釉：外面－口縁～胴下部。内面－頸部、胴部に若干。器厚4.9mm	Ⅲ ソ－19 地山直上
	87		口	18	－	－	ⅠA：飴釉。口唇幅13.7mm。施釉：外面－口縁～胴上部、内面－胴部～施釉。器厚5.1mm	Ⅲ 3層 集石遺構周辺
	88		口	13.4	－	－	ⅠA：飴釉。小振り、口唇13.7mm、口唇はえぐるように湾曲。施釉：外面－口縁～胴上部、内面－無釉。器厚3.2mm	Ⅲ サ－19 3層6/8
	89		口	11.6	－	－	ⅠA：飴釉。小振り。口唇幅7.1mm。施釉：外面－口縁～胴下部。内面－胴部。底部にすすが付く。テンパー：石英多量。器厚3.6mm	Ⅲ チ－18 3層
	90		口	17.1	－	－	ⅠA：飴釉。口縁は内湾。口唇幅10.8mm。施釉：外面－口縁～胴部。器厚4.7mm	Ⅱ セ－27 石積周辺
	91		口	18.4	－	－	ⅠA：飴釉。「Ｌ」字に外反。口唇幅15.1mm。施釉：外面－口唇～、内面－胴部～。器厚7.2mm	Ⅲ チ－19 集石遺構
	92		口	16.6	－	－	ⅠA：鉄釉。口唇幅17.8mm。施釉：外面－口縁～、内面－口縁～。器厚4.4mm	Ⅲ セ－19 3層
	93		口	19	－	－	ⅠA：飴釉。外反、有段。口唇幅15.2mm。施釉外面－内唇～胴部、内面－胴部。器厚2.2mm	Ⅲ コ－18 3層 石の下
	94		口	14.8	－	－	ⅠA：飴釉。内唇－有段。飴釉。	Ⅰ ク－29 3層
	95		胴	－	－	－	ⅠB：飴釉。鍔状。器厚3.3mm。鍔径22.2cm。	Ⅲ セ－19 地山直上
	96		口	14	－	－	ⅠB：飴釉。口縁やや内傾、断面：丸、鍔状。施釉：外面－口縁～、内面－胴部～。器厚4.2mm	Ⅲ ス－19 遺物集中2/4
	97		口/底	13.4	10.1	7.7	ⅠC：飴釉。直口、縦耳、底部－高台。施釉：口縁～胴下部、内面－底部。器厚5.0mm。鍋かどうか疑問が残る。	Ⅲ 3層 集石遺構周辺
	98		底	－	－	8.6	Ⅰ：飴釉。3脚。脚は外にかなり曲がる。内底はロクロ痕明瞭。香炉の可能性もある。施釉：外面－胴下部。器厚6.5mm	Ⅲ セ－19 橙褐色土遺物溜
第44図・図版20	99	急須	口	4.8	－	－	Ⅰ：胴部は丸くなる。白化粧無。文様：黒で頸部に圏線と花のスタンプ、胴部は縦位に短、中、長の３本線を一単位で描く。器厚3.9mm	Ⅲ ス－20 北壁面清掃
	100		口	5.2	－	－	Ⅰ：三島手で丸文、縦線の組み合わせ。胎土：白地。器厚4.3mm	Ⅰ カ－28 2層
	101		口	6	－	－	Ⅲ：内外面－白化粧。注口の内面は縦に２孔。文様：線彫りで格子、青、緑、茶釉を施釉。器厚5.4mm	Ⅲ コ－19 3層0/20
	102		口/底	5.7	8.1	6	Ⅳ：外面－白化粧無、内面－鉄釉。内面－ロクロ痕明瞭。白粘土で「共」「進」「會」と銘。	Ⅰ セ－28 7層
	103		把手	－	－	－	Ⅰ：鉄釉。断面：カマボコ状。器厚13.9mm	Ⅲ ス－19 3層 上面
	104		把手	－	－	－	Ⅰ：灰釉。断面：カマボコ状。白粘土で文様。器厚11.5mm	Ⅰ グリット不明2層 褐色土
	105	把手	把手	－	－	－	Ⅰ：鉄釉。断面：方形。器厚7.7mm	Ⅰ シ－27 畦
	106	蓋	口/底	4.3	2.9	3	ⅠAa：黒釉。撮みの中央に小孔。裏－白粘土。	Ⅲ 2層南側
	107		口/底	6.2	2.5	4.6	ⅠAa：鉄釉。撮み－丸。裏面－無釉。文様：圏線一本。	Ⅲ タ－20 3層4/6
	108		口/底	5.8	2.9	3.9	ⅢAa：撮み－平。小孔5.6mm。文様：無文。器厚4.4mm	Ⅰ チ－20 カク
	109		口/底	7.8	3.1	5	ⅠAb：黒釉。撮み－中凹む。文様：圏線２本。	Ⅰ ケ－30 東西畦
	110		口/底	6	－	4.5	ⅠAa：撮み有。胎土：白地。小孔5.0mm。文様：三島手、トビガンナ。	Ⅰ セ－30 7層
	111		口/底	5.9	－	5	ⅢAa：撮み有。文様：線彫り、撮みを中心に３箇所に叉状工具で幾何学と圏線の組み合わせ。その上を単彩（青）で施釉、裏は白化粧のみ。器厚5.8mm	Ⅲ 2層 南側
	112		口/底	10.2	3.8	8	ⅢAa：撮み－丸。文様：線彫り。撮みを中心に三角形と圏線の組み合わせ、茶と青の二彩。器厚4.0mm	不明
	113		口/底	5.8	－	4.3	ⅠAa：小孔2.0mm。胎土：白地。文様：線彫り、菊花文、菱形、圏線。器厚5.1mm	Ⅰ セ－29 7層
	114		口/底	5.4	－	4.1	ⅢAa：小振り、撮み有。脚7.2mm。小孔4.0mm。文様：山水文を線彫りで単彩（青）。器厚5.6mm	Ⅰ セ－27 4層 砂利混
	115		口/底	10.3	－	8.6	ⅠB：鉄釉、裏面－白化粧。上に膨らむ、脚は低い。文様：凹文を縁に２本、縦に放射状に施す。器厚3.1mm	Ⅰ 褐色土
	116		口/底	12.2	－	10	ⅠB：灰釉、裏面－無釉。筒碗の蓋。器厚4.8mm	Ⅲ タ－20 3層 上面
	117		口/底	8.4	3.6	6.8	ⅢB：裏面－白化粧。筒碗の蓋。文様：呉須で菊花文が２つ。	Ⅰ 褐色土
	118		口	11	－	9.8	ⅢB：裏面－白化粧。脚：低い。文様：線彫りで蔓草文、単彩（青）。器厚5.5mm	Ⅰ セ－29 7層
	119		口/底	11.5	－	10	ⅠD：灰釉。脚：低い。文様：圏線一本。器厚8.5mm	Ⅲ シ－19 東壁清掃
	120		口/底	11.4	3.1	4.9	ⅠCa：黒釉、裏面－無釉。鍋の蓋。器厚3.0mm	Ⅲ 集石遺構
	121		口/底	10.8	4.1	2.6	ⅠCa：鉄釉、裏面－無釉。鍋の蓋。胎土：乳褐色。器厚2.8mm	Ⅲ シ－19 3層 南北畦
	122		口/底	10.2	2.6	3.4	ⅠCa：灰釉、裏面－無釉。筒碗の蓋。文様：青で草花文。器厚2.4mm	Ⅲ タ－20 南側半分3/4
	123		口/底	12.6	3.9	6.6	ⅠCb：黒釉、裏面－無釉。アンダガーミの蓋。文様：圏線２本、中央に幅13.0mmのアルミナを塗る。溶着痕有。	Ⅰ セ－28 7層

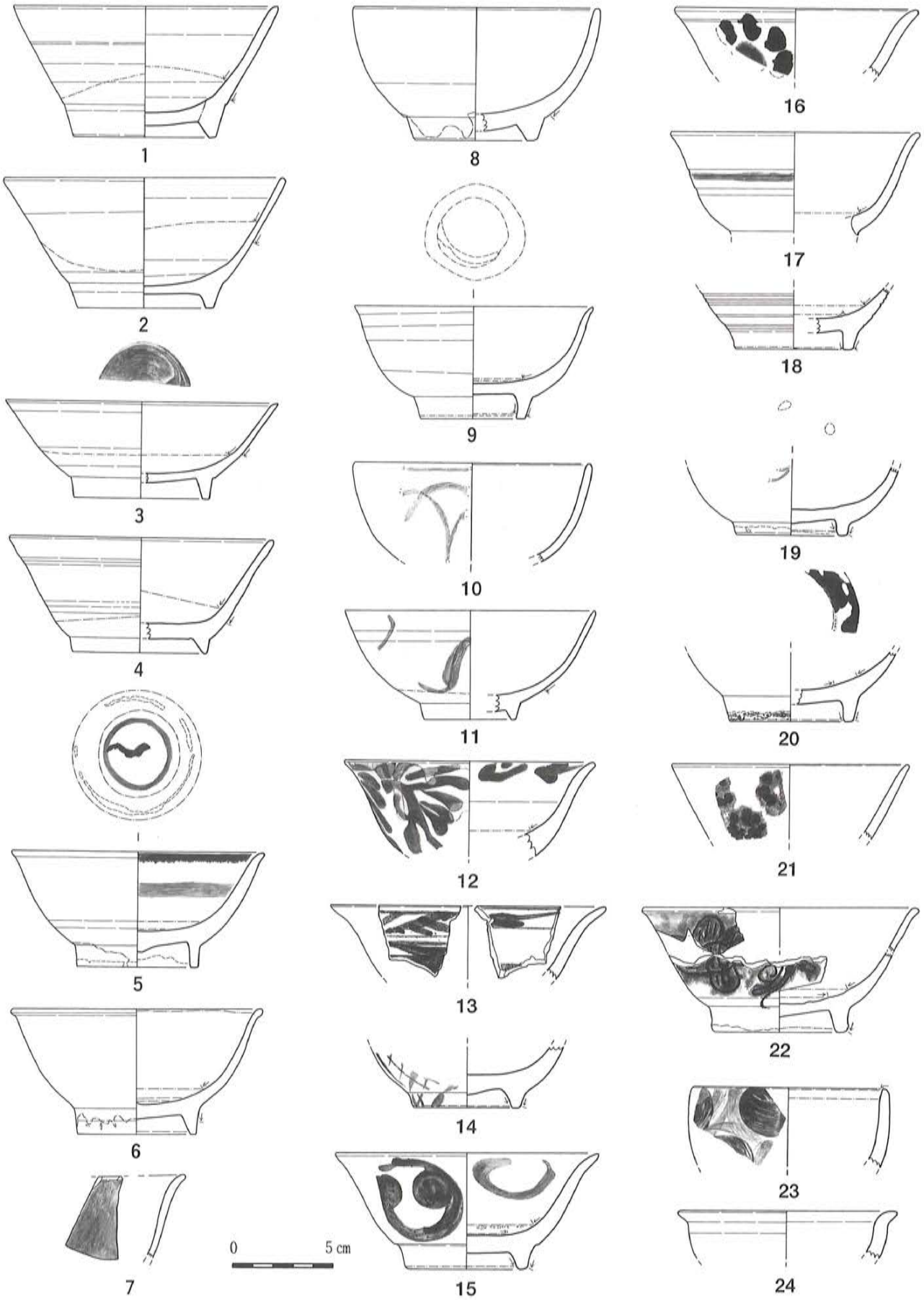
注「観察」－施釉（Ⅰ：白化粧無し、Ⅱ：かけわけ、Ⅲ：白化粧有り）、形態、文様、施釉範囲、胎土、器厚の順で観察。「出土地」－10～20cm→1/2、接合「＋」と表記

第６表　沖縄産施釉陶器観察一覧（３）

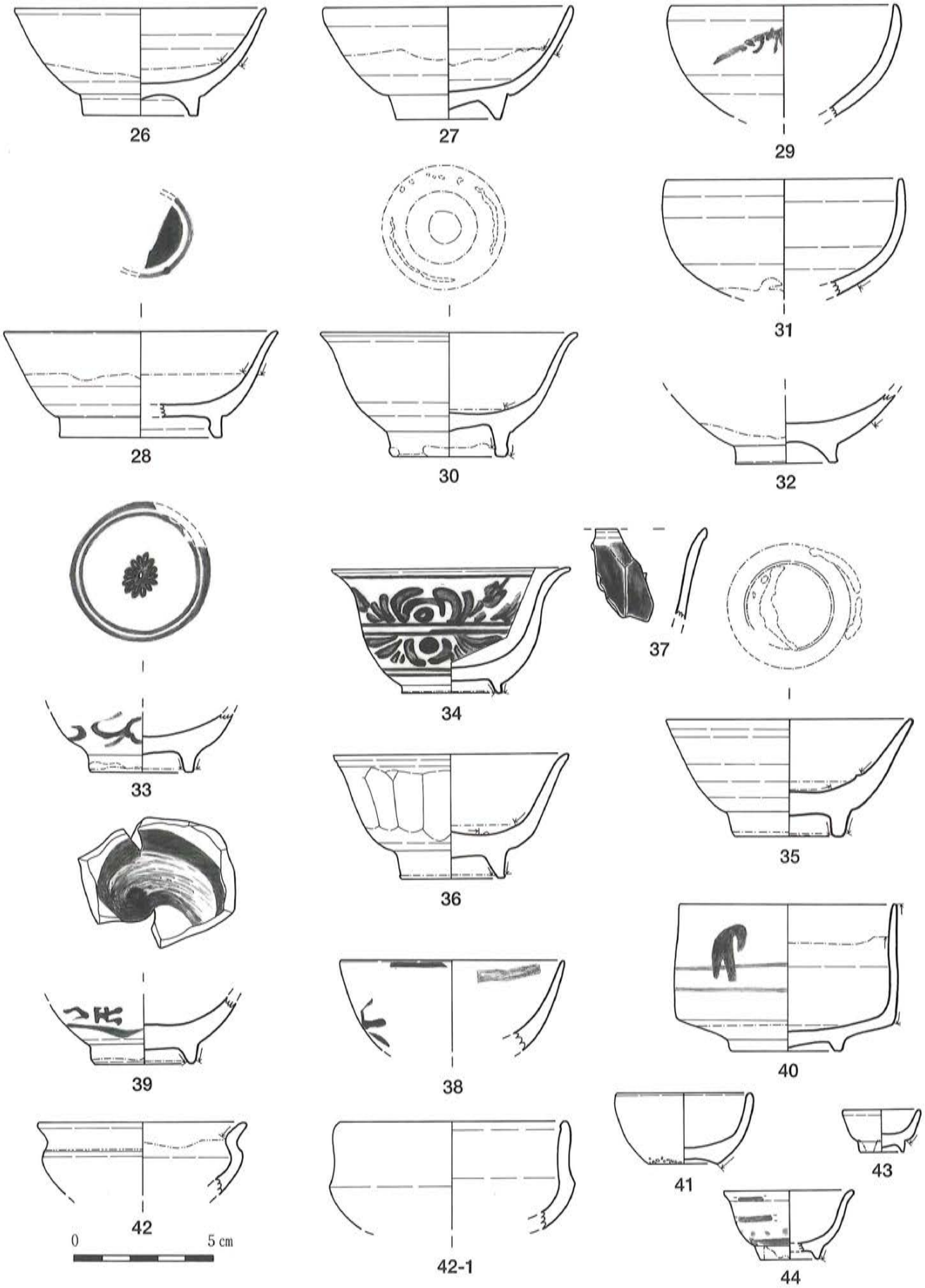
単位：cm

図	番号	器種	部位	口径	器高	底径	観　　察	出　土　地
第45図・図版21	124	カラカラ	口	4.9	－	－	Ⅲ：口唇は尖る。文様：鉄釉の斑点。内径7.2㎜ 、器厚6.1㎜	Ⅰ セ－29 4 層
	125		底	－	－	7.1	ⅠA：灰釉。胴部は丸。高台内無釉。文様：三島手、縦に三条の沈線を一単位として8㎜ 間隔で文様を施す。器厚6.1㎜	Ⅰ セ－28 3 層
	126		胴	－	－	－	ⅠA：鉄釉。胴部は丸、注口は上にむく。最小胴径20.0㎜、器厚4.9㎜	Ⅰ セ－28 7 層
	127		底	－	－	7.8	ⅢA：胴部は丸くなる。外面－高台内無釉。文様：線彫りで胴部に二条の圏線とその上に複位に沈線を配し、二彩（青と茶を交互に塗る）。胴径120.0㎝	Ⅱ セ－27 石積周辺
	128		胴	－	－	－	ⅢB：胴下部が「く」に曲がる。文様：胴部に線彫りで幾何学文様、その上に二彩（青と茶）。胴径125.0㎜ 、器厚5.7㎜	出土地不明
	129		注口	－	－	－	ⅢB：注口は内側に径6.9の２孔。胴下部が「く」に曲がる。注口の付け根に緑釉。胴径125.0㎜、器厚3.8㎜	Ⅰ ス－30 2 ～ 4 層
	130		胴	－	－	－	胴部は。注口に径8.0㎜ の孔。黒釉、内面－無釉、外面－腰から無釉。胴径106.0㎜ 器厚6.4 ㎜	Ⅰ セ－30
	131		口/ 底	9	7.2	8.5	ⅠC：鉄釉。内面施釉。筒タイプ。注口は折れ曲がる。口唇は内段及び高台内無釉。器厚5.1㎜	不明
	132		底	－	－	7.3	ⅢC：内面及び外面の腰～底部にかけては白化粧土。文様：呉須で草文。器厚4.4㎜	Ⅰ セ－28 7 層
	133	小瓶	底	－	－	3.8	Ⅰ：胴－丸。黒釉、内面－施釉。外面－腰～底部無釉。底部－糸切り痕。	Ⅰ グリット不明
	134		底	－	－	2.7	Ⅰ：胴－丸、ソロバン型。黒釉、内面－無釉、外面－胴～腰部無釉。	Ⅰ セ－30
	135		胴	－	－	－	Ⅰ：胴－丸。灰釉、内面－頸まで施釉。双耳－縦に筋、楕円。文様：黒釉掛け。胎土：白地。	Ⅱ 北側斜面 赤褐色土
	136		底	－	－	4	Ⅰ：胴－筒。黒釉、内面－無釉。外面－高台内施釉。	Ⅰ ケ－30 2 層
	137		底	－	－	4.2	Ⅰ：胴－筒。灰釉、内面－無釉。外面－高台内施釉。文様：肩部にトビガンナで施文。	Ⅰ セ－29 7 層
	138		頸	－	－	－	Ⅲ：胴－丸。白化粧。文様：削りにより彫り痕。	Ⅰ ケ－26 4 層 b
	139		頸	－	－	－	Ⅳ：胴－丸。黒釉。胎土：沖無釉に近い。	Ⅲ チ－17 3層 東側
	140	抱瓶	底	－	－	－	ⅠE：底の三日月の部分。鉄釉、内面－薄く、底面－施釉。内側－ヨコナデ。器厚3.7㎜	Ⅲ 2 層　南側
	141	瓶	胴	－	－	－	ⅠA：灰釉、内面－無釉。文様：鉄釉を掛ける。胎土：白地。ロクロ痕明瞭。	Ⅲ 集石遺構周辺
	142		口	6	－	－	ⅠC：ラッパ状。双耳－「S」。鉄釉、内面－口縁～頸部施釉。器厚4.7㎜	Ⅰ シ－30 7 層
	143		口	7	－	－	ⅢC：ラッパ状。双耳－獣面。白化粧、内面－無釉。器厚4.5㎜	Ⅰ 茶褐色土5層（グリット不明）
	144		口/ 底	3	14.5	4.6	ⅠA：玉縁。鉄釉、内面－無釉、外面－腰部～無釉。底部は赤褐色。テンパー：白粒混入。焼きは甘い。	Ⅲ チ－18 3 層
	145		頸	－	－	－	ⅢC：ラッパ状。双耳－玉。白化粧。文様：線彫りで梅文、上に呉須。胎土：白地。	Ⅰ 褐色土（グリット不明）
	146		口	3	－	－	ⅠA：直口、口：舌状。鉄釉。焼き甘い。	Ⅰ 赤土
	147		胴	－	－	－	Ⅰ：肩部。鉄釉。文様：彫りで葉文。ロクロ痕明瞭。胎土：白地。薄手。	Ⅲ サ－19 3 層6/8
	148		底	－	－	5.4	ⅠB：肩部は丸。高台は碁苛底。飴釉、腰部～底部無釉。薄手。	Ⅲ セ－19 遺物集中0/2
	149		胴	－	－	－	ⅠF：肩部は緩やかになり、瓢箪状になる。文様：沈線で圏線と波状の組合せ。胎土：白地。薄手。	Ⅲ 集石遺構
	150		底	－	－	7.2	ⅠB：脚台。鉄釉、内面、脚台内部は無釉。胎土：白地。ロクロ痕明瞭。	Ⅲ 集石遺構
	151		胴	－	－	－	ⅠB：脚台。鉄釉、釉は斑に掛かる、内面、脚台内部は無釉。赤褐色。	Ⅱ 北側斜面石積清掃
	152	小瓶	口	3.6	－	－	ⅠD：無頸、玉縁。口唇無釉。胎土：白地。器厚4.3㎜	Ⅰ ス－30 4 層
	153	瓶	口	6.2	－	－	ⅠF：玉縁。嘉瓶。黒釉、内面－施釉。器厚5.1㎜	Ⅱ サ－31 4 層
	154	壺	口	5.7	－	－	ⅠE：ラッパ状の口縁で胴部はかなり張る。油壺。飴釉、内面－斑に施釉。薄手。	Ⅲ 集石遺構
	155		底	－	－	6.6	ⅠA：肩部が明瞭。飴釉、腰部～無釉。胎土：白地。薄手。	Ⅲ チ・ツ－19 集石遺構
第46図・図版22	156	火取	口	11.0	－	－	Ⅰ：内側に「L」字に曲がる。灰釉。内－ロクロ痕明瞭。胎土：白地。器厚3.4㎜	Ⅰ 褐色土
	157		底	－	－	5.6	Ⅰ：灰釉、腰部～底部無釉。高台は低い。	Ⅰ 石垣平面清掃
	158		口	10.2	－	－	Ⅰ：灰釉、内面口縁のみ施釉。三島手、圏線と花のスタンプの組み合わせ。器厚6.2㎜	Ⅱ タ－30 3 層
	159		口	8	－	－	Ⅰ：灰釉、内面無釉。文様：三島手でトビガンナ、圏線の組み合わせ。胎土：赤褐色。器厚7.5㎜	Ⅰ セ－28 7 層
	160		口	7.6	－	－	Ⅰ：口縁内に突起。飴釉、内面口縁のみ施釉。器厚5.6㎜	Ⅲ 集石遺構
	161		底	－	－	6.9	Ⅰ：鉄釉、内面－無釉、腰～底部無釉。文様：口縁に平行に凹線文。器厚3.7㎜	Ⅲ シ－18 3層東側2/4
	162		口	10.0	－	－	Ⅲ：口縁：直口。白化粧。文様：線彫りで丸文、それに呉須で施釉。器厚6.3㎜	Ⅰ ケ－28 2 層
	163		底	－	－	7.5	Ⅲ：白化粧、内側－アルミナ、外面－高台－畳付け～高台内までアルミナ。器厚6.7㎜	Ⅰ セ－29 7 層
	164		口	9.5	－	－	Ⅲ：口縁－内側に膨らみ。白化粧、口唇アルミナ、内－口縁幅8.0㎜ 施釉。文様呉須、口唇のみ。	Ⅰ シ－30 7 層
	165		口	－	－	－	Ⅰ：灰釉、内面－口縁のみ施釉。三島手、口唇に緑釉、圏線とトビガンナの組み合わせ。器厚6.7㎜	Ⅰ ケ－28 2 層
	166	火炉	底	－	－	8.4	Ⅲ：高台抉り、装飾。鮫肌、内面－無釉、高台無釉。文様：底部に凸帯文で竹筒風。器厚5.0㎜	Ⅲ サ－19 3 層0/2
	167	香炉	口	13.3	－	－	Ⅰ：「L」口縁。黒釉内面－口縁～胴部施釉、外面底部－無釉。器厚4.8㎜	Ⅲ ス－19 3 層2/4
	168	火取	底	－	－	11	Ⅰ：黒釉、内面－無釉、底部は腰～無釉。文様：縦、横の沈線の組み合わせ。内面－ロクロ明瞭。器厚9.9㎜	Ⅲ ス－19 遺物集中0/2
	169		底	－	－	15	Ⅰ：筒状。底部はえぐりで装飾。鉄釉、内面－胴下部、無釉。	Ⅰ カ－27 4 層
	170		口	13.6	－	－	Ⅰ：口縁：直口、「U」字にえぐる。断面－四角、内面－三角の突起。鉄釉、内面－口縁～2.0㎝まで施釉。口唇－アルミナ。文様：口縁に平行に沈線。	Ⅰ 2 層（グリット不明）
	171		口	11.2	－	－	Ⅰ：口縁直口。口唇－アルミナ、内側に突起は上に曲がる。文様：口縁に深い沈線文。	Ⅲ 2 層　南側 盛土
	172		口	8.0	－	－	Ⅰ：口縁：直口、断面－四角、内面に三角状の突起、「U」字の抉り。鉄釉、内面－口縁27.5㎜。文様：丸文を斜位。器厚7.0㎜	Ⅰ 4 層（グリット不明）
	173		口	14.2	－	－	Ⅲ：「U」字にえぐる。鮫肌、口唇－アルミナ。器厚7.0㎜	Ⅰ セ－28 7 層
	174		胴	－	－	－	Ⅰ：胴下部は張る。鉄釉と灰釉。文様：胴上部は沈線による格子文の上に飴釉を掛ける。胎土：白地。器厚5.5㎜	Ⅰ 6 層（グリット不明）
	175		口	15.8	－	－	Ⅰ：口縁：直口、断面－四角、大きな抉り。黒釉。文様：丸文、口縁に平行に圏線とその下に斜めに区画して施文。内面－ロクロ明瞭。器厚8.8㎝	Ⅰ 6 層
	176		口	22	－	－	Ⅰ：口唇は大きく抉り。胴下部は若干張る。鉄釉、内面－口唇のみ施釉。内面－ロクロ痕。器厚9.7㎜	Ⅲ タ－20 3 層
	177		口	－	－	－	Ⅰ：口縁：内湾、断面－四角、内面に三角状の突起。施釉、内面－口縁30.2㎜まで施釉。器厚6.1㎜	Ⅰ 5 層　砂利混
	178		口	－	－	－	Ⅲ：口縁は大きな抉り、口縁：内湾。緑釉、内面：口縁まで。文様：沈線で葉文。	Ⅲ サ－20 3層 東西畦
	179		口	－	－	－	Ⅰ：口縁：内湾、断面－舌状、内面に三角状の突起。黒釉、内面－口縁～35㎜。器厚7.6㎜	Ⅲ コ－19 3 層2/4
	180		口	10.2	－	－	Ⅰ：口縁：内湾、断面－四角、孔径11.2㎜、複数。鉄釉、口唇～0.8㎜、下部無釉。器厚6.9㎜	Ⅰ 黄土山
	181		口	12.5	－	－	Ⅰ：口縁：直口、断面－有段、胴部に四角孔。鉄釉。	Ⅰ コ－28 2 層
	182		耳	－	－	－	Ⅰ：獣面、火炉の双耳の一つ、飴釉。	Ⅰ サ－27 4 層
	183	壺	口	11.8	－	－	Ⅰ：アンダガーミ。四耳、縦耳。黒釉、口唇－無釉。内面－ロクロ痕明瞭。	Ⅰ セ－27 2 層
	184		底	－	－	9.0	Ⅲ：有頸。内面－白化粧。畳付けは内縁を削る。高台内施釉。文様：白粘土で丸文を全面に配す。	出土地不明
	185		口	6.8	－	－	Ⅰ：わずかに外反、186 の口縁、薄手。耳が付く。	Ⅲ 集石遺構
	186		胴	－	－	－	Ⅰ：内外面－鉄釉。胴下部－ロクロ痕明瞭。薄手、最大胴径18㎝。褐釉陶器に近い。	Ⅲ 集石遺構
	187		底	－	－	－	Ⅰ：大振りの壺か。底部は丸みを持ち不安定。灰釉？。胎土：白地。器厚14.9㎜	Ⅰ キ－27 4 層 南側
第47図・図版23	188	灯明具	口/ 底	4.8	5.3	4.5	Ⅰ：内湾。黒釉、底部無釉、5.5㎜の小孔があけられる。	Ⅲ チ－17 井戸中（埋土）
	189		口	4.4	－	－	Ⅲ：内湾。白化粧、内面－一部無釉。芯柱に炭の痕。	Ⅰ 溝状遺構 D
	190		底/ 胴	－	－	4.8	Ⅲ：内湾。白化粧、内面－一部無釉。芯柱に炭の痕。	Ⅱ セ－27（層不明）
	191		底/ 胴	－	－	3.4	Ⅲ：直口？、底部－二段。白化粧、内面－二彩、緑釉。底部無釉、糸切り痕。	Ⅰ ク－29 3 層
	192		胴	－	－	－	Ⅲ：底部が高い、上に芯柱の跡。二彩（上部－緑釉、下部－黒釉）	Ⅰ シ－30 7 層畦
	193		胴	－	－	－	Ⅰ：燭台、底部が低いタイプ。白化粧無。中央に幅31.0の柱、孔8.0㎜で底部に貫通する。“議会棟－灯明具「ロ」”	Ⅰ シ－30 7 層
	194	その他	－	－	－	－	Ⅰ：黒釉。花瓶の双耳（獣面）か。褐釉陶器？	Ⅱ タ－31 南北畦
	195		－	－	－	－	Ⅰ：斑に透明釉、獣面の脚か。胎土：白地。裏面凹む。	Ⅰ オ－29 2 層
	196	瓶	肩部	－	－	－	Ⅲ：瓶の肩部、亀を貼り付ける。白化粧、亀の部分は白粘土で作る。	Ⅰ シ－31 5 層
	197	その他	－	－	－	－	Ⅰ：魚の型物。両方から合わせて作る。飴釉がまだらに残る。文様：魚の尾の部分、鱗を丁寧に描写。土の状況から掲釉陶器の可能性も有。	Ⅰ シ－27 5 層

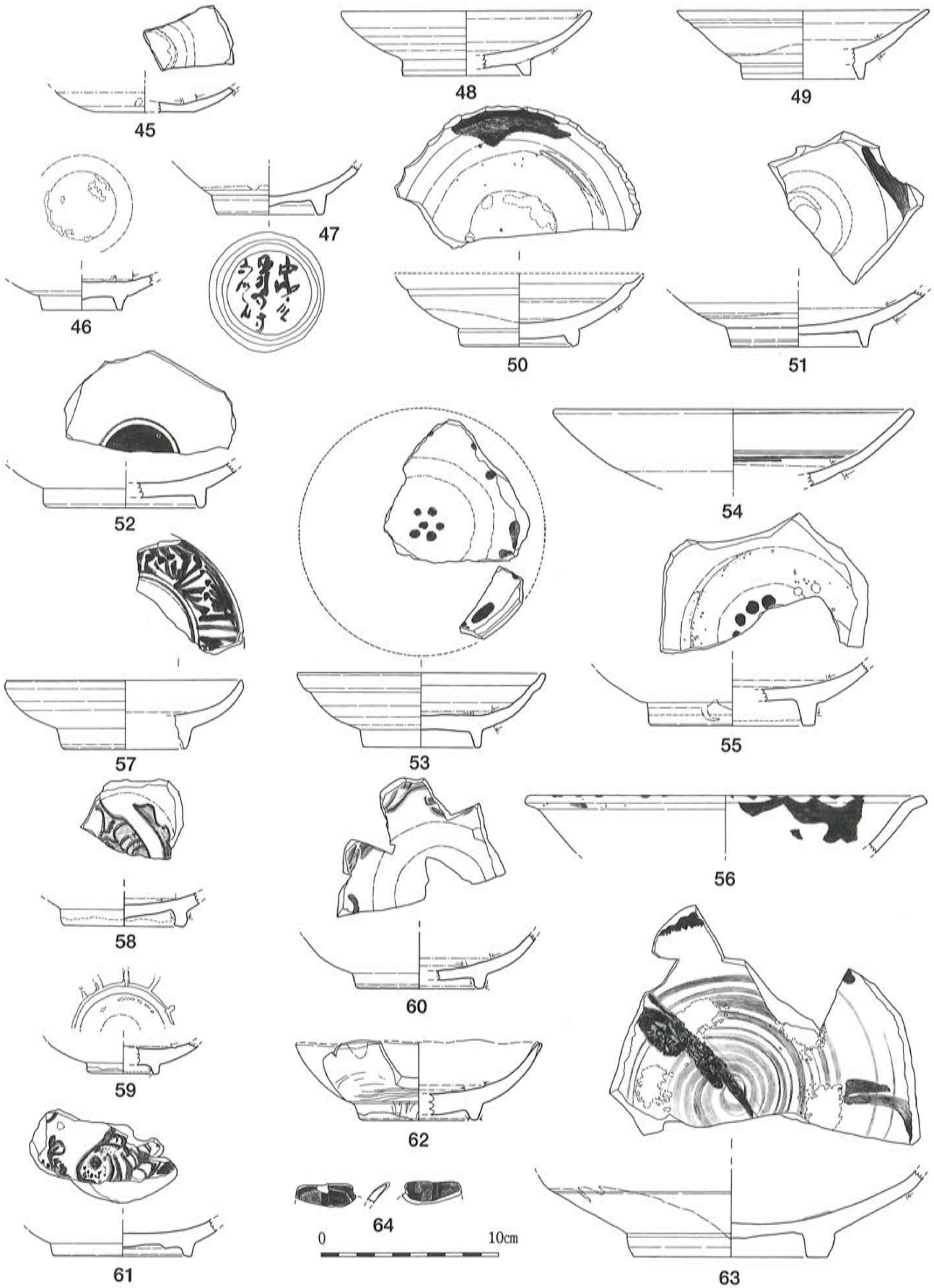
注「観察」－施釉（Ⅰ：白化粧無し、Ⅱ：かけわけ、Ⅲ：白化粧有り）、形態、文様、施釉範囲、胎土、器厚の順で観察。「出土地」－10～20㎝→1/2、接合「＋」と表記



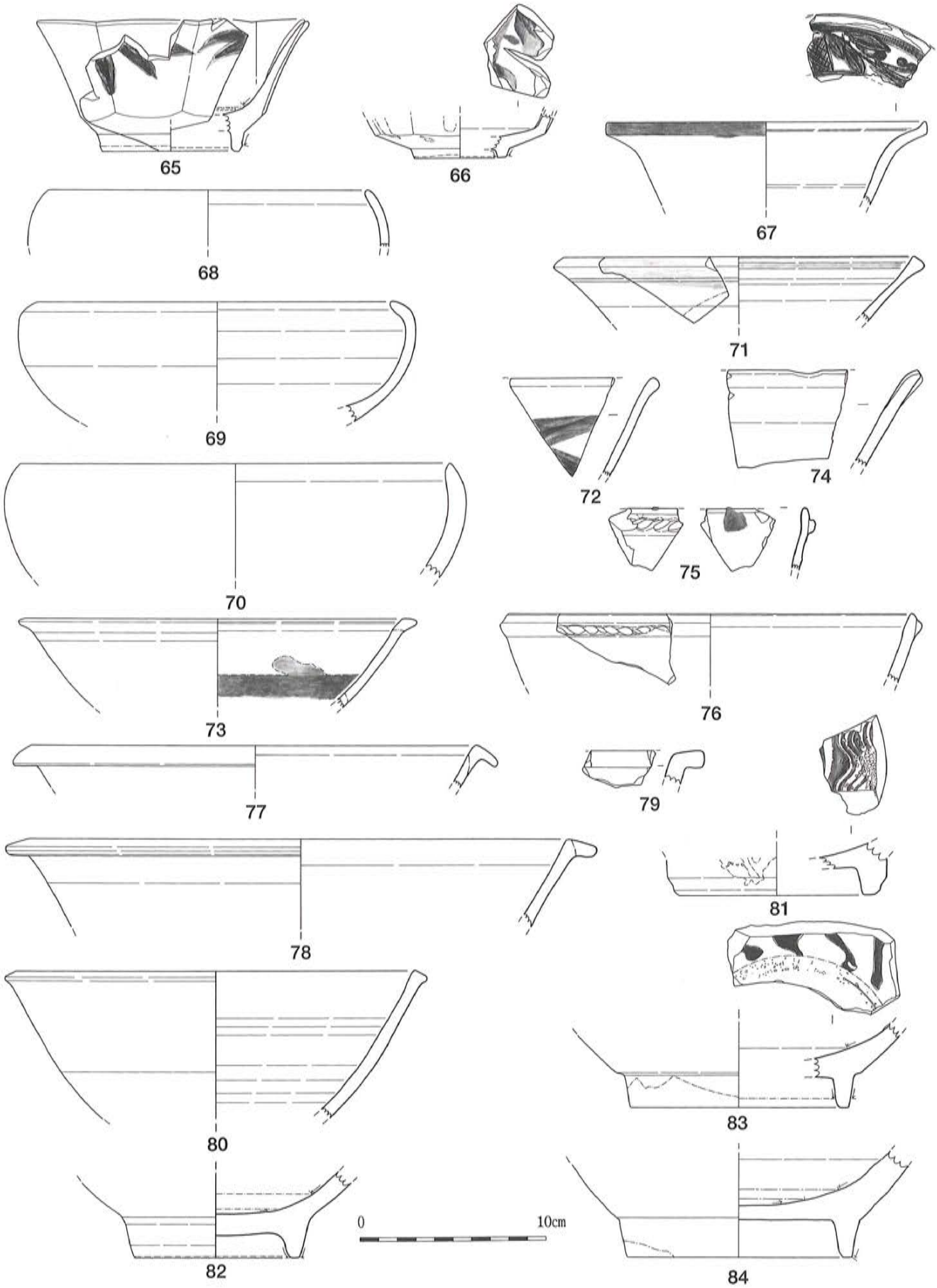
第39図　沖縄産施釉陶器（1）碗



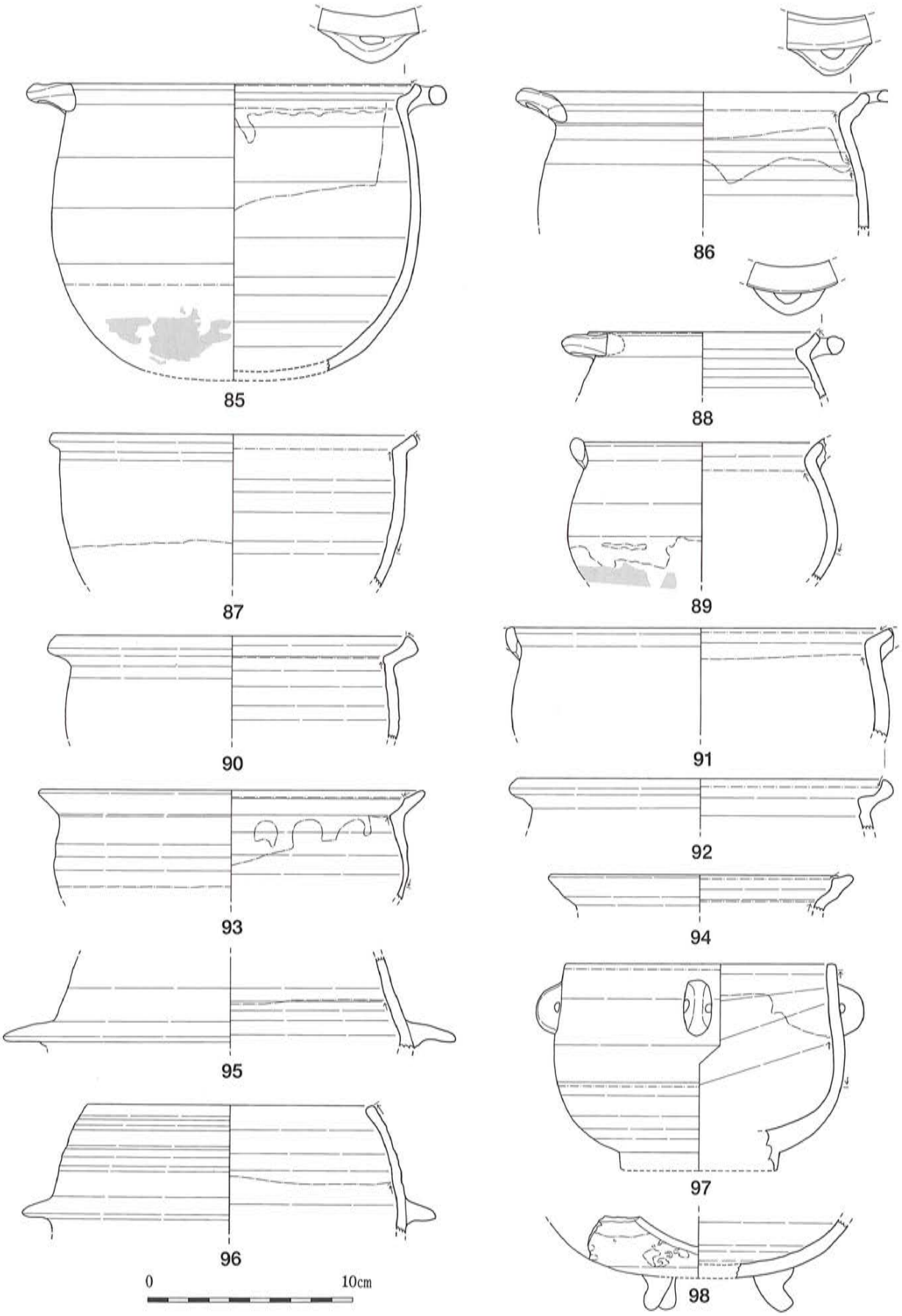
第40図　沖縄産施釉陶器（2）小碗



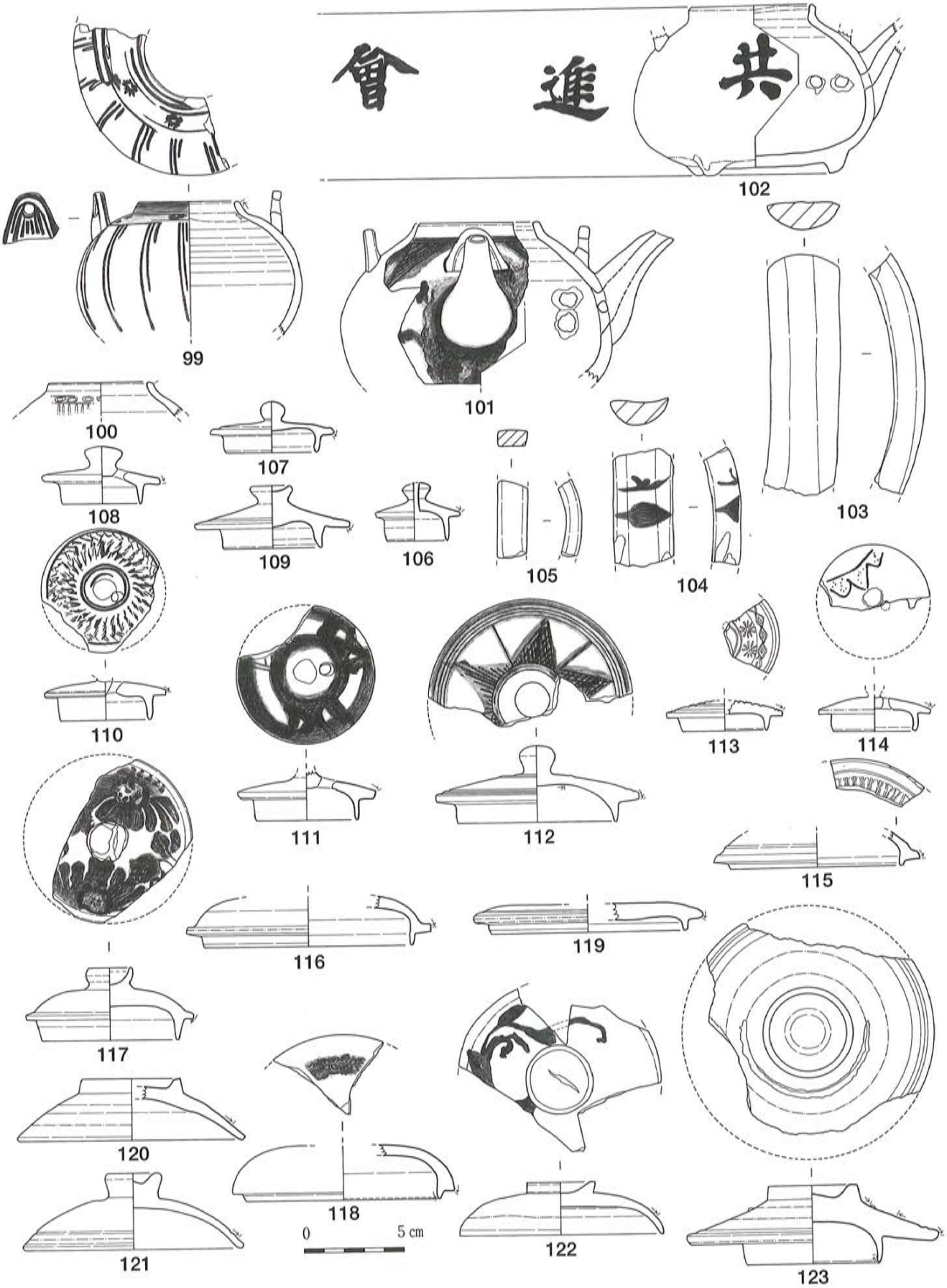
第41図　沖縄産施釉陶器（3）Ⅲ



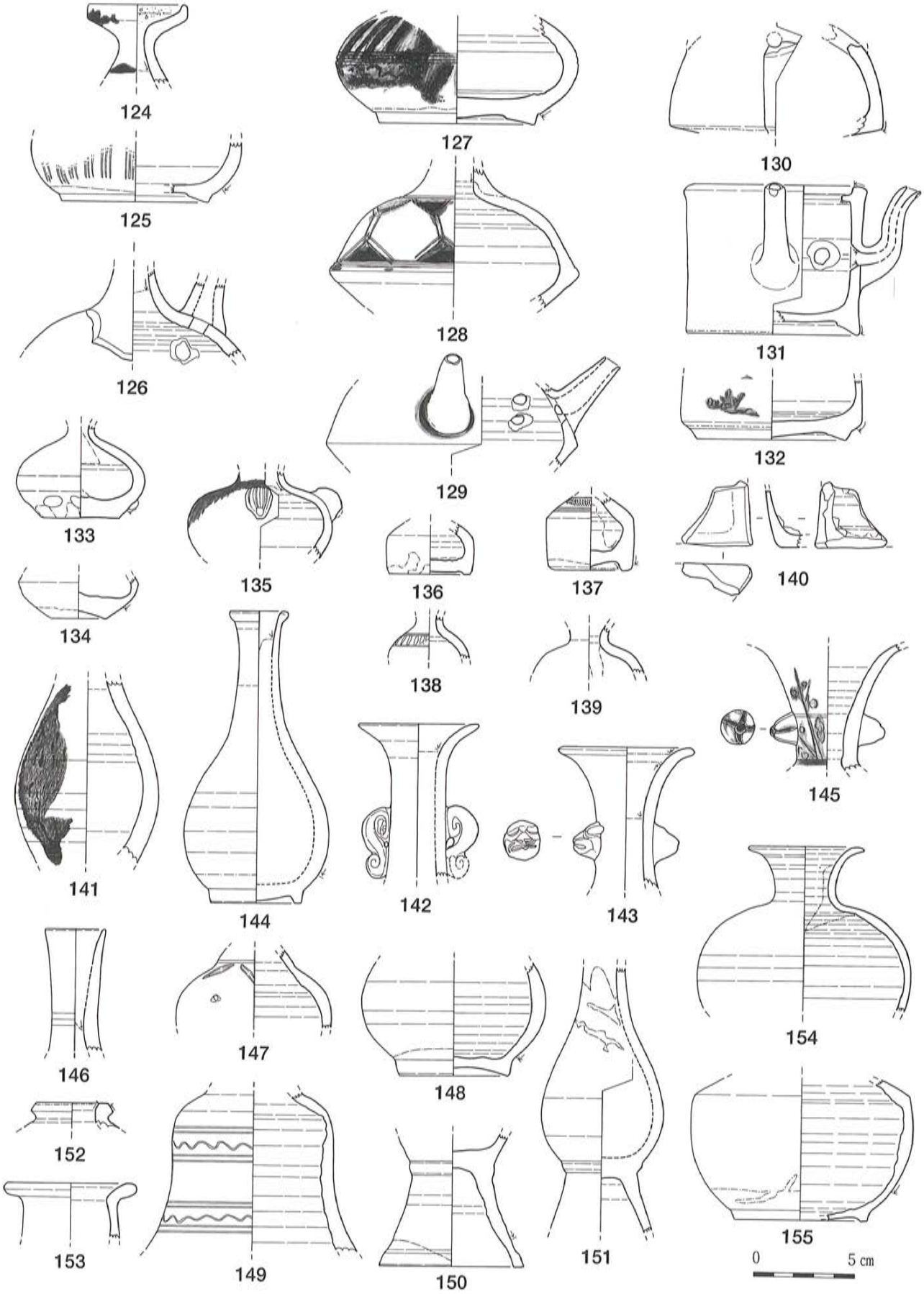
第42図　沖縄産施釉陶器（4）鉢



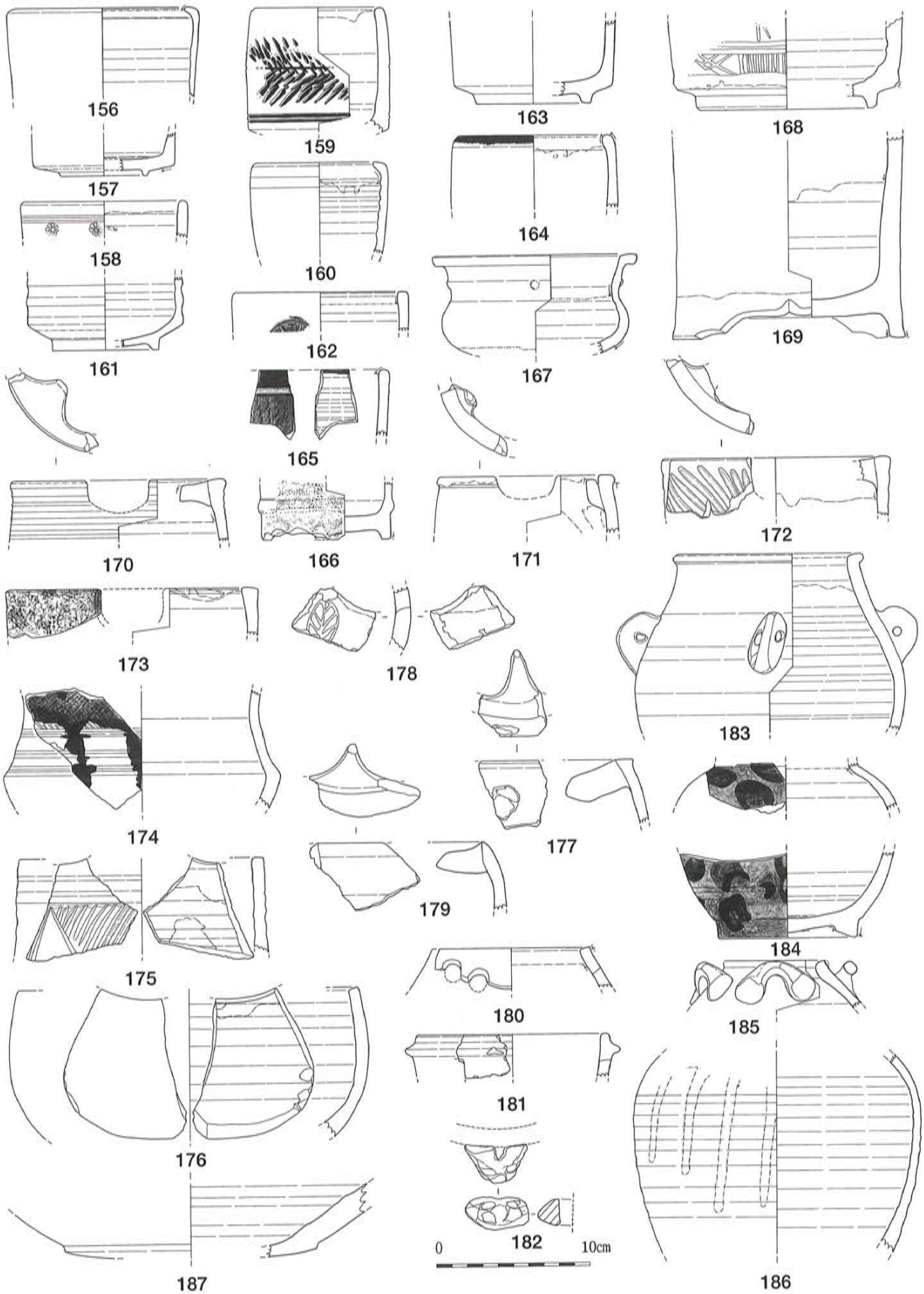
第43図　沖縄産施釉陶器（5）鍋



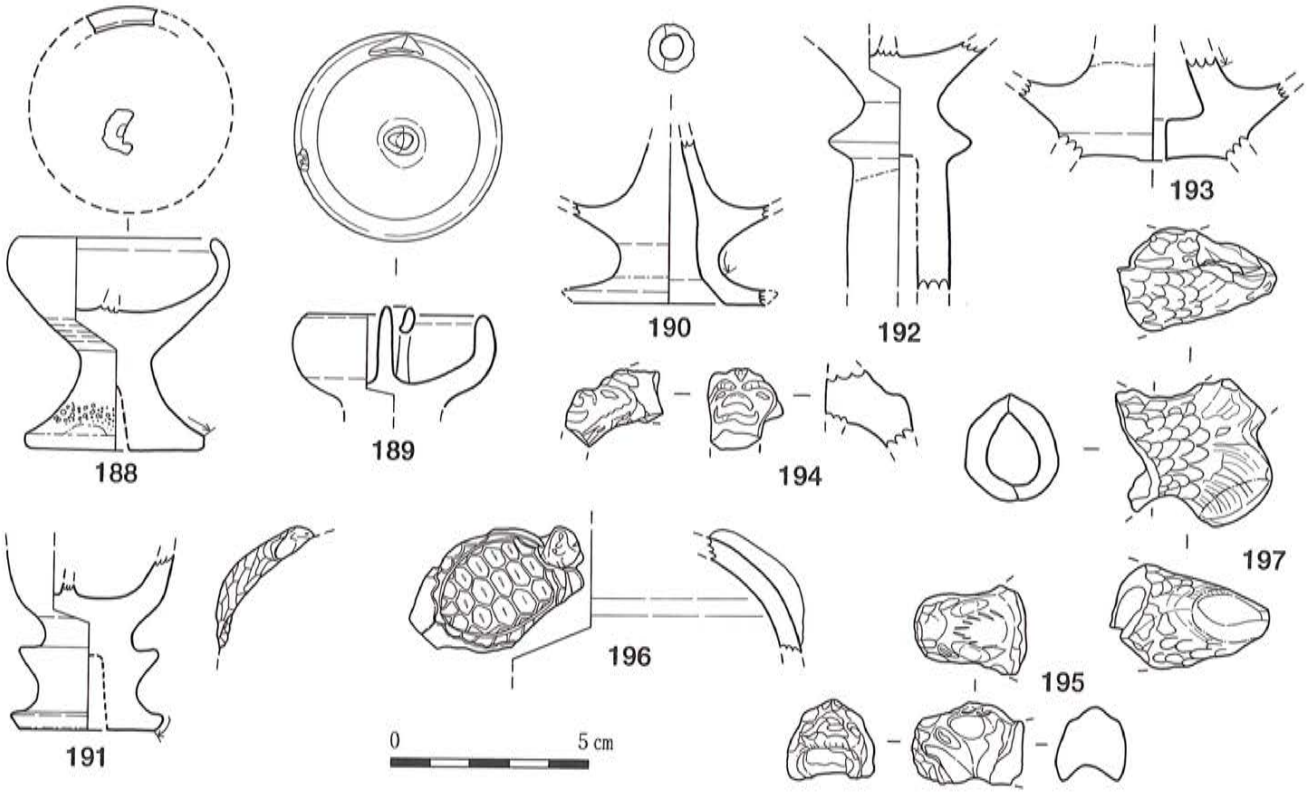
第44図　沖縄産施釉陶器（6）急須・蓋



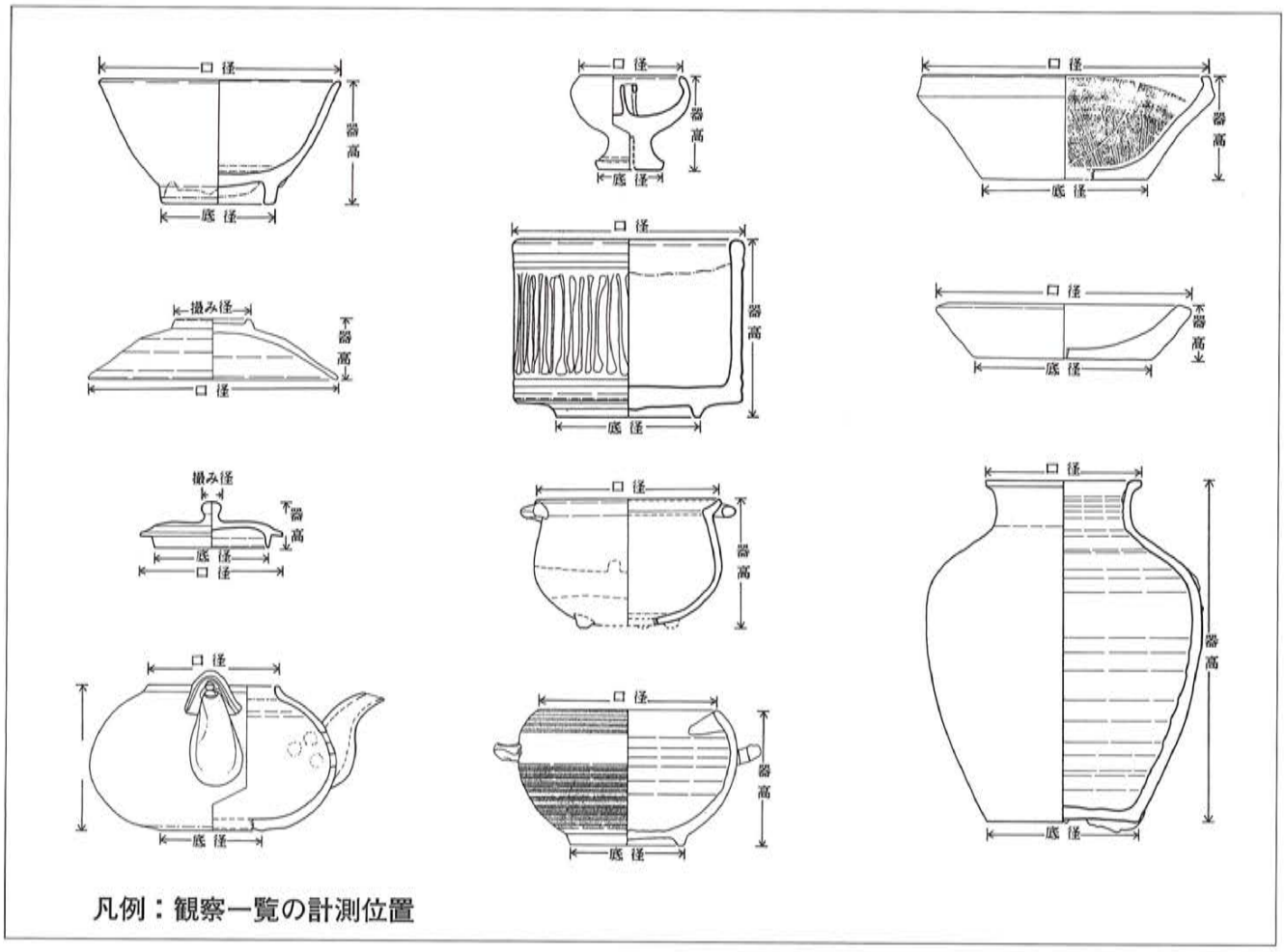
第45図　沖縄産施釉陶器（7）酒器・瓶



第46図　沖縄産施釉陶器（8）火取・香炉・火炉



第47図　沖縄産施釉陶器（9）灯明具・その他



凡例：観察一覧の計測位置

第15節　沖縄産無釉陶器

釉薬を施さない沖縄産の陶器で「アラヤチ」と称されているものである。碗・皿・鉢・土鍋・壺・甕・灯明具・人形など様々な器種が出土しているが、多くは壺などの大振りの製品で占められている。以下各器種ごとの概要を記し、個別の詳細は観察表（第７表）に譲る。

１～４に示すのは碗である。１・２は厚手に成形されたベタ底の碗で、口唇には舌状に尖り、胴・底部まで直に落ちる。３・４は天目茶碗をコピーした製品で、３の口縁部には黄灰色釉、４の底部資料の外底には暗灰色釉がかかる。皿（５～９・12）は小物の中では多く出土しており、９以外はベタ底になっている。高さは各々異なるが全体的に厚手で口唇は丸く、わずかに内湾する傾向にある。皿13は厚手直口でベタ底の製品。10は小碗の底部で焼きがよく丁寧な作り。

小瓶（11）と思われる資料は、薄く底径が2.4㎝と小型で高台が丁寧に造られている。蓋（14・15・15－Ａ）はドーム状で周縁部は鍔状に横位に開き、頂部には宝珠様のつまみがつくもの（14・15）と厚さが均一な円盤状で、中央に粘土ひも貼付してつまみとしているもの（15－Ａ）がみられる。16は瓶の変形で花弁状に開いた口縁が端に付けられ、上面観は円形で皿状にくぼめられる。その中央には口縁の逆方向に薄い粘土ひもが貼り付いていたようだが、破損しているため用途は判然としない。下部は口縁とつながり液体がたまるような空間があったと思われるが形状は不明。17は抱瓶（ダチビン）の三日月型をした胴の内側部分と考えられる資料で、板状に加工した粘土を貼り合わせ、腰に当てる面は内側に湾曲している。

急須は口縁に蓋受けが「く」の字状に付くもの（18・19・21・22）と壺のように外反するもの（25）があり、頸部両端につり手を結ぶ粘土ひもを貼り付ける例（18・21・22）と、胴に筒状の取手を付すもの（24）、断面長方形の粘土ひもをつり手としたもの（26）がある。注口部は完全な資料はないが、23・25に一部みることができる。土鍋（20）は少し外反する口縁の両端に、粘土ひもを貼り付け、把手としている。

27は燭台で上部は欠失しているが筒状のロウソクを立てる部分と、溶けたロウをためる皿が轆轤引きにより成形される。底には円錐形の脚が３ヶ所に付く。火炉は大きさ・形態のバリエーションが豊富で、直口気味の円筒形（28～32）と胴上部で内側に「く」の字状に折れるもの（33）に大別できる。前者には円錐状の脚が３ヶ所につけられたもの（29～31）がある。後者は胴部両端に有孔把手が付けられるもの（35）や、胴上部に窓状の孔があけられた例（34）がある。33－Ａは火炉などの内部に据える灰落として思われる資料である。円盤状で縁辺の角は取られ中央に大きめの孔が２つ、その周辺に小孔が不規則にあけられている。

擂り鉢は口縁下部に疑似凸帯を付けて稜を成すもの（36・38）と口縁が鍔状に横にのびるもの（37）が中心に出土しており、ほかに備前系擂り鉢を模したと思われるタイプ（40）の注口部分や、櫛目が密で色調・素地などから37タイプの脚部と思われる資料（39）がみられる。42～44に図示した水鉢は浅く胴上部が張り、口縁は内湾して口唇が外側に折れる。口縁部には５から７条沈線の波状文と、その上下に沈線を施すものがある。鉢には器形が水鉢に似るが口唇が折れていないもの（41・46）、器形が断面逆「ハ」の字状か直口で口唇が逆「Ｌ」状に折れるタイプ（45・49・50）がある。また、48のように口縁が内側に折れる鉢も確認されている。50は頸部に三重円の印花を二段の等間隔に列する。

47は大型の蓋で断面は「ハ」の字状で口縁は外に折れる。胴と口唇外側に波状凸帯を施し、その間に11枚花弁の印花文が間隔を置いて刻されている。51は大型の香炉と思われる製品で、板状の粘土を組み合わせて方形に成形される。脚は角に胴からつながるように付く。付け根部分は太く緩やかにカーブしながら末端部は細くなる。口縁部には二段に円弧の印花を密に列を成し、胴部は梅の枝花が線刻される。

52～58は大振りの壺で、無釉陶器中多く出土しているもののひとつである。口縁は玉縁状で頸部はすぼまり、肩へと丸味を帯びて移行する。胴下半部は斜めに真っ直ぐに落ちる。底部の縁辺は面取りがされている。59～64は小型の壺で、口縁部は断面方形で外に折れる。頸部は直に落ち、稜を成して肩部へと移る。胴は底部まで丸味を保持する。肩部に有孔の縦耳が４ヶ所に付くもの（60）のほか、沈線や文字らしき線彫りがされたもの（62）もみられる。65は「チュワカサー」と呼ばれる一升徳利の下半部で、厚手に成形。66～69は瓶で高台を有し、頸部の左右に縦耳を付着する例（66）がある。70の鉢は口縁に二条、胴下部に一条の波状凸帯、その間に草花文を陽刻する。71～76の鉢は口縁に沈線文や波状文・張り付け文があるもの（71・72）と無文で口縁が鍔状のもの（73）やこぶ状の突起が付くもの（76）のほか、口縁が内湾して内側に玉縁を成すもの（74・75）がある。大甕は口縁を断面方形に肥厚させ直口気味にする78と、78に比べ口縁の浅い77が出土している。いずれも底部につながる資料は得られていない。

79は壺などの胴下部と考えられるが、全体の成形は粗雑で素地に気泡を多く含んでいることからも失敗品と考えられる。80は断面宝珠状で中空になっており、形状から蓋のつまみと思われる。81は饅頭型の製品で、質的には陶質土器に近いが漆喰が付着していることと形態から壺などの蓋として使っていた可能性がある。82は大きめのスプーンを連想させるが、両端が欠落しているので不明。83は断面が丸の棒状の製品で片端が平坦に成形されている。

84は南アジア周辺の人物を模したと思われる頭部資料で、彫りの深い顔に眉間の白毫らしき突起が目立つ。85は牛の頭部で86は人のつま先を精巧に表現している。87は鱗を線刻した魚の尾部で内部は中空。88は用途は不明だが、ほぞ状の形状から他の何かと組み合わせる部品のひとつと考えられる。

第７表　沖縄産無釉陶器観察一覧

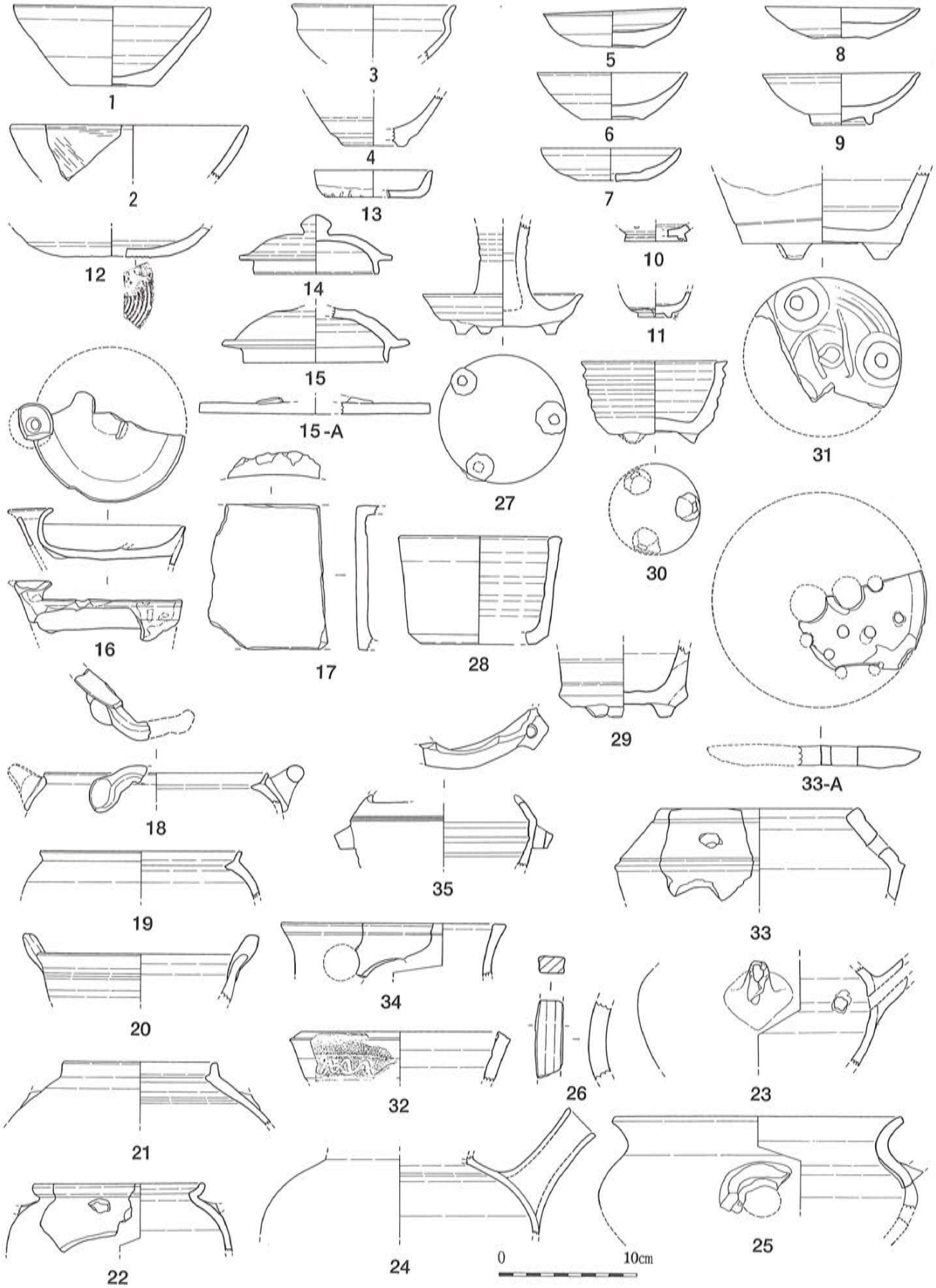
単位：cm

図	番号	器種	部位	口径	器高	底径	出　土　地	観　察　事　項
第48図・図版24	1	碗	口/底	14	5.6	6	Ⅲ－A　2層南側	器色：両面明橙色、底面赤茶色。素地：橙色・黒色粒子混入、赤茶色。器・調：回転擦痕、轆轤痕。
	2		口	16.5	－	－	Ⅲ－Bソー19 3層上面橙色土	器色：外面上部は暗灰色の釉が薄くかかる、下部は赤褐色、内面暗褐色。素地：微砂粒少々、淡茶褐色。器・調：外面轆轤・回転擦痕、ナデ消し、内面回転擦痕。文様：口唇のみ施釉。
	3		口	11.7	－	－	Ⅱター31 6層	器色：黄灰色釉。素地：外側灰色、内側茶褐色。器・調：回転擦痕。
	4		底	－	－	4.6	Ⅰク－31 南北トレ	器色：淡茶褐色に暗茶褐色釉。素地：淡茶褐色、微砂粒。器・面調整：轆轤痕。
	5	皿	口/底	10.2	2.6	4.4	Ⅲ－B 集石遺構	器色：両面橙褐色、口縁暗灰色（スス付着）。素地：微砂粒混入、暗橙褐色。器・調：回転擦痕、外底面は篦削り成形。文様：口縁部にススが付着。
	6		口/底	10.6	3.3	4.2	Ⅲ－B 集石遺構	器色：両面灰色・暗灰色・褐色のまだら。素地：黒色・赤色粒子含む、外側暗灰色、内側茶褐色。器・調：外側轆轤痕・回転擦痕、外底面は篦削り成形、内面回転擦痕。文様：口唇にススが付着。
	7		口/底	9.8	2.3	4.8	Ⅲ－A セー19 地山直上	器色：外面明灰褐色、内面灰褐色、中央は橙褐色。素地：茶褐色粒子含む、外側灰褐色、内側橙褐色。器・調：回転擦痕。
	8		口/底	11	2.1	4	Ⅲ－A コー19 3層	器色：両面淡赤褐色、底面赤褐色。素地：微砂粒・黒色粒子、石英含む、赤褐色。器・調：回転擦痕、外底面は雑な篦削り、底面は糸切り痕。文様：外面上部にススが付着。
	9		口/底	10.6	3.6	4	Ⅰ　ケー25 4層	器色：外面茶褐色、底部明橙色、内面茶褐色、口唇暗褐色の釉。素地：粗い砂粒を多く含む、茶褐色。器・調：轆轤による回転擦痕、底部は篦削りにより丁寧に成形。
	10	小碗	底	－	－	4.4	Ⅲ－A 2層南側	器色：両面暗紫褐色。素地：微砂粒子、茶褐色。器・調：轆轤回転擦痕、底部篦削り。文様：胴下部に沈線がかすかにみられるが文様かどうかは不明。
	11	小瓶	底	－	－	2.4	Ⅰ　カー29 6層	器色：赤褐色地に暗茶褐色釉。素地：灰白色。器・調：回転擦痕。
	12	皿	底	－	－	7.2	Ⅲ－A サー19 壁面清掃	器色：内面淡橙色。素地：橙色・赤色・黒色粒子、微砂粒混入、淡橙色。器・調：轆轤痕、回転擦痕、外底面篦削り、底面はクシ状工具によるものか。文様：底部は少なくとも６本のクシ状工具で弧文状に施文される、蓋の可能性もある。
	13		口/底	9.4	1.9	6.6	Ⅰ　カー29 茶褐色土西側トレ	器色：外面は灰色、内面は暗灰色で部分的に赤褐色。素地：茶褐色の粒子混入、外側は暗灰色、内側は茶褐色。器・調：内外面回転擦痕、内面はナデ消し、外面下部は回転篦削り。文様：底部外側は成形時に篦が飛び、放射線状に段が生じている。
	14	蓋	口/底	10.8	4.2	8.8	Ⅲ－B チー20	器色：外面暗灰褐色、内面茶褐色。素地：微砂粒、橙色粒子含む、暗茶褐色。器・調：両面轆轤痕、回転擦痕。
	15		口/底	13.3	－	10.1	Ⅲ－B ター20 3層	器色：外面灰褐色。素地：橙色粗粒子含む、外側暗灰色、内側橙褐色。器・調：型にはめて形をつくり、篦削り成形。
	15－A		口	16.3	－	－	Ⅰ－キー29 5層	器色：橙色地に茶褐色釉。素地：淡橙色、黄白色土練り込み。器・調：裏面に擦痕。
	16	瓶	口/注口	11	－	－	Ⅰ－オー30 5層	器色：明灰色地に茶紫褐色。素地：明灰色。器・調：外面回転擦痕内側ヘラ削り。注口3.2cm。
	17		胴	－	10.2	－	Ⅰ－シ・クー27ライン畦	器色：暗茶褐色。素地：暗紫褐色。器・調：ナデ擦痕。
	18	急須	口	16	－	－	Ⅲ－B　チー19 3層	器色：外面暗褐色・内面、茶褐色。素地：白砂粒含む、素地色は暗茶褐色。器・調：身は轆轤擦痕、ナデ消し、把手は手づくね貼付け。
	19		口	14.2	－	－	Ⅲ－B　チー18 3層	器色：外面は淡灰茶褐色、内面は淡茶褐色、口唇外側は暗灰色。素地：橙色の粒子、砂粒含む、茶褐色。器・調：轆轤による回転擦痕を丁寧にナデ消すが外面はアバタ状。
	20	鍋	口	15	－	－	Ⅰ－オー30 5層	器色：灰色。素地：外面灰色、内面茶褐色。器・調：回転擦痕。
	21	急須	口	11	－	－	Ⅰ－キー28茶褐色土西側トレ	器色：外面暗茶褐色、内面暗灰色。素地：暗茶褐色。器・調：回転擦痕。
	22		口	12.2	－	－	Ⅲ－B ソー19 橙褐色土遺物溜	器色：外面橙褐色、褐色、内面淡橙色。素地：微砂粒・石英、橙色粒子含む、淡橙色。器・調：両面回転擦痕。
	23		注口	－	－	－	Ⅰ－コー28 6層	器色：外面淡茶褐色、内面橙色。素地：橙褐色。器・調：回転擦痕。
	24		把手	2.8	－	－	Ⅰ－ケー28 5層下部	器色：外面暗茶褐色釉、内面淡紫褐色。素地：外側暗灰色、内側暗紫褐色。器・調：内面回転擦痕、注口付け根はナデ消し。
	25		口	20.6	－	－	Ⅱ－石垣斜面下	器色：外面淡茶褐色、内面赤褐色。素地：暗茶褐色。器・調：回転擦痕、注口付け根はナデ消し。
	26		把手	－	－	－	Ⅰ－オー30 5層	器色：暗灰色。素地：暗茶褐色。器・調：擦痕。
	27	燭台	口/底	11.4	－	8.8	Ⅰ－クー28 5層	器色：茶褐色、暗灰色。素地：茶褐色。器・調：回転擦痕、脚の付け根はナデ消し。
	28		口/底	11.4	7.6	8.1	Ⅲ－B グリット層不明	器色：外面暗茶褐色、下部は黒色釉、内面暗灰茶褐色。素地：微砂粒含む、暗茶褐色。器・調：外面回転擦痕、内面轆轤痕・回転擦痕。
	29		底	－	－	7.4	Ⅲ－A チー19 3層上面	器色：外面は暗灰色・底面は赤茶褐色、内面は淡灰褐色。素地：暗灰色の粗粒子・砂粒含む、赤茶褐色。器・調：轆轤回転擦痕、外面は篦削り成形、足はのちに貼付け境界はナデ消す。文様：胴部に二条一組の圏線が間隔をおいて二条あり、胴下部は篦により「く」の字状の凸帯に成形する。足は３つあったとみられるが内１つは欠失、底面中央に二条の沈線あり。
	30	火炉	口/底	8.6	5.8	6.2	Ⅰ　コー28 5層	器色：外面光沢のある暗茶褐色釉、内面淡紫褐色。素地：暗茶褐色。器・調：回転擦痕、脚の付け根はナデ消し。文様：胴部に５条の稜をつける。
	31		底	－	－	11.1	Ⅰ　カー28 5層	器色：茶褐色地に淡褐色釉。素地：暗赤褐色。器・調：回転擦痕、脚部付け根はナデ消し。文様：底面に屋号と思われる線彫り。
	32		口	14	－	－	Ⅲ－B ター19 3層上面	器色：外面暗茶褐色、内面茶褐色。素地：砂粒、橙色粒子含む、暗茶褐色。器・調：外面回転擦痕、内面轆轤痕、回転擦痕。文様：「く」の字状に折れる角の上部に一条の圏線、胴下部には一本クシによる波状文。
	33		口	14	－	－	Ⅲ－B チー18 3層	器色：両面橙褐色、口唇にスス付着。素地：微砂粒、黒色粒子含む、橙褐色。器・調：外面回転擦痕、ナデ消し、内面回転擦痕。文様：口縁外面上部に一条の圏線、その下に空気孔。
	33－A	その他	口	15	－	－	Ⅰ　カー29 5層	器色：灰褐色。素地：灰色、黒色粒子。器・調：ヘラ削り、擦痕。文様：中央に大穴２つ、周辺に小穴があけられる。
	34	火炉	口	16	－	－	Ⅲ－A スー19 3層2/4	器色：両面暗灰色地に橙色土を薄くぬる。素地：微砂粒、赤色粒子含む、外側暗灰色、内側赤褐色。器・調：両面回転擦痕。文様：口縁下部に一条の沈線があり、胴には透し彫りの一部と思われるくりぬきが２ヶ所見られる。
	35		胴	－	－	－	Ⅲ－B ター19 3層上面橙色土	器色：両面淡橙褐色。素地：黒色粒子含む、橙褐色。器・調：外面回転擦痕、内面轆轤痕、回転擦痕。文様：山形口縁の外耳付き火炉、口縁下には二条の浅い沈線。胴径13.2cm。
第49図・図版25	36	擂り鉢	口/底	25.4	10	9.6	Ⅰ　クー28 5層	器色：外面灰褐色、内面淡茶褐色。素地：微砂粒、黒色粒子混入、淡茶褐色。器・調：回転擦痕、内面は12本クシで左下から右上に右回りで密にかき目が施される。
	37		口/底	31	13.8	12.5	Ⅲ－B 集石遺構	器色：外面暗茶褐色、暗灰茶褐色、内面は暗茶褐色。素地：微砂粒、暗茶褐色。器・調：回転擦痕、ヘラ調整、内面は14本クシで右下から左上に若干弧状のかき目を密に施す、上部は浅い。文様：口縁下部に稜がないタイプ。
	38		口	20.1	－	－	Ⅲ－A スー19 遺物集中	器色：外面淡灰褐色、内面暗灰褐色。素地：微砂粒・橙色粒、暗茶褐色。器・調：回転擦痕、轆轤痕、内面は８本のクシ状工具で間隔をおいてかき目が施される。文様：口縁直下は内側にゆるやかにくぼむ。
	39		底	－	－	13	Ⅰ　コー27 4層	器色：両面橙赤褐色。素地：微砂粒、茶褐色。器・調：回転擦痕、内面は、15本クシを右回りに右下から左上に密に施す。文様：台上部には４ヶ所の穴があいていたと思われる、台下部は二条の沈線がされている。

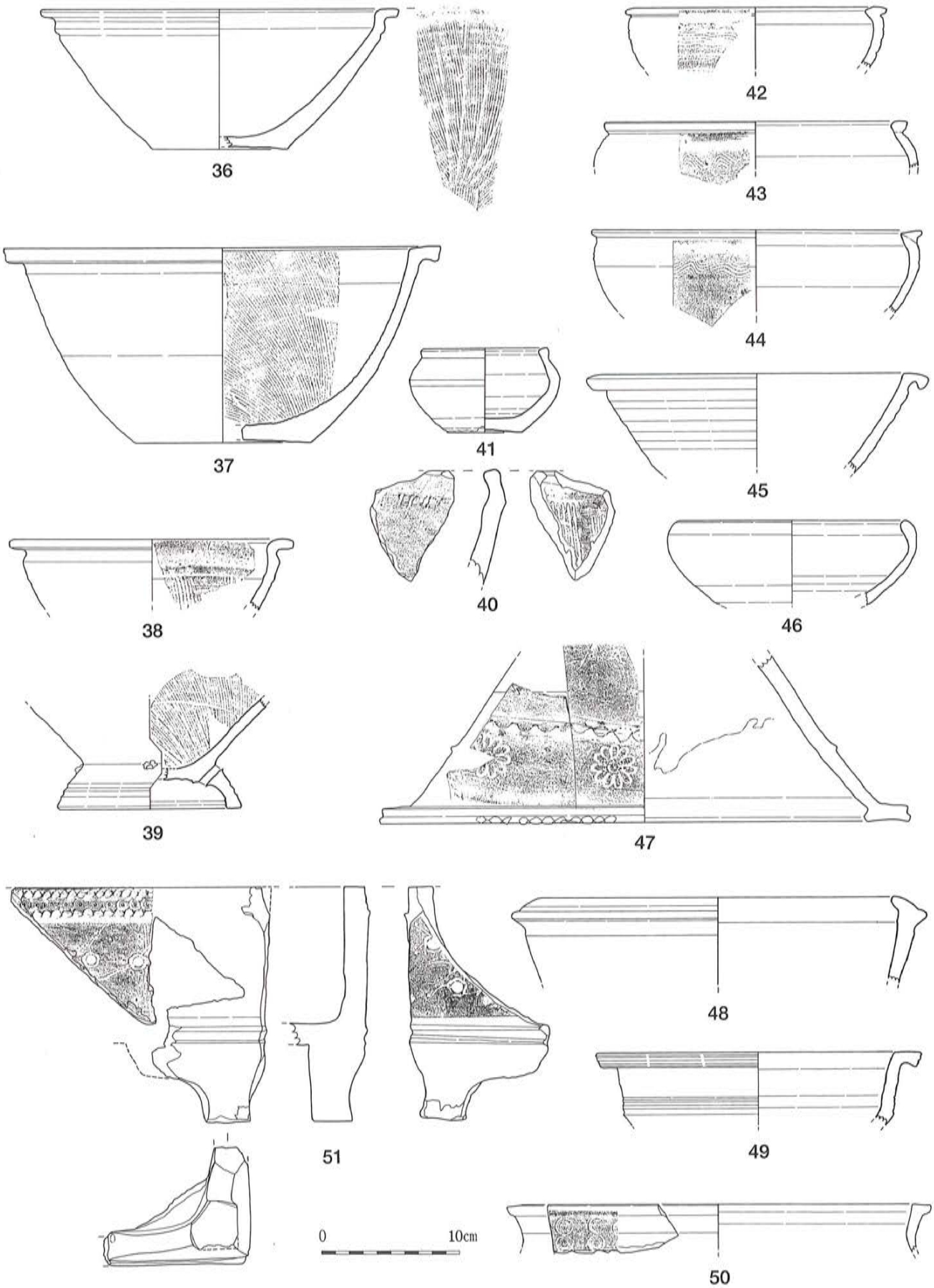
第７表　沖縄産無釉陶器観察一覧

単位：cm

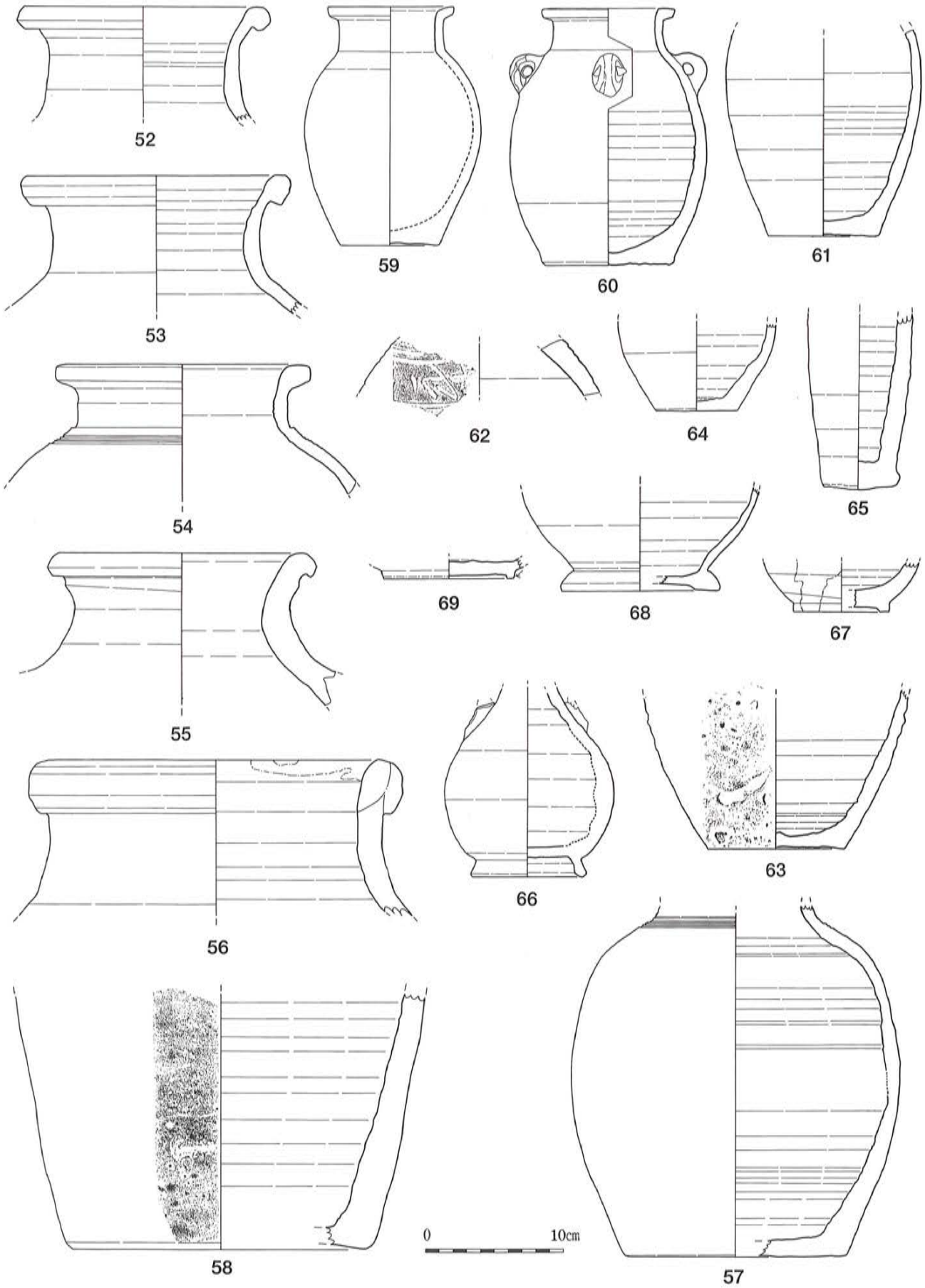
図	番号	器種	部位	口径	器高	底径	出土地	観察事項
第49図・図版25	40	擂り鉢	口	—	—	—	2層	器色：両面淡紫褐色。素地：赤褐色粒子含む、淡赤褐色。器・調：回転擦痕、片口部分は指で広げ成形、外側は広げた際に裂け目がみられる、内面は目の粗い5本クシを間隔をあけて施す。文様：片口部。
	41	鉢	口／底	9	5.9	5.2	Ⅰ　ケ－28　5層下部	器色：外面淡褐色・淡灰色、内面淡灰色。素地：暗灰色の粒子僅かに混入、気泡多く、淡灰色。器・調：轆轤による回転擦痕、外面ナデ消し。
	42		口	18.6	—	—	Ⅲ－Ａ　ツ－19 遺物集中土層	器色：外面は淡茶褐色、内面は暗灰茶褐色。素地：茶色粒子混入、茶褐色。器・調：回転擦痕。文様：胴上部に上から一条圏線、5本組の波状文、間隔をおいた二条の沈線、口唇内側にススが付着。
	43		口	21.6	—	—	Ⅲ－Ｂ　集石遺構周辺	器色：両面暗茶褐色。素地：橙色の粗粒子含む、赤橙色。器・調：轆轤回転擦痕・ナデ消し。文様：胴上部には五条のクシ状工具で波状文が施される。
	44		口	23.6	—	—	Ⅲ－Ｂ　チ－18　3層	器色：外面は茶褐色・暗灰色、内面は淡茶褐色。素地：橙色の粒子・微砂粒混入、茶褐色。器・調：内外面轆轤による回転擦痕をナデ消す。文様：七条沈線の波状文。
	45		口	24.2	—	—	Ⅲ－Ｂ　タ－19　3層	器色：外面暗灰色、内面茶褐色。素地：白砂粒。器・調：轆轤痕、口唇・内面ナデ消し。文様：口縁下に一条の稜がある。
	46		口	16	—	—	Ⅲ－Ｂ　ツ－19集石遺構	器色：両面暗橙色、口唇ススにより一部黒褐色。素地：微砂粒・石英含む、明橙色。器・調：轆轤回転擦痕ナデ消し。
	47	蓋	口	37.6	—	—	Ⅰ　ケ－28　5層＋Ⅰ　ク－28　5層	器色：外面暗茶褐色、内面淡褐色。素地：淡茶褐色に白色土練り込み。器・調：指ナデ回転擦痕。文様：口唇外面と胴に波状凸帯、その間に花文。
	48	鉢	口	25	—	—	Ⅲ－Ａ　コ－19　3層	器色：両面暗茶紫褐色。素地：白砂粒、石英含む、淡赤褐色。器・調：回転擦痕、ナデ消し。文様：口縁外側の上に浅いくぼみ、下に沈線を有す。
	49		口	23.1	—	—	Ⅲ－Ｂ　ソ－19　3層橙褐色遺物集中	器色：内面淡橙色、口縁の一部暗灰色。素地：白砂、橙色粒子、暗赤褐色。器・調：回転擦痕。文様：口唇外面と胴上部に二条ずつ沈線あり。
	50		口	30.2	—	—	不明	器色：外面暗茶褐色、内面淡茶褐色。素地：暗茶褐色、暗灰色、白色土混入。器・調：回転擦痕。文様：口縁に三重丸の印を2列に押す。
	51	香炉	口／底	—	—	—	Ⅰ　表採	器色：暗茶褐色。素地：淡紫褐色に白色土混入。器・調：指ナデ。文様：口縁に二条の波状凸帯を施し、その間に三重丸の印花を列する、胴部には梅の枝花が線刻される。
第50図・図版26	52	壺	口	17	—	—	Ⅰ　カ－28　5層	器色：両面暗褐色。素地：白砂粒・白土が僅かに混入、暗茶褐色。器・調：轆轤回転擦痕、ナデ消し。
	53		口	18.3	—	—	Ⅲ－Ｃ　4層	器色：両面暗茶紫色の釉。素地：微砂粒が僅かに混入。器・調：轆轤による回転擦痕。
	54		口	18.9	—	—	Ⅲ－Ｂ　チ－18　3層	器色：外側暗紫褐色、内側淡茶褐色。素地：茶褐色。器・調：回転擦痕。文様：肩部に二条沈線文。
	55		口	17.6	—	—	Ⅰ　ク－28　5層＋Ⅰ　ケ－28　5層下部	器色：淡紫褐色。素地：外側茶褐色、内側灰色で気泡が多い。器・調：回転擦痕。
	56		口	25.4	—	—	Ⅲ－Ｂ　ソ－19橙褐色遺物溜	器色：外面茶褐色・明橙色、内面明橙色、口唇一部に黄土色の灰釉。素地：石英、白砂粒、茶色粒子含む、暗赤褐色。器・調：回転擦痕、ナデ消し。
	57		胴／底	—	—	16	Ⅲ－Ｂ　集石遺構	器色：外面淡黄褐色、内面赤褐色。素地：暗茶褐色。器・調：外面回転擦痕、内面ヘラ調整。文様：肩部に三条沈線文。
	58		底	—	—	21	Ⅲ－Ｂ　集石遺構	器色：表面・淡茶紫色、内面橙色。素地：暗茶褐色粒子含む、茶褐色。器・調：回転擦痕、内面篦調整、外面ナデ消し。
	59		口／底	9	16.95	8	Ⅲ－Ｂ　ツ－19　3層	器色：茶褐色、暗灰色。素地：茶褐色。器・調：外面回転擦痕、内面轆轤痕。
	60		口／底	9.55	18.5	9	Ⅲ－Ａ　ス－19　3層	器色：外面茶褐色、内面暗灰色。素地：茶褐色。器・調：外面回転擦痕、内面轆轤痕。
	61		胴／底	—	—	8	Ⅲ－Ａ　ス・セ－19 畦	器色：茶褐色、暗茶褐色。素地：茶褐色。器・調：外面回転擦痕、内面轆轤痕。
	62		胴	—	—	—	Ⅲ－Ｂ　ソ－20　3層上面	器色：外面淡紫灰色、内面茶褐色。素地：暗茶褐色。器・調：回転擦痕。文様：二条沈線、一条沈線間に文字らしき線刻あり。
	63		底	—	—	9.8	Ⅲ－Ｂ　集石遺構	器色：黄灰色、暗灰色。素地：暗灰色、茶褐色。器・調：外面回転擦痕、内面轆轤痕。
	64		底	—	—	5.8	Ⅲ－Ｂ　チ－19　3層	器色：外面灰褐色・黄灰色、茶褐色、内面灰色・黄灰色。素地：微砂粒、黒色粒子含む、外側灰褐色、中央茶褐色。器・調：外面回転擦痕、内面轆轤痕、回転擦痕。
	65		底	—	—	5.2	Ⅲ－Ｂ　集石遺構	器色：外面は部分的に褐色、黒褐色、茶褐色、内面は灰茶褐色。素地：外面約5㎜は暗灰色、内側は茶褐色、僅かに微砂粒。器・調：外面は轆轤痕を縦にナデ消すが、キズ・気泡多い、内面は轆轤痕、全体的に雑なつくり。
	66	瓶	底	—	—	8.2	Ⅰ	器色：外面上部は淡黒褐色の薄い釉、下部は暗灰色、内面明灰色。素地：微砂粒含む、淡紫褐色。器・調：両面回転擦痕。文様：気泡が多く、内面で膨脹し破裂している。
	67		底	—	—	6.8	Ⅲ－Ａ　ス－19　3層	器色：外面淡茶褐色、一部灰釉付着、内面茶褐色。素地：微砂粒・石英、黒色・橙色粒子、茶褐色。器・調：外面回転擦痕、内面轆轤痕、回転擦痕、高台内は篦削り。
	68		底	—	—	11.4	Ⅰ　6層	器色：明橙色。素地：明橙色。器・調：回転擦痕。
	69		底	—	—	9.2	Ⅲ－Ａ　コ－19　3層	器色：両面黒褐色に白色粒子、底部赤褐色。素地：赤色粒子わずかに含む、赤褐色。器・調：轆轤痕、底部は篦削り成形。
第51図・図版27	70	鉢	口	27.2	—	—	Ⅲ－Ａ　サ－20　3層東西畦	器色：外面淡橙色、内面明橙色。素地：石英、茶褐色粒子含む、外側明橙色、中央淡橙色。器・調：外面回転擦痕ナデ消しご施文、内面回転擦痕。文様：口縁外面に二条の縄目文、口縁下にかき落としによる花文下に一条の縄目文。
	71		口	35.1	—	—	Ⅲ－Ｂ　ソ－19 橙褐色土遺物溜	器色：外面灰色・灰褐色、内面暗茶褐色。素地：黒色粒子含む、茶褐色。器・調：外面回転擦痕。文様：口縁外面は上から二条の沈線、その下部左側に方形のうずまき状もしくは「四」の印が刻まれ、右側は丸めた土をはり付ける、次に篦で成形の凸帯が一条付される。
	72		口	43.6	—	—	Ⅲ－Ａ　ス－19　3層	器色：外面赤褐色のツヤ無しの釉、内面橙褐色。素地：橙色、黒色粒子含む、茶褐色。器・調：回転擦痕。文様：口縁外面に上から二条の圏線、4本クシによる波状文、その下は段をつけて肥厚。
	73		口	35.4	—	—	Ⅰ　セ－29　7層	器色：口唇中央から外側表面にかけ褐色の釉薄くかかる、外面下部は暗褐色釉、内面は橙色。素地：微砂粒・僅かに気泡あり。器・調：内外面回転擦痕・回転篦削り、のちにナデ消す。文様：口唇外面に二条の沈線。
	74		口	—	—	—	Ⅲ－Ａ　ス－19　3層	器色：両面青灰色。素地：石英・黒色粒子含む、素地の色は外側から青灰色、茶褐色、中央は灰褐色。器・調：外面回転擦痕、篦削り、内面轆轤痕、回転擦痕、文様：口縁外側は篦により稜が付される。
	75		口	31.4	—	—	Ⅲ－Ｂ　タ・チ－19 畦3層	器色：灰褐色。素地：灰褐色、白砂混入。器・調：回転擦痕。
	76		口	—	—	—	Ⅰ　仮トレンチＡ	器色：灰褐色。素地：明灰色。器・調：前面ヘラ削り。文様：口縁に突起。
	77	甕	口	36.2	—	—	Ⅲ－Ｃ　赤褐色土	器色：両面灰褐色。素地：黄色の土が僅かに暗赤褐色の素地中にねり込まれている。器・調：轆轤回転擦痕を篦削りにより成形、ナデ消し。
	78		口	43.4	—	—	Ⅰ　タ－19　3層橙褐色土遺物集中	器色：両面茶褐色。素地：黒色および橙色の粗粒子含む、橙色。器・調：回転擦痕、篦削り調整、ナデ消し。文様：口縁下部は二条の沈線が太く刻まれる。
	79	壺	底	—	—	—	Ⅰ　ケ－28　5層下部	器色：外面暗紫褐色、内面淡褐色。素地：暗茶褐色中に淡灰色、気泡が多く膨脹する。器・調：内面ヘラ調整。
	80	その他	つまみ	7.7	—	—	Ⅰ　ケ－28　5層下部	器色：暗茶褐色。素地：橙褐色。器・調：回転擦痕。文様：頂部は平坦に成形。
	81			—	—	—	Ⅲ－Ａ　南側2層	器色：淡橙色。素地：淡橙色、微砂粒。器・調：ヘラ調整。文様：漆喰が付着。幅8㎝、高さ3.7㎝
	82			—	—	—	Ⅰ　シ－32　7層 畦	器色：暗灰色。素地：茶褐色。器・調：ヘラ削り成形。最小幅2.8㎝
	83			—	—	—	Ⅰ　オ－29　6層	器色：明灰色。素地：灰白色。器・調：ヘラ削り。
	84			—	—	—	Ⅱ　赤褐色土 北側斜面	器色：茶褐色。素地：赤褐色。器・調：ヘラ削り、指ナデ。文様：彫りの深い顔が丁寧に作られる。最大幅7.4㎝
	85			—	—	—	不明	器色：黄灰色。素地：灰色。器・調：ナシ。文様：牛の頭部、角は破損。長さ5.8㎝、最小幅2㎝
	86			—	—	—	Ⅰ　キ－26　5層	器色：暗紫褐色。素地：橙褐色。器・調：指ナデ。文様：人のつま先、破損部から焼成時に割れたことがわかる。幅6.2㎝
	87			—	—	—	Ⅲ－Ａ　2層南側	器色：暗灰色、橙褐色。素地：橙褐色。器・調：ナデ。文様：魚の鱗を線刻。
	88			—	—	—	Ⅰ　キ－29　6層	器色：暗橙褐色。素地：橙褐色。器・調：ヘラ調整。文様：両面の端に一条ずつ沈線を施す。



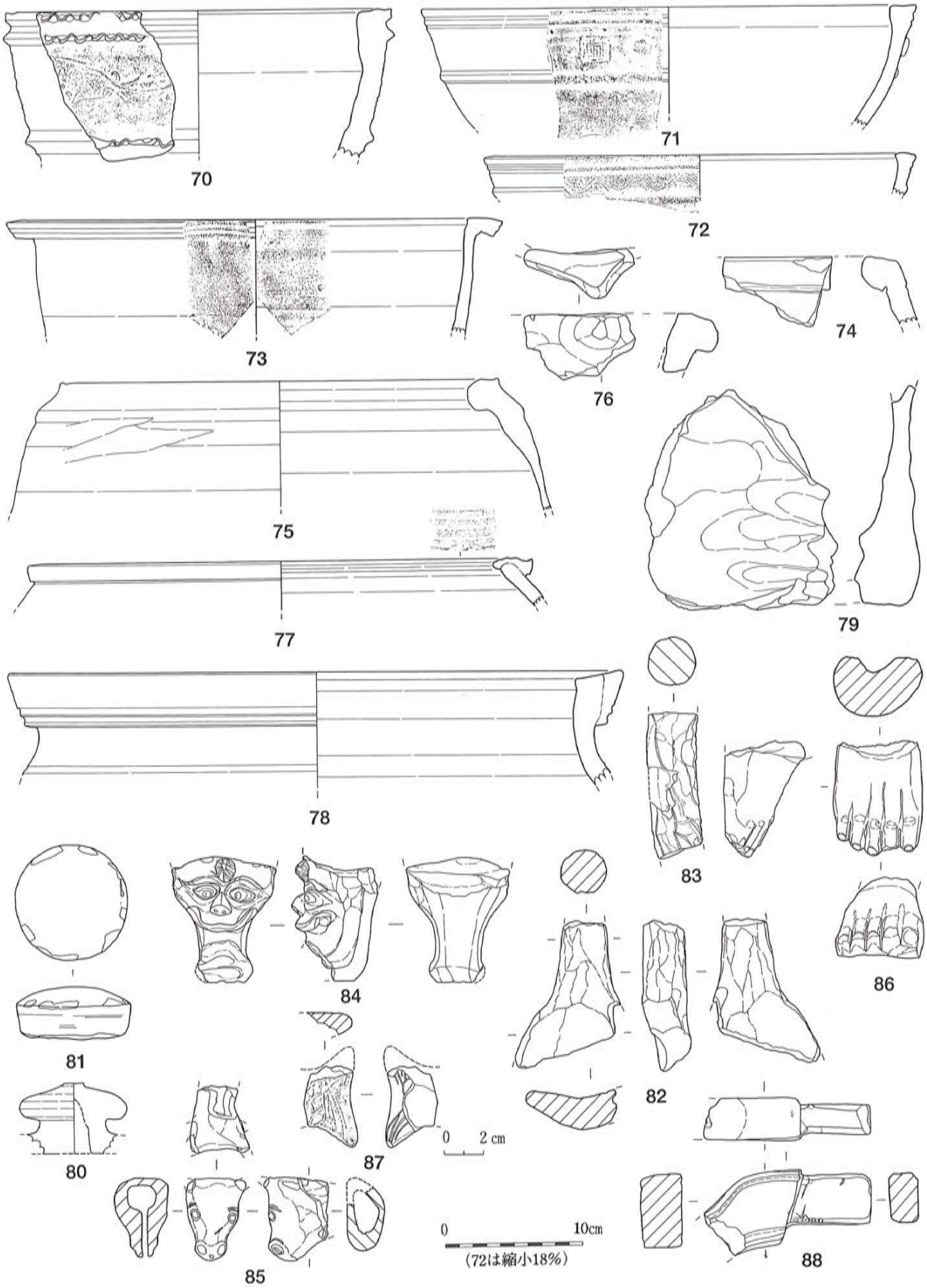
第48図　沖縄産無釉陶器（1）碗・皿・急須・火取・その他



第49図　沖縄産無釉陶器（2）擂り鉢・鉢・蓋・その他



第50図　沖縄産無釉陶器（3）壺・瓶・その他



第51図　沖縄産無釉陶器（4）大鉢・甕・その他

第16節　陶質土器

陶質土器は壺屋で「アカムヌー」と称される製品で、橙褐色・黄褐色を呈するものが占める。素地は微細な粒子で構成され雲母粒をはじめとした混入物がみられる。焼成は良好な製品もあるが多くは表面がざらつき、触れると粒子が付着する。無釉の製品がほとんどだが、灰釉や赤茶色・白色の化粧土が施されたものも若干みられる。

器種は土鍋や灯明皿・火炉など直接火にかかるものが多く、ほかに皿・鉢・急須などの轆轤引きによる器物から手捏ね成形の鈴や人形などに至るまで、様々な製品が製作されている。このなかには既に報告されている行政棟・議会棟の調査で得られていない器種も含まれている。ここでは器種ごとの概要を記し、個々の特徴については第８表の観察一覧に記した。

口縁部１は厚手の直口皿で、口唇はわずかに尖る。内外面とも轆轤痕が目立つが丁寧に成形される。底部２はベタ底で、口縁部同様に轆轤痕がみられる。ベタ底の皿は口縁付近に煤が付着している資料が多数みられることから、多くは灯明として制作されていたと考えられる。３に示した皿は高台を付し、口縁付近に灰釉を施しているが、内外面に煤が付着しているので４と同じく灯明としての用途が考えられる。いずれの資料も厚手で口縁は若干内湾させ、口唇は丸く成形される。５はベタ底の小皿で前記した皿４の径を小さくし、口縁をさらに内湾させたような器形をしている。

６～８は土鍋で多く出土している器種のひとつである。基本形は蓋受けの機能を有する鍔状の口縁が、外側に「く」の字状に折れた状態で付く。口頸２ヶ所に断面丸形の粘土ひもを貼付した把手が付けられるタイプがある。把手は６の下向きと７・９・10の上向きがある。11は土鍋の把手で胴中央付近に付くものと考えられる。轆轤引きにより筒状に成形され、付け根部分より末端部が若干広がる。胴部は６・８のように口頸から真っ直ぐに落ちるものと、７・９に示した丸く張るものとがある。底部は図示していないが、概ね丸味を持っていたものと考えられる。

12・13 の鉢は、口縁部を厚手に成形し内湾させている。12のように胴上部に波状文を巡らせるものが多い。胴部が薄くなる傾向から、底部は２のような形状になると考えられる。

14～21に示した火炉は、陶質土器の中でも鍋に次いで多く出土しており、円形と方形のものがある。円形の火炉は口縁が、ａ.「く」の字に内傾するタイプ（14）と、ｂ．直口気味のもの（17・20）、ｃ．逆「L」字（19・21）があり、胴部２ヶ所に横位に有孔の把手を貼付する例（21）もある。18は方形の火炉の脚部と思われる資料で、形態から４本あったと推される。なお、円形火炉の口唇・胴部には回転させながら白化粧土で圏線を数条施文するもの（19）がある。

急須（22～25）は薄く轆轤引きされ、口縁部は玉縁状に成形されている。口頸２ヶ所につり手を結わえる有孔把手が縦位に付き、胴中央には輪積み痕のみられる注口が斜めに付けられる。

瓶の脚部と推測できる資料を26に示した。轆轤引きにより断面「ハ」状、下部は沈線を一条巡らして段を成し、わずかに肥厚させる。

27・28 は小型の壺で、口縁部付近と底部が得られている。いずれも轆轤引きで薄く仕上げられ、口縁は玉縁状、頸部は直に落ちて肩へと広がる。底部は胴から斜めにまっすぐ下がり、角を付けて畳付けに至る。

鉢か甕の口縁部と思われる29の資料は、厚手に轆轤成形され、口縁は逆「L」字状で上面はわずかに丸く調整される。口頸は緩やかなカーブを描くが、胴部への移行は不明。

蓋（30～32）は次の３形態がある。30は皿に似るが、皿でいう高台部の角度が外反気味でつまみやすくなっている点から蓋としている。31の資料は、頂部に断面菱形の撮みを付けた蓋で、雨傘状にカーブしている。底面はズレ防止のための脚が高台状につけられる。32は大型で厚手に成形されるが形態は31の撮みが無いタイプで、上面には二条一組の沈線文が二組施され、赤茶色の化粧土が掛けられる。化粧土は厚く掛かっており部分的に剥落している。

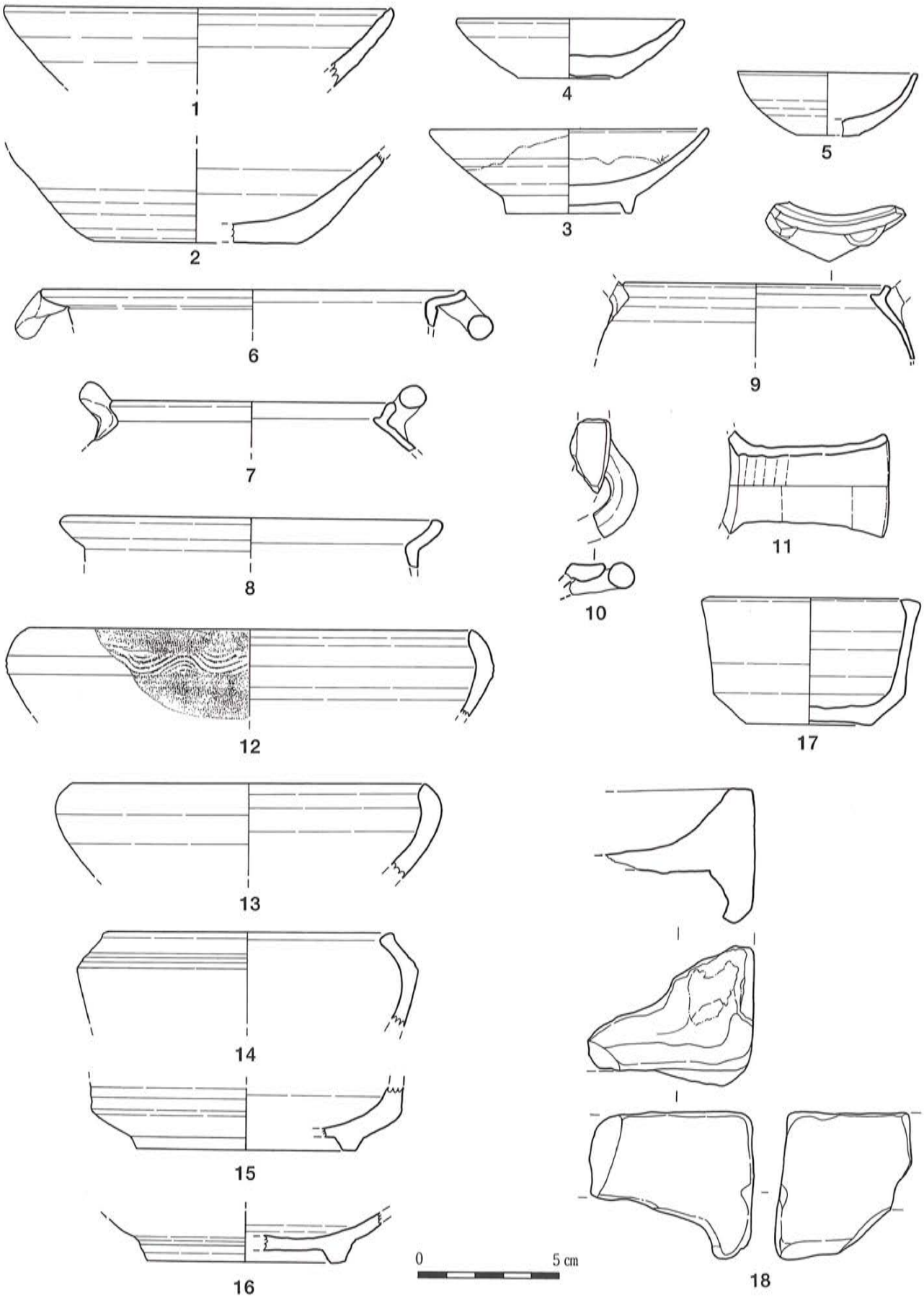
33～36の資料は手捏ね成形によるものだが、色調や素地がこれまでの製品と類似することから、土製品とせず本節で扱うこととする。33は動物の脚と考えられる資料で篦削り成形され、つま先は縦に三条の線刻を施すことで４本の指を数えることができる。34は建物の屋根の一部で、半裁竹管状工具の内側を利用して丸瓦が葺かれた状態が表現されている。35・36 は鈴の柄の部分と推察される資料で、２点とも先端の断面は尖り、ひもを通すための孔を有する。35は厚手の丸い扇状、36は薄手で角を取ったバチ形を呈する。

第8表　陶質土器観察一覧

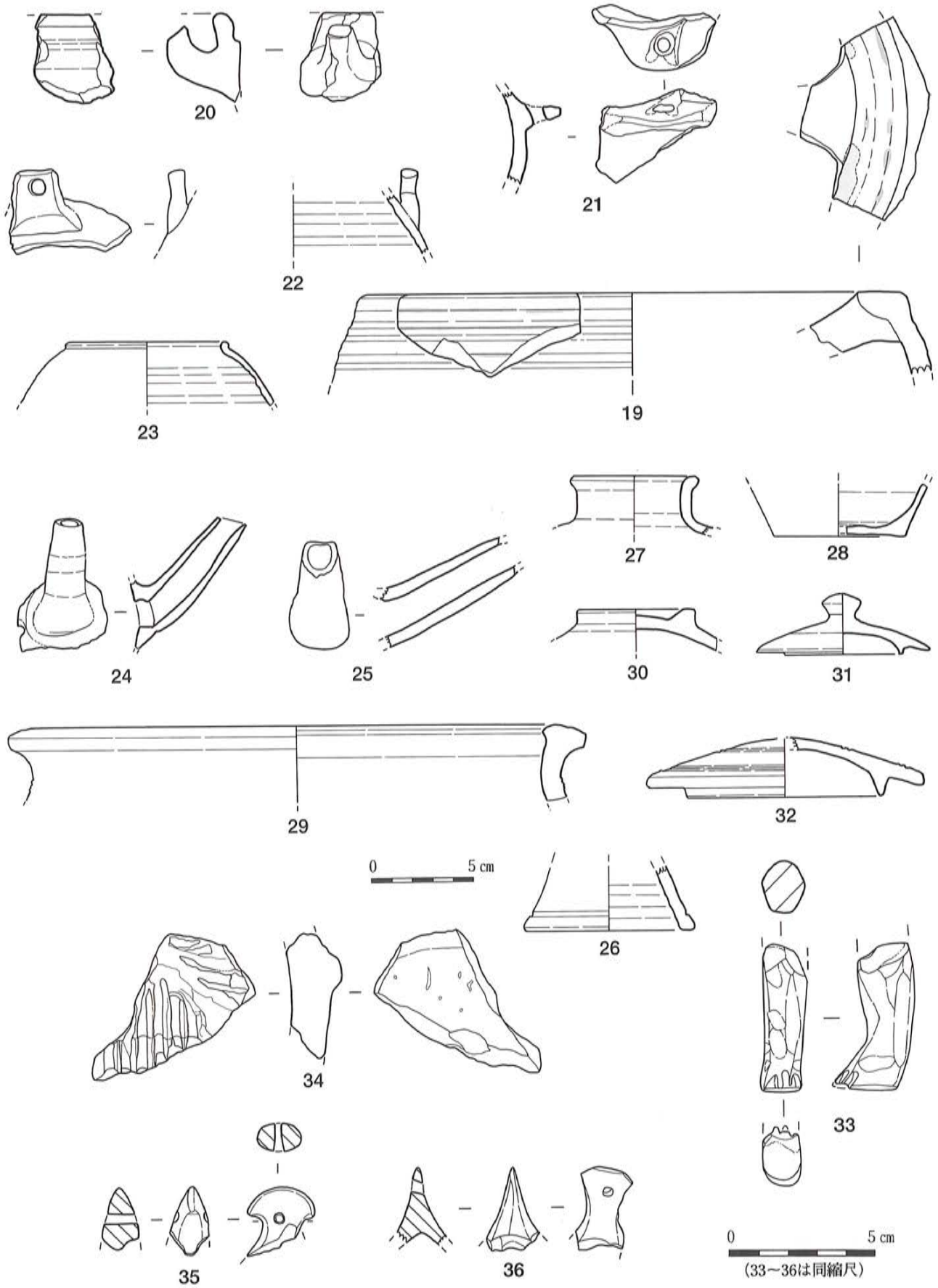
単位：cm

図	番号	器種	部位	口径	器高	底径	出土地	観察事項
第52図・図版28	1	皿	口	19.4	—	—	不明	器色：橙褐色。素地：赤褐色粒子。器・調：内外面轆轤痕、回転擦痕。文様：なし。
	2		底	—	—	10	Ⅰ　セ−30	器色：内−淡褐色、外−淡橙色。素地：橙色・白色粒子、内−淡褐色、外−淡橙色。器・調：内外面轆轤痕、回転擦痕。文様：なし。
	3		口／底	13.7	4.1	6.1	Ⅲ−B　集石遺構周辺	器色：淡褐色地に淡黄色釉。素地：淡橙色。器・調：回転擦痕。文様：内・外面にスス付着、口縁の内外面に灰釉を施す。
	4		口／底	11.2	2.9	5	Ⅲ−B　集石遺構	器色：暗橙褐色。素地：暗橙褐色。器・調：回転擦痕、外底面はヘラ削り。文様：内外面スス付着、素地も黒色化。
	5		口／底	9	3.1	3	Ⅲ−B　チ・ツ−19　畦	器色：暗茶褐色。素地：灰色・橙色。器・調：回転擦痕、外底面はヘラ削り。文様：口唇部のみスス付着。
	6	鍋	口	22	—	—	Ⅰ　セ−28　畦	器色：淡橙色。素地：淡橙色、赤色粒子。器・調：回転擦痕。文様：なし。
	7		口	13.6	—	—	Ⅲ−B　集石遺構周辺	器色：淡橙色。素地：淡橙色、赤色粒子。器・調：回転擦痕、把手接着部に指圧痕。文様：把手部にスス付着。
	8		口	18	—	—	Ⅰ　セ−28　7層	器色：淡橙色。素地：淡橙色、橙色粒子。器・調：回転擦痕。文様：なし。
	9		口	13	—	—	Ⅰ　キ−28　4層	器色：淡橙色。素地：淡橙色、橙色粒子。器・調：回転擦痕。文様：なし。
	10		耳	—	—	—	Ⅲ−B　チ−19　3層	器色：赤茶褐色。素地：赤茶褐色、白砂多く含む。器・調：回転擦痕。文様：なし。
	11		把手	—	—	—	Ⅲ−B　集石遺構周辺	器色：淡橙褐色。素地：内−淡褐色、外−淡橙褐色、橙色粒子。器・調：回転擦痕。文様：なし。幅5cm　長さ8cm
	12	鉢	口	22	—	—	Ⅰ　セ−30　7層	器色：淡橙褐色。素地：淡橙褐色、茶褐色粒子。器・調：回転擦痕。文様：外面に6本クシ目の波状文。
	13		口	17.4	—	—	Ⅲ−B　ソ−20　3層	器色：内−橙褐色、外−淡橙褐色。素地：内−明橙色、外−淡橙褐色。器・調：内外面轆轤痕。文様：なし。
	14	火炉	口	14	—	—	Ⅰ　タ−19　畦	器色：淡橙色。素地：淡橙色、暗赤褐色粒子。器・調：回転擦痕。文様：口縁下部を「く」の字状に成形し、二条の沈線をめぐらす。
	15		底	—	—	11	不明	器色：淡橙褐色。素地：内−淡褐色、外−淡橙色。器・調：回転擦痕、轆轤痕。文様：なし。
	16		底	—	—	10	Ⅲ−A　サ−19　3層	器色：橙褐色。素地：内−明灰色、外−橙褐色、橙色粒子。回転擦痕、轆轤痕。文様：なし。
	17		口／底	10	6.2	6.2	Ⅲ−B　集石遺構	素地：橙褐色。器・調：回転擦痕、胴下半部ヘラ削り。文様：口唇、外面、底部にスス付着。
	18		底	—	—	—	Ⅲ−A　2層　南側	素地：淡橙褐色。器・調：4手捏ねによる擦痕。文様：火炉の脚部と思われる、黄白色の漆喰らしきもの付着。
第53図・図版29	19		口	26.6	—	—	Ⅲ−A　コ−19　3層	器色：淡橙褐色。素地：淡橙色、橙色粒子。器・調：回転擦痕。文様：外面に不明瞭な白化粧土による圏線が数条。
	20		口	—	—	—	Ⅰ　セ−28　7層	器色：淡橙色。素地：淡色粒子。器・調：回転擦痕、轆轤痕。文様：口縁外面をくぼめて段を形成内側に上向きの突起がつく。
	21		耳	—	—	—	Ⅰ　キ−29　3層	素地：橙褐色。器・調：回転擦痕。文様：外耳の穴は上部から開け、下部のバリはつぶして成形。
	22	急須	耳	—	—	—	Ⅰ　セ−29　4層	素地：橙褐色。器・調：内面轆轤痕。文様：外耳は方形に成形。
	23		口	7.7	—	—	Ⅰ　黄土山	素地：橙褐色。器・調：内面轆轤痕。文様：口唇断面は玉縁状。
	24		注口	—	—	—	Ⅰ　黄土山	器色：淡橙褐色。素地：橙褐色。器・調：内面−回転擦痕、注口−輪積み痕。文様：注口部は上に少し湾曲し、先端は平たくカットされる。最大径2cm
	25		注口	—	—	—	Ⅰ　シ−30　7層	器色：淡橙褐色。素地：橙褐色。器・調：指ナデによる擦痕。文様：なし。最大径2cm
	26	瓶	脚	—	—	8.4	Ⅰ　キ−27　4層　北側	器色：淡橙褐色。素地：橙褐色。器・調：内面轆轤痕。文様：外面下部に一条の圏線。
	27	壺	口	6.2	—	—	Ⅰ　シ−30　7層　畦	器色：淡褐色地に橙茶褐色化粧土。素地：内−明灰色、外−淡橙褐色。器・調：回転擦痕。文様：口唇から外面にかけて橙茶色の化粧土。
	28		底	—	—	6.4	Ⅰ　ソ・タ−19　畦	器色：淡橙褐色。素地：内−淡黄褐色、外−淡橙褐色、赤色粒子。器・調：内−轆轤痕、外−ヘラ削り。文様：なし。
	29	鉢	口	27.9	—	—	Ⅰ　コ−27　4層	器色：淡橙色。素地：淡橙色、橙色粗粒子多い。器・調：回転擦痕。文様：なし。
	30	蓋	底	—	—	5.8	Ⅰ　ソ−31　2層　遺物溜まり	器色：淡橙色。素地：淡橙色、橙色粗粒子多い。器・調：外−轆轤痕。文様：なし。
	31		摘み	8.8	2.7	6.2	Ⅰ　ス−27　4層	器色：橙灰色。素地：橙灰色。器・調：外−ヘラ削り。文様：上部に断面がヒシ型の摘みを付す。
	32		口／底	13.3	2.85	9.4	Ⅰ　セ−26　7層＋セ−29　5層	器色：淡橙褐色地に橙茶色化粧土。素地：淡橙色。器・調：回転擦痕。文様：上部に二条一組の圏線が2組。
	33	型物		—	—	—	Ⅰ　エ−31　2層	素地：淡褐色。器・調：手捏ね、指部はヘラで成形。文様：動物の足か、指は4本みられる。
	34	その他		—	—	—	Ⅰ　シ−30　7層	素地：淡褐色。器・調：U字状の工具で瓦を表現。文様：瓦ぶきの建物の屋根と思われる資料。
	35			—	—	—	Ⅰ　ケ−30　3層	器色：橙褐色。素地：淡褐色。器・調：手捏ね。文様：土鈴の柄の部分か、扇状に成形。
	36			—	—	—	Ⅰ　チ−30　3層	素地：淡褐色。器・調：手捏ね。文様：土鈴の柄の部分か、バチ状に成形。

注「出土地」の項、「＋」は接合の意



第52図　陶質土器（1）皿・鍋・鉢・火炉



第53図　陶質土器（2）火炉・急須・瓶・壺・鉢・蓋・型物・その他

第17節　瓦質土器

瓦質土器は行政棟、議会棟に重なるものが多く、器種はこれら２ケ所の報告書を参考に植木鉢、擂り鉢、鉢、壺、火炉、竈、香炉、蓋、瓶、型物などに分類した。

植木鉢：小型（１～５・７）と大型（８～15）に分けられる。小型の１～７は基本的には口縁が内湾し、口縁に二～三条と胴下部に一条の波状凸帯文、その間に草花文の浮文を配する構成で、胴下部は無文になる。草花文は数種類がある。菊花文（１、３、４）と牡丹文（２、５～７）があり、他に数種類がみられる。大型のものは方形と円形がある。方形と考えられるものは６と10である。６は胴部で小型の７と類似の文様が施される。10は直口口縁で口縁の角に斜めに羽状文を施す。円形は内湾する８、９、11である。８と11は文様があり、８は複葉、11は三条の波状凸帯文ある。14は胴下部に波状凸帯文が施され、11か13の胴部と考えられる。15は「L」字の口縁で口唇上部に雷文の浮文を施し、口唇は波状凸帯を施すもので、県内ではじめての出土である。

擂り鉢：湧田古窯跡行政棟・議会棟で細かく分類しているので今回は図示を省略した。

鉢：深鉢と浅鉢に分けられる。深鉢は16と17で16は擂り鉢と同じタイプで口縁は「く」の字に曲がる。17は内湾する。22は口唇部を波状につくったもので形態は逆「ハ」状にひろがる。23は同じように波状口縁であるが胴部は真っ直ぐである。24も逆「L」字の口縁だが胴上部は「く」の字に曲がる。25は24と同じ口縁で39cmを測ることから甕としてもよい。胴上部に浮文で花の文様を施す。26は底部で上げ底になる。

浅鉢：18～21である。18は内湾し、沈線文を施す。19は前者に近いが、口縁は直口気味である。20は厚手で色も赤味を帯び、外面に縦に沈線を施す。底部も胴部に対して薄くなる。21は直口口縁で外面に文様、文字か絵らしきものが確認できる。27は小鉢で口縁は「く」の字に湾曲する。壺の第55図29は外反、同図30は直口の小壺、同図31は無頸の壺である。

香炉：32、33は円形で、32は浅い脚付き、33は小型で内唇に段を有することからふた付きの可能性も考えられる。外面は黒色で塗布したと思われる。34、35は方形の香炉でいずれも脚を有する。34は脚が逆台形状を呈し、35は中央に円を描くように３回抉り、装飾する。さらに身の部分には二条の沈線で輪郭をとる。

蓋：49のみで側面が略台形状の撮みを持つものである。数種類があるが、前２報告にないものを図示した。

火炉：議会棟で竈、炉としたもので、円形、方形＋楕円形、方形の形が予想される。第56図36は円形の火炉で口縁部は肥厚する。第56図37は脚直径53×42㎜と太く安定し、器高が7.9cmと低いことから竈の焚き口と考えられる。第56図38はしきりのあるもので手前は楕円になり、底部は脚を有する。39、41、44は喜友名貝塚[註12]タイプで39は楕円形をした竈の胴部、41の竈の部分は口唇が肥厚し、内部に炉の突起を持つ。44の焚き口の部分になる。40、42、43は一つのタイプで40は底の部分で脚を有し、42は口が直口となり、突起は縦位に装着する。大きさは破損しているため不明。43は胴部の部分で38と同じように馬蹄形に湾曲する。45、46は一つのタイプと考えられ、45は直径43cmの大型の竈と考えられ、底は若干くびれるように立ち上がる。46はおそらく、これの脚と考えられるもので、縦に太い溝が走る。47も脚と思われる。器面調整が気になる。48は方形で脚はコーナーに位置する。

第55図28は鍔を有するもので口縁、底部は破損するが、行政棟の茶釜に類似する。第57図50は瓶の胴部と考えられる。行政棟[註13]の漏斗（第93図49）の可能性も考えられる。同図51は底部で上面に轆轤痕を持つことから瓶の底部の可能性も考えられる。同図52は鍔を持つ円柱状で蓋と考えられる。

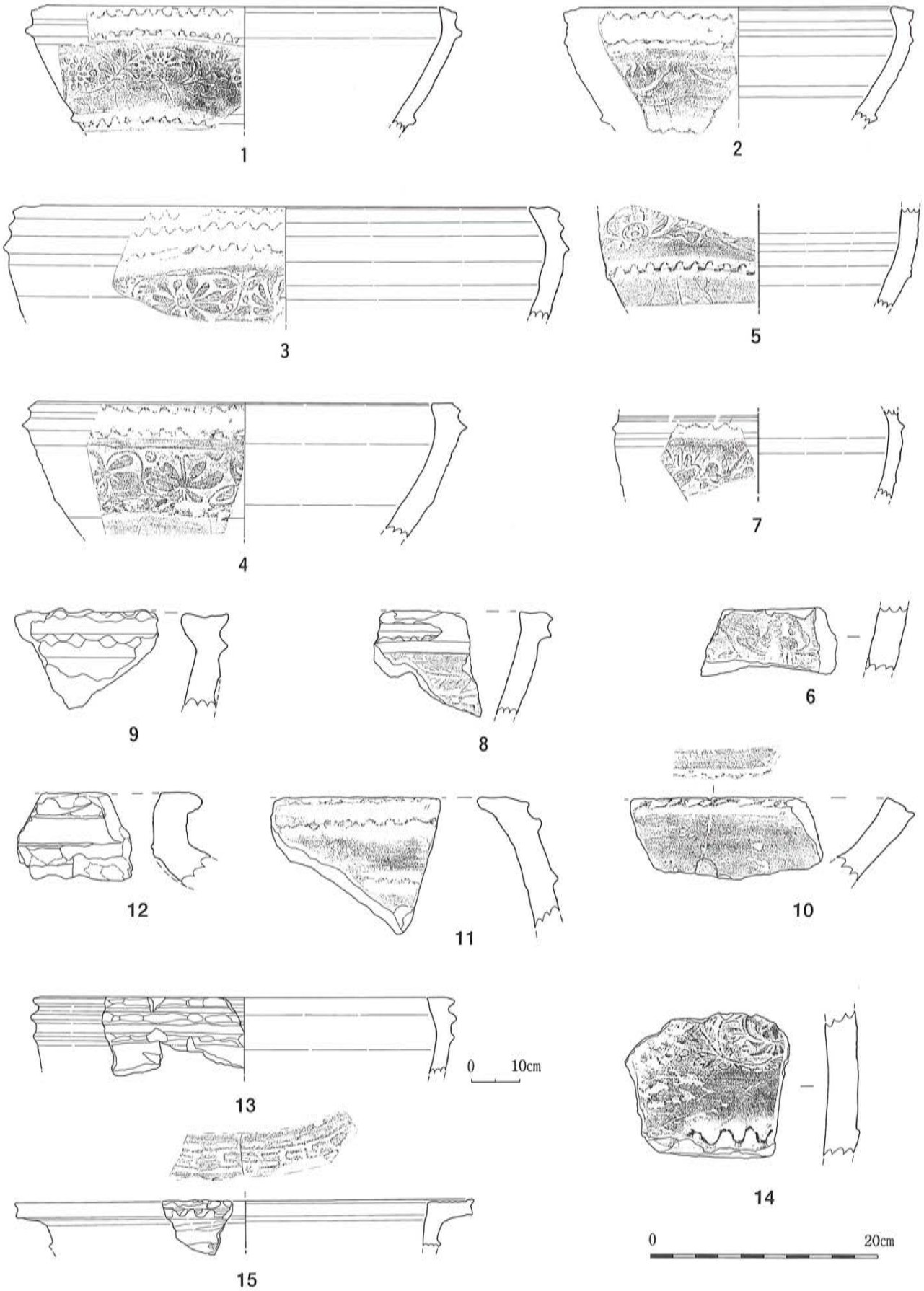
第９表　瓦質土器観察一覧

単位：cm

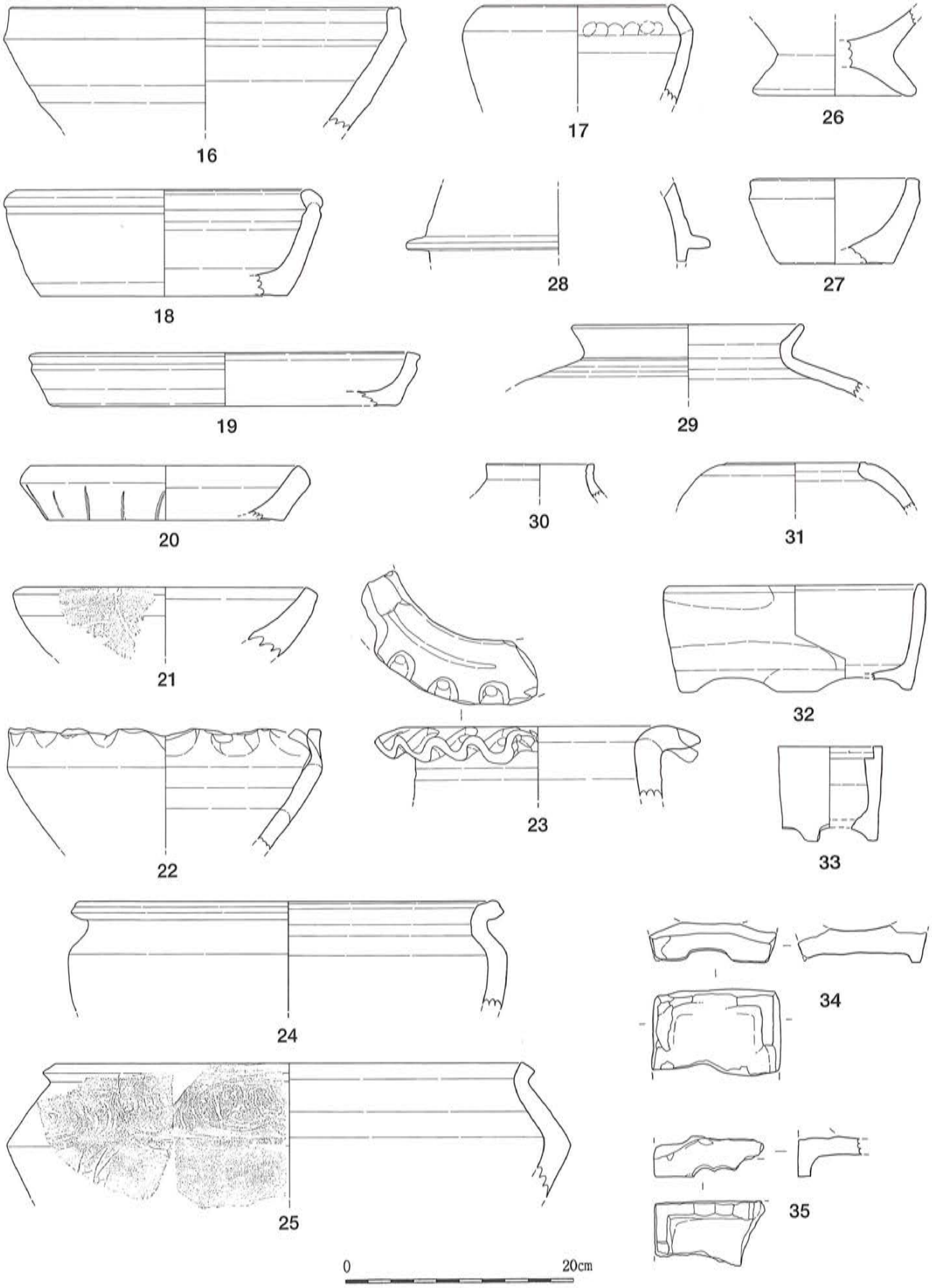
図	番号	器種	部位	口径	器高	底径	形態的特徴	出土地
第54図・図版30	1	植木鉢	口	37.0	－	－	色調：内外－紫灰色。テンパー：雲母、白色粒が少量。焼成良好。内外：ヨコナデ。器厚12.5㎜	Ⅰ ケ－28 5層
	2		口	30.6	－	－	色調：灰褐色。テンパー：雲母、茶褐色粒。焼成良好。内外：ヨコナデ。器厚16.7㎜	Ⅰ コ－28 5層
	3		口	45.7	－	－	色調：外－灰色、内－淡灰色。テンパー：雲母、茶～赤褐色粒。焼成やや良い。内外：ヨコナデ。器厚16.6㎜	Ⅰ ク－28 5層
	4		口	36.4	－	－	色調：内外－茶褐色、中－灰色。テンパー：赤褐色粒、雲母。焼成良好。内外：ヨコナデ。／器厚19.8㎜	Ⅰ コ－28 5層
	5		胴	－	－	－	色調：内外－茶褐色。テンパー：雲母、赤褐色粒。焼成良好。内外：ヨコナデ。器厚17.6㎜	Ⅰ ケ－28 5層下部
	6		胴	－	－	－	色調：灰褐色、内－赤褐色。テンパー：赤褐色粒、雲母。焼成良好。内：ヨコナデ。／器厚24.4㎜	Ⅰ カ－27 3層 b
	7		胴	－	－	－	色調：内外－淡灰褐色。テンパー：雲母、赤褐色粒。焼成かなり良好。内外：ヨコナデ。器厚14.2㎜	Ⅲ-B ソ-19 橙褐色土遺物溜
	8		口	－	－	－	色調：内外－橙褐色、中は灰色。テンパー：雲母、石英、赤褐色粒、焼成良好。外：ヨコナデ。／器厚17.8㎜	Ⅰ 6層 グリッド不明
	9		口	－	－	－	色調：内外－淡灰褐色。テンパー：雲母、黒褐色粒。焼成良好。内外：ヨコナデ。器厚24.6㎜	Ⅰ ケ－28 5層
	10		口	－	－	－	色調：外－黒灰色、内－灰色。中－灰色、サンドイッチ状。テンパー：雲母、赤褐色粒。焼成やや良い。内外：ヨコナデ。／器厚26.6㎜	（地区層）不明
	11		口	－	－	－	色調：外－灰褐色、内－灰～淡灰褐色。中－黒色。サンドイッチ状。テンパー：雲母、黒褐色粒、アバタ。焼成ややもろい。内外：ヨコナデ。器厚25.0㎜	Ⅰ サ－28 5層

単位：cm

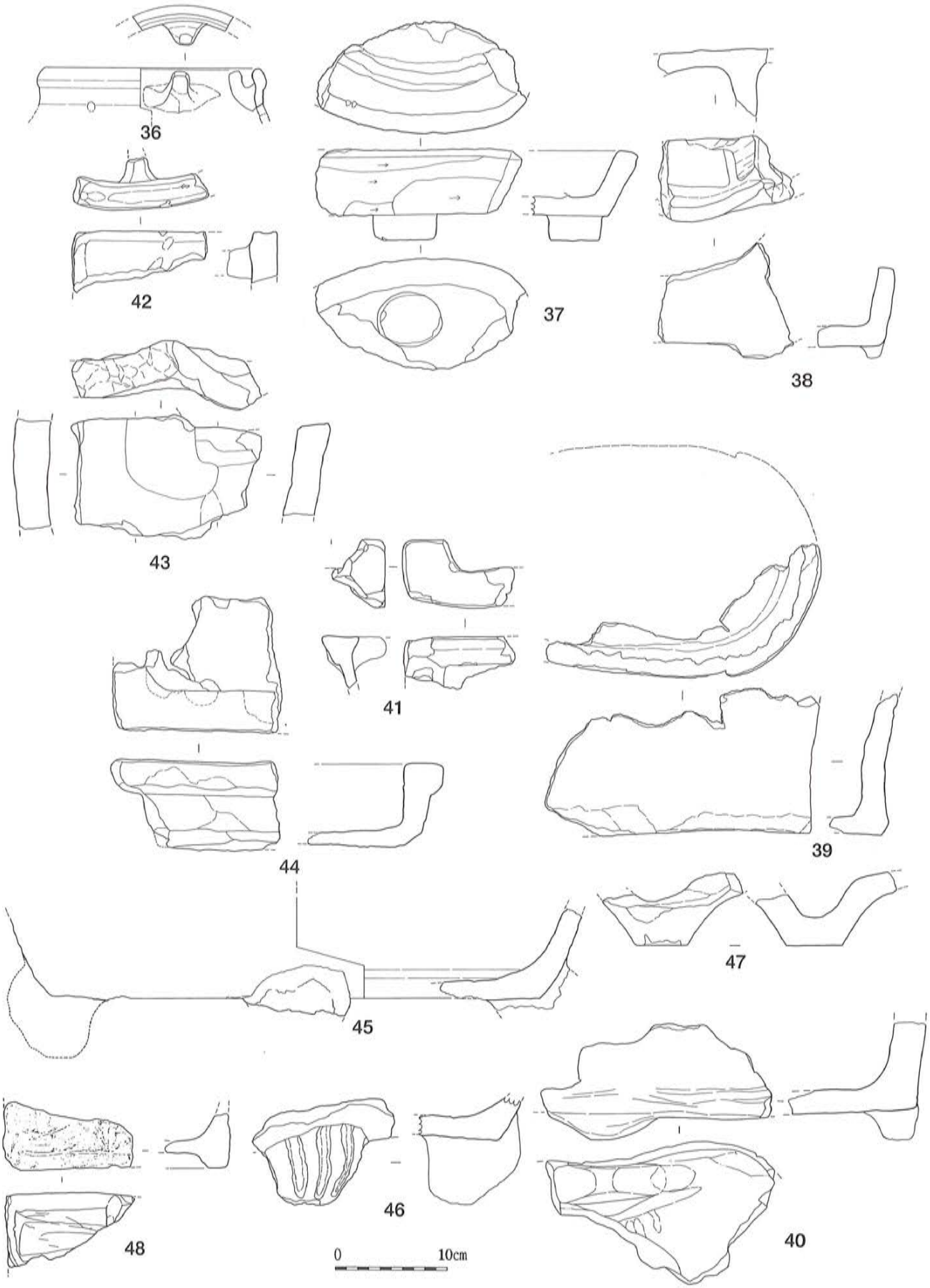
図	番号	器種	部位	口径	器高	底径	形態的特徴	出土地
第54図・図版30	12	植木鉢	口	—	—	—	色調：内外ー淡灰褐色。中ー黒褐色のサンドイッチ状。テンパー：雲母、黒色粒少量。焼成良好。内外：ヨコナデ。／器厚28.7㎜	Ⅰ カー28 5層
	13		口	87.2	—	—	色調：内外ー赤褐色。テンパー：砂細粒を少量。焼成良好。内外：ヨコナデ。器厚29.4㎜	Ⅰ キー29 5層
	14		胴	—	—	—	色調：外ー暗灰褐色、内ー淡灰褐色。テンパー：雲母、黒褐色粒、赤褐色粒。焼成良好。内外：ヨコナデ。／器厚27.4㎜	Ⅰ ケー28 5層下部
	15		口	40.1	—	—	色調：内外とも灰褐色、中は赤褐色。テンパー：雲母、黒褐色、赤粒ー少量混入。焼成やや脆い。内外：ヨコナデ。器厚12.0㎜	Ⅱ チー32 6層
第55図・図版31	16		口	32.0	—	—	色調：内外ー灰褐色中ー暗灰褐色でサンドイッチ状。テンパー：雲母、石英。焼成良好。内外：ヨコナデ、口唇ー指ナデ、胴下部ヘラ削り。／器厚16.7㎜	Ⅰ ケー28 6層
	17	深鉢	口	15.6	—	—	色調：内ー灰色。テンパー：雲母、茶褐色粒。焼成良好。外：ヨコナデ、内ー肩部に指痕顕著、他はヨコナデ。器厚11.7㎜と薄手	Ⅱ ターー31 南北トレンチ
	18	浅鉢	口/底	24.2	8.6	20.2	色調：内：暗灰色、外：灰色。テンパー：若干雲母。焼成良好。内外：ヨコナデ。／器厚12.6㎜	Ⅰ クー29 5層
	19		口/底	32.0	4.3	28.8	色調：内外ー灰色、テンパー：黒粒、砂質。焼成やや脆い。内外：ヨコナデ、器面剥落。器厚10.9㎜	Ⅲ-A セ-19 3層遺物集中南東すみ
	20		口/底	23.8	4.4	19.4	色調：内外ー赤褐色、中は茶褐色、サンドイッチ状。テンパー：雲母、赤褐色粒。焼成良好。内外：ヨコナデ。器厚18.3㎜	Ⅰ シー27 5層
	21		口	25.0	—	—	色調：内外ー灰褐色、中ー暗灰色。テンパー：茶褐色粒、雲母細粒。焼成やや脆い。内外：ヨコナデ。／器厚15.4㎜	Ⅰ ケー28 5層下部
	22	鉢	口	25.8	—	—	色調：内外ー明灰色。テンパー：雲母、赤～茶褐色粒。焼成良好。内外：ヨコナデ。器厚16.2㎜	Ⅱ ソー31 瓦集中部2
	23		口	26.8	—	—	色調：内外ー淡灰色。テンパー：雲母、黒～茶褐色粒、少量混入。焼成良好。内外：ヨコナデ、器面は細かい。器厚20.1㎜	Ⅰ セー28 褐色土波状
	24		口	35.6	—	—	色調：外内面とも灰色。テンパー：細かい気泡、雲母、黒粒。焼成良好。内外：ヨコナデ。器厚15.4㎜	Ⅱ 石垣斜面下
	25		口	39.8	—	—	色調：内外ー赤褐色（塗り）、下部ははげている。テンパー：雲母、石英粒、赤褐色粒。焼成良好。内：ヨコナデ。器厚：胴部19.3㎜	Ⅰ ケー28 5層下部
	26		底	—	—	13.3	色調：灰色、テンパー：雲母、黒褐色粒。焼成やや脆い。外ーアバタ、内ーアバタ、ヨコナデ。／器厚9.5㎜	Ⅱ セー30 石垣の下
	27	小鉢	口/底	13.8	6.9	9.4	色調：灰色。テンパー：雲母、茶～赤褐色。焼成はやや良い。内外：ヨコナデ。器厚14.4㎜	Ⅰ コー28 6層
	28	鉢	胴	—	—	—	色調：灰褐色。テンパー：灰～茶褐色粒。焼成脆い。器面剥落。器厚13.0㎜	Ⅰ 5層
	29	壺	口	19.4	—	—	色調：内外ー明灰色。テンパー：黒褐色粒、焼成かなり良い。内外：ヨコナデ、内肩部ー叩き。器厚10.8㎜	Ⅰ コー28 6層
	30		口	8.8	—	—	色調：内外ー暗灰色。テンパー：黒褐色粒少量。焼成良好。内外：ヨコナデ。器厚8.2㎜	Ⅰ チー32 6層
	31		口	11.4	—	—	色調：灰色。テンパー：雲母。黒～茶粒少量。焼成やや良い。内外：ヨコナデ、器面は細やか。器厚11.0㎜	Ⅰ 褐色土
	32	香炉	口/底	21.4	8.6	19.4	色調：外ー灰色、内ー明灰色。テンパー：器面アバタ、雲母、石灰粒、茶褐色粒。焼成良好。内外：ヨコナデ、外下部篦削り。器厚11.1㎜、底部6.4㎜	Ⅰ コー28 5層
	33		口	8.4	8.2	7.8	色調：外ー黒色ー炭か、内ー明灰色。テンパーに雲母、黒～茶褐色粒。焼成良好。外ー篦削り、ヨコナデ、内ーヨコナデ。器厚9.3㎜	Ⅱ ソー31 6層
	34		底	—	—	—	色調：外ー灰褐色、内ー茶灰褐色、中ー褐色でサンドイッチ状。テンパー：雲母少量。焼成やや良い。外ーナデ、丁寧に仕上げ、内ー底面は荒いナデ。器厚17.9㎜	Ⅰ コー28 5層下部
	35		底	—	—	—	色調：内外ー暗灰褐色。テンパー：雲母、石英少量、粘土質。焼成やや良い。外：丁寧に仕上げ、内：粗いナデ。器厚14.5㎜	Ⅰ 3層 トレンチ
第56図・図版31	36	火炉	口	18	—	—	色調：内外ー暗灰褐色、中ーサンドイッチー淡灰色。テンパー：雲母。焼成脆い。外：ヨコナデ？ーハブラシ痕、内：ヨコナデー炭付着。	Ⅰ セー30 7層
	37		底	—	—	—	色調：外ー灰褐色、内ーやや灰色を帯びる、中ー黒色。テンパー：赤褐色粒、雲母。焼成やや良い。内外：ヨコナデ、器面調整丁寧。器厚20.0㎜	Ⅰ ケー28 5層
	38		底	—	—	—	色調：淡灰色。テンパー：黒褐色粒少量。焼成良好。内外：ナデ。器厚16.3㎜	Ⅰ クー28 5層
	39		底	—	—	—	色調：橙褐色、中は灰色でサンドイッチ状。テンパー：金雲母、赤褐色粒、焼成やや良い。中：積み跡、明瞭、外：底部に削り。器厚18.9㎜	Ⅰ セー27 遺物集中部
	40		底	—	—	—	色調：内外ー橙褐色、中ー茶褐色、サンドイッチ状。焼成やや良い。内外：篦削りが顕著。器厚30.6㎜、底部19.6㎜	Ⅰ コー28 5層
	41		口	—	—	—	色調：赤褐色。テンパー：雲母、茶褐色粒。焼成良好。内外：ヨコナデ。器厚11.3㎜	Ⅰ 黄土山
	42		口	—	—	—	色調：赤褐色、中ー橙褐色。テンパー：雲母、黒粒少量。焼成良好。内外：縦横にハケ、指ナデ。器厚23.7㎜	Ⅰ ケー28 6層
	43		口	—	—	—	色調：赤褐色、中茶褐色。テンパー：黒褐色粒。内外：ヨコナデ。器厚32.1㎜	Ⅰ カー28 5層
	44		口	—	—	—	色調：赤褐色。テンパー：赤褐色粒、石灰粒、雲母。焼成良好。外：削り荒い。内ーやや丁寧。器厚13.4㎜、底11.2㎜。	Ⅰ セー29 7層
	45		底	—	—	42.8	色調：外ー明灰色内ー暗灰色、中は黒色でサンドイッチ状。テンパー：籾殻、雲母、赤褐色物質。焼成もろい。内ーヨコナデ。器面崩落。器厚：底部17.1㎜、胴部19.2㎜	Ⅰ コー27 5層
	46		底	—	—	—	色調：外面ー明灰色、内面ー灰色、テンパー：雲母、茶褐色粒、アバタ状。焼成脆い。内外ー器面崩落。器厚18.6㎜	Ⅰ クー28 5層
	47		脚	—	—	—	色調：外ー灰褐色。内ー灰褐色ーサンドイッチ状ーナマヤケ。テンパー：雲母少量。焼成やや良い。内ーヨコナデ。器厚15.0㎜	Ⅰ ケー26 5層
	48		底	—	—	—	色調：橙褐色。テンパー：貝～赤、茶褐色の粗粒、細粒。焼成良好。内外：ナデ調整	Ⅱ チー31 6層遺物溜
第57図・図版32	49	蓋	口/底	10.6	3.7	7.4	色調：外ー灰褐色～赤味、内ー灰褐色。テンパー：雲母、茶褐色粒。焼成やや脆い。内外：ヘラナデ。	Ⅰ ケー28 5層下部
	50	瓶	胴	—	—	—	色調：褐～灰色。テンパー：茶褐色粒。焼成やや脆い。内外：不明瞭。器厚8.8～7.7㎜	Ⅰ カー29 5層
	51	台座	底	—	—	8.8	色調：灰褐色。テンパー：赤褐細粒、石英。焼成良好外ーヨコナデ、ハケー丁寧。内ー荒いヘラナデ。器厚14.0㎜	ナンバーリングなし
	52	つまみ	口	6.1	—	—	色調：灰褐色。テンパー：軽石粒。焼成良好。外ーヨコナデ、丁寧。	Ⅱ チー31 窯内
	53	その他	口/底	—	—	—	色調：暗～灰褐色。テンパー：貝？黒褐色、茶褐色。赤褐色粒。焼成良好。外：篦削り、丁寧に仕上。内：削りの痕が明瞭。器厚11.3㎜	Ⅲ-C 赤褐色遺物集中
	55		胴	—	—	—	色調：橙褐色、中ー黒褐色。テンパー：藁、雲母、赤粒。焼成やや脆い。ヨコナデ。器厚40.8㎜	Ⅰ ケー28 5層
	56	小壺	口/底	2.4	5.8	3.6	色調：灰色。テンパー：茶褐粒。焼成良好。内外：指圧痕が顕著。器厚8.3㎜	Ⅰ セー29 5層
	57		口/底	—	—	—	色調：暗灰色。テンパー：黒褐粒、雲母。焼成良好。内外丁寧に調整。器厚8.5㎜	Ⅰ クー28 5層



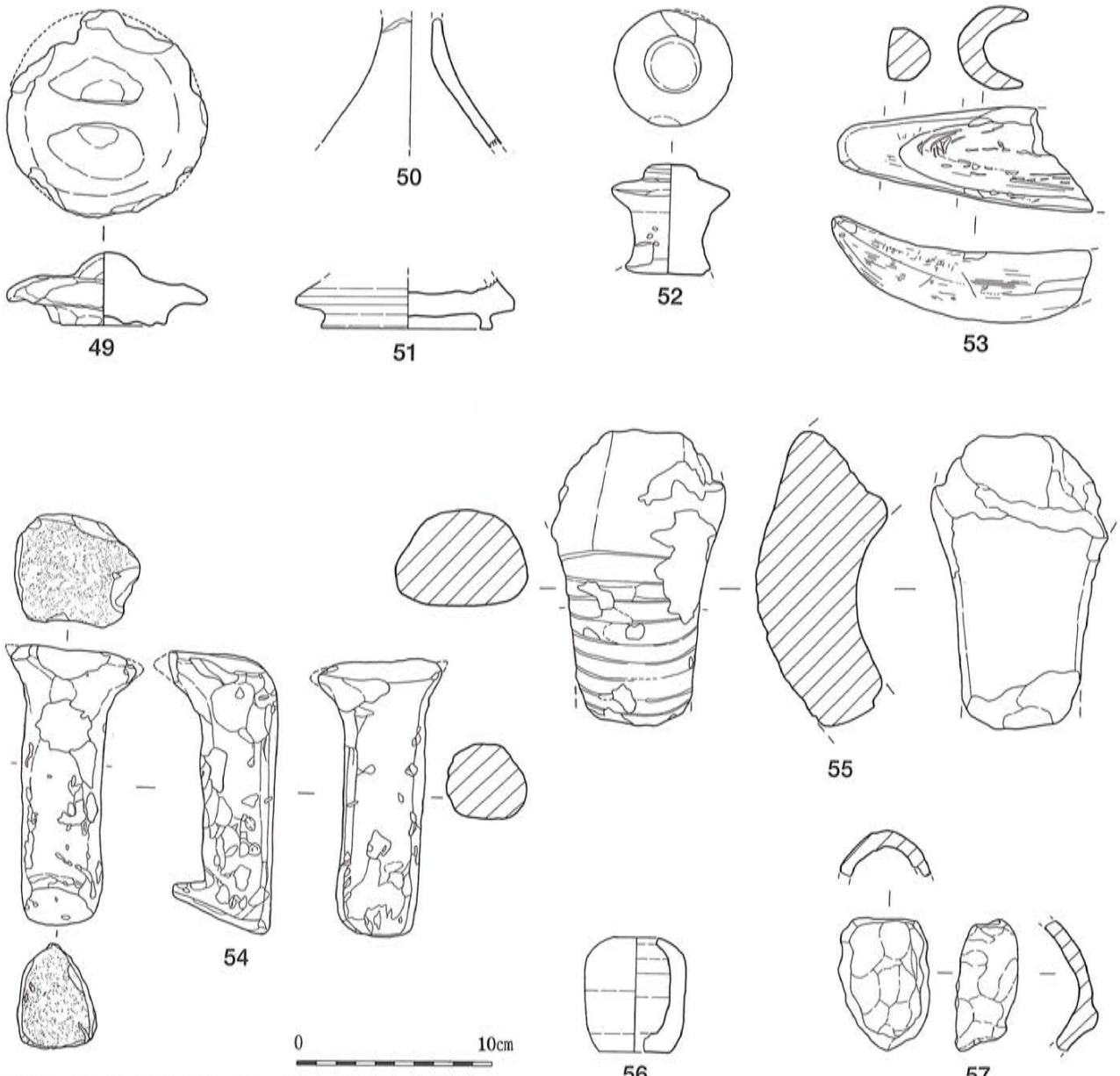
第54図　瓦質土器（1）植木鉢



第55図　瓦質土器（2）鉢・壺・香炉



第56図　瓦質土器（3）火炉・竈

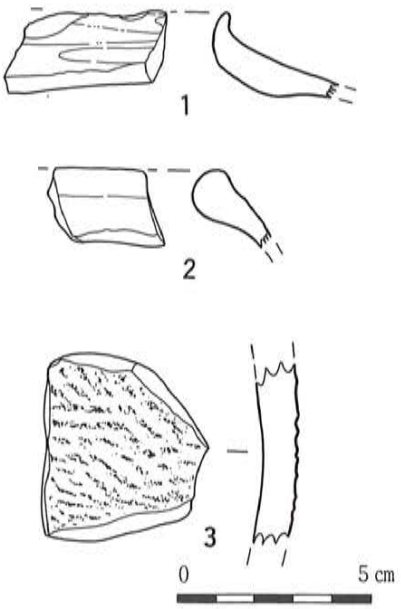


第57図　瓦質土器（4）蓋・瓶・小壺・その他

型物：同図53は舟型、54は獅子の足、55は動物の足と思われる。56は無頸の小壺である。57は56と同じ類のものとも思われるが、器面の調整や底部の形状から坩堝の型の可能性も考えられる。

第18節　土　器

第58図１は口唇が舌状で頸部は厚く、胴部にかけて薄くなる。胎土に白色・赤褐色物質粒を含み、器表面は多孔質になる。器面調整は外面はヘラナデ、内面はヨコナデで焼成良好、外面は黒褐色、内面は赤褐色を呈する。Ⅰ地区カ－28 ４層の出土。同図２は口唇部が内側に肥厚し、胴部に薄くなる。胎土に白色物質、赤褐色粒、金雲母、石英などが多量混入し、表面は混和剤が剥落しアバタになる。焼成は良好、内外面とも桃褐色を呈する。Ⅰ地区キ－29 ５層の出土。１は短頸、２は無頸の壺と思われる。同図３は胴部破片で厚さ９㎜と厚く、外面に顕著なタタキ目、内面の器面の調整は丁寧で、器色は橙褐色、中は灰色のサンドイッチ状



第58図　土器（1・2）タイ産土器（3）

を呈し、焼成はかなり良好である。胎土に雲母、石英、赤褐色粒が多量混入、底部の可能性も考えられる。叩き目の顕著さ、胎土の状況などからタイ産土器と思われる。Ⅰ地区ソ－31 4層の出土。

第19節　煙　管

今回の調査で得られた煙管は、すべて羅宇キセル（従来のパイプ型）と考えられる資料であった。材質別にみると、全体的に無釉陶器がもっとも多く、次いで施釉陶器、青銅製の順に出土している。陶質土器の煙管もわずかに確認できたが、全形が不明瞭であったのでここでは図化と詳細は割愛する。各種類別の出土状況は第10表にまとめた。Ⅰ地区の出土状況をみると第3層まではほぼ全種類がみられるが、それより下部からは無釉陶器の煙管しか検出されなかった。下記に材質別の詳細を述べる。

a. 無釉陶器（第59図5～7）

無釉陶器には形態から大きく分けて、多面形と丸形がみられ、前者は雁首の火皿・胴の部分を平たく削り、形状が八角形や九角形に面をもつもので、丸形は全体的に小刻みに面取りし、角を持たない形のものである。比較的前者の方が大振りで、後者が小振りであり、また後者は赤褐色（朱色）の素地をしたものが多いのも特徴的である。

b. 施釉陶器（第59図1～4）

施釉陶器には、透明の釉薬を掛け貫入のみられるものと、灰釉・緑釉を施すものがあるが、緑釉は量的に少なく、釉が剥がれ落ち素地がむき出し状態のものがほとんどであった。

c. 青銅製（第59図8～11）

青銅製は図化した資料以外は、平たく潰れていたり、折れ曲がった状態であった。8の雁首は“村田”の銘が刻まれていた。同様の資料が那覇市の御細工所跡から得られているが、この“村田”という銘については、江戸時代、享保3年（1781）に創業した村田屋というきせる屋が現在の東京、浅草橋[註]にあり、たばこと塩の博物館が出版している「きせる」に同型ではないが“村田”の銘が入ったきせるが数点、掲載されている。可能性としてここの製品であることも考えられる。

＊付　録

93年度報告の湧田古窯跡（Ⅰ）行政棟[註15]の資料のなかで、未報告の珍しい資料があったので、ここで紹介したい。

第59図12は中国の浙江省や福建省などを産地とする蠟石でできている煙管の雁首である。[註16]残念ながら火皿と羅宇接続部分が一部欠損している。火皿の径は計れないが、羅宇接続部分は内径約1㎝になるであろう。全体の手触りが滑らかで、丁寧に磨かれていたことが分かる。行政棟2地区な・に－60グリット、撹乱層からの出土である。

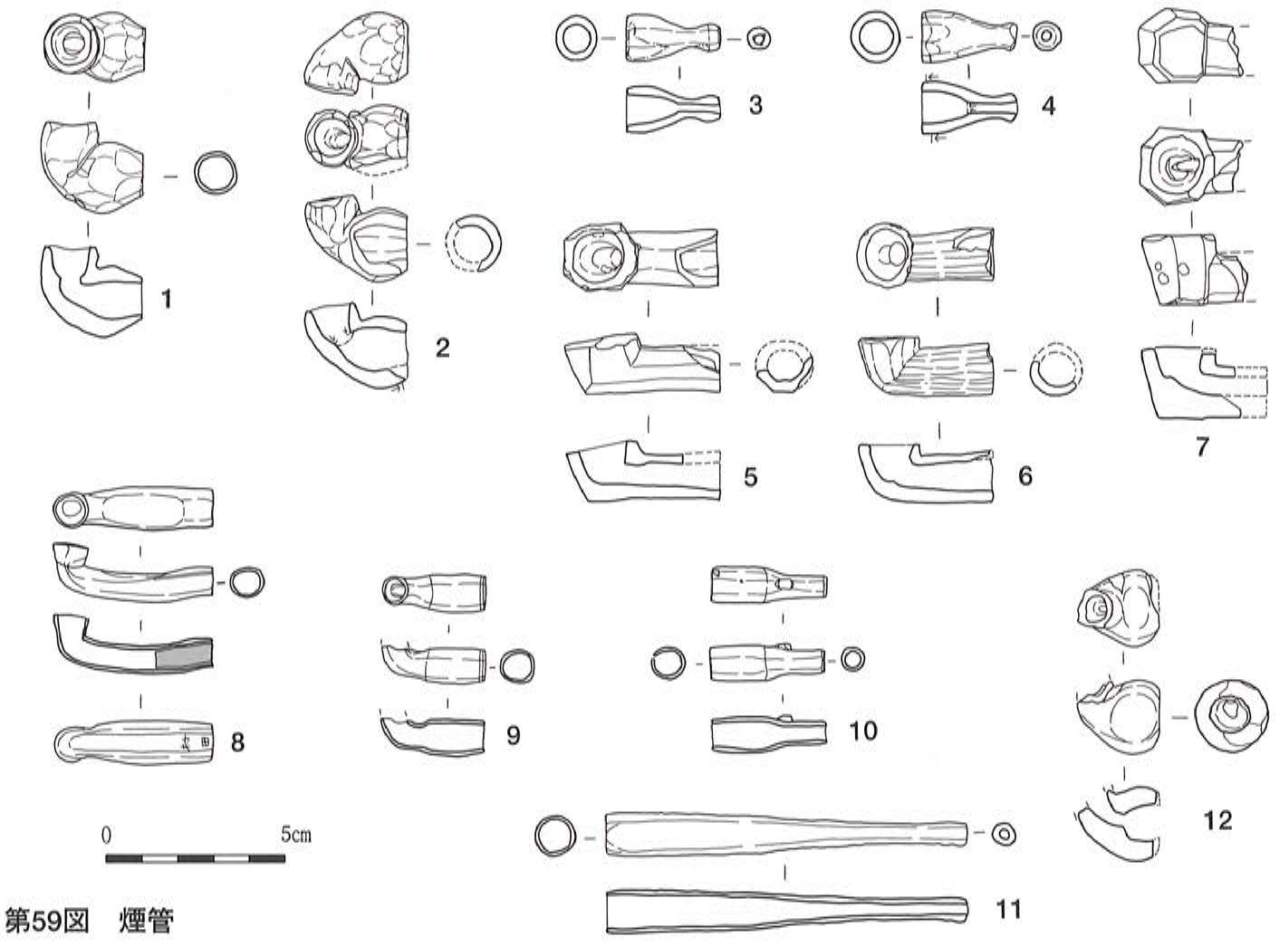
第10表　煙管出土状況

材質 ＼ 出土地 遺構 層序		Ⅰ地区 黄土山撹乱表採	Ⅰ地区 1層	Ⅰ地区 2層	Ⅰ地区 3層	Ⅰ地区 4層	Ⅰ地区 6層b	Ⅰ地区 小計	Ⅱ地区 表採撹乱	Ⅱ地区 4層	Ⅱ地区 小計	Ⅲ地区 A 2層	Ⅲ地区 A 3層	Ⅲ地区 B 1層	Ⅲ地区 B 2層	Ⅲ地区 B 3層	Ⅲ地区 C 2層	Ⅲ地区 C 3層	Ⅲ地区 小計	合計
施釉陶器	雁首	2		4	2			8	1	1	2							1	1	11
	吸口	1		6				7			0								0	7
無釉陶器	雁首	1	3	2	1	9	1	17		1	1	2	1	1		2	2		8	26
	破片	18						18			0				1		2		3	21
青銅製	雁首	1			3			4			0								0	4
	吸口			2	1			3			0								0	3
陶質土器	雁首							0			0								0	0
	破片	2						2			0								0	2
合計		25	3	14	7	9	1	59	1	2	3	2	1	1	1	2	4	1	12	74

第11表　煙管観察一覧

単位：㎜

図	番号	器形	材質	長さ	接続部直径	吸口/火皿直径	出土地
第59図・図版33	1	火皿	施釉	28	12	15	Ⅲ-B 井戸周辺（南側）3層
	2			29	15	15	Ⅰ カ-28 2層
	3	吸口		26	6	6	Ⅲ-B チ-18 3層（井戸南側）
	4			21.5	9	8	Ⅰ サ-29 Aトレンチ
	5	火皿	無釉	43	15	21	Ⅰ ケ-25 4層b
	6			38	14	15	Ⅰ シ-26 4層b
	7	火皿	無釉	28	14	20	Ⅰ 褐色土
	8		青銅	44	10	10	Ⅰ サ－30 3層
	9	火皿	青銅	29	9	7	Ⅰ 黄土山
	10	吸口	青銅	32	6	6	Ⅰ カ－30 3層
	11			101	12	6	Ⅲ-A 南側 2層
	12	火皿	蠟石	23	8	10	行政棟 な・に－60撹乱



第59図　煙管

第20節　土　錘

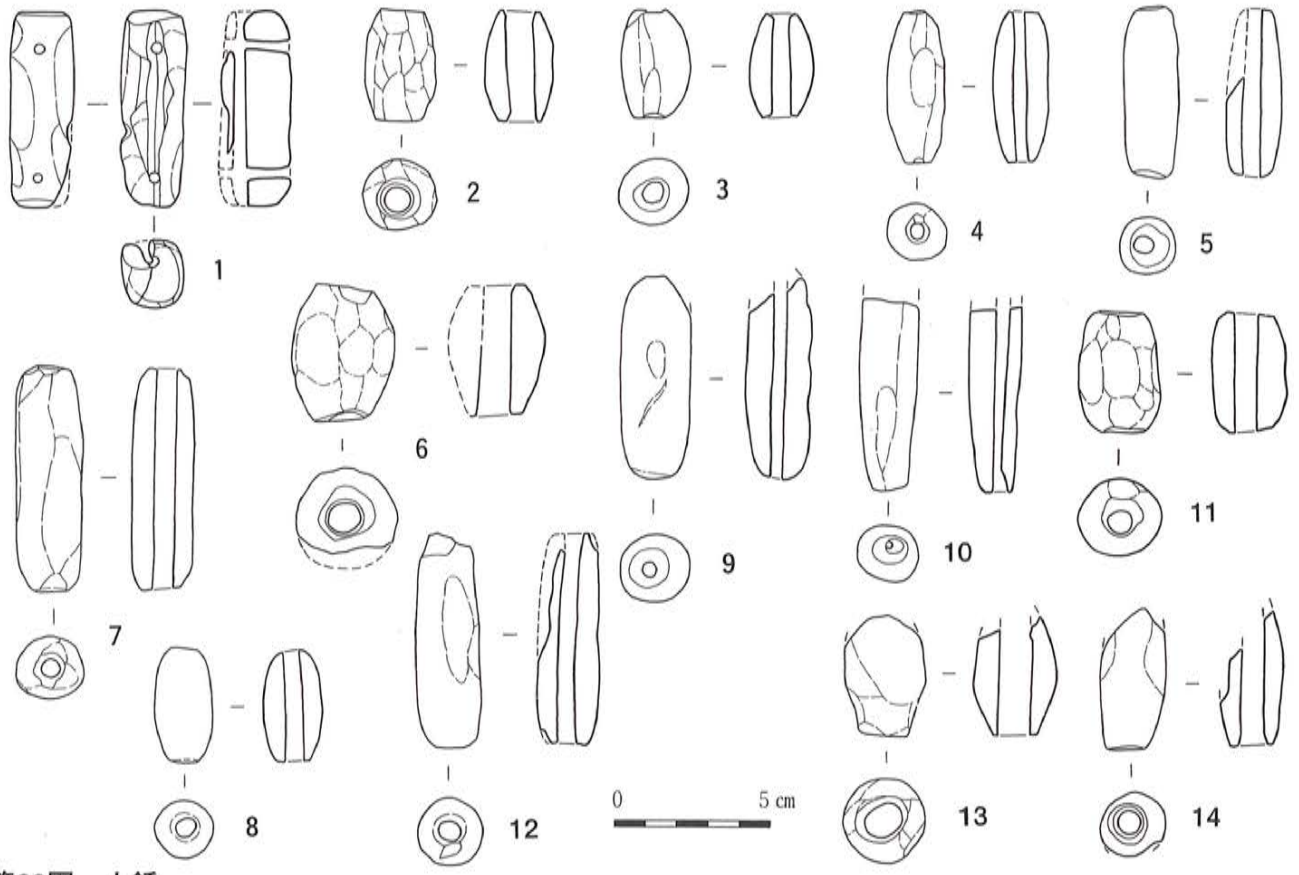
土錘の出土は総数39点で、Ⅰ地区26点（完形品－４点、破損品－22点）、Ⅱ地区では９点（完形品－５点、破損品－４点）、Ⅲ地区で４点（完形－２点、破損品－２点）が得られた。

破損品で両端の長さに関しては計測上支障のないものを含めると、最小が32.5㎜、最大72㎜、平均45.1㎜、その中で30㎜台が10点、40㎜台は９点、50㎜以上は５点であった。幅においては、破損している中央部分で半分以上残っているものも計測可能として、最小が15.5㎜、最大では43.2㎜を測るものもあった。因みに平均値は

第12表　土錘観察一覧

単位：㎜/ｇ

図	No	完破	長さ	幅	孔径	重量	色調	焼成	調整	観察事項	材質	出土地
第60図・図版33	1	破	62.7	20.6	横位 3.8 縦位 4.0	30.0	灰褐色	やや良い	握痕・ナデ	両端に孔を横位、さらに縦位に穿孔する。土錘と思われるが他と形状が異なる。	瓦質	Ⅰセ－30 7層
	2	完	36.5	24	11	20.1	灰褐色	良い	握痕・ナデ	孔に切痕と抉り、一部自然釉が見られる。	陶質	Ⅰカ－27 4層
	3	完	34.5	22.5	7.5	14.6	茶褐色	良い	ナデ	孔に切痕あり。	瓦質	Ⅰカ－29 6層
	4	破	49	18	4	15.4	灰褐色	良い	ナデ	孔に切痕がみられる。	瓦質	Ⅰ西側流込
	5	破	55.5	18	6	16.7	灰褐色	良い		孔は開き、先が丸くなっている。	瓦質	Ⅰオ－28 4層
	6	破	43.5	33.6	12.5	33.9	灰褐色	良い	握痕	孔に切痕と抉りが見られる。	瓦質	Ⅰコ－26 4b層
	7	完	72	21	8	33.2	灰褐色	良い	ナデ	孔の部分は一部欠けている。	瓦質	Ⅰソ－31 6層
	8	完	36	18	6.5	11.1	灰褐色	良い	ナデ	孔は丸く、丁寧に成形されている。	瓦質	Ⅰタ－31 トレンチ
	9	破	65.8	22.1	4	32.6	茶褐色	良い	ナデ	孔は丸く、丁寧に成形されている。	瓦質	Ⅱ北側石垣
	10	破	61.5	18.5	6	19.7	灰褐色	良い	ナデ	孔に切痕が見られる。	瓦質	Ⅱ北側石垣
	11	完	39.5	25.5	7.2	26.1	灰褐色	良い	握痕・ナデ	孔に切痕が見られるが雑である。	瓦質	Ⅲサ－19
	12	破	69	20.5	6.6	28.2	灰褐色	良い	ナデ	孔に切痕あり。	瓦質	Ⅰソ－24 赤褐色土
	13	破	39.2	7.5	12	25.6	灰褐色	良い	握痕・ナデ	孔には切痕があり、自然釉もかかる。	陶質	Ⅲチ－19 集石遺構
	14	破	46.5	21	10.5	16.3	灰褐色	良い	握痕・ナデ	孔には切痕と抉りが入る。	陶質	Ⅲ 4層



第60図　土錘

21.3㎜である。こうした数値から、20㎜以下16点、21㎜～30㎜以内14点、31㎜以上２点に大別すると、20㎜前後のものが主体の大きさである。孔径における計測では最小値が４㎜である一方で、12.8㎜と大きなものもある。計測可能な個数32点のなかで、最も多かったのは４～５㎜の大きさで11点あった。７㎜台までを含めると20点にのぼり、９㎜以上では８点となっている。重量に関しては破損品を考慮して、数値を示すにはいたらなかった。材質は陶質、瓦質とも得られているが前者が29点、後者は10点となっている。

今回得られたものは、長さ40㎜前後、幅20㎜、孔径は７㎜といった細めの形状のものが多く占めている。完形品は４点という少なさではあるが、破損状態を考慮しても重量は10～20ｇ台の軽めのものに求められるのではないか。一方で幅が大きく、長さに対して幅の比率が低い（幅太）錘は、比例して孔径も大きく、材質は陶質が多くを占めている。

第21節　青銅製品

本品は形状不明のものが多くを占め、湧田期として出土した資料は少ない。今回は簪・釘など判別できるものを略述する。

a. 簪

簪は破損品を含めⅠ地区－52点、Ⅱ地区－23点、Ⅲ地区－16点の出土となっている。完形品を中心に頭部の形状をさじ状－aタイプ、花弁状－bタイプに分けた。破損品も含めるとaタイプが44点、bタイプが12点である。竿の断面形状では、aタイプには六角、もしくは丸がある。bタイプの竿は四角で、ムディ部分が花弁状の頭部を受けるための抉りをもつなどの特徴があり、竿のみの破損品の殆どはaタイプのものと思われる。また同タイプの竿で稜の不明瞭なものもあり、これらは製作途中品と見られる。aタイプは完形品で17点と比較的多く得られており、全長は16.4㎝が最も長く、最短が5.8㎝と、かなりの幅がある。これは本簪と副簪というように種類の違いによるものではないか。

bタイプの完形品は１点のみで、頭部だけの資料は４点得られている。裏が空洞になる頭部が３点、厚みのあるもの１点といくつかの種類がある。さらに第61図12の花弁状のものは、余分な部位を切り取る前の製作途中品と見られる。

b. その他の製品

釘・釘状の製品は18点得られた。そのうち比較的状態の良いものを図示した。

第61図16は、Ⅰ地区ケ－25、４b層出土の釘は、頭部0.8cm、全長2.4cm。頭部は叩打のために円形がくずれている。先端は欠損するが、身の断面形は四角をなす。重量1.2ｇ。

第61図17は、器種不明のもので口縁部分と思われるが、破片のため全体的な形状は不明である。口縁下部に切り取って窓のようにしたと推察される箇所がある。胴部の厚みは２㎜、口径6.6cm、重量10.8ｇ、Ⅰ地区キ－28 5層出土。

第61図18は、青銅製のボタンで那覇商業高等学校の校章のデザインが施されている。近代遺物ではあるが本遺跡の周辺と立地の状況を知る上での参考資料として記載した。Ⅰ地区ウ－31、2層出土、重量1.3ｇ。

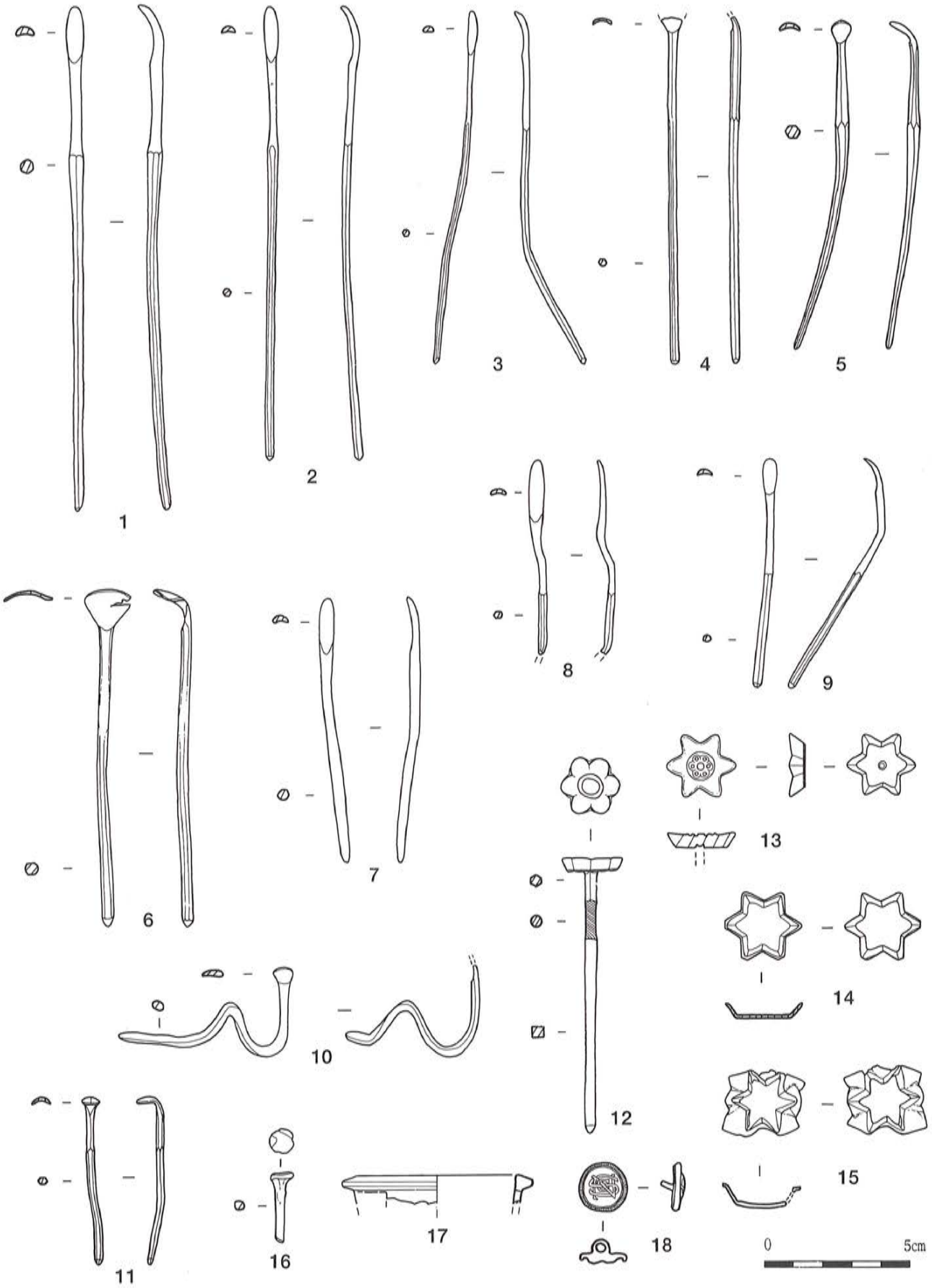
第13表　簪出土状況

地区		Ⅰ地区										Ⅱ地区				Ⅲ地区								合計
分類	遺構層序	黄土山	流れ込み	畦	2層	3層	4層	4層b	5層	7層	小計	畦	2層b	4層	小計	遺物集中	A 遺物集中	A 畦	A 3層	A 3層上面	B 3層	B 第一石敷	小計	
a			2		3	5	1				11	1	1	2	4		2			1	2	2	7	22
	1		1					1			2				0	1			1		1		3	5
	2	2	1		1	1	1		2		8				0			2	1		3		6	14
	3				1	1				1	3				0								0	3
	小計	2	4	0	5	7	2	1	2	1	24	1	1	2	4	1	2	2	2	1	6	2	16	44
b		1			7	2					10				0								0	10
	(b)		1		1						2				0								0	2
	小計	1	1	0	8	2	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
不明		1	3	1	6	4			1		16				0								0	16
合計		4	8	1	19	13	2	1	3	1	52	1	1	2	4	1	2	2	2	1	6	2	16	72

第14表　簪観察一覧

単位：cm/ｇ

挿図図版	NO.	完・破	分類	頭長	頭幅	現長	重量	観察事項	出土地
第61図・図版34	1	完	a-1	2	0.6	17.5	11.9	断面は竿で六角、ムディは丸を呈する。	Ⅲサ－18遺物集中
	2	完	a-1	2	0.5	15.7	4.7	竿の断面は六角。ムディの部分は円。その境でわずかに太くなる。	Ⅰセ－30流れ込み
	3	完	a-2	1.6	0.3	12.7	2.4	竿は六角。ムディは円。 竿は2.5㎜と細く、その幅は一定している。	Ⅲセ－28流れ込み
	4	破	〃	－	－	10.5	4.3	竿、ムディとも六角で、その境は緩やかに切り替えられている。	Ⅲシ・ス－19畦
	5	完	〃	1	0.7	11.6	4.6	竿からムディまでは六角。最大5㎜の厚みを持ち、先端に向かい細くなる。	Ⅰキ－29　5層
	6	完	a-2	1.6	1.6	11.6	8.2	竿の断面は六角で、ムディの稜は不明瞭、竿は4㎜と太い。	Ⅲソ－20　3層
	7	完	a	1.9	0.5	9.2	4.4	錆のため竿の稜線は不明瞭。頭部は現長に対して比較的大きい。	Ⅱソ－30　4層
	8	破	〃	－	2.1	0.5	6.7	竿の途中から下部にかけ破損している。残存する断面は六角。	Ⅱソ－30　2b層
	9	完	〃	1.3	0.5	9	3.2	竿の断面は六角。ムディの部分は比較的長い。	Ⅲタ－19　3層
	10	破	〃	－	－	10.4	4.4	頭部が欠損、竿の断面は六角。	Ⅱソ－31　4層
	11	完	a-3	0.7	0.6	6.9	1.8	頭部は比較的、幅が広くなっている。	Ⅰイ－32　2層
	12	完	b	2.1	0.4	9.5	11	竿は四角で、厚みが5㎜、ムディには右傾の斜線が入る。	Ⅰシ－27　2層
	13	欠落	〃	2.4	0.5	－	7.7	花弁のみの資料。裏面には竿と接合するため中心部に孔が見られる。	Ⅰコ－28　2層
	14	欠落	〃	2.6	0.1	－	2.3	花弁のみの資料。本資料も裏面に孔が見られる。 No.13と異なり、裏面は空洞になる。	Ⅰス－29　2層
	15	未製品	〃	－	0.1	－	1.9	製作途中品と見られ、星形のまわりには余分な生地が切り離されず、残ったままになっている。	Ⅰコ－29　3層



第61図　青銅製品

第22節　鉄製品

鉄製品は全地区良好な資料が少なく、湧田期とされる層出土のものは全体の479点のうち84点＝18%で、撹乱を受けた現代遺物の混ざりが多く見られた。またⅡ地区においても撹乱層からの出土で、遺構面等からの資料は得られていない。概観して遺物そのものの状態も悪く製品として判別できるものは少ないが、おおよそ釘や鎹など消耗品的な鉄製品が占めているようである。以下に製品ごとに略記する。

第62図１は鎹で、破損して片側の部分のみ得られている。全体の大きさ（長さ）は不明である。身の断面は銹で若干形が崩れるものの四角を呈していたと思われる。身の長さは２㎝、重量8.1ｇ、Ⅰ地区ク－28、４層出土。

第62図２も破損しているが鎹と思われるもので、身の長さは１㎝である。背の部分は銹の剥離した箇所から推察すると方形のようである。重量は５ｇ、Ⅰ地区ソ－30、４層出土。

第62図３は釘で３㎝、重量1.2ｇ程で小さい。先端が少し欠けているが状態は良い。頭部は側面からも分かるように傾斜して、身は方形である。Ⅰ地区ケ－26、４層出土。

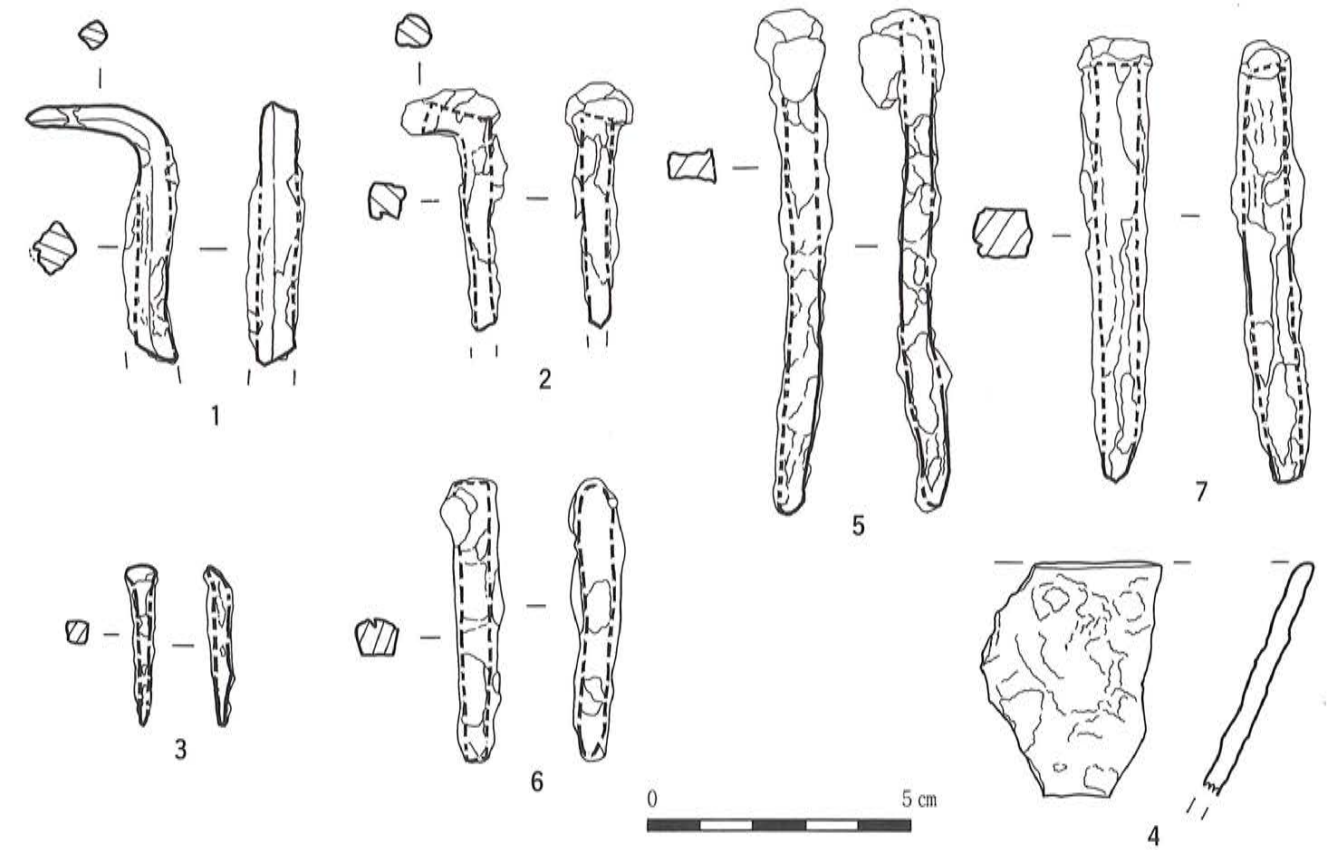
板状製品として挙げたのが第62図４で、鉄鍋の破片とも考えられる。口径は小片のため不明である。銹の付着が数箇所に見られるが、比較的状態は良い。Ⅰ地区カ－27、４層出土、重量14.8ｇ。

Ⅱ地区からは１点のみ記する。第62図５のもので、全長9.5㎝の比較的大きめの釘である。頭部は折れて、角を作っていたと思われるが、銹て不明瞭である。身の断面は幅広の方形を呈する。先端は若干潰れ、身も反っている。状態は縦位に亀裂が見られ良好ではない。重量17.7ｇ、Ⅱ地区ソ－31、２b層（茶褐色土）出土。

第62図６と７はⅢ地区から得られた鉄釘である。前者は断面が方形を呈し、上部は本来の形状のものか、一般的な頭部をもつ釘とは異なる。先端も潰れている。重量9.7ｇ、長さ5.7㎝、Ⅲ地区B集石遺構（３層上面）出土。後者は頭部が身より幾分幅を持たせた釘で、断面も若干幅広に成形されている。先端は少し潰れている。重量27.7ｇ、長さ8.3㎝を測った。Ⅲ地区Aサ－20東西畦３層出土。

第15表　鉄製品出土状況

地区	Ⅰ地区														Ⅱ地区								Ⅲ地区						
層序	表採	撹乱	流込	2層	3層	3b層	4層	4b層	5層	6層	溝状D	トレンチ	黄土山	合計	撹乱	表土	2b層	4層	トレンチ・畦	石組遺構NO.2	その他	合計	撹乱	トレンチ・畦	2層	赤褐色土層	3層	集石遺構	合計
点数	1	10	85	126	38	2	31	10	6	1	13	32	7	362	2	2	5	14	4	1	6	35	1	10	31	4	30	6	82



第62図　鉄製品

第23節　古　銭

本遺跡より出土した古銭は総数140点で地区別出土数はⅠ地区107点、Ⅱ地区22点、Ⅲ地区Aで２点、Ⅲ地区Bで５点、Ⅲ地区Cで１点、Ⅲ地区内１点、出土地点不明が２点となる。銭文・背文の判別可能な資料は完形・破損品を合わせ121点であり、銭種の確定したものは12種97点であった。銭種は洪武通寶１点、永楽通寶１点、乾隆通寶１点、嘉慶通寶１点、道光通寶１点、寛永通寶73点、文久永寶１点、無文銭７点、鳩目銭６点、雁首銭２点、明治期の半銭２点、米１セント硬貨１点であり、寛永通寶は更に１期（旧寛永）８点、２期（文銭）４点、３期29点、鉄一文銭１点、四文銭５点、鉄四文銭２点、時期不明（２期以降）24点と分類される。出土銭中、直径１㎜～２㎜の孔を穿孔される資料が３点確認された。寛永通寶２点、不明銭１点で各資料とも穿孔パターンが異なる。第63図12は郭角外側に４個の孔を持ち、うち３孔が削り繋げられており内孔の拡張を意図したと考えられる。同図13は「寛」の右側に孔が穿たれ、背に削られた痕跡が認められる。同図14は表裏共に摩滅され銭文・背文は確認できないがその形状から貨銭と考えられる。外縁付近と内側破損部の２箇所に穿孔が確認される。出土資料より各銭種及び残存状態の良好な資料を観察表（第17表）に示し（第63図）、各地区の出土状況を第16表に示す。

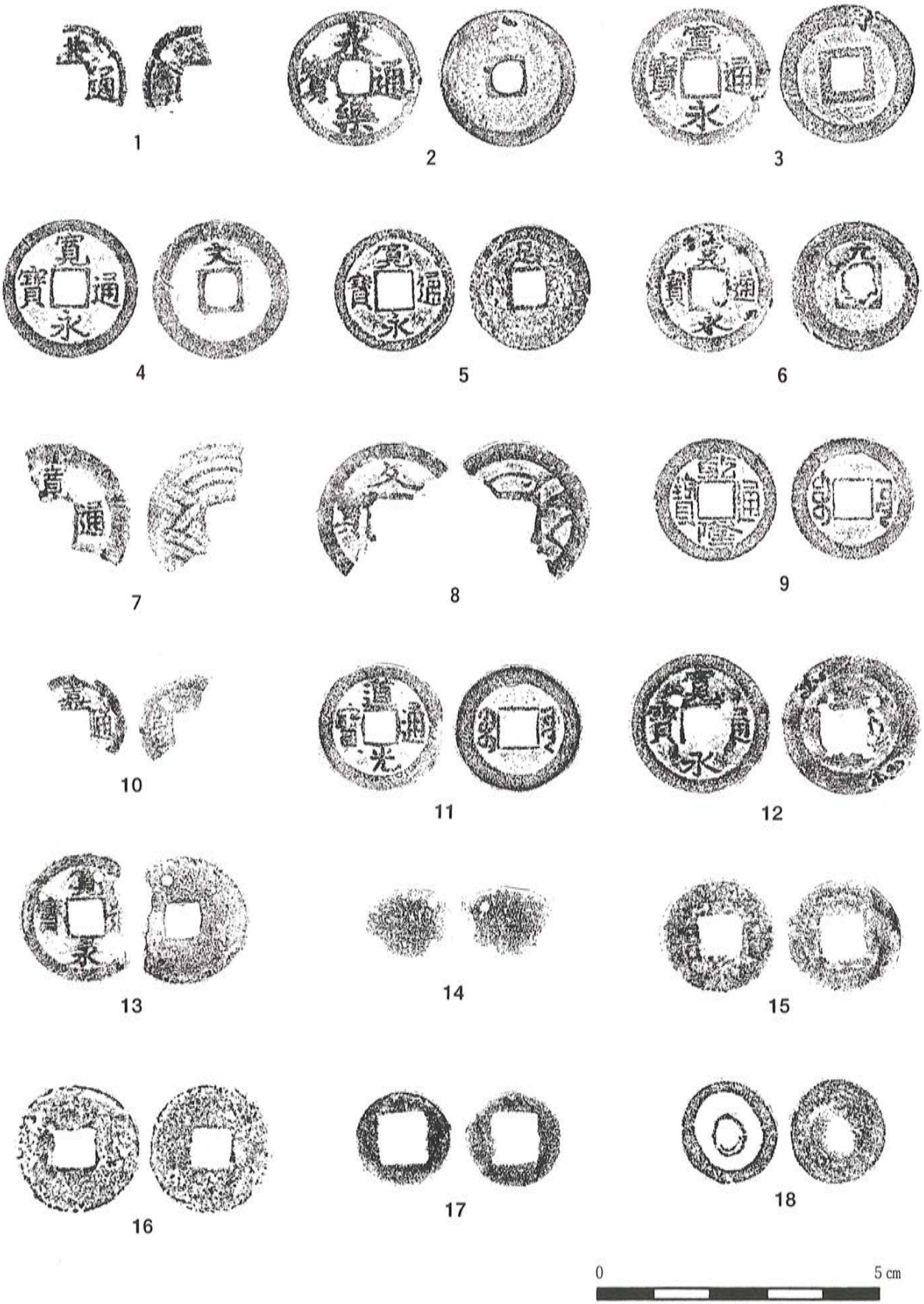
第16表　古銭出土状況

地区 / 遺構 / 層序 / 銭種	Ⅰ地区											Ⅱ地区												Ⅲ地区									不明		合計
	黄土山	2層	2～3層	3層 b	4層	4層 b	5層	6層	7層	小計	東西トレンチ	南北トレンチ	石垣斜面	石垣断面清掃	南北畦	灰色土	2層	2層 b	3層	4層	4層 石垣の下	6層	小計	南側4層	A 不明	A 石積の下	B 3層	B 3層 上面	B 集石遺構	C 3層	小計	2層	表採	
洪武通寶					1					1													0							0			1
永楽通寶										0	1												1							0			1
寛永通寶（1期）		4		1	2					7													0					1		1			8
寛永通寶（2期）		1		1						2													0		1	1				2			4
寛永通寶（3期）	1	12		1	1	2	4		1	22	1		1							2			4				1	1	1	3			29
寛永通寶 鉄一文銭						1				1													0							0			1
寛永通寶 四文銭		4								4													0							0	1		5
寛永通寶 鉄四文銭		2								2													0							0			2
寛永通寶（時期不明）		11		4		4			1	20		1			1				1				3							0		1	24
文久永寶		1								1													0							0			1
乾隆通寶		1								1													0							0			1
嘉慶通寶		1								1													0							0			1
道光通寶				1						1													0							0			1
無文銭							1			1								1					1	1						1			3
無文銭（被摩滅）		1			1	1				3												1	1							0			4
鳩目銭		1				2	2			5							1						1							0			6
雁首銭				1	1					2													0							0			2
半銭			1							1										1			1							0			2
1セント										0					1								1							0			1
不明	3	16		8		3		1	1	32				1	3					3	1		8					1		1	2			42
メダル										0						1							1							0			1
合　計	4	55	1	15	3	15	8	3	1	2	107	2	1	1	1	5	1	1	1	1	6	1	1	22	1	1	1	1	2	2	1	9	1	1	140

第17表　古銭観察一覧

図	番号	貨銭名	銭文	背文字 背文	時代 初鋳造年	書体	出土地点	直径 縦×横 (cm)	外縁厚 内面厚 (mm)	孔径 縦×横 (mm)	残存 重量 (g)	観　察　事　項
第63図・図版35	1	洪武通寶	洪□通□	無	明 1368年	楷書	Ⅰ地区 コ-27　4層	—	0.8 0.4	—	0.4	細縁タイプ。残存部に背文字は確認できない。銭文はやや不鮮明ながら判読可能で、洪武通寶と考えられる。青緑色及び茶褐色の錆が生じる。
	2	永楽通寶	永楽通寶	—	明 1408年	楷書	Ⅱ地区 ソ-29 東西トレンチ	2.45 2.45	1.2 0.6	5.4 5.4	3.1	完形。細縁タイプ。銭文は錆により潰れるが判読可能。背でズレが生じる。外縁の一部がくぼみ外縁と内面の境が判然としない部分を持つ。
	3	寛永通寶（旧寛永）	寛永通寶	—	江戸 1636年	楷書	Ⅲ地区 集石遺構	2.51 2.51	1.3 0.7	6.1 6.0	3.9	完形。緑褐色の錆が生じ、数箇所に錆膨れが認められるが銭文は判読可能。
	4	寛永通寶（2期）	寛永通寶	「文」	江戸 1668年	楷書	Ⅲ地区A セ-15 石積の下	2.49 2.49	1.2 0.5	6.0 5.9	3.2	完形。残存状態は良好で銭文・背文字ともに鮮明。
	5	寛永通寶（3期）	寛永通寶	「足」	江戸 1697年	楷書	Ⅱ地区 ソ-30　4層	2.22 2.23	1.1 0.7	6.1 6.0	2.1	完形で銭文・背文字が鮮明に残る。全体に青褐色の錆が生じる。
	6	寛永通寶（3期）	寛永通寶	「元」	江戸 1697年	楷書	Ⅲ地区 集石遺構	2.32 2.30	1.1 0.5	5.5 4.5	2.2	完形。全体を褐色の錆が覆い、数箇所に錆膨れを生じる。穿孔時のバリが内孔に残る。背で縁ズレが生じる。銭文・背文字は鮮明。
	7	寛永通寶 四文銭	寛□通□	波文（21波）	江戸 1768年	楷書	2層	—	1.2 0.7	6.8 —	1.7	潤縁タイプ。破損品だが銭文・背文は鮮明。全体を青緑褐色の錆が覆う。
	8	文久永寶	文□□寶	波文	江戸 1863年	真文	Ⅰ地区 シ-30　2層	—	1.0 0.5	7.4 7.4	1.8	破損品。青緑色及び茶褐色の錆が生じる。「文」「寶」が残存し波文を持つこと、及びサイズ・書体より文久永寶と考えられる。
	9	乾隆通寶	乾隆通寶	満文	清 1736年	真書	Ⅰ地区 サ-30　2層	2.22 2.22	1.3 0.7	5.8 5.7	2.8	完形で銭文・背文は鮮明に残る。全体に青緑色の錆が生じる。
	10	嘉慶通寶	嘉□通□	満文	清 1796年	真書	Ⅰ地区 カ-30　2層	—	0.6 0.4	7.5 7.8	1.0	破損品。「嘉」「通」と満文が確認できること及び書体・サイズより嘉慶通寶と考えられる。青緑色の錆が生じる。
	11	道光通寶	道光通寶	満文	清 1821年	真書	Ⅰ地区 コ-30　3層	2.29 2.31	1.8 1.1	5.3 5.3	4.5	完形。潤縁タイプ。銭文はやや不鮮明ながら判読可能。
	12	寛永通寶（2或いは3期）	寛永通寶	不明	江戸 1668年以降	楷書	Ⅰ地区 カ-29　2層	2.49 2.49	1.1 0.4	8.0 8.6	2.7	細縁タイプ。内孔の各角の外側に1～2㎜の孔が４個穿たれており、うち3個は郭を削り繋げてある。錆膨れが数箇所に生じ、また孔付近に歪みを認める。
	13	寛永通寶（2或いは3期）	寛永通寶	不明	江戸 1668年以降	楷書	Ⅰ地区 タ-30　3層	2.29 —	0.9 0.6	6.3 6.3	1.9	1.8㎜の孔が寛の右側に文字を切りながら穿たれる。背は削ってあると考えられ、僅かに郭・外縁が確認できる。青緑色の錆に覆われる。
	14	不明	○○○○	不明	不明	不明	Ⅰ地区 セ-31　4層	—	—	—	0.4	外縁の形状より貨銭と考えられるが、表裏ともに摩滅する。1.6㎜の孔が外縁側に1個、内側破損部に1個の計2個確認できる。青緑色の錆に覆われる。
	15	不明	○○通寶	不明	不明	不明	Ⅰ地区 セ-27　2層	2.00 1.99	0.6 0.4	7.5 7.8	1.0	加工品。完形だが鋳造時によると考えられる孔を2つ持つ。褐色の錆が生じる。銭鋳型の孔よりも大きく穿孔され郭及び銭文が切られる。上・下文字は判読不可能。
	16	無文銭	○○○○	不明	不明	不明	Ⅲ地区 南側4層	2.30 2.16	1.3 0.9	6.6 7.0	2.4	完形と考えられるが全体が緩やかに歪む。両面とも鋳造時によると考えられる凹凸が認められる。
	17	鳩目銭	—	—	—	—	Ⅰ地区 キ-29　5層	1.73 1.73	0.6	9.3 8.2	0.5	青緑色の錆が生じる。周縁部に鋳造時のバリが残る。
	18	雁首銭	—	—	—	—	Ⅰ地区 オ-28　4層	1.88 1.75	1.7 0.8	9.0 3.8	2.1	完形で楕円形を成す。青色、淡緑白色の錆が全体に生じる。残存状態は良好。

凡例　○＝判読不可能　□＝欠損

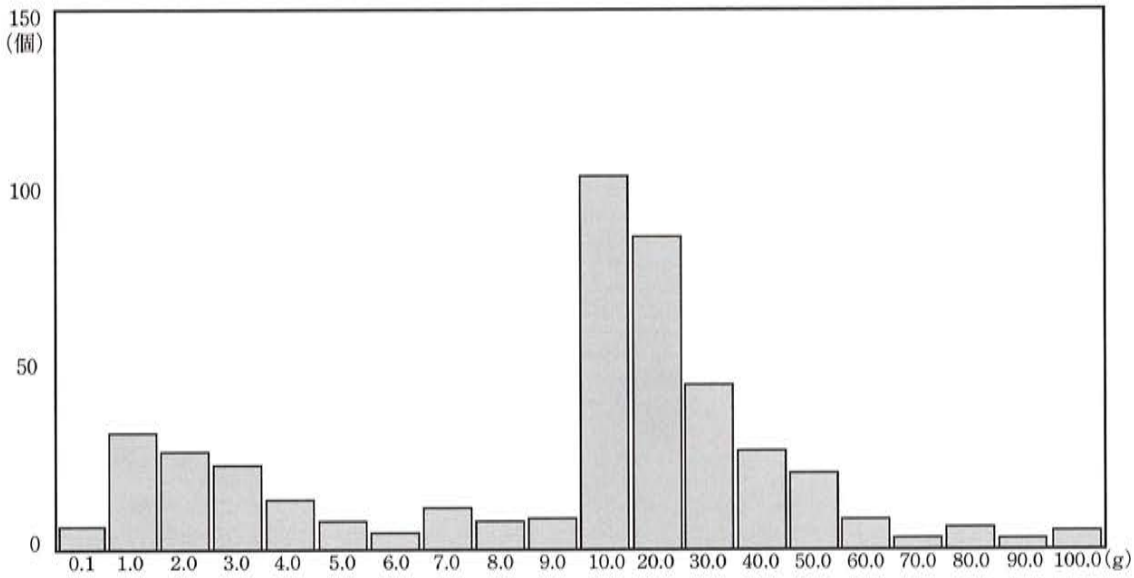


第63図　古銭

第24節　円盤状製品（第65・66図）

本製品は日常生活の身の回りにあるものを打割、もしくは磨研調整した二次製品である。その用途としては現在のところ遊具と考えられている。[註17]

地区全体からは、総数にして771点出土しており、出土数は地区別にみると、Ⅰ地区は589点（76.4%）、Ⅱ地区は30点（3.9%）、Ⅲ地区は139点（18.0%）、地区不明が13点（1.7%）であった。Ⅰ地区（遺跡の南側）の出土数が最も多い。完形品は425点で、完形率は55.1%である。完形品の直径を1㎝ごとにⅠ～Ⅷ類に分類し、各素材を、ガラスa（6・7）、ガラス類似品a'、現代磁器b（1・5・8）、染付c（2・9）、白磁d、陶質土器e（10）、瓦質土器f、沖縄産施釉陶器g（3）、沖縄産無釉陶器h（第66図11～17）、褐釉陶器i、灰色瓦j（19）、赤色瓦k（4・18・20～22）、中間色瓦lと細分し、Ⅰ～Ⅲ地区の出土状況を呈示した（第18表）。素材と大きさの関連は他の遺跡でもみられるように小さなものは染付、現代磁器等、磁器類の素材が多く、大きなものの素材には沖縄産無釉陶器や瓦の占める割合が多くなる。尚、本遺跡においては、Ⅱ類、Ⅲ類でそれぞれ分かれる。重さによる個体数を表わしたのが第64図である。1g～5gへかけて1つの山が形成される。瓦（赤瓦）、沖縄産無釉陶器を素材とするものが多い理由に、湧田古窯跡との何らかの関わりがあると思われる。Ⅰ地区は4層から増えはじめ2層でピークとなる。大きさを層位的に観察すると、径の大きなものはやや下層より出土する傾向がある。Ⅱ地区については、出土数が少なく傾向をつかむことはできなかった。Ⅲ地区は、3層からの出土が多く、Ⅳ類以上の割合が多い。また、今回の調査では数例ではあるが集石遺構や、溝状遺構等から出土する例がある。その用途を考察する上でたいへん重要なポイントになると思われる第66図8のように底部の高台内を使用するものや、図6のように板ガラスを素材とするもの、図5のように打割後、全体を研磨するもの等貴重な資料を得ることができた。剥離方向は、外面から内面へ剥離するものが全体の75.5%を占めており、次に両面を剥離するものが17.6%、内面から外面へ剥離するものが5.5%、剥離後、研磨や摩耗等によって不明なものは0.4%であった。平面形は、円形が40%、不定形が30.3%、楕円形が24.6%、方形が5.1%で、円形に楕円形を含めると64.4%と過半数を超える結果となった。



第64図　重さによる内分け

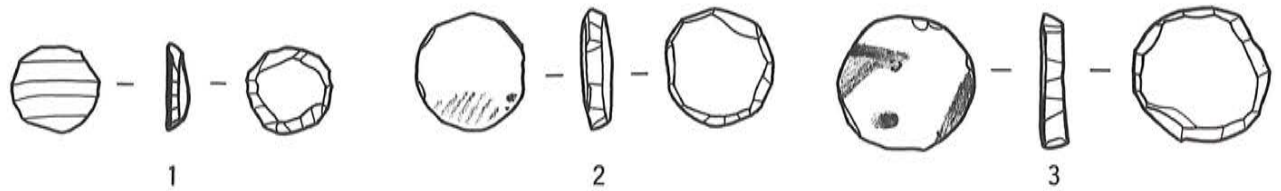
第25節　円盤状土製品（第67図）

本製品は、いわゆる円盤状製品が、瓦、器等を打割調整した二次製品であるのに対し、初めから、円形、楕円形の平面形に素焼きした一次製品である。出土総数は15点（図1～14）で、Ⅰ地区黄土山の周囲2層からその大部分が出土している。胎土は橙褐色あるいは淡橙褐色で、鉱物が少量混入する。断面は台形を呈し、楕円形のものは半月状の形をなす。大きさはそれぞれ18㎜±1㎜ほどで、一定の規格性がみられるが、厚さ、重さはまばらである。類似品としては、那崎原遺跡[註18]、南山城[註19]等から出土している。また、本土の泥面子[註20]（享保～明治初頭）にその形態は似ているが、型の伴出はなく、本製品は円盤状のもののみで、人面、動物面等を型抜きした複雑な平面形を呈すものはない。個々については第19表に呈示した。

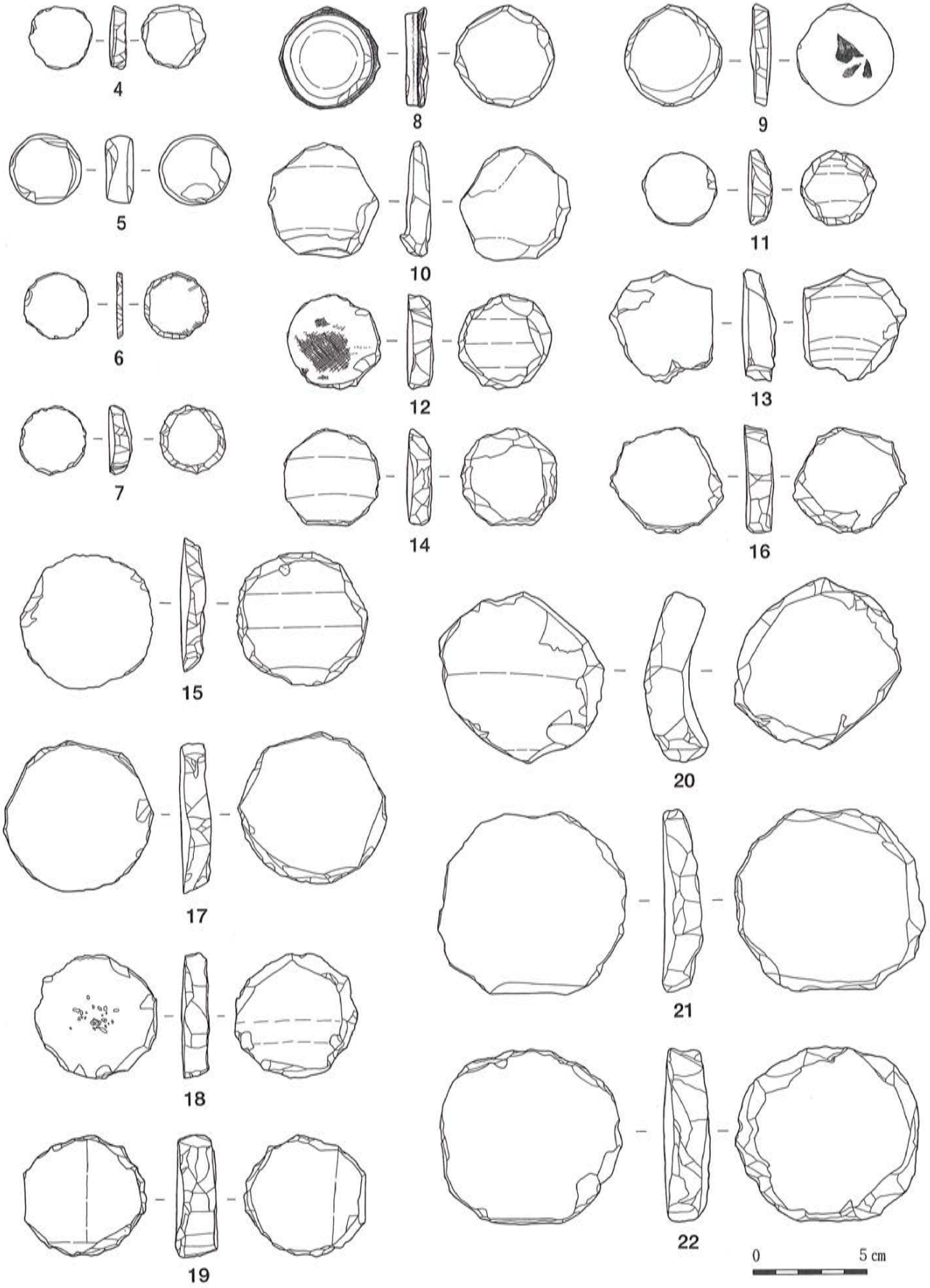
第18表　円盤状製品出土状況

ℓ：直径

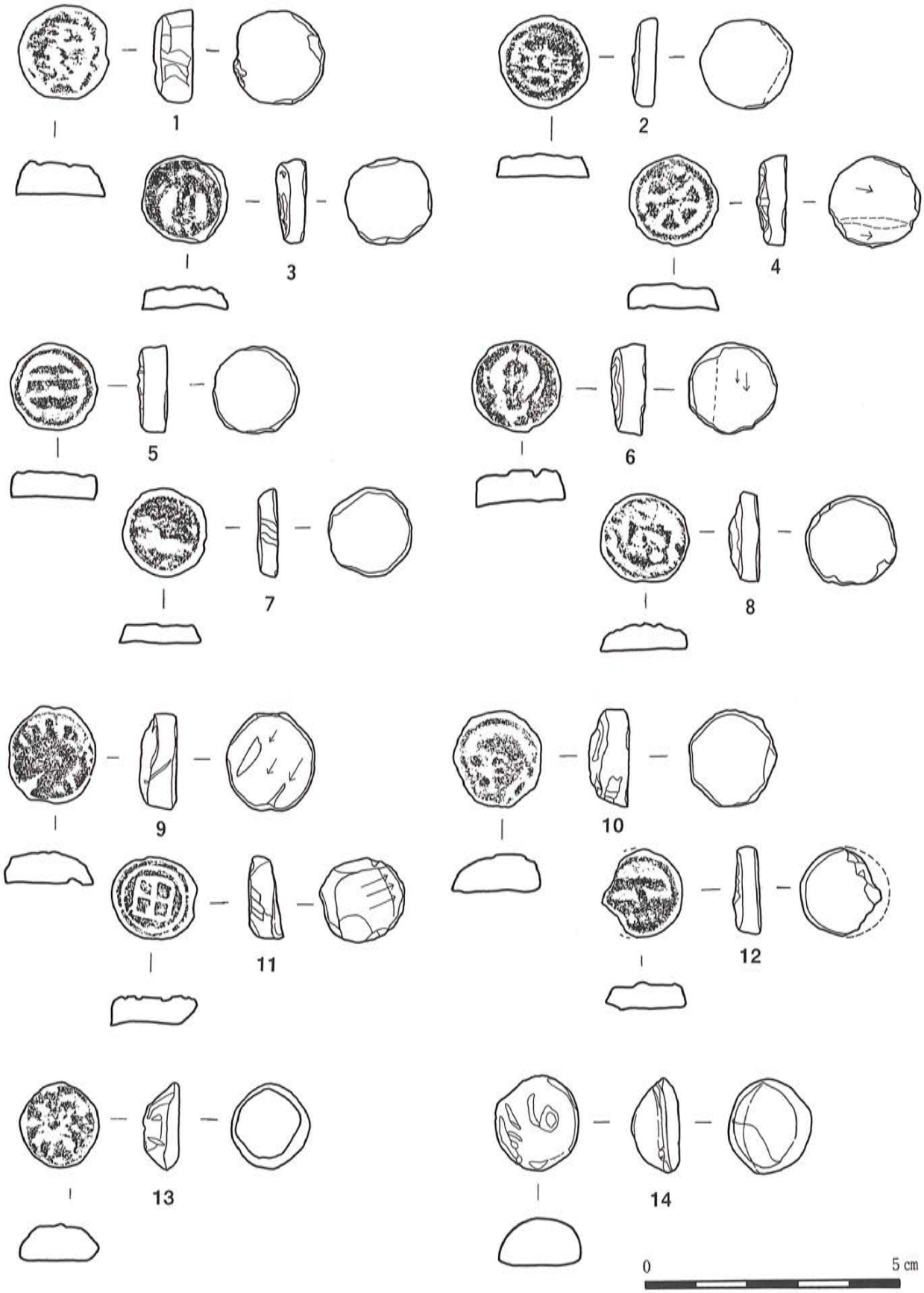
分類	地区・遺構 / 層序	Ⅰ地区 黄土山	溝状遺構	石積	表土	2層	3層	4層	5層	6層	7層	埋土	不明	小計	Ⅱ地区 石垣	1層	2層	3層	4層	6層	不明	小計	Ⅲ地区 集石遺構	2層	3層	撹乱	不明	小計	合計
Ⅰ類 ℓ：1~1.9cm	a					2	1						1	4								0						0	4
	b	3				1	2							6								0						0	6
	c					4	1	1	1					7								0						0	7
	d	1				2	1							4								0						0	4
	e					2		1						3					1			1						0	4
	g	1				1								2								0						0	2
	i												1	1								0						0	1
	a'					1								1								0						0	1
	小計	5	0	0	0	13	5	2	1	0	0	0	2	28	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	29
Ⅱ類 ℓ：2~2.9cm	a					2		2						4								0						0	4
	b					5	1							6								0		1				1	7
	c	2				14	3		1	1	1			22							1	1		1				1	24
	d	1				3				1				5								0					1	1	6
	e					3	3		1					7								0						0	7
	g					8	2	1						11								0		1	1			2	13
	h	1				2			2				1	6							1	1		1				1	8
	i	1				1	1							3								0						0	3
	k					3								3								0			1			1	4
	l							1					1	2								0						0	2
	小計	5	0	0	0	41	10	4	4	2	1	0	2	69	0	0	0	0	0	0	2	2	0	4	2	0	1	7	78
Ⅲ類 ℓ：3~3.9cm	c	1				2	1	1			1			6								0		1				1	7
	d					1								1								0						0	1
	e					2								2								0						0	2
	g					4	3	3		1				11								0			1		1	2	13
	h		1	1		11	8	5	3	2	1		2	34					2		1	3		2	5		1	8	45
	i					1	1	3						5								0					1	1	6
	j		1			1		1				1	1	5								0						0	5
	k		1			14	4	6	3	1	1			30	1				1			2		2	2		1	5	37
	l					1			1				1	3								0			1		1	2	5
	小計	1	3	1	0	37	17	19	7	4	3	1	4	97	1	0	0	0	3	0	1	5	0	5	9	0	5	19	121
Ⅳ類 ℓ：4~4.9cm	c					2								2		1						1						0	3
	e	1												1								0						0	1
	f							1						1								0						0	1
	h	3	1	1		11	6	4	2	3	4	1	1	37								0	1	3	3	1		8	45
	i					2								2								0						0	2
	j					1		2					1	4								0			1		1	2	6
	k	2				4	4	10	2		3		1	26	1		1	1		1		4	1	2	12			15	45
	l	1				1		2		1				5								0			3			3	8
	小計	7	1	1	0	21	10	19	4	4	7	1	3	78	1	1	1	1	0	1	0	5	2	5	19	1	1	28	111
Ⅴ類 ℓ：5~5.9cm	e					1								1								0						0	1
	f													0								0		1				1	1
	g													0								0			1			1	1
	h	1				2	2	3					1	9	1							1		2	2		1	5	15
	i	1												1								0						0	1
	j							3	1		2			6						1		1			4			4	11
	k	2				4	1	6	1	1	2		1	18	2						1	3			2			2	23
	l							1	1				1	3								0			2			2	5
	小計	4	0	0	0	7	3	13	3	1	4	0	3	38	3	0	0	0	0	1	1	5	0	3	11	0	1	15	58
Ⅵ類 ℓ：6~6.9cm	e							1						1								0						0	1
	h						1	2	2					5								0					1	1	6
	j	1							1					2								0						0	2
	k		1					2			1			4	1							1						0	5
	l								1					1								0			1			1	2
	小計	1	1	0	0	0	1	5	4	0	1	0	0	13	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	2	16
Ⅶ類 ℓ：7~7.9cm	h	1												1								0			1			1	2
	k													0					1			1			1			1	2
	l								2		1			3								0						0	3
	小計	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	4	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	2	7
Ⅷ類 ℓ：8~8.9cm	f				1									1								0						0	1
	h								1					1								0						0	1
	k						1				1			2								0			1			1	3
	小計	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	5
合計		24	5	2	1	119	47	62	26	11	18	2	14	331	6	1	1	1	5	2	4	20	2	17	45	1	9	74	425



第65図　円盤状製品a



第66図　円盤状製品b



第67図　円盤状土製品

第19表　円盤状土製品観察一覧

単位mm/g

番号	出土地点	長径	短径	厚さ	重さ	備　　考
1	Ⅰサ-31、2層	19	17	7	2.8	文様は不明、裏面ナデ調整。
2	不明	18	17	5	1.8	表面磨耗し、文様不明。裏面ナデ調整。4と同じ文様？
3	Ⅰエ-31、2層	18	16	5	1.7	表裏面磨耗している。矢印のような文様あり。
4	Ⅰエ-31、2層	18	17	5	1.8	裏面少し磨耗する。6枚の花びら状の文様あり。
5	Ⅰク-28、2層	17	17	5	1.9	裏面ナデ調整。丸に二の沈線の文様あり。
6	黄土山	18	17	6	2.1	裏面に明瞭なナデ調整。刀の鍔のような文様あり。
7	Ⅰオ-28、2層	17	17	4	1.4	表裏面磨耗する。走るうさぎのような文様がかすかに確認できる。
8	Ⅰコ-29、2層	18	17	5	1.8	全体的に磨耗する。11とは対象的に田のような文様が凸。
9	Ⅰク-29、2層	19	17	7	2.6	他の物とは違い平面形は楕円形、断面形は半月形、表面磨耗しているため文様は不明。
10	Ⅰキ-29、2層	19	18	7	2.8	平断面形は9と同様。裏面ナデ調整あり、表面磨耗しているため文様不明。
11	Ⅰコ-28、2層	17	16	4	2.2	裏面に指紋あり、側面に2本の沈線、8と対象的に田のような文様が凹。
12	不明	17	16	5	1.4	丸に「工」のような文様あり。破損品。
13	Ⅰケ-28、2層	17	16	7	2.6	全体的に磨耗する。中央の円を中心に8つの短沈線を放射状に施こす。
14	Ⅰエ-30、2層	19	17	9	2.9	全体的に磨耗する。平・断面形は9と同様。文様は観察できない。

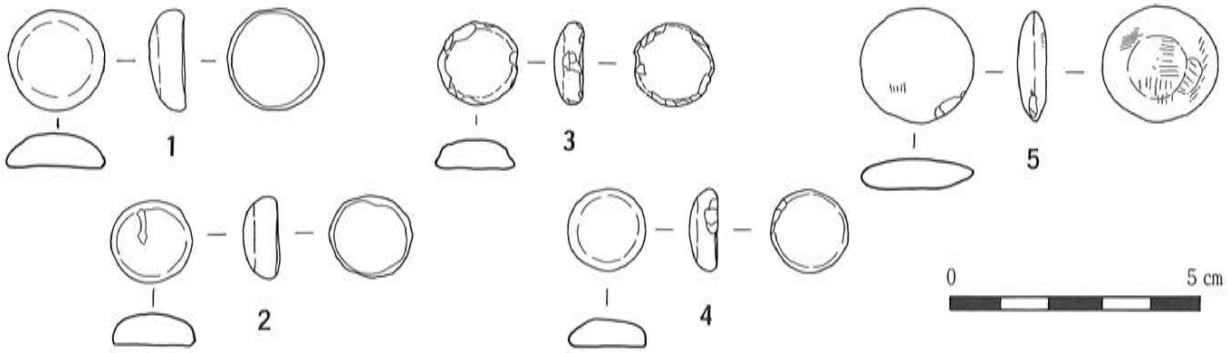
第26節　碁　石

第68図1～5は碁石である。これらはその断面形により、半月状のものをAタイプ、レンズ状のものをBタイプ（現在の碁石と同じ形状）に大別することができ、さらにAタイプは直径により、径の大きいもの（20㎜）をa、径の小さいもの（16㎜）をbに分けることができる。Ⅰ地区南側（黄土山近く）の2層から集中して出土している状況で、総数にして11点出土しており、うち7点が完形品であった。遺物の詳細については観察表（第20表）に呈示した。なおBタイプのものは、対応する黒碁石の出土は確認されていない。類例資料として御細工所跡[註21]出土がある。

断面形
- A 半月状
  - a 径が20㎜
  - b 径が16㎜
- B レンズ状

第20表　碁石観察一覧

番号	長径(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	分　類	備　　考
1	20	7	4.0	A－a	石製品(黒色)。二次的な火熱を受け、表面がマーブル状に溶解する。(Ⅰウ-32　2層) 破損品に白色製品あり。
2	16	6.5	2.1	A－b	石製品（黒色）。表面にやや光沢あり。(出土地不明)
3	16	6	1.9	A－b	材質不明（白色）。二次的な火熱を受け、全体的に風化する。(Ⅰ黄土山)
4	16	6	2.0	A－b	材質不明〔ガラス質〕(淡緑白色)。二次的な火熱を受け、表面が風化する。(Ⅰク-29　2層)
5	27	6	2.4	B	チョウセンサザエ蓋製。表面は丁寧に研磨され光沢がある。裏面は雑な擦痕が観られる。(Ⅰオ-31　2層)



第68図　碁石

第27節　石製品・石器

石器、石製品は53個出土した。出土状況は第21表に示した。今回は時間の都合上主なものについて報告する。

軽　石： 1、2は軽石を加工した製品である。1は略三角形を呈し、表面は鳥を片切彫りで彫刻、裏面は周縁を幅2.0㎜の工具で縦に彫り、径2㎝の鋸状の円になる。さらに中央に1.5㎜の点を中心に2重円の文様を施す。また、底辺の面には径1.5㎜の小孔を径12㎜の円状に配す。全体に丁寧に研磨加工する。大きさは6×4㎝、厚さは2.61㎜、重さ12.2ｇを計る。Ⅲ地区Bチ－18（井戸南側）3層（地山直上）出土である。同図2は長さ6.2㎝、幅3.9㎝の楕円形で上面と下面に径13.1㎜の溝状の円周を施し、内円は10.4㎜を残し重さ18.8ｇを計る。また、側面にも径12㎜の円状の浅い窪みが見られ、さらにその側面には径4.9㎜の孔が見られる。本品の用途は後述するチョウセンサザエの加工の痕と大きさが一致することから何らかの関係が考えられる。Ⅲ地区Bチ－17（井戸南側）の出土である。軽石を加工した例は玉城城跡、銘苅原遺跡にある。

板状： 3は石英を板状に加工したものである。長さ39.8㎜、幅14.7㎜、厚さ6.4㎜の断面が長方形になる。Ⅰ地区セ－27、2層の出土である。

硯： 4は硯のⅢの部分で、裏面に文字らしきものが確認できる。石質は赤色頁岩で、研磨痕が縦横位に顕著に見られる。Ⅱ地区チ－29溝側の出土である。他に黒色頁岩も確認される。

砥石： 5は粘板岩を板状に加工したもので、砥石の一部かと考えられる。Ⅲ地区Aシ－19南北畦0～20の出土である。

同図6は凝灰岩で、上部に径4.0㎜の小孔を施し、厚さ13.3㎜を測り、Ⅰ地区ケ－28、2層の出土である。10は凝灰岩の一端を両面から研いだものである。最小幅11.8㎜、最大幅32.8㎜、長さ75.6㎜を測る。砥石の一部である。Ⅰ地区シ－27、5層出土である。

石球： サンゴ、石灰岩、砂岩、軽石？の4種がある。第20表に示したように31点出土している。大きさは2㎝～6㎝にまたがり、特に4㎝以下に75％が集中する。種類ではサンゴ石灰岩が21個で全体の70％を示す。ほとんどがⅠ地区の出土であるが、Ⅲ地区からも2個出土している。

敲石： 11は頭部に弱い敲打が認められ、側面に研磨痕が認められることから磨石のたぐいを二次加工したもので、先端部は敲打が確認できる。裏面は摂理面の凸部分に研磨が認められる。縁も磨滅、一端が尖ることから敲石として使用したと考えられる。Ⅰ地区セ－27、4層（砂利層）の出土。12は角閃石の礫の端部を研磨し、光沢が見られ、破損部分はそのまま残す。平面形は長楕円、横断面は菱形を呈する。縦14.1㎝、横5.5㎝、厚さ4.7㎝、他に加工痕は無く用途は不明である。Ⅲ地区Bチ－18、3層出土である。

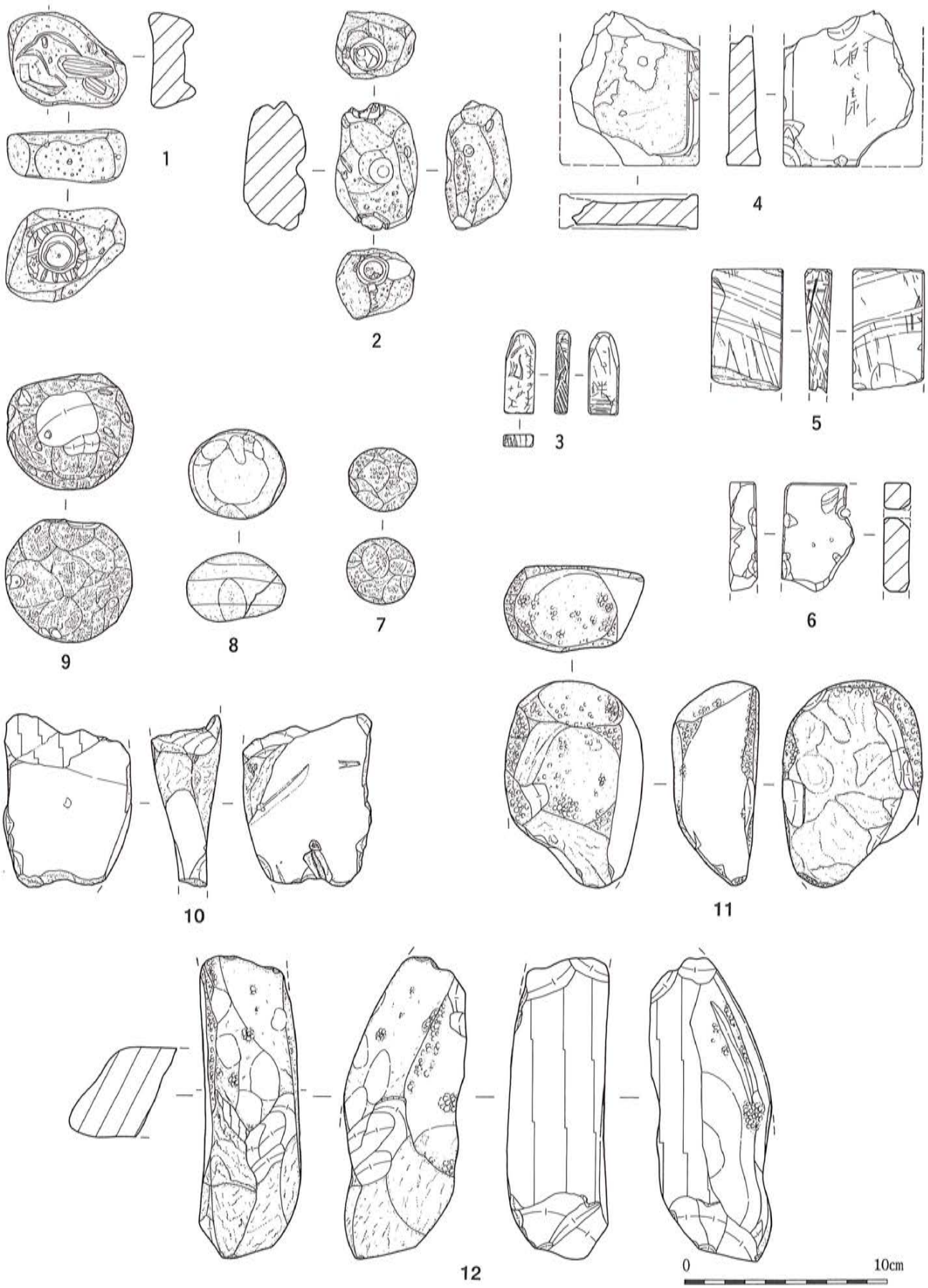
第21表　石製品・石器出土状況

種類＼出土地		Ⅰ地区 不明	2層	3層	4層	5層	6層	7層	Ⅱ地区 タライン	撹乱	Ⅲ地区 3層	集石	合計
石球	サンゴ	2	1	3	9	3	1				1	1	21
	砂　岩	1			2	3	1	1					8
	石灰岩				1								1
	軽　石？		1										1
	小　計	3	2	3	12	6	2	1			1	1	31
硯	頁　岩						1			1			2
磨石	角閃石									1			1
敲石				1	1								2
板状	石　英		2										2
砥石	小		4			1			1		1	1	8
サンゴ製品											1		1
軽石製品			2	1							2	1	6
合　計		3	10	5	13	7	3	1	1	2	5	3	53

第22表　石球計測一覧　単位cm/ｇ

計測	石　質	残存	たて	よこ	重さ	出土地
1	砂岩	完	6.74	6.29	268.7	Ⅰキ-28　5層
2	砂岩	完	3.64	3.56	59.6	Ⅰコ-27　4層
3	サンゴ	完	3.84	3.72	21.3	Ⅰキ-28　5層
4	サンゴ	完	4.85	4.6	61.4	Ⅰ褐色土
5	サンゴ	完	3.39	3.11	19.7	Ⅰス-26　4層b
6	サンゴ	完	4.27	3.94	43.6	Ⅰク-26　6層
7	サンゴ	完	3.73	3.26	22.9	Ⅲ-B タ-19　3
8	サンゴ	完	3.82	3.47	31.4	Ⅰケ-27　4層
9	サンゴ	完	3.41	3.24	20	Ⅰス-26　4層b
10	サンゴ	完	3.05	27	12.4	Ⅰ褐色土（撹乱）
11	砂岩	完	4.8	4.4	85.1	Ⅰシ-30　7層
12	サンゴ	完	2.96	2.85	14.3	Ⅰコ-27　3層b
13	サンゴ	破	6.19	5.65	162.3	Ⅰス-27　4層
14	サンゴ	完	2.11	2.08	4.8	Ⅰキ-29　3層
15	サンゴ	完	2.8	2.66	14.4	Ⅰケ-27　4層
16	石灰岩	完	3.55	3.33	42.6	Ⅰケ-25　4層b
17	砂岩	完	2.12	1.88	8.4	Ⅰク-28　4層
18	サンゴ	完	3.47	3.36	21.7	Ⅰカ-28　5層
19	サンゴ	完	4.15	4.03	45.7	Ⅲ-B チ-18
20	サンゴ	完	4.25	4.04	45	Ⅰコ-27　4層
21	砂岩	完	2.8	2.75	20.3	Ⅰキ-27 黄褐色に青
22	サンゴ	完	2.78	2.6	12	Ⅰケ-28 5層下部
23	サンゴ	完	2.79	2.57	13.3	Ⅰキ-27　4層
24	サンゴ	完	2.6	2.36	7.3	Ⅰケ-26　4層
25	砂岩	完	50.5	46.2	106.9	Ⅰキ-29　5層
26	サンゴ	完	3.25	3.02	17.8	Ⅰク-28　4層
27	サンゴ	完	2.09	1.84	6.4	Ⅰキ-30　3層
28	軽石？	完	28.3	26.3	7.6	Ⅰエ-30　2層
29	砂岩	完	3.67	3.07	33.7	Ⅰコ-26　6層
30	サンゴ	破	3.27	2.8	16.9	Ⅰコ-28　4層
31	砂岩	破	3.52	3.16	34.8	Ⅰケ-28　5層

注：図の69図7（計測5）8（計測11）9（計測13）と同じ



第69図　石製品・石器

第28節　骨製品

骨製品は第23表に示したように歯ブラシ、ボタン、サメ脊椎有孔、ヘラ状、棒状、その他の計24個が得られた。第70図１～５は歯ブラシである。歯ブラシは頭部の形で隅丸方形、楕円形、植毛孔は３列、４列がある。柄の部分は先端が方形、丸形、尖形があり、その孔には青銅の棒状の金具を装着する。４に「TOKUSEIHIN」の銘も確認でき、詳細は第22表に示した。

同図６～８はボタンでいずれもウシ骨を加工したものである。９は箸の破片で、10はヘラ状の製品で類似は伊原遺跡[註22]、住屋遺跡[註23]に報告がある。11は細沈線で彫刻を施すが初めての出土である。12はサメの脊椎の穿孔を施したもので径16.1×厚さ6.1㎜、孔径2.8㎜、両面穿孔。Ⅰ地区不明。

第23表　骨製品出土状況

種類＼出土地			表採	Ⅰ地区 黄土山	Ⅰ地区 2層	Ⅰ地区 3層	Ⅰ地区 7層	Ⅰ地区 地山	Ⅲ地区 3層	合計
歯ブラシ	頭	平面		1		2				3
		楕円			2	1				3
	頸						1		1	2
	柄	丸		1	1	1		1		4
		方		1						1
		尖る		1	1	1				3
	破				1					1
ボタン			1		2					3
サメ脊椎有孔			1							1
ヘラ状					1					1
棒状					1					1
その他			1							1
合　計			3	4	9	5	1	1	1	24

第24表　骨製品観察一覧

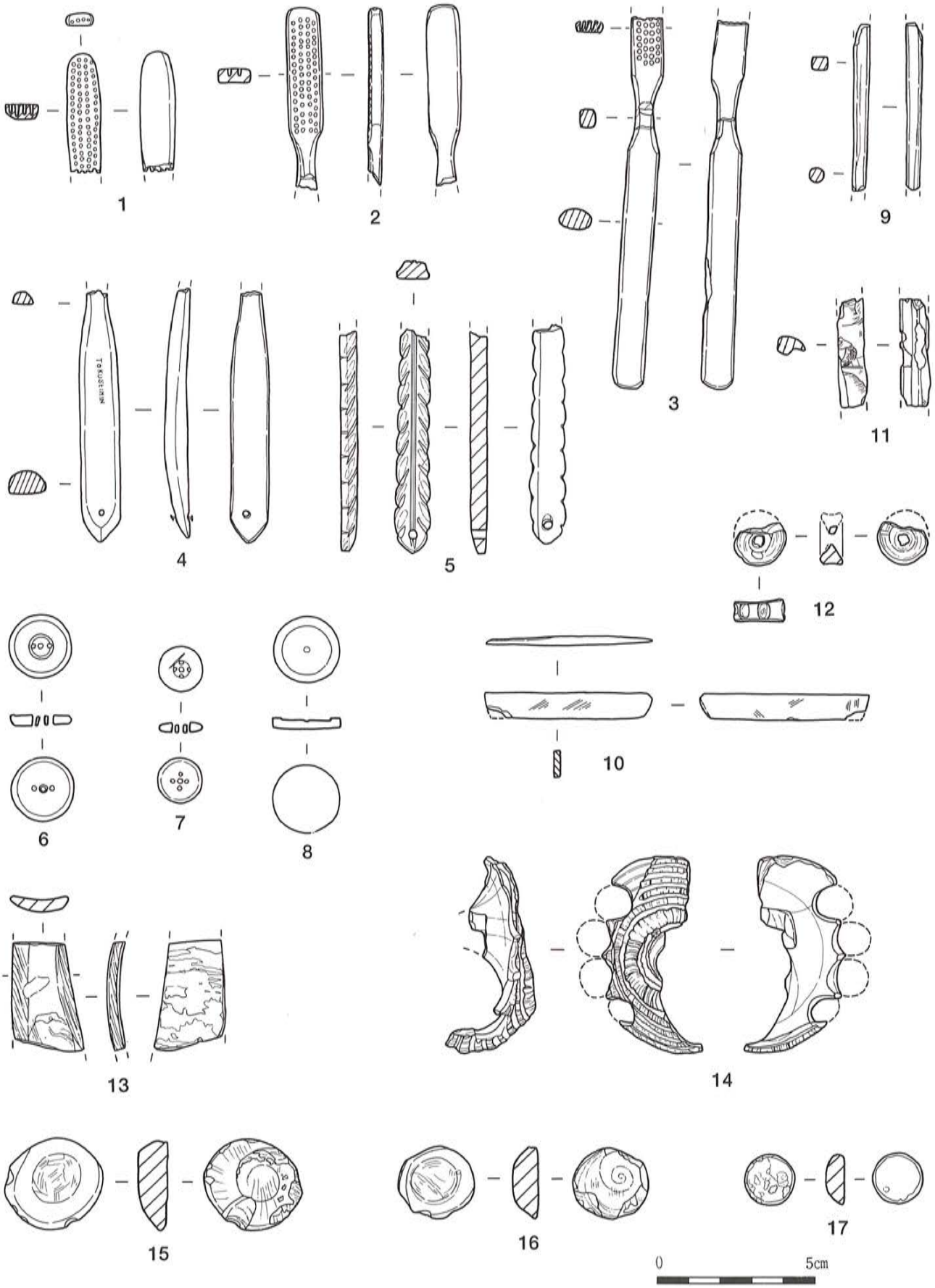
単位：㎜

図・図版	番号	器種	観　察	出土地
第70図・図版39	1	歯ブラシ	頭部、頭：楕円、孔：４列　幅11.6　厚4.5	Ⅰ ク-29　2層
	2		頭部、頸：5.6×4.3と細い、頭：隅丸方形、孔：４列　幅10.5　厚４	Ⅰ 黄土山
	3		柄部、先端：方形、断面：隅丸方形、頸部えぐるように細くなる。孔：なし。幅10.2　厚6.2	Ⅰ セ-29　地山清掃
	4		柄部、頸：4.4、先端：尖る。断面：カマボコ状、孔に青銅の金具、海綿組織露出　幅12.3　厚7.5	Ⅰ ケ-29　2層
	5		柄部、先端：尖る。表面は中央に二条の沈線、さらに左右は幅8.0㎜単位で抉りを入れ、その間に幅広沈線で彫り、葉状に装飾する。裏面は研磨のみ。断面：カマボコ状幅10.6　厚6.1	Ⅰ 黄土山
	6	ボタン	完形、表面：沈線を一周、内径７㎜に段をなす。裏面は縁を削る。孔は一直線上に３つ穿孔する。孔径７　幅19.1×19.6　厚3.4	Ⅰ カ-31　2層
	7		完形、表面に傷有り。内径5.5㎜。一段低くなる。孔は中央の孔を中心に上下左右に４孔を配す。幅14	Ⅰ カ-31　2層
	8		完形、表面は幅2.3㎜の縁取りのロクロ挽きが確認できる。中央に穿孔痕があるが貫通しない。裏面は丁寧に研磨。幅21.1　厚3.4	表採
	9	棒状	胴部、断面は方形～円形。箸か　幅5.3　厚4.1	Ⅰ サ-28　2層
	10	ヘラ状	ほぼ完形、研磨痕。両端に薄く、さらに角が取れる。幅53.2×8.1　厚2.3	Ⅰ キ-29　2層
	11	その他	破片、管骨、表に細沈線で人や風景らしき彫刻を施す。裏面は段をなす。光沢が有る。用途不明　幅8.9　厚4.9	Ⅰ タ-30　南北畦
図・図版なし	計測のみ	歯ブラシ	頭部、頭：楕円、孔：４列　幅11.6　厚4.7	Ⅰ サ-31　3層a
			頭部、頭：方形、孔：３列　幅10.2　厚4	Ⅰ サ-30　3層
			頭部、先端：隅丸方形、断面：カマボコ状、先端の孔に青銅の鳩目が残る。幅11.6　厚4.9	Ⅰ サ-29　2層
			頭部、頭：楕円、孔：３列　幅11.1　厚4.3	Ⅰ サ-31　2層
			頸部、孔：４列　幅9.9　厚4.5	Ⅰ セ-30　7層
			頸部、ゆるやかにくびれる。横断面：楕円　幅5.8　厚4.8	Ⅲ-C　3層　東側淡褐色土
			柄部、長方形、未製品　幅8.4　厚4.9	Ⅰ サ-28　2層
			柄部、孔：大きい、縁に彫刻、図5に類似。断面：カマボコ状　幅9.8　厚6.7	Ⅰ サ-31　3層a
			柄部、断面：カマボコ状　幅11　厚5.5	Ⅰ ウ-31　2層
			柄部、断面：方形、先端：尖る。孔径：3.4、研磨痕：横位に顕著。海綿組織を露出。幅10.5　厚3.6	Ⅰ 黄土山
			柄部、先端：丸、断面：カマボコ状　幅12.1　厚6.2	Ⅰ サ-31　3層a
			柄部、両端破損、断面：楕円　幅8.7　厚5.3	Ⅰ コ-29　2層bトレンチ

第29節　貝製品

a. 棒状製品

第72図１は棒状に加工したもので、一端は削り面が顕著である。横断面は直径6.5㎜の円形を呈し、残存部の長さは4.4㎝を測る。貝種は形状からクモガイやスイジガイなどの突起部分の可能性が考えられる。Ⅰ地区コー31、２層の出土である。



第70図　骨製品・貝製品

b. 匙状製品

同図２は匙状製品の柄の部分でヤコウガイをかなり削り込み、表裏面とも真珠層のみを露出する。殻口部を柄の頂部に用いたもので最大幅3.2cm、厚さ3.6mm、残存長56.3mmを測る。Ⅰ地区セ－27、４層の出土である。

第70図13は夜光貝をかなり削り、匙状にしたもので、最小幅16.7mm、最大厚3.3mmを測る。Ⅱ地区キ－28、２層の出土である。同図14はチョウセンサザエの殻に10.8mmの孔を４個あけるもので、Ⅱ地区ス－29、２層の出土である。ボタンを取った後のものではないかと思われる。

c. 板状製品

第72図３もヤコウガイの体層を板状に加工したもので結節部及び周縁を打割調整の後、研磨加工を施したものである。最大長12.5cm、最大幅5.1cm、最大厚0.9cm、ほぼ中央に径13mmの孔を両面から穿孔する。表面採集である。同図４は３と同様の部分を用いたもので周縁及び結節を打割調整し、側面からみると全体を板状にする。最大長12.6cm、最大幅5.3cm、最大厚10mmを測る。Ⅰ地区セ－29、３層の出土である。

d. 未製品

同図５～７はいずれもヤコウガイの成貝で、体層部を打割調整によって取り除き製品を加工したあとの残存部分である。５は殻口近くに穿孔あるいは深い打割「→」が確認できる。６は径1.6cmの孔を有し、殻口部分は破損する。７は体層部を丁寧に除去する。

ヤコウガイはすでに報告されている湧田古窯跡議会棟でも自然貝の中にかなり検出されている。また、ほぼ同時期に属する御細工所跡[注24]、銘苅原遺跡[注25]からも確認されている。今後、この時期のヤコウガイについての歴史的背景を踏まえると集計には細かな分類が望まれる。本遺跡のヤコウガイについてみると２の匙状の完成品と３、４の製品では取る場所が異なることから、匙以外の用途が考えられる。３、４は次体層近くの体層を用い、板状に加工することから螺鈿の材料ではないかと考えられる。

第70図15、16はチョウセンサザエの蓋の表面に径１cm前後の研磨を施し、裏面は研磨と縁に剥離が見られる。15は30.7cm×27.9cm、最大厚9.5mmを測る。Ⅰ地区イ－32、３層の出土。16は23.1cm×21.9cm、最大厚8.4mmを測る。Ⅰ地区エ－32、３層の出土。17は表面は饅頭形になり、表面にアバタが見られ、裏面は青味を帯び、ガラス質を呈する。径15.8mm、厚さ6.1mm、Ⅰ地区カ－28、５層の出土。前者は第68図の５の碁石の未製品と考えられる。後者は同図２～４と同じもので貝か他の材質か不明。

第30節　ガラス製品

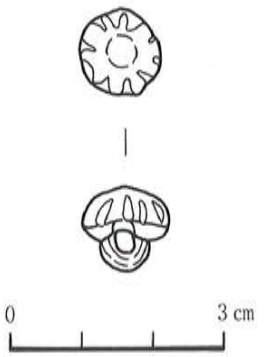
図版37　１～10は玉で、色はコバルト、緑色、翡翠色、白色の種類あり、孔を軸に巻き付けるタイプと研磨による仕上げがある。以下、大きさ、色、サイズ及び出土地については下記の表に示した。制作の傾向をみると翡翠色は研磨されたもので他は巻き付けの技法によるものと思われる。

図版37　11（第71図）は直径11.8mm、高さ11.8mmのボタンである。表面は放射状の模様11条を施し、底面はリング状に直径3.6mmの孔を持つものである。表面は縦に筋が確認できる。裏面はリング幅３mmの帯を接着している。Ⅰ地区エ－32、２層の出土である。

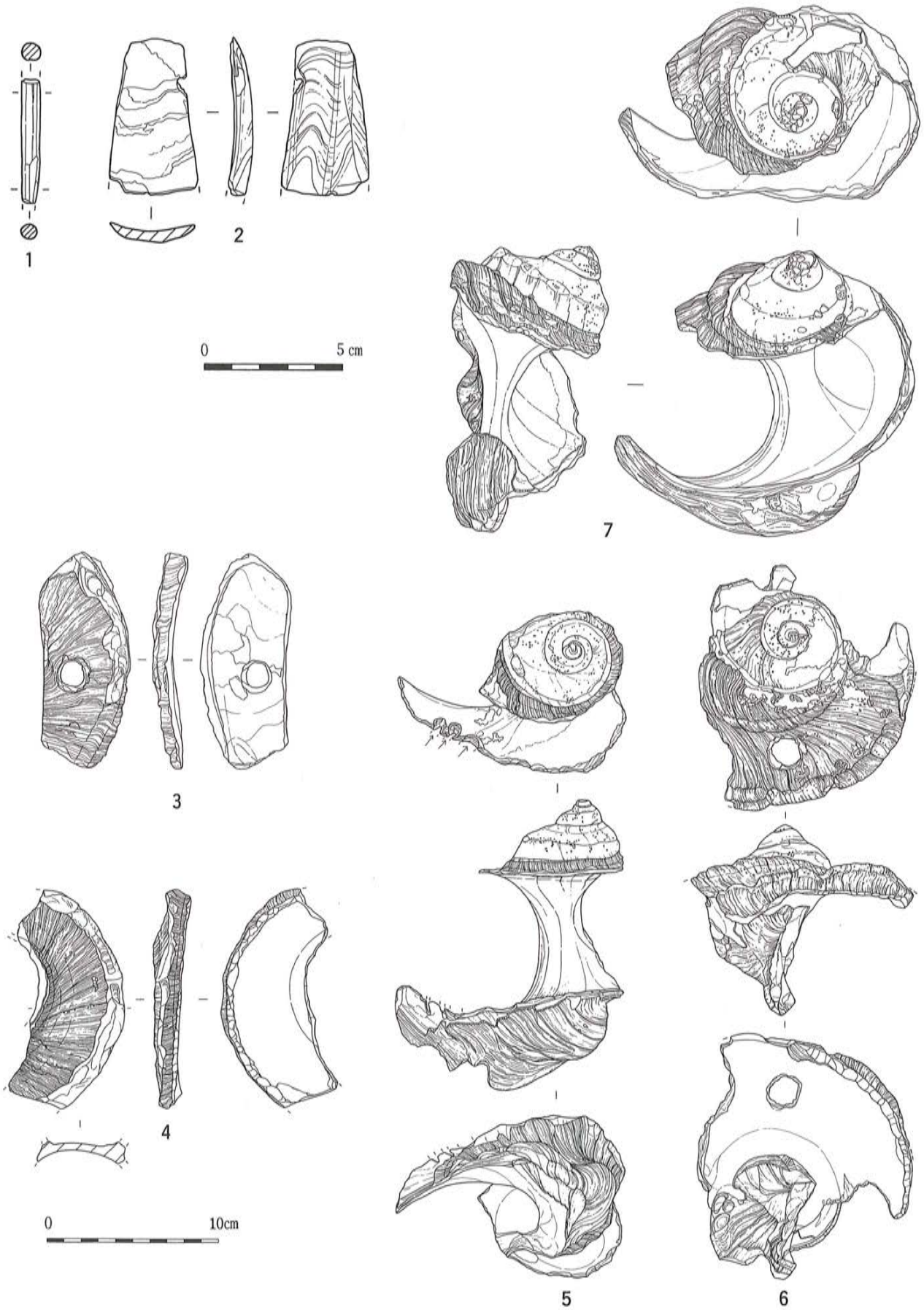
第25表　ガラス玉観察一覧

単位：mm/g

No	出土地	残存	径	厚さ	重さ	色	観察事項
1	Ⅰカ-30　２層	完	0.55	0.5	0.2	コバルト	横筋、気泡。
2	Ⅰコ-27　４層	完	0.81	0.67	0.5	白色	横筋、光沢がある。
3	Ⅰ黄土山	破	0.27	0.11	0.6	コバルト	横筋。
4	Ⅰオ-31　２層	破	0.28	0.21	－	緑色	薄作り、研磨痕。
5	Ⅰキ-28　２層	完	0.41	0.32	0.1	緑色	横筋、気泡。
6	Ⅰキ-28　２層	破	0.45	0.33	－	緑色	横筋、気泡。
7	Ⅰウ-32　２層	完	0.48	0.37	－	緑色	横筋、気泡。
8	Ⅰク-30(南北ライン)	完	0.29	0.18	－	翡翠色	孔の周辺に研磨痕。
9	Ⅰサ-30　３層	完	0.38	0.23	－	翡翠色	孔の縁に気泡が見られる。側面に研磨痕か。
10	Ⅰケ-26　４層b	完	0.48	0.41	－	翡翠色	横筋、気泡なし。孔の縁、欠損。



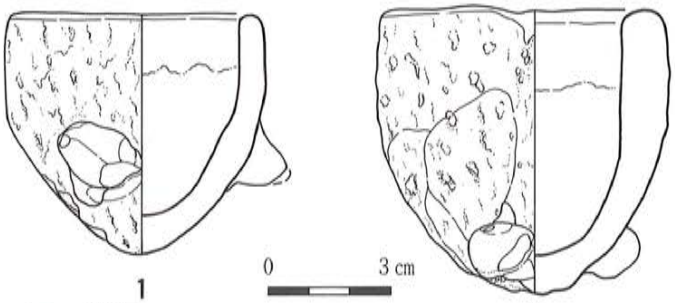
第71図　ガラス製品（ボタン）



第72図　貝製品

第31節　坩　堝

今回の調査で14点の坩堝が出土している。大方の資料がⅢ地区の集石遺構やその近辺で出土し、資料の半分が良好な状態で得られている。紙面の都合上、完形の資料から標本として２点図示し、それ以外の資料については第26表で特徴を示す。第73図１は口径６㎝、高さ5.8㎝、器厚0.6㎝、重さ90.4ｇ。口が若干すぼまる器形で器内部に青銅粒の溶着が見られる。器外面は赤色と黒色に変色し、器内面の口縁４分の３が口縁上部から下に１㎝前後の範囲で赤色に変色、その下、全体的に青銅粒の溶着痕が見られる。２は口径７㎝、高さ6.8㎝、器厚1.1㎝、重さ106.4ｇ。口が直口になる器形で、外面は黒色、口縁上面から内面にかけては灰色で部分的に茶褐色を呈する。これは溶着痕というよりも土中に埋っている際に土の鉄分が沈着したものと見る方が妥当という見解を得た[註26]。１・２ともにⅢ地区集石遺構からの出土である。坩堝の傾向として、坩堝自体の変色や変質は直に火熱したためにみられる変化で、坩堝が溶解炉として使われていたと考えられるとの教示を受けた。[註27]坩堝の大きさに関わらず、口径がすぼまる器形の坩堝は、器外面が赤色と黒色に変色し、器内部の付着分も多く、口が直口の坩堝よりも使用頻度が多かったのではないだろうか。



第73図　坩堝

第26表　坩堝観察一覧

単位：cm/ｇ

計測No	口径	高さ	器厚	重さ	出土地	残存状況	観察事項
1-1	5.37	5.57	0.7	67.3	Ⅲ ツ-19　集石遺構	完	口がすぼまる器形で、内部に青銅粒が残る。外面は黒色と赤色に変色している。
1-2	5.66	7.04	0.8	80.3	Ⅲ ツ-19　集石遺構	完	口が若干すぼまる器形、表面は黒色に変色。
2	6.31	6.2	0.7	76.8	Ⅲ チ-19　集石遺構	完	口が開く器形。外面は黒色に変色、部分的に赤色に変色。
3	―	6.08	0.7	56.8	Ⅲ 集石遺構	破	口は若干すぼまる器形。外面は黒色に変色。
4	6.18	―	0.8	65.7	Ⅲ チ-18　黄褐色土スミ混（地山直上?）	破	口は開く器形で、底部が破損しているが、高さは推算で5.3㎝である。
5	―	7.07	0.8	53.3	Ⅲ 集石遺構	破	口縁部が破損していて、器内面の青銅の付着が少ない。器外面は黒色に変色。
6	5.63	6.38	0.7	62.9	Ⅲ ツ-18　集石遺構	破	口がすぼまる器形。表面は黒色に変色。
7	―	6.45	0.6	52.3	Ⅲ 集石遺構	破	口は若干すぼまる器形。器面は赤色と黒色に変色するが、器内面口縁から2.3㎝までが表面と同じ赤色に変色し、それにより底部内面は青銅成分の付着がみられる。
8	―	7.83	0.8	44.3	Ⅲ チ-19　集石遺構	破	器内外面とも黒色。内面の付着も僅かである。
9	―	―	1	39.2	Ⅲ 集石遺構周辺	破	器内外面ともに黒色を呈する。
10	―	―	0.8	19.6	Ⅲ ソ・タ-19　畦	破	小破片であるが、器面の膨れが目立つ。
11	―	―	0.5	7.1	Ⅰ サ-28　5層	破	小破片である。器内外に青銅粒が付着する。
12	―	7.08	0.7	48	Ⅲ チ・ツ-19　集石遺構内　東西トレンチ	破	口が若干すぼまる器形。器外面は黒色と赤色に変色。

第32節　製作道具

a. 窯道具

今回の調査で得られた窯道具は、ほとんどが小破片で出土量も僅かであるがトチンとハマが出土している。すべて湧田古窯跡（Ⅰ）[註28]で報告されているものと同種の資料であった。図示した資料の詳細は第27表に記載する。第74図１～４の資料はⅠ地区からの出土で、５・６のトチンはⅡ地区からの出土である。６の資料はグッチャーという窯道具とよく似ていて[註29]、同種の資料と考えられる。

第27表　窯道具観察一覧

単位：cm/ｇ

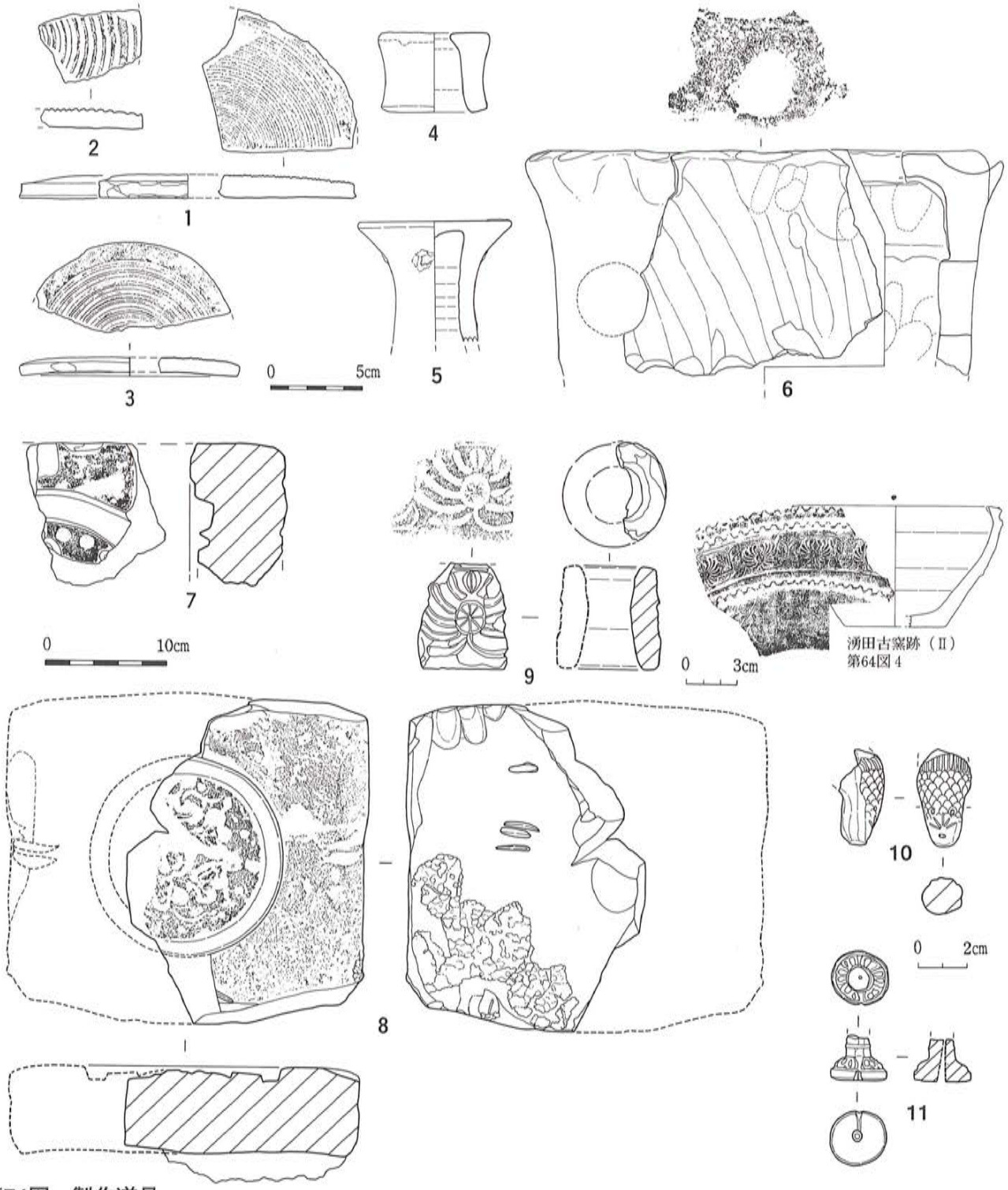
図	番号	分類	上面径	高さ	重量	観察	出土地
第74図・図版41	1	ハマ	18.2	1.3	100	素地は小豆色、溝状の外側は変色している。	Ⅰク-27　4層
	2	ハマ	―	1	20	素地は内部が灰色、溝面は赤褐色、裏面は黒褐色、内部が層になって空洞がみられるが、焼成不良のハマだろうか。	Ⅰシ-27　5層
	3	ハマ	11.9	1	60	素地は小豆色、裏面は釉の付着がみられる。	Ⅰオ-30　5層
	4	トチン	5.3	4.3	120	素地は黄灰色、上面は白釉で半分の範囲に砂の付着がある。胴部は茶褐色である。	Ⅰ黄土山
	5	トチン	8.4	―	230	胴部は黒褐色と淡い青緑色が入り混ざった色で、部分的に表面は釉がふくれて、破裂している。	Ⅱ北側斜面赤褐色土
	6	大型トチン	26	―	420	素地は灰色で粗い粒の白色粒や青黒色粒が含まれる。瓦質。素地に白粒を多量に含む。側面に穿孔。	Ⅱタ・チ-31　6層

b. 瓦型

軒丸の瓦型が２点得られている。第74図７は、Ⅰ地区の石垣前面に堆積していた覆土から出土している。同図８はⅡ地区チ－32グリットの窯体・焚き口付近、６層からの出土であるが、湧田古窯跡（Ⅰ）[註30]で報告された瓦型（第95図１）と接合することができた。瓦型の文様は判然としないが牡丹と蔓の組み合わせになるものと考えられる。

c. 回転式文様型（第74図９）

Ⅰ地区セ－30、７層から瓦質土器に文様をつけるための筒状の型が出土した。表面に菊花文・菊葉文が彫られており、高さ６㎝、厚さ1.5㎝、上面径は推定6.3㎝を測る。湧田古窯跡（Ⅱ）[註31]で報告された瓦質土器（植木鉢）に同じ文様の実例を見ることができ、第64図４を転載することにした。

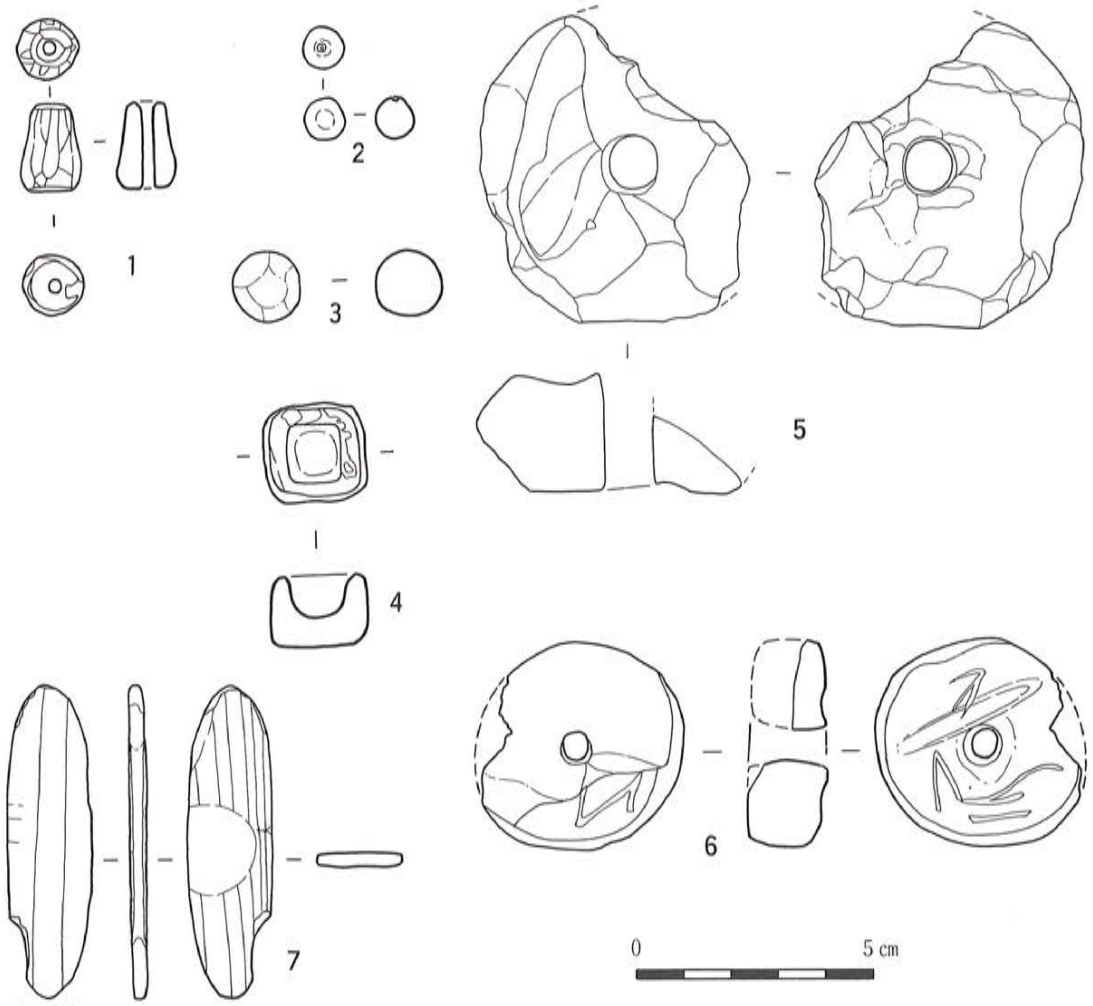


第74図　製作道具

第33節　その他

第75図１は無釉陶器で一部欠損しているがほぼ完形の資料である。資料中央に穴が空いており、上面からの直径0.4㎝、下面直径0.2㎝の幅で穴が空けられている。生地の色は暗茶褐色で、全面に丁寧な面取りが施される。最大高2.3㎝、最大幅1.2㎝、重さ3.3ｇ、Ⅰ地区カ－29、２層からの出土である。同図２～４は土製品で、２・３が球状を呈し、生地は両方とも橙褐色で表面は磨かれている。２は直径0.9㎝で重さが0.5ｇを計る。上面には直径0.2㎝の凹みがあり、穿孔の途中とも考えられる。Ⅱ地区ソ－31、４層出土。３は直径1.4㎝、2.3ｇを計り、２より若干大きい。Ⅲ地区セ－19南北トレンチより出土。同図４は升状の小さな土製品である。上面からの形状は一辺２㎝の正方形で、高さは1.5㎝、凹み内幅1.2㎝、深さ0.9㎝、重さ6.9ｇを計る。Ⅰ地区カ－28、２層出土である。同図５・６は瓦質の資料で、破損しているがほぼ円形で紡錘車のような形状をし、表面の形態から二次加工の製品とも考えられる。５は生地が青灰色、表面に幅2.5㎝の凹みがある。孔の最大径は1.5㎝、重さ201.2ｇを計る。Ⅲ地区ス－19、３層の出土である。６は生地の色が橙褐色で、表面に幅0.5㎝の凹みがあり線の細かい痕が表裏面に入っているようである。孔の最大径は0.8㎝で、重さ21.8ｇを計った。Ⅲ地区ツ－19、３層からの出土である。同図７は木製品で、形状は長楕円を呈する。厚さ３㎜と薄く重さも１ｇと計量である。長さは60.6㎜、最大幅は1.8㎝を計る。図下部が刃こぼれのようになっている。上部は先端が一部欠損している。資料の端にみえる切り込み状の痕は自然のひびの可能性もある。表面は盛り上がり、中央は丸く滑らかになっている。Ⅰ地区キ－27、４層からの出土である。

第74図10・11は陶器の置物と考えられ、無釉で生地が細かく作りの丁寧な型押し成形である。産地は不明だが本土産の焼き物の可能性がある。10は笹の葉を逆にしたような文様に鱗とみられる文様が施され、正面図下部のほうに幅１㎜前後の３つの刺突痕が残り、深さは３㎜程度である。生地は肌色で石英のような鉱物が確認できる。Ⅱ地区石積み遺構下石組み遺構№２の下部から出土している。11は寺の境内にある灯籠の模型のような資料で、生地は灰白色で石英のような鉱物と赤色粒が確認できる。Ⅲ地区チ－17、１層からの出土。

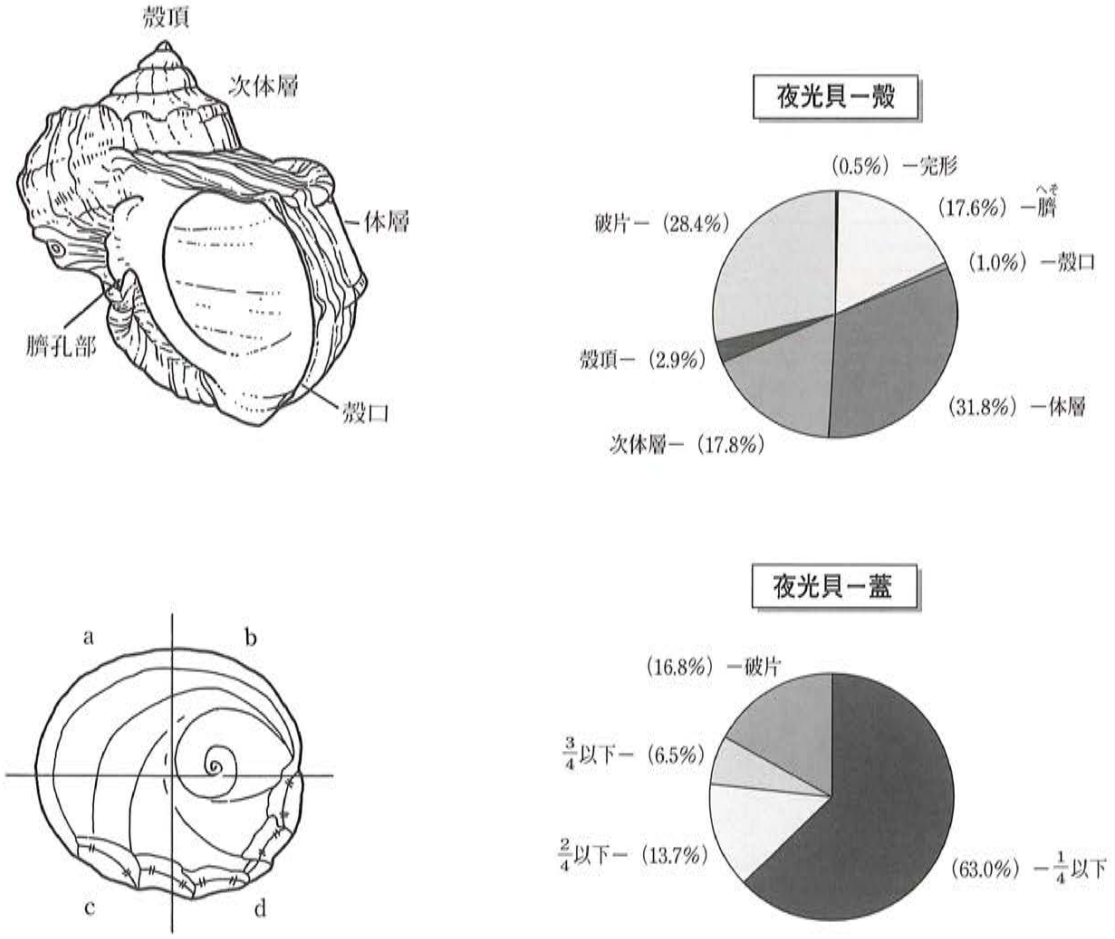


第75図　その他

第34節　貝　類

本遺跡出土の貝は巻貝が38科150種、二枚貝20科59種である。地区別の出土状況をみるとⅠ地区が3119個体で全体の79.8%と最も多く、次にⅢ地区590個体と全体の15.1%、Ⅱ地区が196個体と全体5.0%と続く。Ⅰ地区を層別にみると２層が最も多く、次に４層が多い。また、溝状遺構、石垣周辺や遺物集中部からはあまり出土していない。Ⅱ地区では４層に多い。Ⅲ地区は３層、２層に多く、集石遺構からも出土する。貝種をみるとウラキツキガイ、オキシジミが多い。巻貝ではオハグロガイが多く、特に完形での出土が目立つ。この貝の生息地をみるとやや内湾のアマモ場の砂礫の生息する地域であることから漫湖周辺を思い起こさせ、湧田古窯跡の古環境も現代とほぼ同じと思われる。タカラガイをみるとハナビラダカラは完形が多く、殻頂13.6㎜～26.4㎜と幅がある。ハナマルユキの中に殻頂を除去し、貝錘の可能性のあるものも５点ある。土錘も出土することから貝錘の可能性も強く、その関係は興味深いものがある。

マガキガイは完形が少なく、殻頂を残すものが多い。チョウセンサザエは殻より蓋の方が多い。これは第70図14に示すようにボタンの材料として利用されたとも考えられる。また、ヤコウガイは完形は2個のみで、５㎝前後の破片が多く、これを「臍」、「殻口」、「体層」、「次体層」、「殻頂」、「破片」の部位別に分類すると第76図に示したように体層が最も多く、次に次体層とへその部分が多い。また、蓋も下図のように分類すると４分の１以下の破片が全体の63.0%と最も多い。いずれの状況からみても夜光貝をかなり砕いて利用していることが窺え、本品は食用としての利用より、漆器の螺鈿の材料かあるいは中国や日本に交易品として輸出されていたと思われる[註32]。破片が多いことを考えると１次加工をしたのか興味深い。これらの割れ方からすると破片も細かいことから何らかの加工を行った可能性が高い。地区別には他の貝と同様Ⅰ地区の２層、４層に多く、Ⅱ地区は４層、Ⅲ地区は2層、３層に多く出土している。井戸周辺からチョウセンサザエ、マガキガイが見られる。集石遺構からはヤコウガイの完形が出土している。遺構との関連は今のところ不明で今後の資料の追加を待ちたい。この時期における貝は食料としてよりチョウセンサザエやヤコウガイのようにボタンなどの加工や交易品として位置ずけ、資源として価値が高くなるように思える。



第76図　夜光貝の殻と蓋の残存部比率

	Ⅱ 地 区																								個体数	Ⅲ 地 区																								個体数
	表採・1層			2層			3層			4層			6層			石垣斜面			不明			小計				2層			3層			3層 井戸周辺			4層			遺物集中			集石遺構			不明			小計			
	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片		完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	
1																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
6																						0	0	0					1																		1	0	0	1
11																						0	0	0		1																					1	0	0	1
1																						0	0	0																							0	0	0	
3																						0	0	0																							0	0	0	
7		1			1																	0	2	0	2						1														1	1	0	1	2	1
32	1											1		1			1	2		1	3	1	3	6	4		1	1		3	4								1						1		0	6	5	6
35					1	4						4						7		1	7	0	2	22	2		1	16		6	26								2	5	1		5		3	7	1	12	59	13
89		2	3		1						1	4		2	2	1	6	1				1	12	10	13		1	5		10	10		1						4	2					3	4	0	19	21	19
59									1		2	3		3		8	8				1	8	13	5	21	8	9	1	10	38	10	1	2			2		2	20	1	1	2		4	17		26	90	12	116
76		1		1				1		1	3								1	3		3	8	0	11	4	8	1	7	9	3	1	2					2			3	1		1	2		18	22	4	40
19																						0	0	0					1																		1	0	0	1
72					1															1		0	2	0	2	1	2		2	7	1		1						1	1				1	4	1	4	15	3	19
3																						0	0	0																							0	0	0	
4																						0	0	0																							0	0	0	
19										3	1											3	1	0	4																						0	0	0	
16										1									1			2	0	0	2																			1			1	0	0	1
9																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
23																						0	0	0		1			1	1															1		2	2	0	4
2																						0	0	0																							0	0	0	
																						0	0	0								2										2					2	2	0	4
54											1								1	2		1	3	0	4		2		1	1									1								1	4	0	5
1																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
2																						0	0	0																							0	0	0	
1																	1					0	1	0	1				4																		4	0	0	4
1																						0	0	0																							0	0	0	
40		2						1			2					1	1			1		1	7	0	8																						0	0	0	
15										1												1	0	0	1				1	8														1			2	8	0	10
																						0	0	0					1																		1	0	0	1
12																						0	0	0																							0	0	0	
10											7	15										0	7	15	7																1	39	42			2	1	39	44	40
27																						0	0	0			3		1	7												2		1			2	12	0	14
14										1												1	0	0	1		1		1																		1	1	0	2
2																						0	0	0																							0	0	0	
4																						0	0	0																							0	0	0	
75		1								1	3						1			6		1	11	0	12		1						1					1	2								1	4	0	5
3																						0	0	0																							0	0	0	
Δ																						0	0	0																							0	0	0	
39	3								1	9	5					1	1		1			14	6	1	20	13	8	1	8	6	1													2			23	14	2	37
Δ																						0	0	0																							0	0	0	
32			1						1	1							3		1	1		2	4	2	6	2	8			14	2	1						1	1					2	3		6	26	2	32
2																						0	0	0																							0	0	0	
14												1				1						1	0	1	1		1				5		1	1													0	2	6	2
1																						0	0	0																							0	0	0	
3																						0	0	0																							0	0	0	
2																						0	0	0																							0	0	0	
6																						0	0	0																							0	0	0	
3																						0	0	0																							0	0	0	
5																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
Δ																						0	0	0																							0	0	0	
2																						0	0	0							1													1			1	0	1	1
15																						0	0	0		1																					1	0	0	1
55								1		1	3					1	1					2	5	0	7		1	1	2	2	3				2									1			5	3	4	8
5																						0	0	0																							0	0	0	
20										1												1	0	0	1																						0	0	0	
17	1	1	2	1				1		2		3				1			1			6	2	5	8	1			8		2																9	0	2	9
3															3							0	0	3	Δ						2																0	0	2	Δ
3																						0	0	0																							0	0	0	
6												1				1						1	0	1	1		1	1													1						1	1	1	2
1																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
5																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
4																						0	0	0					1																		1	0	0	1
6											1					1						1	1	0	2																						0	0	0	
																						0	0	0		1																					1	0	0	1
2																						0	0	0																							0	0	0	
Δ																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
4																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
6																	1					0	1	0	1		1				4																0	1	4	1
12																						0	0	0						1																	0	1	0	1
3																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
2																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
Δ																			1			1	0	0	1																						0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
8																						0	0	0		1																					1	0	0	1
5																						0	0	0																							0	0	0	
3																						0	0	0														1									1	0	0	1
																						0	0	0														1									1	0	0	1
1																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
2																						0	0	0					1																		1	0	0	1
1																						0	0	0																							0	0	0	
3																						0	0	0																							0	0	0	
4																						0	0	0																							0	0	0	
2																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
8																						0	0	0																							0	0	0	
11								1														0	1	0	1																						0	0	0	
34																3	1					3	1	0	4		1		2	3	6		1					3	2	1				3	1		8	8	7	16
4																						0	0	0		1																					1	0	0	1
1																						0	0	0																					1		0	1	0	1
																						0	0	0															1								0	1	0	1
1																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
3																						0	0	0																							0	0	0	
3																						0	0	0																							0	0	0	
14											1	1										0	1	1	1																				1	1	0	1	1	1
2																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0					1																		1	0	0	1
																						0	0	0						1																	0	1	0	1
Δ																						0	0	0				1																			0	0	1	Δ
Δ																						0	0	0																							0	0	0	
32					1							1										0	1	1	1	1			1																1		2	1	0	3
1																						0	0	0																							0	0	0	
31				1																		1	0	0	1	1			2																		3	0	0	3
1																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
																1						1	0	0	1				3																		3	0	0	3
Δ																						0	0	0																							0	0	0	
3																						0	0	0					1	1																	1	1	0	2
1																						0	0	0																							0	0	0	
2							1															1	0	0	1																						0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
2																						0	0	0																							0	0	0	
10																						0	0	0			1			1																	0	2	0	2
Δ																						0	0	0																							0	0	0	
4																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
Δ																						0	0	0					1																		1	0	0	1
2																						0	0	0																							0	0	0	
3																						0	0	0																							0	0	0	
1																						0	0	0																							0	0	0	
4																						0	0	0				2																			0	0	2	Δ
1																						0	0	0																							0	0	0	
3											1											0	1	0	1				1												1						2	0	0	2
																						0	0	0											1												1	0	0	1
1																						0	0	0											1												1	0	0	1
6																			2			2	0	0	2	1			1																		2	0	0	2
2																						0	0	0																							0	0	0	
4																						0	0	0					1																		1	0	0	1
5																						0	0	0						1	2		1						1								0	3	2	3
22	5	8	6	3	5	4	1	5	3	22	31	34	0	6	5	20	25	10	9	16	11	60	96	73	156	38	51	30	65	120	83	5	10	1	4	2	0	11	36	10	8	46	47	18	39	16	149	304	187	453
	13			8			6			53			6			45			25			156				89			185			15			6			47			54			57			453			

I 地区

破片	3層 完形 L	3層 完形 R	3層 殻頂 L	3層 殻頂 R	3層 破片	4層 完形 L	4層 完形 R	4層 殻頂 L	4層 殻頂 R	4層 破片	5層 完形 L	5層 完形 R	5層 殻頂 L	5層 殻頂 R	5層 破片	6層 完形 L	6層 完形 R	6層 殻頂 L	6層 殻頂 R	6層 破片	7層 完形 L	7層 完形 R	7層 殻頂 L	7層 殻頂 R	7層 破片	黄土山 完形 L	黄土山 完形 R	黄土山 殻頂 L	黄土山 殻頂 R	黄土山 破片	石垣平面清掃 完形 L	石垣平面清掃 完形 R	石垣平面清掃 殻頂 L	石垣平面清掃 殻頂 R	石垣平面清掃 破片	溝状遺構 完形 L	溝状遺構 完形 R	溝状遺構 殻頂 L	溝状遺構 殻頂 R	溝状遺構 破片	赤土遺物集中 完形 L	赤土遺物集中 完形 R	赤土遺物集中 殻頂 L	赤土遺物集中 殻頂 R	赤土遺物集中 破片	地山直上 完形 L	地山直上 完形 R	地山直上 殻頂 L	地山直上 殻頂 R	地山直上 破片	不明 完形 L	不明 完形 R	不明 殻頂 L	不明 殻頂 R	不明 破片	小計 完形 L	小計 完形 R	小計 殻頂 L	小計 殻頂 R	小計 破片	個体数
																								1								1	1																				1			0	1	3	1	0	4
						1		1		2	1						1									1			1																										1	5	1	3	5	5	10
																			2																																					0	0	0	3	0	3
							1																																																	1	1	0	0	0	1
2					2	2		2		3			1			1	1	2					1		1		1																												4	4	3	7	1	21	11
			1			2	1	1		2		1					1	1				2	2					1	2																						1	1		1	1	4	7	6	4	3	13
												1																																												0	1	0	0	0	1
																																																								0	0	1	0	0	1
																																																								1	0	0	0	0	1
																			1																																					0	0	0	1	0	1
																																																								0	1	0	0	0	1
																																																								0	0	0	0	0	1
						1				7										1					1										1																				1	1	0	0	0	17	1
																																																								0	0	0	0	0	
					6			2		3					2									1	2					1	1																						2	1	3	2	0	10	5	20	12
																																																								0	1	0	0	0	1
																																																				1				0	1	0	0	0	1
					1					4		1	1		9																																						1	1		0	2	2	1	16	4
											1																																													2	0	0	0	0	2
						2		1																		1																														3	0	1	0	0	1
															1																																									0	1	0	0	1	1
											1																																													1	0	0	0	1	1
	26	21	20	18	29	53	42	87	92	37	5	4	4	7	6	4	5	3	2	2	5	3	2			6	3	15	18	16			1	1																	12	9	15	20	15	204	155	232	262	189	467
		1																																				1																		0	1	1	0	0	2
																																																								0	1	0	0	0	1
											1						1																																							1	2	0	0	0	2
								1															1	1																																0	1	2	1	0	3
												1																																												0	1	0	0	0	1
								1																																																0	0	1	0	4	1
				1	2	1	1		1	3	1								1									1		2																							2		2	2	1	4	5	11	7
1					1					5	1		2		3									1	5				1	1						1				1											2				6	5	2	2	3	32	8
					1			1		5					1					4					1										1																					0	0	1	1	13	1
1					2					15				1	25				1	8		1	1		5															1			1							1			1		1	0	1	3	2	68	3
					3					1	1		2												2																														1	2	0	2	0	12	4
										1					1					1										3																										0	0	0	0	10	△
								1																																																0	0	1	0	0	1
																																																								2	1	1	0	0	3
																																																								0	1	0	0	0	1
											1	2																																												4	2	1	0	3	5
1																														2																										0	0	0	0	3	△
					1																					1	1																													1	1	0	1	2	2
																																		1																						2	0	0	1	0	3
	1						1	1		1		1															1	1																							1				1	3	4	3	1	14	7
								5	3	1			1	1	2			1							1																															0	0	8	4	4	8
																																																							1	0	1	0	0	2	1
1					7	1		1	2	3					1	1	2	1		1		1			2					8										2											1		1	1	5	3	5	3	6	52	11
			2	1		9	5	5	6	1	5	1		2					1							1	1			1																					2		1	1	1	19	13	15	16	8	35
																																																								2	1	0	0	0	2
						3	4	3	2	4	1					2	2	1	1			1																															1	3	1	7	8	11	9	11	19
		1			1						2			2																																							1	1		6	3	4	7	5	13
								2																																												1		1		1	1	5	2	2	6
																																																				1				2	1	0	0	0	2
2			1		4	4	2	7	4	10		1	4	3		2	2	3	3	2	2							1		2								1		1												2	3	2	2	10	14	26	24	30	40
						1		1	1	1																1																											1			3	0	2	1	1	5
	1																																																							1	0	0	0	0	1
	1	1							1						1																							1															1		1	1	1	2	3	2	4
8	29	24	24	20	60	80	57	123	112	109	21	13	15	16	52	10	15	12	12	19	7	8	7	4	20	11	7	19	22	36	1	1	2	2	2	1	0	3	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	19	15	31	32	47	306	243	363	370	562	741
	53					203					37					27					15					33					3					4					1					△					51					676					

斜面 殻頂 L	斜面 殻頂 R	斜面 破片	不明 完形 L	不明 完形 R	不明 殻頂 L	不明 殻頂 R	不明 破片	小計 完形 L	小計 完形 R	小計 殻頂 L	小計 殻頂 R	小計 破片	個体数
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
		1		1				0	1	1	0	1	2
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	2	△
								0	0	0	0	0	
							1	0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
							1	0	1	0	1	6	2
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
1	1			1	1	1		5	11	9	10	6	21
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
		2						0	1	0	0	2	1
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	2	△
								0	0	0	0	1	△
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	1	0	0	1
								0	0	0	0	0	
1		3					1	0	0	1	0	4	1
					1			0	0	2	1	2	2
								0	0	0	0	0	
								0	0	2	3	2	2
								0	0	0	0	0	
								0	0	1	1	2	1
								0	0	0	1	0	1
3					1			2	1	4	0	0	6
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
								0	0	0	0	0	
5	1	6	0	2	3	1	3	7	15	21	17	31	40
7			5					36					

III 地区

2層 完形 L	2層 完形 R	2層 殻頂 L	2層 殻頂 R	2層 破片	3層 完形 L	3層 完形 R	3層 殻頂 L	3層 殻頂 R	3層 破片	4層 完形 L	4層 完形 R	4層 殻頂 L	4層 殻頂 R	4層 破片	遺物集中 完形 L	遺物集中 完形 R	遺物集中 殻頂 L	遺物集中 殻頂 R	遺物集中 破片	溝状部分 完形 L	溝状部分 完形 R	溝状部分 殻頂 L	溝状部分 殻頂 R	溝状部分 破片	井戸中埋土 完形 L	井戸中埋土 完形 R	井戸中埋土 殻頂 L	井戸中埋土 殻頂 R	井戸中埋土 破片	集石遺構 完形 L	集石遺構 完形 R	集石遺構 殻頂 L	集石遺構 殻頂 R	集石遺構 破片	不明 完形 L	不明 完形 R	不明 殻頂 L	不明 殻頂 R	不明 破片	小計 完形 L	小計 完形 R	小計 殻頂 L	小計 殻頂 R	小計 破片	個体数
																																								0	0	0	0	0	
1					1																																			2	0	0	0	0	2
																																								0	0	0	0	0	
						1																																		0	1	0	0	0	1
			1		1				1									1																					1	1	0	0	2	2	3
		1					1																												1					1	0	2	0	0	3
																																								0	0	0	0	0	
																																								0	0	0	0	0	
																																								0	0	0	0	0	
																																								0	0	0	0	0	
																																								0	0	0	0	0	
					1																																			1	0	0	0	0	1
		2		6			2		3																														1	0	0	4	0	10	4
						2																																		0	2	0	0	0	2
			2	1		1			4							1			1																					0	2	0	2	6	4
																																								0	0	0	0	0	
																																								0	0	0	0	0	
		1		1					2																													1	1	0	0	1	1	4	1
																																								0	0	0	0	0	
																																								0	0	0	0	0	
																																								0	0	0	0	0	
																																								0	0	0	0	0	
2	2	3	5	7	28	22	22	22	13	1	2	1			3	2	1	3								1				4	5	2	5		3	6	7	6	3	41	40	36	41	23	82
																																								0	0	0	0	0	
																																								0	0	0	0	0	
																																								0	0	0	0	0	
			1	1																																				0	0	0	1	1	1
																																								0	0	0	0	0	
																																								0	0	0	0	0	
			1		1	2	1	2	2										2														1							1	2	1	4	4	6
			1	3				1	2					1		1	1		1										1										2	0	1	1	2	10	3
									1																															0	0	0	0	1	△
									3					2					1																					0	0	0	0	6	△
				1					4								1												1											0	0	1	0	6	1
																			1																					0	0	0	0	1	△
																																								0	0	0	0	0	
																		1																						0	0	0	1	0	1
																																								0	0	0	0	0	
																																								0	0	0	0	0	
									1																															0	0	0	0	1	△
									1																															0	0	0	0	1	△
																																								0	0	0	0	0	
																																								0	0	0	0	0	
																																								0	0	0	0	0	
																																								0	0	0	0	0	
		1		1					1																									1	1	1			1	1	1	1	0	4	2
					1	2	1																																	1	2	1	0	0	3
																																								0	0	0	0	0	
				1	1	1	4	2																																1	1	4	2	1	5
				1																																				0	0	0	0	1	△
			1																																					0	0	0	1	0	1
																																								0	0	0	0	0	
3	1			1	3	3	3	6	4								1	1				1											1		1	2	1	2		7	6	6	10	5	17
						1																																		0	1	0	0	0	1
																																								0	0	0	0	0	
					1	2	1																												1					2	2	1	0	0	3
6	3	8	12	24	38	37	35	33	42	1	2	1	0	3	3	4	4	6	6	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	4	5	2	7	1	7	9	8	9	9	59	61	59	67	87	147
18					73					3					10					1					1					12					18					128					

第35節　那覇市湧田古窯跡地下駐車場地区出土の魚・鳥・獣類遺体

金　子　浩　昌

1．はじめに

湧田古窯跡における調査報告はこれまで数次にわたって行われ、その都度かなりの数の動物遺体について記すところがあった、今回もまたこれまで以上の量の動物遺体をみた。その様相は近世における肉食の文化の一端をよく示している。この地区には警察棟関連の遺跡もあって、ここからの出土も多い。それらと併せてまた別に論じたいと考えている。報告に当たり、沖縄県教育委員会文化課の島袋　洋氏、津波古良子氏、瑞慶覧尚美氏、島袋春美氏には大変にお世話になった。厚く御礼申し上げたい。

2．検出された動物遺体の種名表

軟骨魚綱　Class Chondrichthyes
　サメ目　Order Lamniformes
　　ネズミザメ科　Family Lamnidae
　　属・種不明　Gen. et sp. indet.
　　メジロザメ科　Family Charcharhinidae
　　属・種不明　Gen. et sp. indet.
　スズキ目　Order Perciformes
　　タイ科　Family Sparidae
　　属・種不明　Gen. et. sp. indet.
　　フエフキダイ科　Family Lethrinidae
　　ハマフエフキ　Lethrinus nebulosus
　　ブダイ科　Family Scaridae
　　ナガブダイ　Scarops rubrouiolaceus
　　ナンヨウブダイ　Scarus gibbus
　　マカジキあるいはメカジキ科
　　マカジキ/メカジキ科？Istiophoridae/Xiphiidae？
　　属・種不明　Gen. et. sp. indet.
爬虫綱　Class Reptilia
　カメ目　Order Chelonia
　　ウミガメ科　Family Cheloniidae
　　属・種不明　Gen. et sp. indet.
　鳥綱　Class Aves
　　キジ目　Order Galliformes
　　キジ科　Family Phasianidae
　　ニワトリ　Gallus gallus var. domesticus
　スズメ目　Order Passeriformes
　　カラス類　Corvus sp.
哺乳綱　Class Mammalia
　齧歯目　Order Rodentia
　　ネズミ科　Family Muridae
　　ケナガネズミ　Diplothrix legata
　食肉目　Order Carnivora
　　イヌ科　Family Canidae
　　イヌ　Canis familiaris
　　ネコ科　Family Felidae
　　ネコ　Felis catus
　奇蹄目　Order Perissodactyla
　　ウマ科　Family Equidae
　　ウマ　Equus caballus
　偶蹄目　Order Aritodactyla
　　イノシシ科　Family Suidae
　　ブタ　Sus scrota domestius
　　シカ科　Ceruidae
　　シカ　Cervus nippon keramae
　　ウシ科　Family Bovidae
　　ウシ　Bos taurus
　　ヤギ　Capura hirucus

3．動物遺体の記載

文中の計測値単位は特に記されていない限り㎜で表す。

(1) 魚　類

サメ目

サメ科：ネズミザメ類、メジロザメ類の椎体が出土している。

スズキ目

タイ科の歯骨、ハマフエフキ類骨、ブダイ科のナガブダイ、ナンヨウブダイの咽頭骨を検出しているが、その量は少ない。

(2) 爬虫類

カメ類

ウミガメ類の遺骸が断片的にみられた。

(3) 鳥　類

ニワトリ

多くの遺存骨がある。上腕骨、大腿骨、脛骨に遺骸が集中しており、肉をとるための特定の骨が持って来られている。ニワトリはグスク期から出土するが、これほどに部位が選定されていることはない。やはりこの在り方は、近、現代での特徴ではないかと思われる。

(4) 獣　類

イヌ

下顎骨の一部、歯牙２点、他に四肢骨があったが、１ないし数点が分散した状態で出土していた。骨格自身も完存する標本はない。これらの破損はすべて二次的なものである。

ネコ

上下顎骨片、四肢骨片があり、これも当初の遺体がかなり動かされた状態のものであろう。個体数はイヌに比べて少ないが、既に一般的に飼われていた様相を示している。

ウマ

Ⅰ地区５、６層で集中的に出土している。遺存骨の多くは近位骨端部、骨体、遠位骨端部の一部を残す破損標本であって、形を残すのは手根骨、足根骨、指骨などに限られた。頭骨、下顎骨などはほとんど見ることがなかった。臼歯も断片的なものになっていた。このことはこれらの骨の搬入量がごく少なかったことを推測させる。

ブタ

もっとも多くの骨を残していた。ブタの飼育とこれを食用とする食習が成立していたことをうかがうことができる。これらのブタの骨格が既に飼育種としてつくられた形質をもち、イノシシとは全く異なっていることをすべての部位にみることができる。

残されていた骨は全身の骨格におよぶが、すべてが同じ程度ではなかった。椎骨類は四肢骨の多いことと比べて少なく、明らかに別に扱われていると思われる。環椎などは１点があったのみであり、椎体は破損した状態で多くを見たのみである。このような椎体片も調理時に使われていたのであろう。肋骨はやや多かったことは当然考えられることで、これには切断された痕をみることがあった。

頭骨は前頭骨、頭頂骨、側頭骨、後頭骨の各部位があったが、特に頭頂骨の多かったことは、脳髄の利用と関連付けて考えられることである。

歯牙にみる特徴

上、下顎骨とその歯牙：上顎骨は完存するものはほとんどない。歯牙は顎骨に残されているものの歯冠面はほとんど壊されている。歯牙は$dm^{3,4}$ M^{1}, $dm^{3,4}$ $M^{1,2}$の状態にある標本が大部分であって、M^{3}の萌出例は稀で、あっても萌出直後である。下顎歯でも同様であり、dm_{4}まで萌出の例が10数点あった。M_{1}右側26例中、未咬耗：５、エナメル質のみの咬耗：10、エナメル質に小孔（径1.0程度）の開く例：５、それ以上：１であった。要するにM_{2}の萌出段階までが大部分ということになる。M_{2}の萌出段階の下顎骨長165.0を計測するが、M_{3}は萌出するとその遠心端は位置をずらして舌側に寄る。それだけ顎骨が短くなっているはずである。従ってより幅の広い頭骨になっていたことが考えられる。

M_{3}の咬耗はエナメル質段階のもののみである。なお下顎犬歯は小さく幅12.9、14.9であって、雌の個体かと思われる。

四肢骨は多くが破損していた。調理に使うからであろう。全体的に幅広く大型タイプと細く小さいタイプがあるが、同じ形質をもつことはその後の別遺跡の調査でも判明している。イノシシに比べて、関節骨端の骨溝が浅く、鋭さを失っていることが特徴的である。

シカ

Ⅲ地区B、３層から中手骨１点があり、切断された痕跡をみる。これは搬入されたものとみなければならないであろう。

ウシ

ブタに次いで多い出土であるが、実数ではブタよりもはるかに少ない。

頭骨：鼓室部、後頭顆、角突起部などがあるが、総数は少ない。下顎骨は略かたちの残される標本は１点があったのみである。

肩甲骨は骨体部の近位部、遠位部を比較的大きく残す破片であった。上腕骨は遠位部を残す標本が多い。おそらくその部分を割ることが多かったからであろう。橈骨は少なく、近・遠位骨端を残すこともなかった。尺骨の近位骨端の残っていたのは骨髄摘出のための破壊から外されていたからであろう。中手骨の残存率が高いのは確認し易いことがあったと思われるが、骨自体が骨器の素材として多く集められていたことも考えられる。中手もしくは中足骨の破片は多い。寛骨は破片でしか見ることができなかった。大腿骨片は近・遠位部共に多くが残されていた。骨髄利用度の高い部位であったからであろう。脛骨もよく残され、特に遠位部の残存率の高いのは骨質の丈夫なことにもよる。指骨も多く残され、脚部がそのまま運び込まれていたことを示している。

ヤギ

遺骸の出土は多い。すべて解体された四肢骨であった。このうち２、３層出土資料については近代のものと思われる。その他の資料は本遺跡の主要年代である17世紀頃のものと考えられる。ヤギの増加してくる様子を本資料によってうかがうことができる。

第30表　サメ類脊椎計測一覧

種類		出土地		
部位	脊椎	地区	グリット	層
ネズミザメ科	35.2	Ⅰ	イ-31	2層
	38.6		ク-30	3層
	35.9	Ⅱ		石積み
メジロザメ科	18.3	Ⅰ地区		黄土山
	20.9			
	22			
	19.5			Dトレンチ
	12.6		オ-32	2層
	13.8		カ-31	
	14.5		ケ-29	
	15.1		カ-31	
	16		ス-26	
	16.5		ク-28	
	16.5		サ-28	
	16.6		ク-28	
	17.6		ク-30	
	18.5		サ-31	
	19		オ-31	
	19		ク-31	
	19.4		ウ-31	
	19.6		ケ-28	
	20.5		オ-29	
	20.6		オ-31	
	21.2		サ-28	
	21.5		ケ-30	
	21.7		エ-31	
	22		オ-30	
	22.5		オ-31	
	22.5		黄土山	
	22.8		ク-28	
	23.3		コ-28	
	23.5		サ-28	
	26.2		オ-29 東側	
	27.1		ク-31	
	18.5		コ-31	3層
	20.2		サ-29	
	20.9		ケ-31	
	21		シ-30	
	23.5		コ-27	4層
	29.9		シ-27	
	16.9		ク-28	5層
	19.1			
	20.2		ク-31	
	16		シ-26	6層
	17.4		ケ-29	不明
	22.6	ⅢA		3層
	19.5	ⅢB	チ-19 1/3	3層
不明		Ⅰ	オ-28	2層

総　括

今回の動物遺体にみられる特徴は、湧田古窯跡でのこれまでの調査結果に類似する点が多く、近世における主として食生活における動物質面での画一性をよく示していたといえよう。魚類ではサメ類と少数のハマフエフキ、ブダイ類に限られたが、県庁舎関係地内遺跡地点と比べるとサメ類のやや多くなっていることに特徴がみられる。漁労のかたちに違いがありそうである。

鳥類ではニワトリの多かったことは、行政棟建設地での結果と共通する。爬虫類でウミガメ類の遺骸が検出されたのは今回がはじめてであった。

哺乳類ではこれまでの調査例と共通する点が多い。ジュゴンの検出はこれまでにも少なかったが、今回は全くみられなかった。イヌ、ネコは少数の遺骸を残すのみで、圧倒的に多かったのはブタである。ブタについてはこれまでの湧田古窯跡地関係の遺跡から出土する標本について形質、年齢構成の面から特徴をのべてきたが、同じ性格をもつといってよいであろう。リュウキュウイノシシとみられる骨は無かったとみてよい。ヤギは行政棟建設地で検出されているが、今回も比較的多くの骨を出土している。ウマ、ウシの骨格もみられた。ウマの多かった行政棟建設地での調査結果に対して、ここではウシの方がはるかに多く、食用としての利用の多かったことを示している。

参考文献

金子浩昌：湧田古窯跡出土の脊椎動物遺体湧田古窯跡（Ⅰ）、－県庁舎行政棟建設に係る発掘調査－、沖縄県文化財調査報告書　第111集、1993．３．沖縄県教育委員会

金子浩昌：湧田古窯跡出土の脊椎動物遺体湧田古窯跡（Ⅱ）、－県庁舎議会棟建設に係る発掘調査－、沖縄県文化財調査報告書　第121集、1995．３．沖縄県教育委員会

第31表 魚類出土量

出土地					Ⅰ地区								Ⅱ地区			Ⅲ地区	不明	合計
部位				層	1層・撹乱	2層	3層	4層	5層	6層	黄土山	不明	石積み	4層	6層	3層		
サメ目	ネズミザメ科		背椎			4	1					1	1					7
サメ目	メジロザメ科		背椎			44	8	2	4	1	3	3				3		68
サメ目	科不明		背椎			(1)												1
スズキ目	タイ科		顎骨	歯骨		1												1
スズキ目	フエフキダイ科	ハマフエフキ	顎	R			1	2										3
			顎	L								1						1
			骨	R														0
			骨	L														0
			口蓋	R														0
			口蓋	L	1													1
			前鰓蓋骨	R	1													1
			前鰓蓋骨	L	1												1	2
スズキ目	ブダイ科	ナガブダイ	咽	R			(1)											1
			咽	L														0
			頭															0
		ナンヨウブダイ	咽	R					1								1	2
			咽	L								1						1
			頭															0
		種不明	顎	R	1													1
			顎	L														0
			骨															0
		カジキ?	背椎			1												1
種不明			方骨	R														0
			方骨	L	1													1
			背椎			7	2	4	1	1	3	3		1	1		8	31
			腎鰭血管間棘			1											2	3

凡例 （）：破片　上顎骨：R 前上顎骨 L 前上顎骨／歯骨：R 歯骨 L 歯骨　R 上咽頭骨 L 上咽頭骨／下咽頭骨

第32表 ウミガメ出土一覧

地区	部位	層	個数
Ⅰ地区	縁骨板	1層	1
		4層	2
		5層	9
		6層	1
	肋骨板	6層	1
	肋骨板(破片)	淡黒色土	1
		石垣平面清掃	1
		3層	4
		5層	25
	破片	5層	2
		6層	4
Ⅱ地区	肋骨板	石垣平面清掃	3
Ⅲ地区	縁骨板	集石遺構	1

第33表 トリ出土一覧

地区	R/L	部位		グリット	層			個数
Ⅰ地区	不	大腿骨	骨体	ク-26	4層		b	1
	不			ケ-28	5層		下部	1
	L		骨体～遠位部	サ-25	4層			1
	R	中足骨	近位部	シ-30	2層			1

第34表 ニワトリ出土一覧

地区	R/L	部位		グリット	層			個数
Ⅰ地区	L	上腕骨	近位端～遠位部		6層			1
			近位骨端(破片)	ク-29	2層			1
			遠位部			黄土山		1
	L	脛骨	骨体			黄土山		1
			骨体～遠位部	ク・ケ-27	4層			1
	R		遠位部	エ-30	2層			1
			遠位端			黄土山		1
	R	中足骨	完存　♀			褐色土		1
	L		遠位端	カ-28	4層	北側		1
Ⅱ地区	R	脛骨	遠位端			東西トレンチ		1
Ⅲ地区	L	大腿骨	骨体		2層	南側		1
	R				2層	南側		1
				タ-20	3層			1
			遠位部	シ-19	3層	東側清掃		1
	L	脛骨	骨体	チ-19	3層	橙褐色土	上面	1
	R				2層	南側		1
	R		遠位部		3層			1

第35表 ネズミ出土一覧

部位	グリット	個数
大腿骨	不明	1

第37表 ジュゴン出土一覧

地区	部位	層	個数
Ⅰ地区	肋骨	1層	1

第38表 シカ出土一覧

地区	R/L	部位			層		個数
Ⅲ地区	L	中手骨	骨体	切痕	3層	東側淡黄褐色土	1

第39表 ヤギ歯出土量

出土地		部位	R				L				
		層	P4	M1	M2	M3	dm4?	P4	M1	M2	M3
上顎骨	Ⅰ地区	2層		2					1		
		3層			2				1		
		4層		1	1			1			
	Ⅲ地区	2層		1							1
	合計		0	4	3	0	0	1	2	0	1
下顎骨	Ⅰ地区	2層			1	2	1			1	
		3層			1						
		4層			2						
		6層						1	1	1	1
		不明			1						
	Ⅱ地区	4層			1				1		
合計			0	0	6	2	1	1	2	2	1

注：歯の破片　Ⅰ地区２個出土（破片のため表から除く）

第36表 イヌ出土一覧

地区	R/L	部位		グリット	層		個数
Ⅰ地区	R	上顎骨	P4		2層		1
	L		犬歯		2層	褐色土	1
	R	下顎骨	筋突起～下顎角	ケ-29	2層		1
	L	上腕骨	遠位端		2層		1
	R	尺骨	近位端～骨体	ホ-30	5層		1
	L	寛骨	臼部	カ-29	6層		1
	L	大腿骨	近位部～遠位部	サ-28	5層		1
			骨体～遠位部	セ-6		褐色土	1
	R		遠位端	シ-27	6層		1
	不	脛骨	骨体	カ-27	2層		1
	L	距骨	完存	シ-27	4層		1
	不	中手・中足骨	近位端	コ-28			1
Ⅲ地区	R	中手骨	Ⅱ	ソ-20	2層	杭	1
不明	L	下顎骨	M1				1

Ⅱ 地 区																	Ⅲ 地 区																								不明			合計		
層		4層			6層			石積み			不明			小計			2層			3層			4層			5層			7層			集石遺構			不明			小計								
	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明
					1	1			1					1	2	0				1	1	(1)										1	1					2	2	1				27	29	6
					1	2		(1)						2	2	0					(1)																	0	1	0				11	15	3
													(1)	0	0	1																					0	0	0				4	6	3
							1							0	0	1					1																	0	1	0				0	1	1
														0	0	0																						0	0	0				0	0	5
														0	0	0																						0	0	0				0	1	0
														0	0	0																						0	0	0				0	0	1
														0	0	0						3																0	0	3				0	0	15
														0	0	0				1																		1	0	0				3	2	2
														0	0	0																						0	0	0				2	2	0
														0	0	0																						0	0	0				1	4	1
														0	0	0					1																	0	1	0				0	1	0
														0	0	0																						0	0	0				3	1	2
														0	0	0																		1				0	0	1				5	6	2
													(1)			3			(1)	[illegible](1)		(1)						(1)									(1)			5						73
	1			1						1			1	0	0	5			11			4															6	0	0	21			2	2	1	110
														0	0	0						(1)																0	0	1				0	0	1
														0	0	0																						0	0	0				1	0	0
														1	0	0																						0	0	0				1	1	0
														0	0	0																						0	0	0				1	0	0
														0	0	0																						0	0	0				2	1	0
														0	0	0					1																	0	1	0				1	2	0
														0	0	0				2																		2	0	0				7	2	0
														0	0	0																						0	0	0				2	1	0
			(1)											0	1	0	1																			1		1	1	0				8	6	2
		1												1	0	0																						0	0	0			1	2	1	11
														0	0	0																						0	0	0				0	0	3
														0	0	0																						0	0	0			(1)	0	0	1
														0	0	0																						0	0	0				0	2	0
														0	0	0					(1)																	0	1	0				0	3	0
														0	0	0				1																		1	0	0				1	3	0
1														0	1	0																						0	0	0			1	1	2	3
		1												2	0	0	1	2(1)		4	1																	5	4	0				19	9	0
					1									1	0	0				1																		1	0	0				3	0	0
														0	0	0																						0	0	0				0	2	0
														0	0	0		(1)	(1)																			0	1	1				4	6	5
												1		0	1	0					1																	0	1	0				0	3	0
														0	0	0																						0	0	0				4	0	4
														0	0	0																						0	0	0				0	2	0
														0	0	0																			(1)			1	0	0				2	0	1
														0	0	0			2			2															1	0	0	5				0	1	14
														0	0	0																						0	0	0				2	2	0
														0	0	0																						0	0	0				3	1	0
														0	0	0																						0	0	0				0	1	0
														0	0	0																1						1	0	0				2	0	0
														0	0	0																						0	0	0				1	0	0
														0	0	0																						0	0	0				1	0	0
											1			1	0	0																			1			1	0	0				5	3	0
1														0	1	0																			1			1	0	0				4	5	0
														0	0	0																						0	0	0				0	1	0
														0	0	0						1																0	0	1				3	0	2
														0	0	0																						0	0	0				1	0	0
														0	0	0																						0	0	0				1	0	0
														0	0	0																						0	0	0				1	0	0
														0	0	0																						0	0	0				1	0	0
														0	0	0																						0	0	0				1	0	0
														0	0	0													1									1	0	0				4	1	0
														0	0	0																						0	0	0				4	1	0
														0	0	0	1																			1	1		2	1	0				8	12	0
														0	0	0																						0	0	0				0	2	0
														0	0	0																						0	0	0				0	1	0
														0	0	0																						0	0	0				0	2	0
														0	0	0																						0	0	0				1	0	0
														0	0	0																						0	0	0				3	0	0
														1	0	0		1		1																		1	1	0				5	6	0
														0	0	0			1																			0	0	1				0	0	2
												1		0	1	0																						0	0	0				2	4	0
														0	0	0		1																				0	1	0				0	3	0
														0	0	0																						0	0	0				0	1	0
														0	0	0		1			1																	0	2	0				9	7	0
														0	0	0															1			1			2	0	0				3	2	0
														0	0	0				1	3																	1	3	0				4	6	2
														0	0	0																						0	0	0				1	0	0
														0	0	0					1															1		0	2	0				4	6	0
														0	0	0																						0	0	0				1	0	0
										1				0	0	1			1			1																0	0	2				0	0	12
														0	0	0			1			1															1	0	0	3				0	0	12
														0	0	0																						0	0	0				0	1	0
						1								0	1	0							1															1	0	0				1	3	0
														0	0	0					1																	0	1	0				1	3	1
														0	0	0																						0	0	0				2	2	0
														0	0	0																						0	0	0	1			7	4	0
														0	0	0			1																			0	0	1				3	3	5
														0	0	0																						0	0	0				2	2	0
											1			1	0	0	(1)																					1	0	0				6	4	0
														0	0	0																						0	0	0				1	0	1
														0	0	0				(1)		(1)																1	0	0			(1)	4	0	1
														0	0	0																						0	0	0				0	0	1
														0	0	0																			1			1	0	0				1	1	0
														0	0	0																						0	0	0				2	0	0
														0	0	0																						0	0	0				1	0	0
														0	0	0																						0	0	0				0	1	0
														0	0	0					1												1						1	1	0				3	5	0
														0	0	0				1																		1	0	0				5	5	0
														0	0	0																						0	0	0	1			3	4	0
												1		0	1	0					1	1																0	1	1				4	5	2
														0	0	0					1																	0	1	0				3	8	0
														0	0	0																			1			1	0	0				2	0	0
			1											0	1	0	1	1		2	2	(1)																3	3	1				5	10	2
														0	0	0																						0	0	0				2	1	0
														0	0	0																						0	0	0				0	3	0
														0	0	0																						0	0	0				1	0	0
														0	0	0						1													1			1	0	1				2	0	13
														0	0	0																						0	0	0				0	1	0
														0	0	0																						0	0	0				0	2	0
											1			1	0	0		1																				0	1	0				5	1	0
														0	0	0																						0	0	0				0	0	5
														0	0	0																						0	0	0				0	1	0
														0	0	0																						0	0	0				0	0	2
														0	0	0				1																		1	0	0				1	0	0
														0	0	0	1	1																				1	1	0			2	4	5	3
			(1)								1			1	1	0	1				2																	1	2	0				10	13	0
														0	0	0																						0	0	0				1	0	0
														0	0	0	1																					1	0	0				2	0	0
														0	0	0																						0	0	0				0	0	1
														0	0	0						1																0	0	1				0	4	1
														0	0	0				2		(1)																2	0	1				3	5	2
														0	0	0																						0	0	0				1	1	0
														0	0	0						1																0	0	1			3	1	1	9
														0	0	0			(1)																			0	0	1				0	0	5
														0	0	0																						0	0	0			(1)	0	0	5
														0	0	0																						0	0	0				5	4	0
												1		0	1	0				1																		1	0	0				4	5	1
														0	0	0																						0	0	0				1	0	0
										3				0	0	3						1												1				0	0	2				0	1	16
2	1	2	3	1	3	4	1	1	1	5	4	4	3	13	14	14	8	10	20	20	21	23	1	0	0	0	0	1	1	0	0	4	1	2	8	3	9	42	35	55	2	0	12	291	292	375

注：上下不明の破片はⅠ地区から4個、Ⅱ地区から1個、地区不明から7個出土。（数が少ないので表から除く）

第44表　ウシ出土量

Ⅰ地区

部位		1層・撹乱 右	1層・撹乱 左	1層・撹乱 不明	2層 右	2層 左	2層 不明	3層 右	3層 左	3層 不明	4層 右	4層 左	4層 不明	5層 右	5層 左	5層 不明	6層 右	6層 左	6層 不明	礫状遺構 右	礫状遺構 左	礫状遺構 不明	不明 右	不明 左	不明 不明	小計 右	小計 左	小計 不明
頭蓋骨	側頭部蓋部													1												1	0	0
	後頭顆													1												1	0	0
	角突起						(1)																		(2)	0	0	3
下顎骨	切歯骨～下顎体													1(1)									(1)			3	0	0
	関節突起													1												1	0	0
椎体	環椎															(1)										0	0	1
	軸椎																									0	0	0
肩甲骨	近位部～骨体													1												1	0	0
	近位部～遠位端																									0	0	0
	骨体													2												2	0	0
	骨体～遠位部													1												1	0	0
	遠位端									(1)				1	2								1			2	2	1
	破片															4										0	0	4
上腕骨	近位骨端のみ																									0	0	0
	近位部～骨体																(1)									1	0	0
	骨体														(1)	1										0	1	1
	骨体～遠位部							①						1	1									1		2	2	0
	遠位部													1	3(1)(1)											1	5	0
	遠位端														①			1		1						1	2	0
	滑車											(1)		(1)			(1)		(1)							2	1	1
	破片												2	1		6									2	1	0	10
橈骨	近位端													3	1	1			1				〈1〉			4	1	2
	近位端～遠位部																									0	0	0
	近位部													1〈1〉	1								1			3	1	0
	近位部～遠位部														2											0	2	0
	骨体						1							1		2								1		1	1	3
	骨体～遠位端																						1			1	0	0
	遠位骨端はずれ														1											0	1	0
	遠位端										〈1〉			〈1〉		1							1			3	0	1
	破片						2						4	2		6			3						1	2	0	16
尺骨	完存																									0	0	0
	近位骨端はずれ～骨体					1																				0	1	0
	近位部				1			1						1	1		1									4	1	0
	近位部～骨体				1																					1	0	0
手根骨	第2-3					1									1		1									1	2	0
	第4														1											0	1	0
	尺側				1	1																				1	1	0
	中間											1			1											0	2	0
	破片		(1)			1					1															1	2	0
中手骨	近位端					〈1〉								1〈2〉	1	(1)	1									4	2	1
	近位端～骨体													1	2〈1〉											1	3	0
	近位部															2										0	0	2
	骨体																		1							0	0	1
	骨体～遠位部															1										0	0	1
	遠位部															1			1							0	0	2
	破片															2										0	0	2
寛骨	臼蓋部																						(1)			1	0	0
大腿骨	骨頭のみ												(1)	1		1(1)	1		2					1		2	1	5
	近位端																									0	0	0
	近位部								1						(1)	1										0	2	1
	近位部～骨体													1〈1〉			1									3	0	0
	骨体													1[1]	1		1[1]									4	1	0
	骨体～遠位部																1									1	0	0
	遠位部				1									2	1		1									4	1	0
	遠位端													〈1〉	3	(1)										1	3	1
	遠位骨端のみ													2	2	1										2	2	1
	破片												1	[1]		3			2						1	1	0	7
膝蓋骨																	1						1			2	0	0
脛骨	近位骨端のみ											(1)														0	1	0
	近位端													〈1〉	[1]											1	1	0
	近位部					(1)								(1)	1	(1)										1	2	1
	近位部～遠位部													1[1]												2	0	0
	骨体												1		(1)	1									1	0	1	3
	遠位部													1	1(1)											1	2	0
	遠位端												1	1				2								1	2	1
	遠位骨端のみ				(1)			1			1						1									4	0	0
	破片						1						2	1		3			2							1	0	8
距骨	完存～					1									1〈1〉		1	1					1			2	4	0
	破片				(1)	1																				1	1	0
踵骨	近位端					1												1								0	2	0
	近位部													1		1										1	0	1
	近位部～遠位部														1											0	1	0
	骨体					2								1	1		1									2	3	0
	遠位部											1		1(1)	1	1										2	2	1
	破片												1						1							0	0	2
足根骨	第4中心					(1)								1	(1)			2								1	4	0
	第2・3							(1)																		1	0	0
中足骨	近位端													〈1〉	〈1〉		〈1〉	〈1〉						1〈1〉		2	4	0
	近位端～骨体										〈1〉				〈1〉											1	1	0
	近位部															1										0	0	1
	近位部～骨体																		〈1〉						①	0	0	2
	骨体														3〈1〉											0	4	0
	骨体～遠位部																		1							0	0	1
	遠位部									1						1			1							0	0	3
	遠位端													〈1〉		1										1	0	1
	破片						1						3			4			1						1	0	0	10
中手・中足骨	遠位骨端のみ												1	1												1	0	1
	破片																		6							0	0	6
基節骨		1			2	1		(1)					(1)	4	2〈1〉(1)		1(1)	(1)								10	6	1
中節骨		1					(1)	1			〈1〉	1	(1)		2〈1〉		1	2							(1)	4	6	3
末節骨																										0	0	0
破片																3			3							0	0	6
合計		2	1	0	8	13	7	6	1	2	5	5	19	58	55	54	19	11	27	1	0	0	9	5	10	108	91	119

Ⅱ地区

部位		2層 右	2層 左	2層 不明	6層 右	6層 左	6層 不明	不明 右	不明 左	不明 不明	小計 右	小計 左	小計 不明
頭蓋骨	側頭部蓋部										0	0	0
	後頭顆										0	0	0
	角突起										0	0	0
下顎骨	切歯骨～下顎体										0	0	0
	関節突起										0	0	0
椎体	環椎										0	0	0
	軸椎						1				0	0	1
肩甲骨	近位部～骨体										0	0	0
	近位部～遠位端										0	0	0
	骨体										0	0	0
	骨体～遠位部										0	0	0
	遠位端										0	0	0
	破片										0	0	0
上腕骨	近位骨端のみ										0	0	0
	近位部～骨体										0	0	0
	骨体										0	0	0
	骨体～遠位部										0	0	0
	遠位部										0	0	0
	遠位端										0	0	0
	滑車										0	0	0
	破片										0	0	0
橈骨	近位端										0	0	0
	近位端～遠位部										0	0	0
	近位部										0	0	0
	近位部～遠位部										0	0	0
	骨体										0	0	0
	骨体～遠位端										0	0	0
	遠位骨端はずれ										0	0	0
	遠位端										0	0	0
	破片										0	0	0
尺骨	完存										0	0	0
	近位骨端はずれ～骨体										0	0	0
	近位部										0	0	0
	近位部～骨体										0	0	0
手根骨	第2-3										0	0	0
	第4										0	0	0
	尺側										0	0	0
	中間										0	0	0
	破片										0	0	0
中手骨	近位端			1							0	0	1
	近位端～骨体										0	0	0
	近位部										0	0	0
	骨体										0	0	0
	骨体～遠位部										0	0	0
	遠位部										0	0	0
	破片										0	0	0
寛骨	臼蓋部										0	0	0
大腿骨	骨頭のみ										0	0	0
	近位端				1						1	0	0
	近位部										0	0	0
	近位部～骨体										0	0	0
	骨体										0	0	0
	骨体～遠位部										0	0	0
	遠位部										0	0	0
	遠位端										0	0	0
	遠位骨端のみ										0	0	0
	破片										0	0	0
膝蓋骨											0	0	0
脛骨	近位骨端のみ										0	0	0
	近位端										0	0	0
	近位部										0	0	0
	近位部～遠位部										0	0	0
	骨体										0	0	0
	遠位部										0	0	0
	遠位端										0	0	0
	遠位骨端のみ										0	0	0
	破片										0	0	0
距骨	完存～										0	0	0
	破片										0	0	0
踵骨	近位端										0	0	0
	近位部										0	0	0
	近位部～遠位部										0	0	0
	骨体										0	0	0
	遠位部										0	0	0
	破片										0	0	0
足根骨	第4中心										0	0	0
	第2・3										0	0	0
中足骨	近位端										0	0	0
	近位端～骨体										0	0	0
	近位部										0	0	0
	近位部～骨体										0	0	0
	骨体										0	0	0
	骨体～遠位部										0	0	0
	遠位部										0	0	0
	遠位端										0	0	0
	破片										0	0	0
中手・中足骨	遠位骨端のみ										0	0	0
	破片										0	0	0
基節骨						1					0	1	0
中節骨											0	0	0
末節骨								1			1	0	0
破片											0	0	0
合計		0	0	1	1	1	1	1	0	0	2	1	2

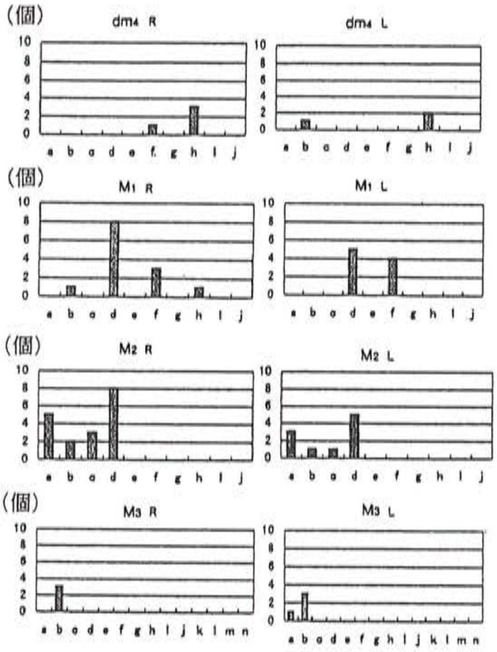
Ⅲ地区・不明・合計

部位		Ⅲ地区 2層 右	2層 左	2層 不明	3層 右	3層 左	3層 不明	集石遺構 右	集石遺構 左	集石遺構 不明	橙褐色土遺物集中 右	橙褐色土遺物集中 左	橙褐色土遺物集中 不明	小計 右	小計 左	小計 不明	不明 右	不明 左	不明 不明	合計 右	合計 左	合計 不明
頭蓋骨	側頭部蓋部													0	0	0				1	0	0
	後頭顆													0	0	0				1	0	0
	角突起						1①							0	0	2				0	0	5
下顎骨	切歯骨～下顎体													0	0	0				3	0	0
	関節突起													0	0	0				1	0	0
椎体	環椎													0	0	0				0	0	1
	軸椎													0	0	0				0	0	1
肩甲骨	近位部～骨体													0	0	0				1	0	0
	近位部～遠位端													0	0	0	1			1	0	0
	骨体													0	0	0				2	0	0
	骨体～遠位部													0	0	0				1	0	0
	遠位端													0	0	0				2	2	1
	破片													0	0	0			1	0	0	5
上腕骨	近位骨端のみ													0	0	0		1		0	1	0
	近位部～骨体													0	0	0				1	0	0
	骨体													0	0	0				0	1	1
	骨体～遠位部													0	0	0				2	2	0
	遠位部													0	0	0				1	5	0
	遠位端													0	0	0				1	2	0
	滑車													0	0	0				2	1	1
	破片													0	0	0			4	1	0	14
橈骨	近位端													0	0	0				4	1	2
	近位端～遠位部													0	0	0	1			1	0	0
	近位部													0	0	0				3	1	0
	近位部～遠位部													0	0	0				0	2	0
	骨体													0	0	0				1	1	3
	骨体～遠位端													0	0	0				1	0	0
	遠位骨端はずれ													0	0	0				0	1	0
	遠位端													0	0	0				3	0	1
	破片													0	0	0				2	0	16
尺骨	完存													0	0	0	1			1	0	0
	近位骨端はずれ～骨体													0	0	0				0	1	0
	近位部													0	0	0				4	1	0
	近位部～骨体													0	0	0				1	0	0
手根骨	第2-3													0	0	0				1	2	0
	第4													0	0	0				0	1	0
	尺側													0	0	0				1	1	0
	中間													0	0	0				0	2	0
	破片													0	0	0				1	2	0
中手骨	近位端													0	0	0				4	2	2
	近位端～骨体													0	0	0				1	3	0
	近位部													0	0	0				0	0	2
	骨体													0	0	0				0	0	1
	骨体～遠位部													0	0	0				0	0	1
	遠位部													0	0	0				0	0	2
	破片													0	0	0				0	0	2
寛骨	臼蓋部													0	0	0				1	0	0
大腿骨	骨頭のみ						1							0	0	1				2	1	6
	近位端													0	0	0				1	0	0
	近位部													0	0	0				0	2	1
	近位部～骨体													0	0	0				3	0	0
	骨体													0	0	0				4	1	0
	骨体～遠位部													0	0	0				1	0	0
	遠位部													0	0	0				4	1	0
	遠位端													0	0	0		(1)		1	4	1
	遠位骨端のみ													0	0	0				2	2	1
	破片													0	0	0				1	0	7
膝蓋骨							(1)		1					0	1	1				2	1	1
脛骨	近位骨端のみ													0	0	0				0	1	0
	近位端													0	0	0				1	1	0
	近位部													0	0	0				1	2	1
	近位部～遠位部													0	0	0				2	0	0
	骨体													0	0	0				0	1	3
	遠位部													0	0	0				1	2	0
	遠位端													0	0	0				1	2	1
	遠位骨端のみ													0	0	0				4	0	0
	破片												1	0	0	1				1	0	9
距骨	完存～													0	0	0				2	4	0
	破片													0	0	0				1	1	0
踵骨	近位端													0	0	0				0	2	0
	近位部													0	0	0				1	0	1
	近位部～遠位部													0	0	0				0	1	0
	骨体													0	0	0				2	3	0
	遠位部													0	0	0				2	2	1
	破片													0	0	0				0	0	2
足根骨	第4中心													0	0	0				1	4	0
	第2・3													0	0	0				1	0	0
中足骨	近位端													0	0	0				2	4	0
	近位端～骨体													0	0	0				1	1	0
	近位部													0	0	0				0	0	1
	近位部～骨体													0	0	0				0	0	2
	骨体													0	0	0				0	4	0
	骨体～遠位部													0	0	0				0	0	1
	遠位部													0	0	0				0	0	3
	遠位端													0	0	0				1	0	1
	破片			1										0	0	1				0	0	11
中手・中足骨	遠位骨端のみ													0	0	0				1	0	1
	破片													0	0	0				0	0	6
基節骨					1									1	0	0				11	7	1
中節骨														0	0	0				4	6	3
末節骨														0	0	0				1	0	0
破片														0	0	0			1	0	0	7
合計		0	0	1	1	0	4	0	1	0	0	0	1	1	1	6	3	2	6	114	95	133

凡例　( )：幼、[ ]：若、〈 〉：老、○：キズ有り、( )：破片

第45表　ネコ出土一覧

地区	R/L	部位		グリッド	層		個数
I地区	L	下顎骨	歯 P3,P4,M1	オ-30	5層		1
	L	上腕骨	近位部〜遠位部	サ-28	2層		1
	R		骨体〜遠位部	カ-19	6層	上面	1
	不		遠位端	コ-27	4層		1
	不		遠位骨端はずれ	コ-28	5層		1
	R	寛骨	臼部〜坐骨		2層	褐色	1
	L	脛骨	骨体〜遠位部	サ-28	2層		1
	L		遠位端	サ-31	2層		1
	R	中足骨	III 完存	サ-28	5層		1
II地区	不	肋骨		タ-30	3層		1
III地区	L	脛骨	近位部		2層	南側	1



第77図　ブタ歯咬耗度分布（下顎骨）

＜凡例＞

dm_4　M_1　M_2の場合

a：＜　＞　d：＋　＋　g：＋＋＋　＋＋　i：⊕・＋＋＋
b：－　－　e：＋＋　＋　h：＋＋＋　＋＋＋　j：⊕・⊕
c：＋　－　f：＋＋　＋＋

M_3の場合

a：＜　＞　f：＋＋・＋・＋　k：＋＋＋・＋＋＋・＋＋＋
b：－・－・－　g：＋＋・＋＋・＋　l：⊕・＋＋＋・＋＋＋
c：＋・－・－　h：＋＋・＋＋・＋＋　m：⊕・⊕・＋＋＋
d：＋・＋・－　i：＋＋＋・＋＋・＋＋　n：⊕・⊕・⊕
e：＋・＋・＋　j：＋＋＋・＋＋＋・＋＋

咬耗状況
未萌出：＜　＞
エナメル質咬耗：＋
小窩独立：＋＋
間連絡：＋＋＋
面窩：⊕

第46表　ウマ歯出土量

出土地			R P2	R P3〜M2	R M3	L P2	L P3〜M2	L M3
上顎骨	I地区	攪乱					1	
		2層		2	1		3	
		4層		3		1	2	2
		5層	1	8	2	1	5	3
		6層		1		2	3	1
		不明		1		1	1	
	III地区	3層		1				
		不明		1				
	合　計		1	17	3	5	15	6
下顎骨	I地区	2層	1	3			2	
		3層		1			1	1
		4層		1			1	
		5層		4	2		5	1
		6層		3			5	1
		不明		2			1	
	II地区	不明						1
	III地区	3層		1				
	不明						1	
合　計			1	15	2	0	16	4

注：歯の破片　I地区19個、II地区1個出土。（破片のため表から除く）
　　下顎骨破片　I地区1個出土

第47表　ウマ出土量

部位		I地区 2層 右	左	不明	I地区 3層 右	左	不明	I地区 4層 右	左	不明	I地区 5層 右	左	不明	I地区 6層 右	左	不明	I地区 溝状遺構 右	左	不明	I地区 不明 右	左	不明	I地区 小計 右	左	不明	II地区 攪乱 右	左	不明	III地区 4層 右	左	不明	不明 右	左	不明	合計 右	左	不明
下顎骨	破片																				1		0	1	0										0	1	0
上腕骨	近位端											(1)											0	1	0										0	1	0
	近位部〜遠位部											〈1〉											0	1	0								1		0	2	0
	骨体														(1)								0	1	0										0	1	0
	骨体〜遠位部														①					(2)			2	1	0										2	1	0
	遠位部										①〈①〉	2			(1)					1			3	3	0										3	3	0
	滑車										1												1	0	0										1	0	0
橈骨	近位部												〈1〉										0	0	1										0	0	1
	近位部〜骨体													1									1	0	0										1	0	0
	遠位部												1										0	0	1										0	0	1
	破片												1										0	0	1										0	0	1
尺骨	骨体											2		1									1	2	0										1	2	0
	骨体〜遠位部										1												1	0	0										1	0	0
	破片				1							1											1	1	0										1	1	0
手根骨	第3														1								0	1	0										0	1	0
	中間														1								0	1	0										0	1	0
	橈側																	1					0	1	0										0	1	0
中手骨	近位端								1				〈1〉	1	2								1	3	1										1	3	1
	近位端〜骨体								1		①	1											1	2	0										1	2	0
	近位部〜遠位端											1											0	1	0										0	1	0
	骨体〜遠位部												1①								①		0	1	2										0	1	2
	骨体〜遠位端												1			①							0	0	2										0	0	2
	遠位端			1									1①	1		2							1	0	5										1	0	5
寛骨	臼部																						0	0	0		1								0	1	0
大腿骨	骨頭のみ											1		1	1								1	2	0										1	2	0
	骨体											1											0	1	0										0	1	0
	遠位部														(1)								0	1	0										0	1	0
	遠位端											(1)										(1)	0	1	1										0	1	1
	破片												(1)										0	0	1										0	0	1
膝蓋骨	破片													1									1	0	0										1	0	0
脛骨	近位端													(1)									1	0	0										1	0	0
	近位部										(1)	(1)		(1)									2	1	0										2	1	0
	近位部〜遠位部											(1)											0	1	0										0	1	0
	骨体							(1)					1(2)										1	0	3					1					1	1	3
	骨体〜遠位端										1												1	0	0										1	0	0
	遠位部										(1)												1	0	0										1	0	0
	遠位端		1												1								0	2	0										0	2	0
距骨	完存										1	1〈1〉(1)	(1)	①							1		2	4	1										2	4	1
踵骨	近位骨端はずれ〜遠位部										1												1	0	0										1	0	0
	近位部										①												1	0	0										1	0	0
	近位部〜遠位端											1											0	1	0										0	1	0
	骨体					1																	0	1	0										0	1	0
足根骨	破片												1										0	0	1										0	0	1
中足骨	完存											1											0	1	0										0	1	0
	近位端	1											(1)			(1)							1	0	2										1	0	2
	近位端〜骨体																						0	0	0							1			1	0	0
	骨体									〈1·①〉			〈2·①〉									〈1〉	0	0	6									1	0	0	7
	破片												2										0	0	2										0	0	2
中手・中足骨	近位端												(1)										0	0	1										0	0	1
	骨体			1〈1〉																			0	0	2										0	0	2
	遠位端									〈1〉			2〈2〉			1〈1〉						〈1〉	0	0	8										0	0	8
	破片									1						1							0	0	2										0	0	2
基節骨					1					〈1〉			1①			2						1	1	0	6										1	0	6
中節骨										1			1			1〈1〉						1	0	0	5										0	0	5
末節骨							1						1										0	0	2										0	0	2
指骨																1							0	0	1										0	0	1
破片												1											0	1	0										0	1	0
合　計		1	1	3	2	1	1	1	2	6	11	20	30	9	10	12	0	1	0	3	3	5	27	38	57	0	1	0	0	1	0	1	1	1	28	41	58

凡例　〔 〕：幼、〈 〉：半欠、○：[illegible]有り、( )：破片

第Ⅵ章　総　　括

今回の調査成果について前章までに述べてきた。ここでは今一度それらを整理するとともに、若干の考察と課題点についてふれてみたい。

今回の発掘調査の対象地区は県庁舎等の建設工事に伴う発掘調査により確認された湧田古窯跡[註33]の北端部である（第４図）。県民広場として利用されていたこの場所に地下駐車場が計画され、その建設工事に伴う緊急調査であった。本地域の南側は窯跡が確認され話題となった行政棟地区から延びる丘陵の北端部になり、そこから北側に緩やかに傾斜しながら平坦面をつくっていく（旧那覇署が建っていた場所付近）。地形的な面から調査対象範囲内をⅠ地区（東南側の緩斜面部）、Ⅱ地区（南側から延びる丘陵の北端部）、Ⅲ地区（北側一帯の平坦部）と区分して調査を実施した。

各地区の堆積層の状況や検出された遺構などをみると、Ⅰ地区は確認された地山面が南側から北側に傾斜しており、その傾斜に沿うように各層が堆積し、下層の４～６層は出土遺物から近世の時期とみられる。これらの堆積層とは別に、東側の部分に近世～現代の時期の遺物が得られる黄土山と呼称した厚さ100cm～130cmを測る場所があるが、その詳細については判然としなかった。

検出された遺構は東西方向へ走る溝状遺構が地山面および４層面を掘り込んでいるのが確認されたほか、地山面ではピット群や石列なども認められた。溝中に木杭の打ち込まれたピットの確認もなされたが、ピットと杭は時間的な差がある可能性も否定できない。

Ⅱ地区は南側から続く丘陵の北端部の状況を呈し、Ⅰ・Ⅱ地区より小高くなっている。本地区の範囲はそれほど広くなく、北西側は地山まで大きく撹乱されている。撹乱を免れた南側では窯体や瓦列などの検出、その上部を覆う瓦類を主体とした堆積層など、行政棟地区のⅠ地区の延長を思わせる状況を示している。５・６層が後世の撹乱を受けていない層で、５層は４ｍ四方程度の狭い範囲にみられる瓦類と赤色土の層である。６層は瓦などの遺物が最も多く、出土している青磁・染付からすると16～17世紀頃の時期のようである。

検出された遺構は窯体、瓦列、ピット群など湧田古窯に関連するとみられるもの、東側で確認された近代のものとみられる石積みがある。窯体はかろうじて下部が検出され、全体的な状況は判然としない。燃焼室が三角形状を呈し、焼成室が円形状になり、その境目に耐火レンガを配している。行政棟地区の３号・４号窯[註34]と似たような状況を示している。また、燃焼室の部分には漆喰の広がりがみられ、なんらかの手が加えられた痕跡と考えられる。

窯体の南東側で２本、南西側で１本の瓦列が検出されている。前者は３～４段積み上げられており、端部に琉球石灰岩の礫を配する箇所も見受けられる。後者は１段だけ確認できたもので、使用されている瓦のほとんどが破片の資料である。前者の瓦列は行政棟地区で検出されたものと同じような状況であるが、後者のものは趣を若干異にしている。

窯体南側に接近して径約１ｍの土壙が確認された。地山を掘り込んでおり、埋土は６層と同様な堆積土であることからすると16～17世紀頃の時期が想定される。本土壙から平瓦が数枚出土しており、検出された窯体の稼働時期の一端を示しているものかもしれない。

これらの遺構とは別に本地区の東側で石積み（第19図）が検出された。相方積みに近い感じの石積みで、部分的に琉球石灰岩がみられるものの、ほとんどサンゴ石が使用されている。50cm大～10cm大のものがあり、大きさの規格性はみられず、全体的な状況からすると土留めの石積みのようである。「共進會」銘入りの急須（第44図102）や那覇商業高等学校の校章が入った青銅製のボタン（第61図18）などから、明治末に建てられた南陽館[註35]に伴う土留め石垣の可能性が考えられる。

Ⅲ地区は調査区の北側を占める平坦部で、県民広場として利用されていた場所である。堆積層は地山の青灰色粘土（クチャ）層を含め５枚確認されている（第24図）。表土層は１ｍを越すような厚みの造成層で、旧那覇警察署の基礎なども確認された。21ライン以北ではこの造成層の下にスラグ（製鉄・鍛冶作業の際にでる不純物）層の広がりがみられた。ほぼ水平に堆積し、厚いところで約20cmを測る。下層との関連から今次大戦の頃に堆積したものかとみられ、当時、付近にスラグを排出するような施設があったものかと解される。

２層～４層はいずれもⅠ地区から延びてくる層で、２層は３b層、３層が４層、４層が６層とⅠ地区の堆積層にそれぞれ対応している。本地区の主体層である３層が出土遺物からすると18～19世紀頃のものかとみられる。

検出されている遺構は井戸、集石遺構、溝状遺構、石積み遺構などがある。井戸遺構は琉球石灰岩を円形に積み上げたもので、内面部だけを丁寧に整形している（図版６の②）。２層面から掘り込まれており、比較的新しい時期に造られ、旧那覇署などを建てる際の一帯の造成時に埋められたものと推察される。

集石遺構は非常に注目される遺構である。本地区西側の３層下部で検出されたもので（第21図）、長さ（南東－北西方向）約６ｍ、幅（東西方向）約１ｍである。第73図に示す坩堝が集中的に出土していることや第69図１に示す軽石製品などが得られていることから、鍛冶場に関連する遺構かとみられる。出土陶磁器類からすると18世紀頃とみられ、その頃には本地域で鍛冶関連作業も行っていたことを示すものと考えられ興味深い。行政棟地区や議会棟地区においても坩堝が得られており、今回得られたものは行政棟地区出土のものと似ている。坩堝の溶着物の成分分析を行ったわけではないけれども、鉄以外のものを対象に鍛冶作業を行っていたようである。今回検出された集石遺構がそのような場としたら、湧田古窯の中で鍛冶空間のあったことが証明されたことになり、今回の調査の大きな成果の一つである。また、本遺構の西側（議会棟地区の東側）ではピット群が検出されているようであり[註36]、この一帯の空間的な意味についての検討も課題であろう。

溝状遺構は３層から地山面まで掘り込んだ大きなものと地山面で検出された小さなものがある。前者は本地区のやや南寄りの場所を北東から南西にかけて検出されたもので、調査区外へも延びている。溝の幅は約２ｍ、深さは約80㎝で、概ね鍋底状の断面をなす。内部には主に黄褐色土が堆積し、その下部には敷かれたような状態で瓦や陶磁器類（18世紀頃のものが主流）などの遺物が集中して確認されている。溝全体としての詳細な部分については判然としない所もあるが、先述した石敷き遺構に接する場所もあり、なんらかの関連性も想定される。

地山面に検出された溝は確認できたのが幅約20㎝、深さ約10㎝ほどのもので、南側では東西方向、調査区中央付近では南北方向に延びる。もともと排水に気を使う場所であったかと推察される。

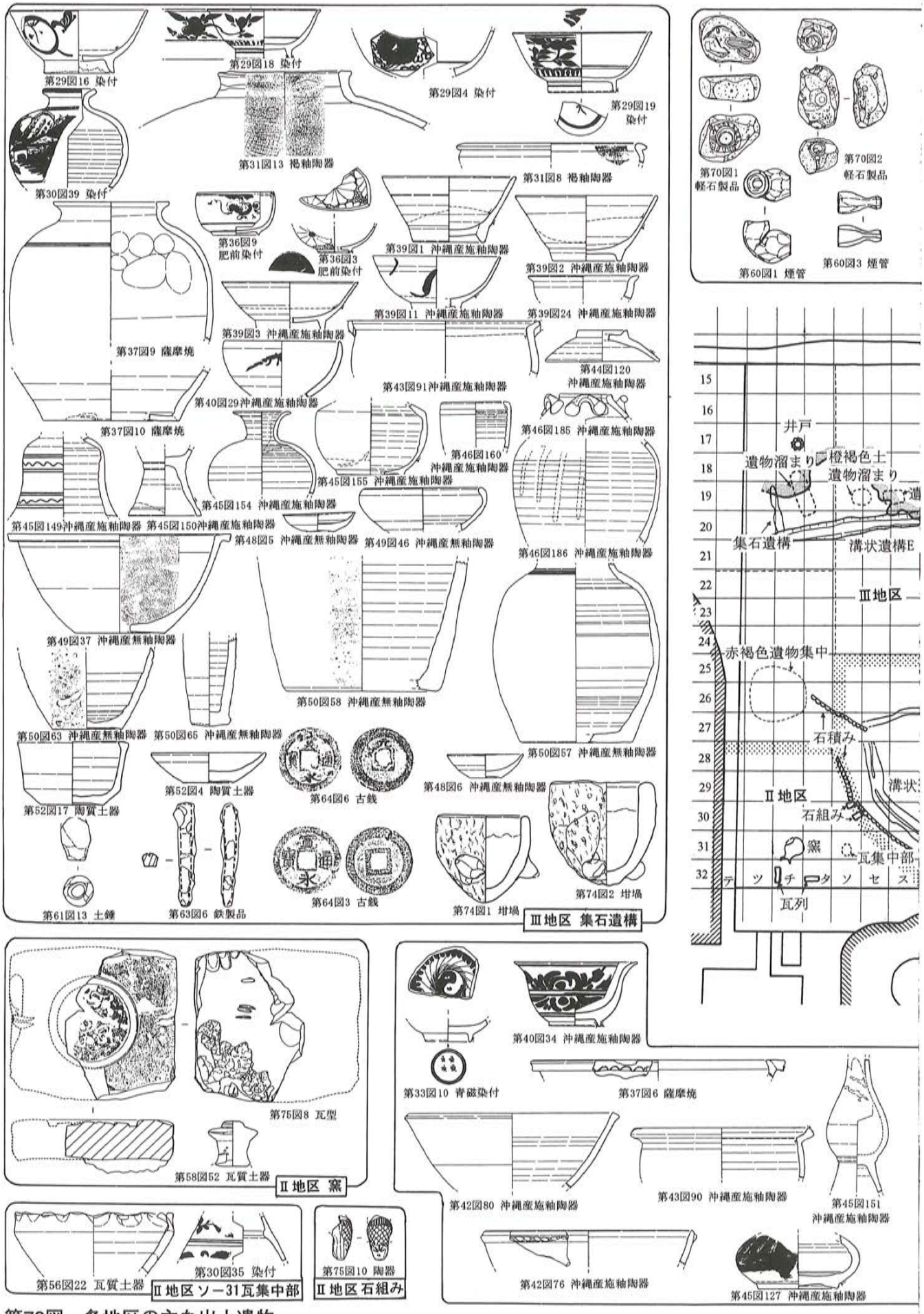
本地区南側、Ⅰ・Ⅱ地区との境界付近で東西方向に検出された石積みは、土止めの機能が考えられる。最も高い所で約80㎝、幅の広い所で約80㎝、長さは８ｍ強を測るが、西側部分は壁面に入り込んでおり、さらに西側へ続くものとみられる。

次に遺物についてみてみよう。出土した遺物の種類・量とも豊富で、バリエーションに富んだ状況は行政棟地区、議会棟地区と似ている。出土遺物の量が膨大であり、注記、接合、分類、実測、拓本、トレースなどの資料整理を系統的に進めることができず、全体の状況把握をする時間的な余裕がないまま報告書を刊行せざるを得ない状況に至った。発掘調査の大型化に伴い、出土遺物の量も膨大になってきている昨今の状況があり、早急に検討していかなければならない大きな課題のひとつであろう。

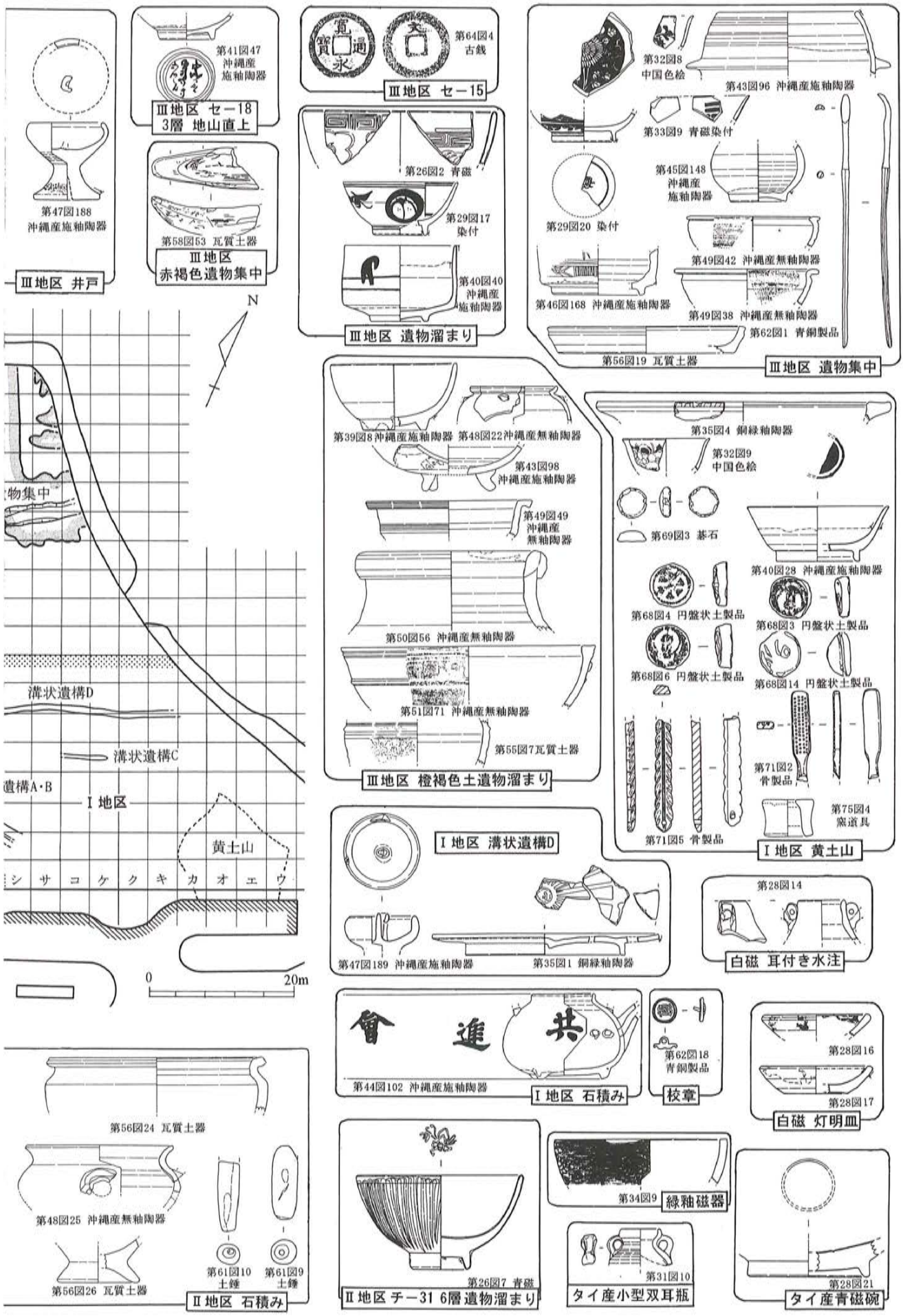
今回は出土遺物の種類的な面は大方カバーできたものと考えるが、それぞれの量的な把握については大きな反省点を残す結果となった。そのような状況を勘案して出土遺物についてみると、得られたものは17～18世紀頃が主流のようである。中国を中心にタイや東南アジア系のものを含む陶磁器類は、大枠ではこれまで湧田古窯跡から出土しているものとほぼ同様である。タイ産の青磁碗（第28図21）、白磁の耳付き水注（第28図14）や灯明皿（第28図16～18）などが注意される。また、褐釉陶器は中国産、タイ産、東南アジア系のものがあり、タイ産の小型の双耳瓶（第31図10）や東南アジア系かとみられる叩き痕のある壺（第31図13）などは類例資料が少ないもので注意されよう。中国産の色絵、青磁染付、銹釉染付、瑠璃釉、翡翠釉、三彩などは16～17世紀頃の景徳鎮窯系のものが多いようである。緑釉磁器（第34図９）、銅緑釉（第35図１～７）の他、宜興窯の無釉陶器（第35図８～22）なども注意される。

本土産陶磁器は肥前系、薩摩系、その他があり、いずれも17～19世紀頃のもののようである。前２者の器種組成の違いは興味深い。また、Ⅲ地区集石遺構から出土している薩摩焼きの壺（第37図８・９）は注目される。その他注目されるものをあげると、第41図47に示した沖縄産施釉陶器皿の資料がある。外底面に記された文字が「中城御殿御用聞方五拾之内」と読め、その字体は17世紀後半以降のもののようである。[註37]陶器の作られた時期を示しているとともに、注文先を示しているものであり、注意されよう。18㎜前後の一定の規格性のある円盤状土製品（第67図）、碁石（第68図）、軽石製品（第69図１・２）がある。前２者は２層を中心とした出土であり、比較的新しい時期のもののようである。表裏面に調刻を施した軽石製品（第69図１）はどのような用途のものか注意される。また、夜光貝は殻の残存状況が一定の規格性を有しているようであり、夜光貝に関しての詳細な検討が必要になってこよう。

今回検出された遺構、出土した遺物など湧田古窯の一端を窺わせる十分な資料であり、これまでの調査も含め湧田古窯の全体的な把握が課題といえよう。また、他の古窯跡[註38]との比較、消費地の問題など今後の大きな課題であろう。



第78図　各地区の主な出土遺物


第47図188
沖縄産施釉陶器
Ⅲ地区 井戸
第41図47
沖縄産
施釉陶器
Ⅲ地区 セ－18
3層 地山直上
第58図53 瓦質土器
Ⅲ地区
赤褐色遺物集中
第64図4
古銭
Ⅲ地区 セ－15
第26図2 青磁
第29図17
染付
第40図40
沖縄産
施釉陶器
Ⅲ地区 遺物溜まり
第32図8
中国色絵
第43図96 沖縄産施釉陶器
第33図9 青磁染付
第45図148
沖縄産
施釉陶器
第29図20 染付
第49図42 沖縄産無釉陶器
第46図168 沖縄産施釉陶器
第49図38 沖縄産無釉陶器
第62図1 青銅製品
第56図19 瓦質土器
Ⅲ地区 遺物集中
N
物集中
溝状遺構D
溝状遺構C
遺構A・B
Ⅰ地区
黄土山
シ サ コ ケ ク キ カ オ エ ウ
0
20m
第39図8 沖縄産施釉陶器 第48図22 沖縄産無釉陶器
第43図98
沖縄産施釉陶器
第49図49
沖縄産
無釉陶器
第50図56 沖縄産無釉陶器
第51図71 沖縄産無釉陶器
第55図7 瓦質土器
Ⅲ地区 橙褐色土遺物溜まり
第35図4 銅緑釉陶器
第32図9
中国色絵
第69図3 碁石
第40図28 沖縄産施釉陶器
第68図4 円盤状土製品
第68図3 円盤状土製品
第68図6 円盤状土製品
第68図14 円盤状土製品
第71図2
骨製品
第71図5 骨製品
第75図4
窯道具
Ⅰ地区 黄土山
Ⅰ地区 溝状遺構D
第47図189 沖縄産施釉陶器
第35図1 銅緑釉陶器
第28図14
白磁 耳付き水注
第44図102 沖縄産施釉陶器
Ⅰ地区 石積み
第62図18
青銅製品
校章
第28図16
第28図17
白磁 灯明皿
第56図24 瓦質土器
第48図25 沖縄産無釉陶器
第56図26 瓦質土器
第61図10
土錘
第61図9
土錘
Ⅱ地区 石積み
第26図7 青磁
Ⅱ地区 チ－31 6層遺物溜まり
第34図9
緑釉磁器
第31図10
タイ産小型双耳瓶
第28図21
タイ産青磁碗

註

註１　那覇市立壺屋焼物博物館の西里潤氏によると瓦の回転台は軸棒を地面にさし、使用する人の身丈（足の長さ）に合わせて設立するとの教示を得た。

註２　南陽館：沖縄最初の洋風建築。1984年、九州・沖縄８県連合共進会の会場として建築。1905年那覇区立商業学校がここで開校。沖縄大百科事典（下巻）P98　沖縄タイムス社

註３　大城　慧・島袋　洋・金城亀信「湧田古窯跡（Ⅰ）－県庁舎行政棟建設に係る発掘調査－」『沖縄県文化財調査報告書』第111集　沖縄県教育委員会　1993.3

註４　島袋　洋・金城亀信・豊見山禎「湧田古窯跡（Ⅱ）－県庁舎議会棟建設に係る発掘調査－」『沖縄県文化財調査報告書』第121集　沖縄県教育委員会　1995.3

註５　註３に同じ

註６　註３に同じ

註７　註３に同じ

註８　註４に同じ

註９　「今帰仁城跡発掘調査報告Ⅰ」『今帰仁村文化財調査報告書』第９集　金武正紀・金子浩昌・松田朝雄　今帰仁村教育委員会　1983.3

註10　那覇市歴史資料室の田名真之、他、那覇国際高校　比嘉　聡の同定による

註11　註４に同じ

註12　「喜友名貝塚・喜友名グスクー宜野湾北中城線（伊佐～普天間）道路改築事業に伴う緊急発掘調査報告書（Ⅰ）－『沖縄県文化財調査報告書』第134集　沖縄県教育委員会　1999.3

註13　註３に同じ

註14　浅草橋

註15　註３に同じ

註16　第19節　沖縄県立博物館、神谷厚昭氏に同定して頂いた。
参考文献：「地学事典」地学研究会編　平凡社、1996年10月20日初版

註17　上原　静「県内出土の円盤状製品について」『読谷村歴史民族博物館紀要』遊具

註18　「那崎原遺跡」『那覇市文化財調査報告書　第30集』　那覇市教育委員会　1996

註19　湖城　清　「南山城跡　第一次緊急発掘調査概要」　糸満市教育委員会　1984.5.31

註20　「三栄町遺跡」　東京都新宿区教育委員会　1998

註21　金武正紀・島袋春美・島　弘　「御細工所跡－城西小学校建設工事に伴う緊急発掘町査報告－」『那覇市文化財調査報告書』　第18集　那覇市教育委員会　1991.3

註22　大城　慧・島袋　洋・島袋春美「伊原遺跡」『沖縄県文化財調査報告書』第73集　沖縄県教育委員会　1986.3

註23　金武正紀・砂川玄正「住屋遺跡（俗称・尻間）発掘調査報告書」　平良市教育委員会　1983.3

註24　註21に同じ

註25　金武正紀・島　弘・玉城安明・仲宗根啓・城間千栄子・山城直子　「銘苅原遺跡－那覇新都心土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告Ⅳ」『那覇市文化財調査報告書』第35集　那覇市教育委員会　1997.3

註26　京都国立博物館　京都文化資料研究センター（主任研究官）久保智康氏の教示による。

註27　奈良国立文化財研究所　村上隆氏の教示による。

註28　行政棟１地区き－44グリット第２層瓦列１段から出土、『湧田古窯跡（Ⅰ）』第95図１の資料

註29　宮城篤正「窯と道具と」沖縄文化財修理技術者協会『わざ第２号』1983年３月発行

註30　註３に同じ

註31　註４に同じ

註32　『歴代寶案』　1425年

註33　註３に同じ

註34　註３に同じ

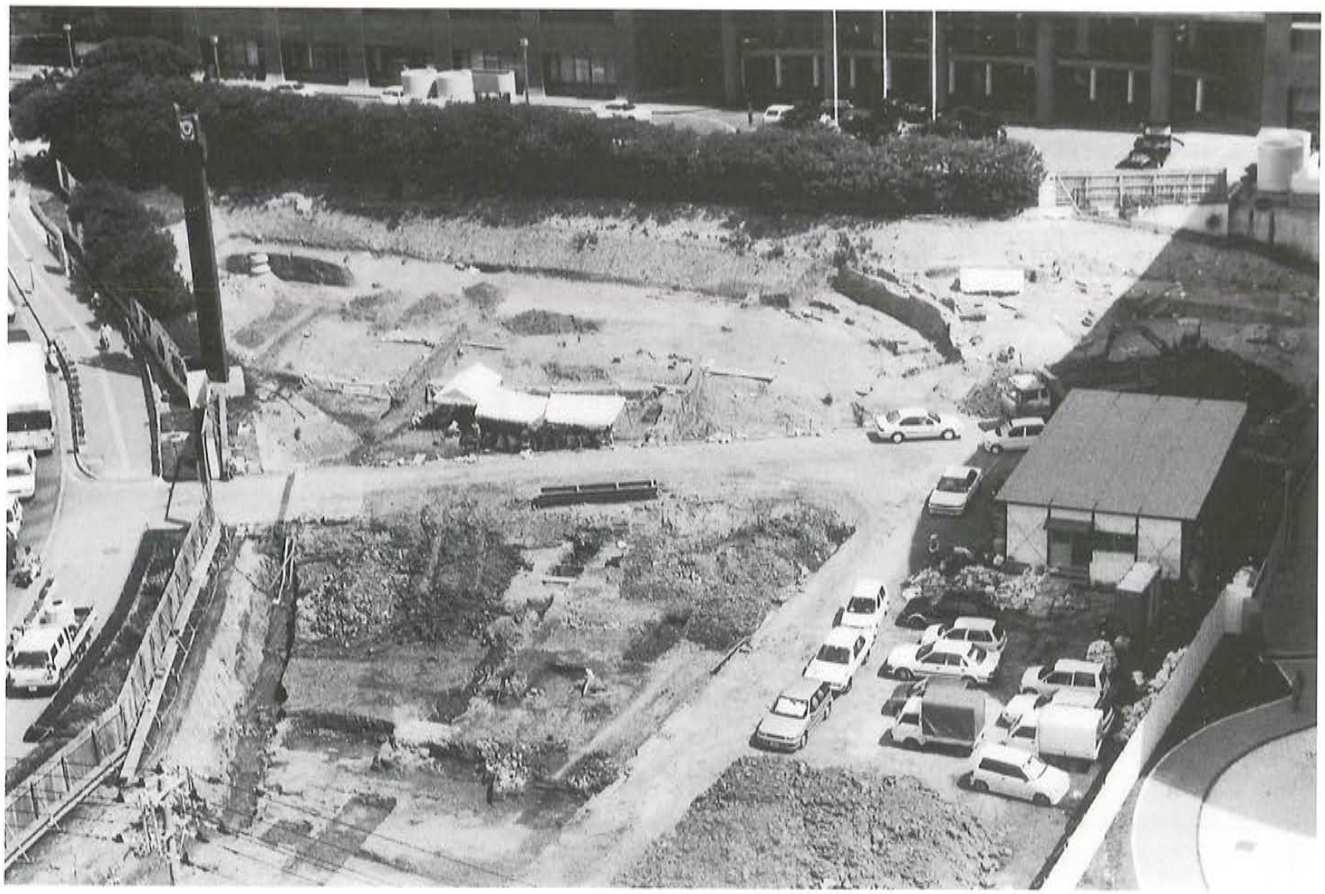
註35　註２に同じ

註36　註４に同じ

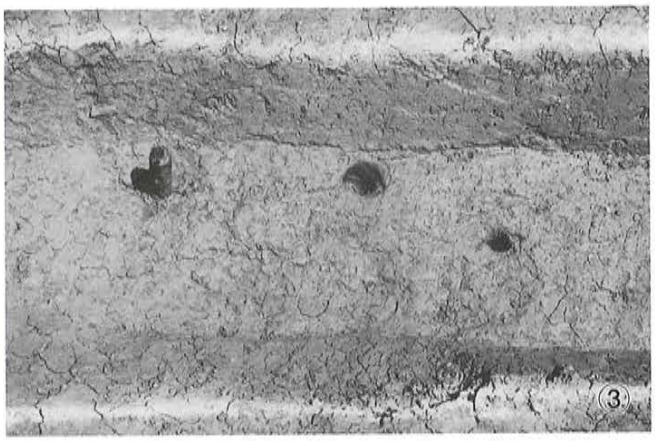
註37　註11に同じ

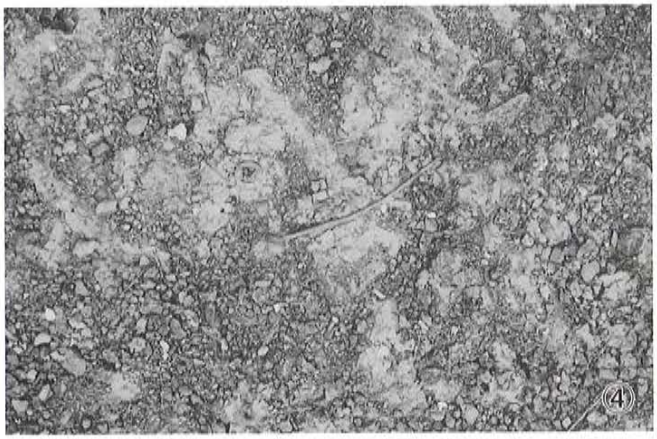
註38　島　弘ほか「壺屋古窯群Ⅰ－個人住宅建設工事に伴う緊急発掘調査－」『那覇市文化財調査報告書』第23集　那覇市教育委員会　1992.3

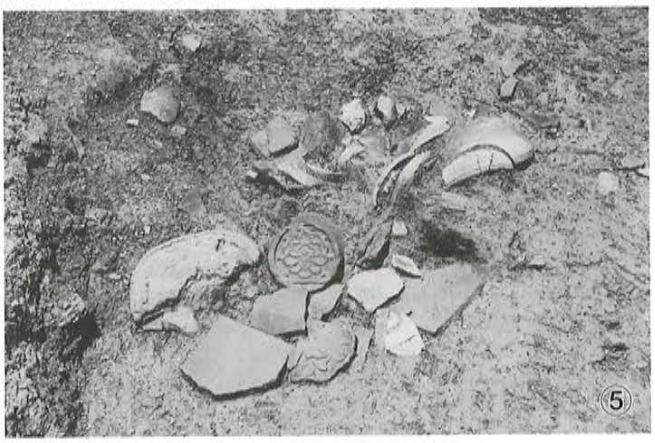
図　　版

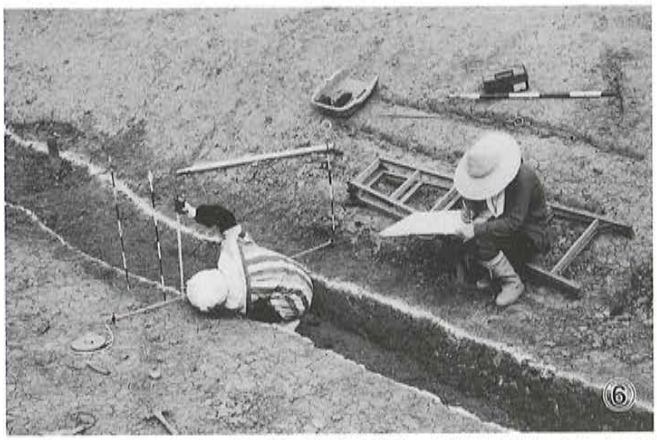


図版１　現場遠景（上：南西側から　下：西側）

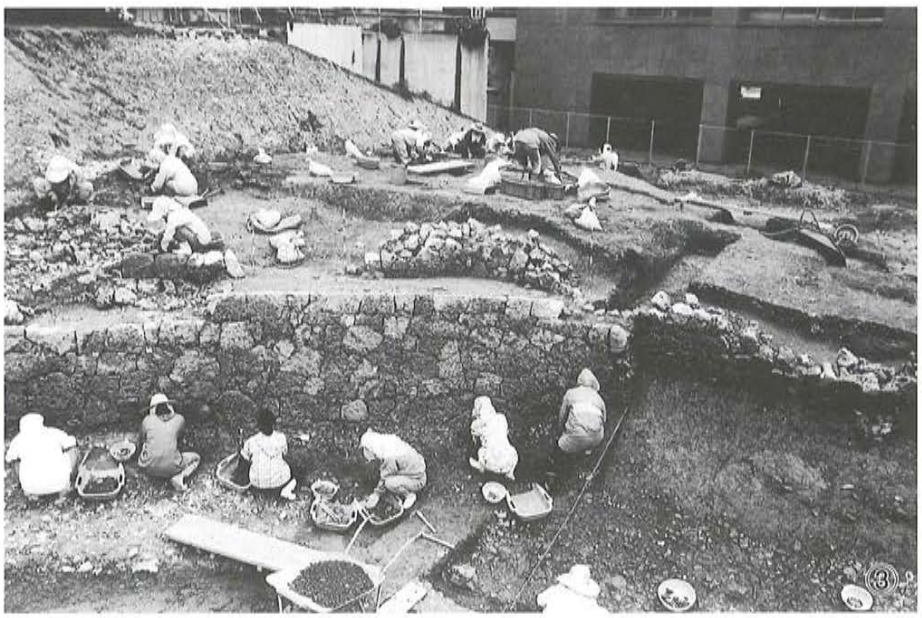




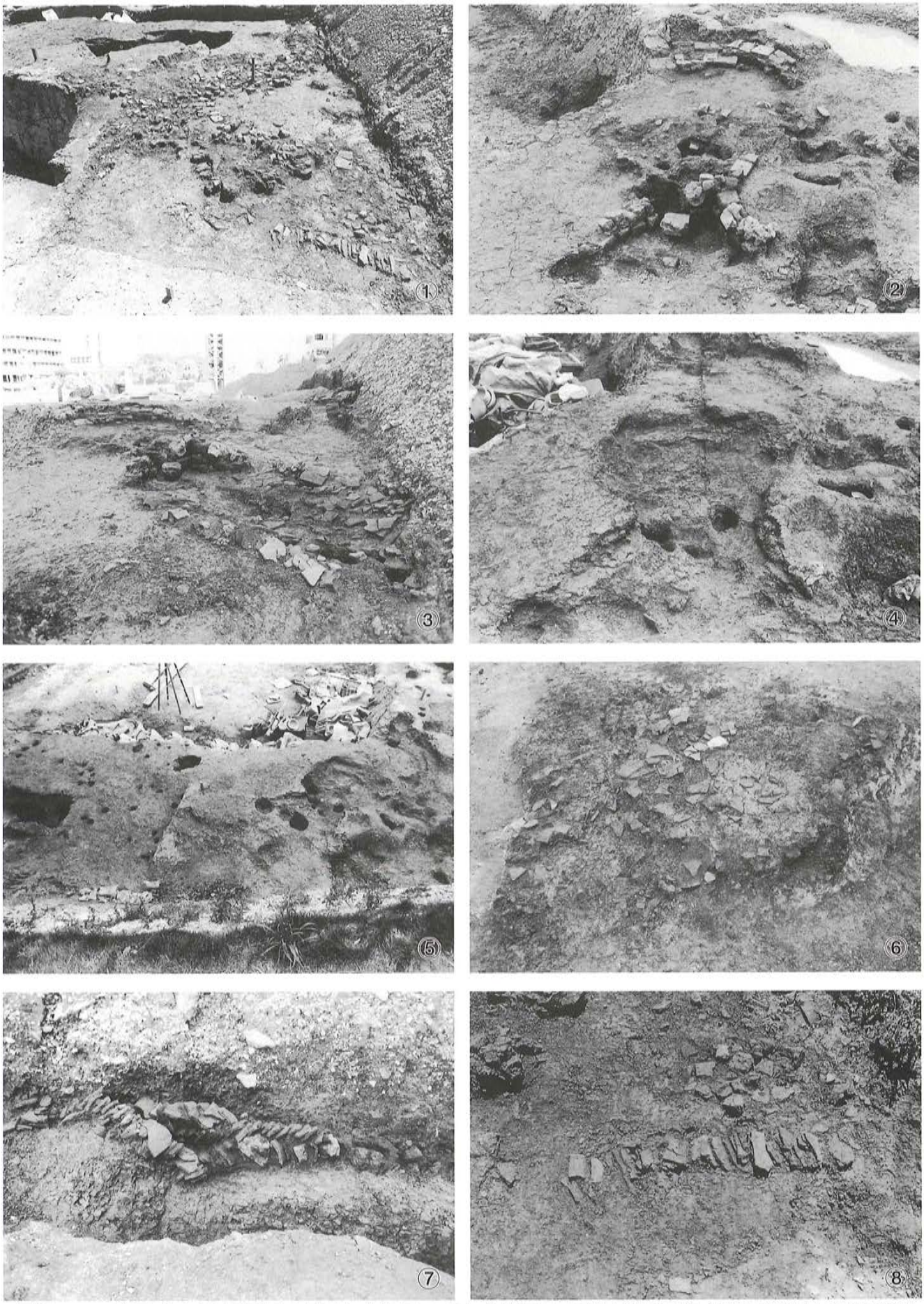




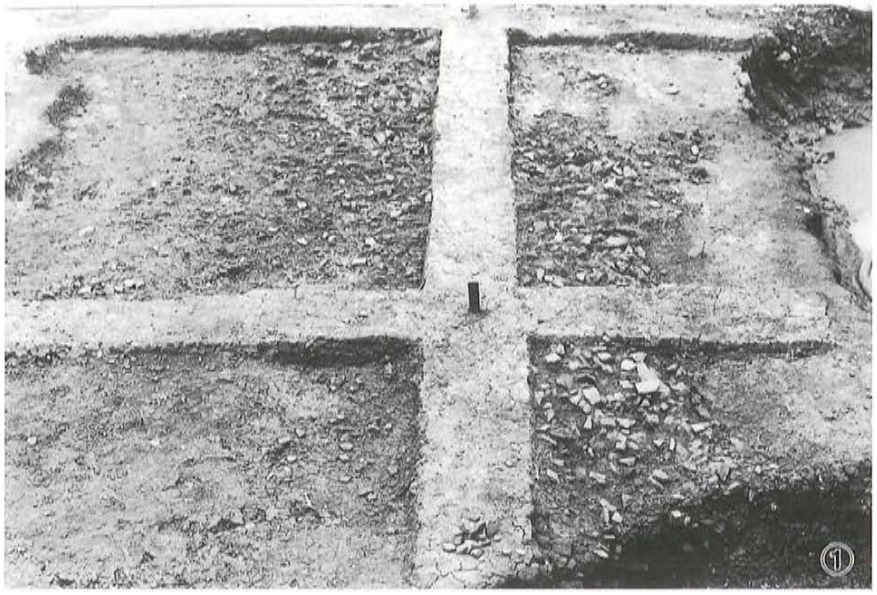
図版 2　Ⅰ地区（①層序 ②溝状遺構D ③溝状遺構D内柱穴 ④鳩目銭・簪検出状況 ⑤遺物検出状況 ⑥実測作業風景 ⑦発掘作業風景）

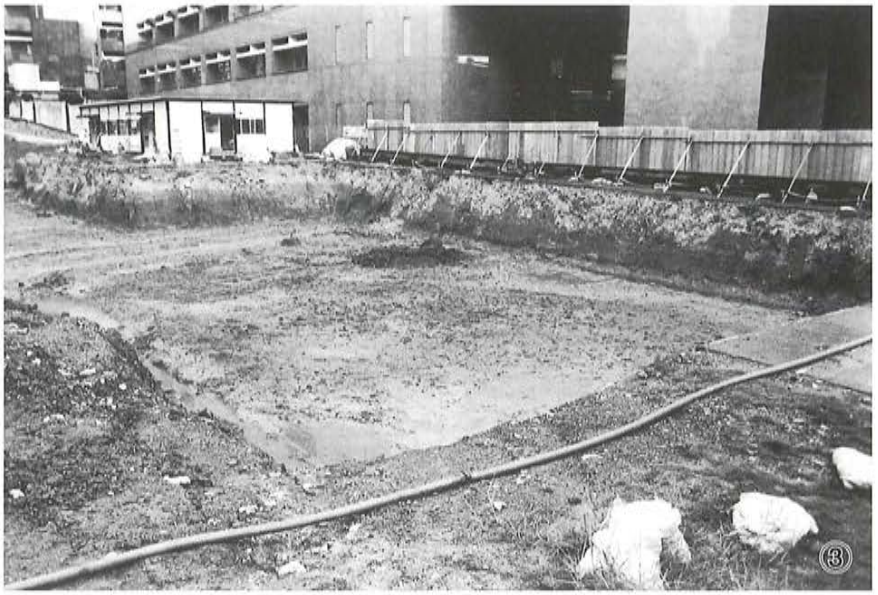


図版 3　Ⅱ地区（1）（①石積み　②石積み断面　③発掘作業風景）

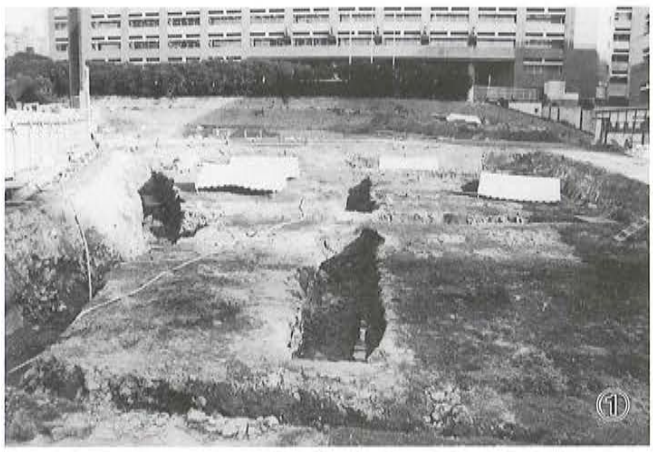


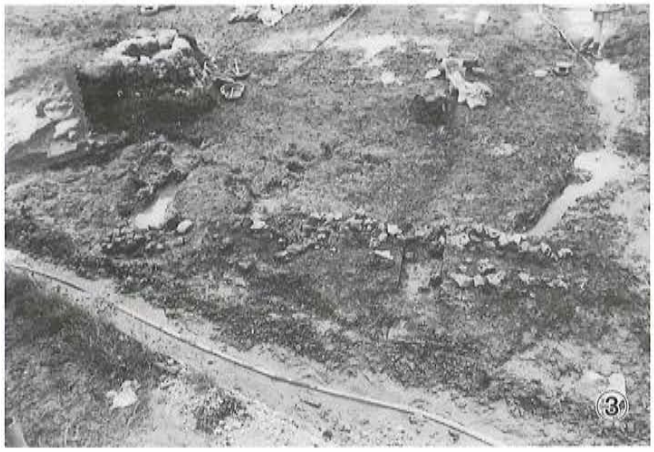
図版 4　Ⅱ地区（2）（①窯発掘前及び瓦列 ②窯の検出正面から ③窯の検出側面から ④窯跡完掘後 ⑤Ⅱ地区完掘状況 ⑥炭溜まり ⑦瓦列 ⑧瓦列）

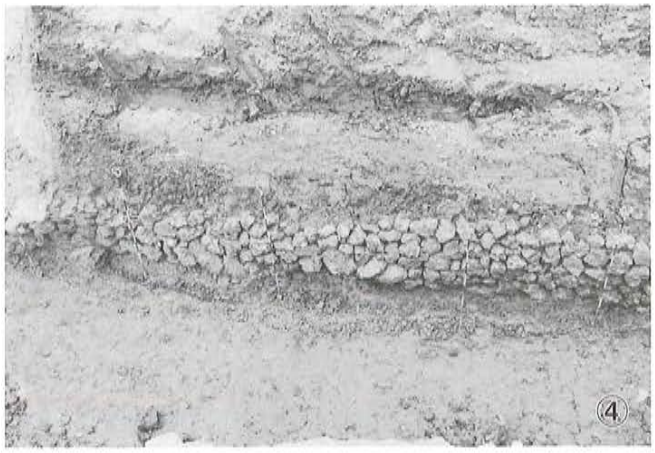


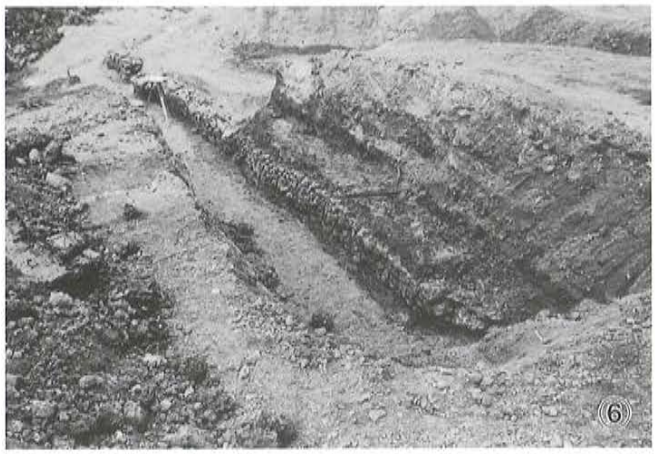


図版 5　Ⅲ地区（1）（①溝状遺構E上面　②溝状遺構E完掘後　③Ⅲ地区完掘状況）

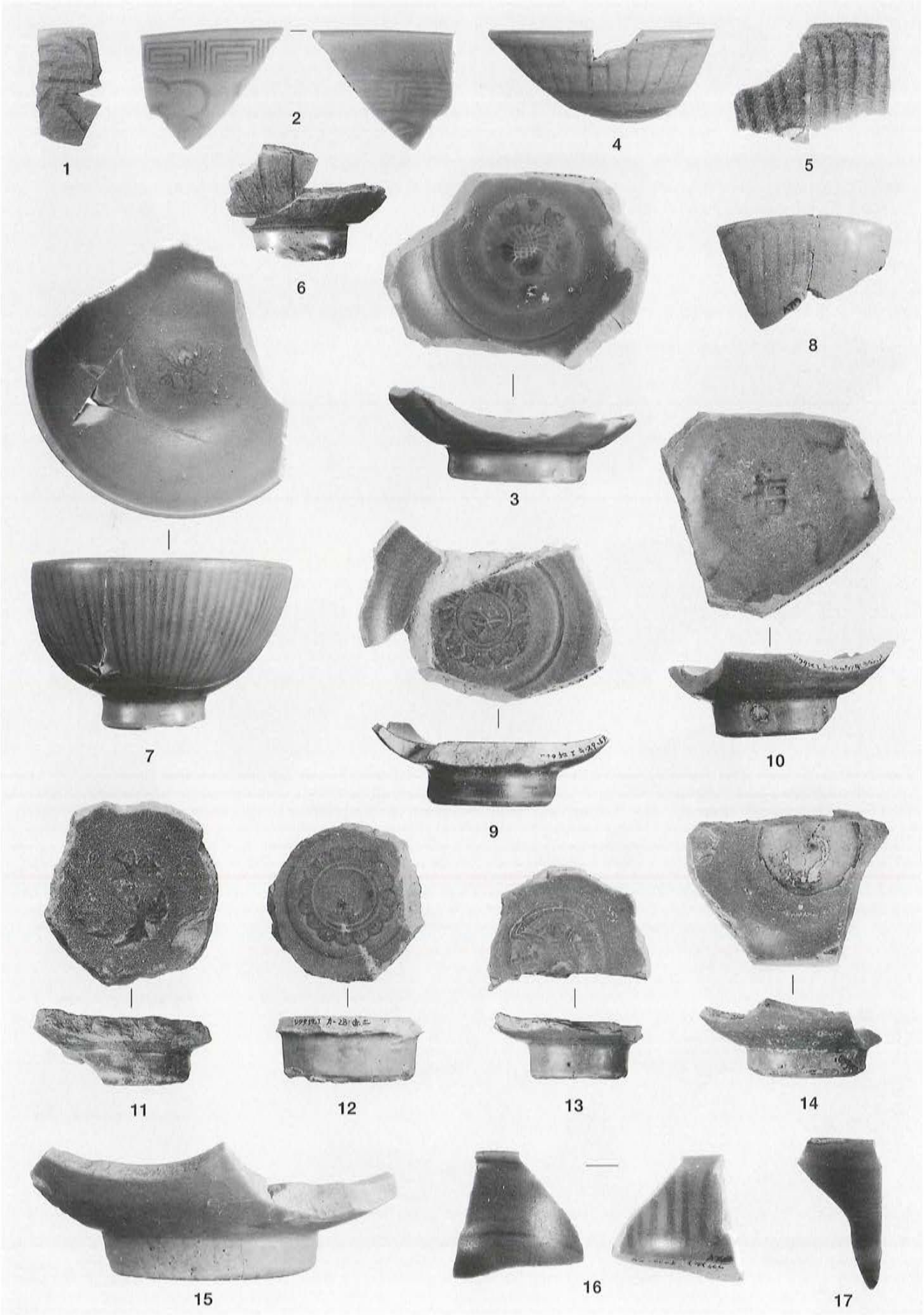




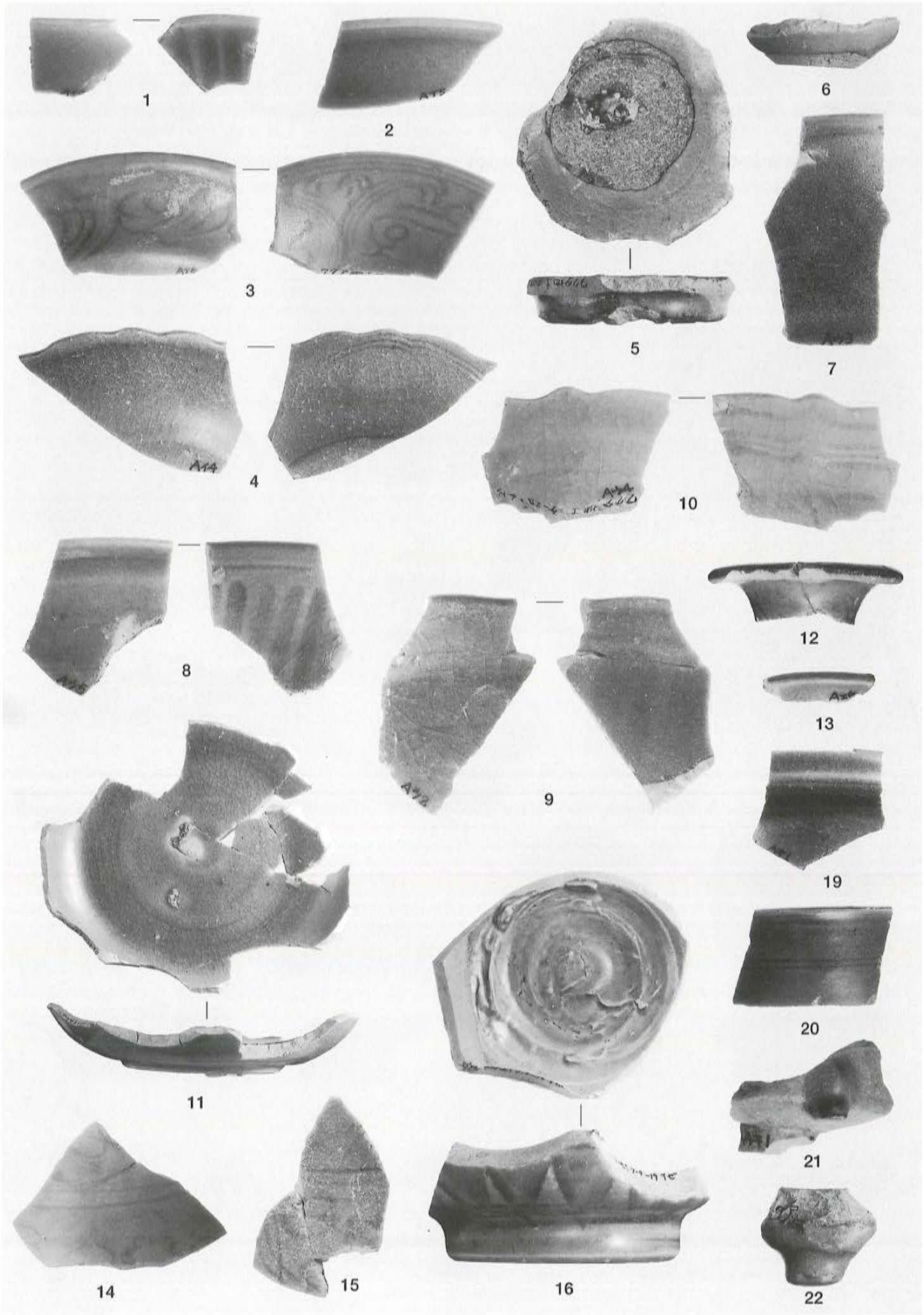




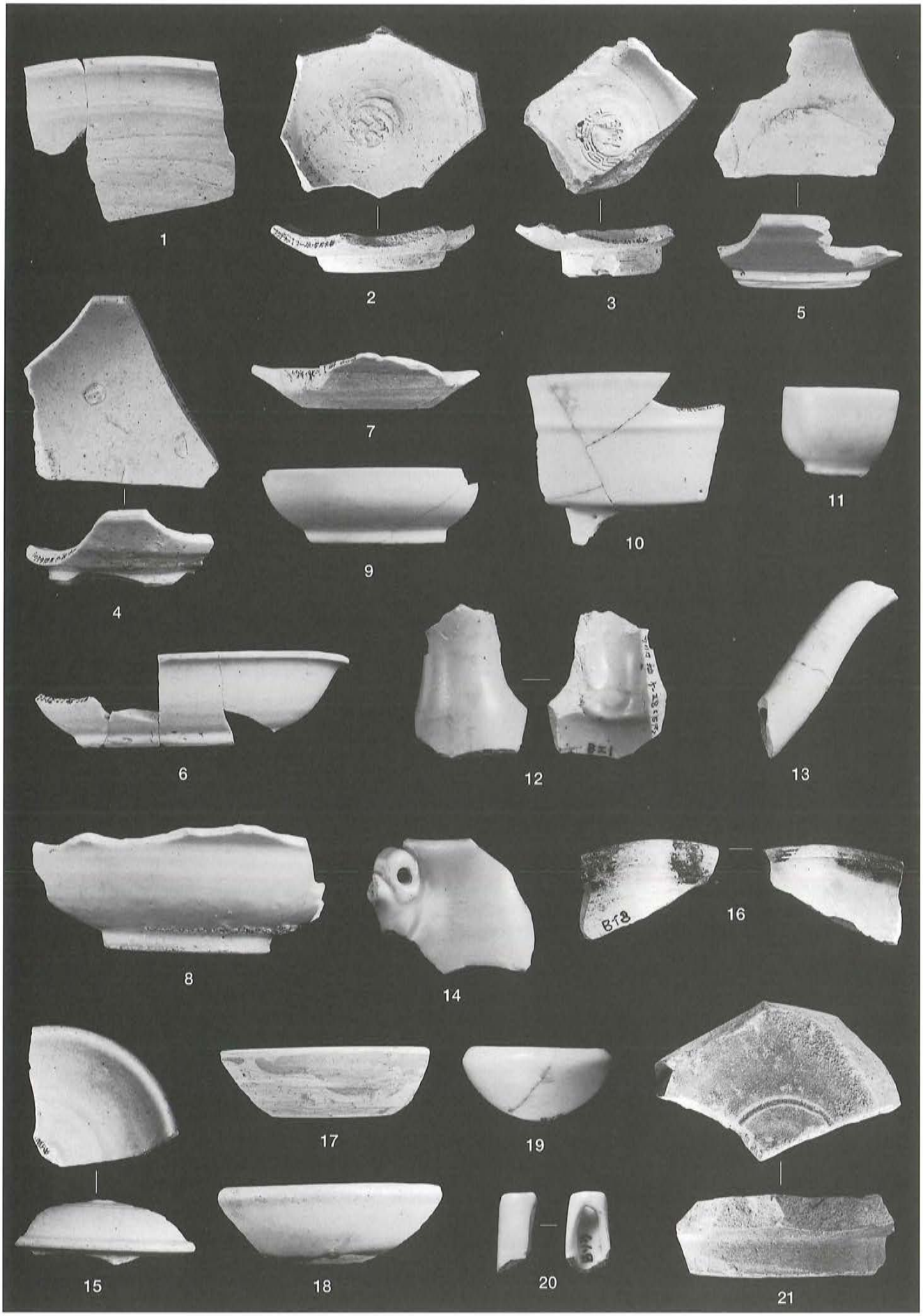
図版6　Ⅲ地区（2）（①スラグ面検出状況 ②井戸側面 ③井戸と集石遺構 ④石積み遺構正面 ⑤集石遺構 ⑥石積み遺構 ⑦石積み発掘作業風景）



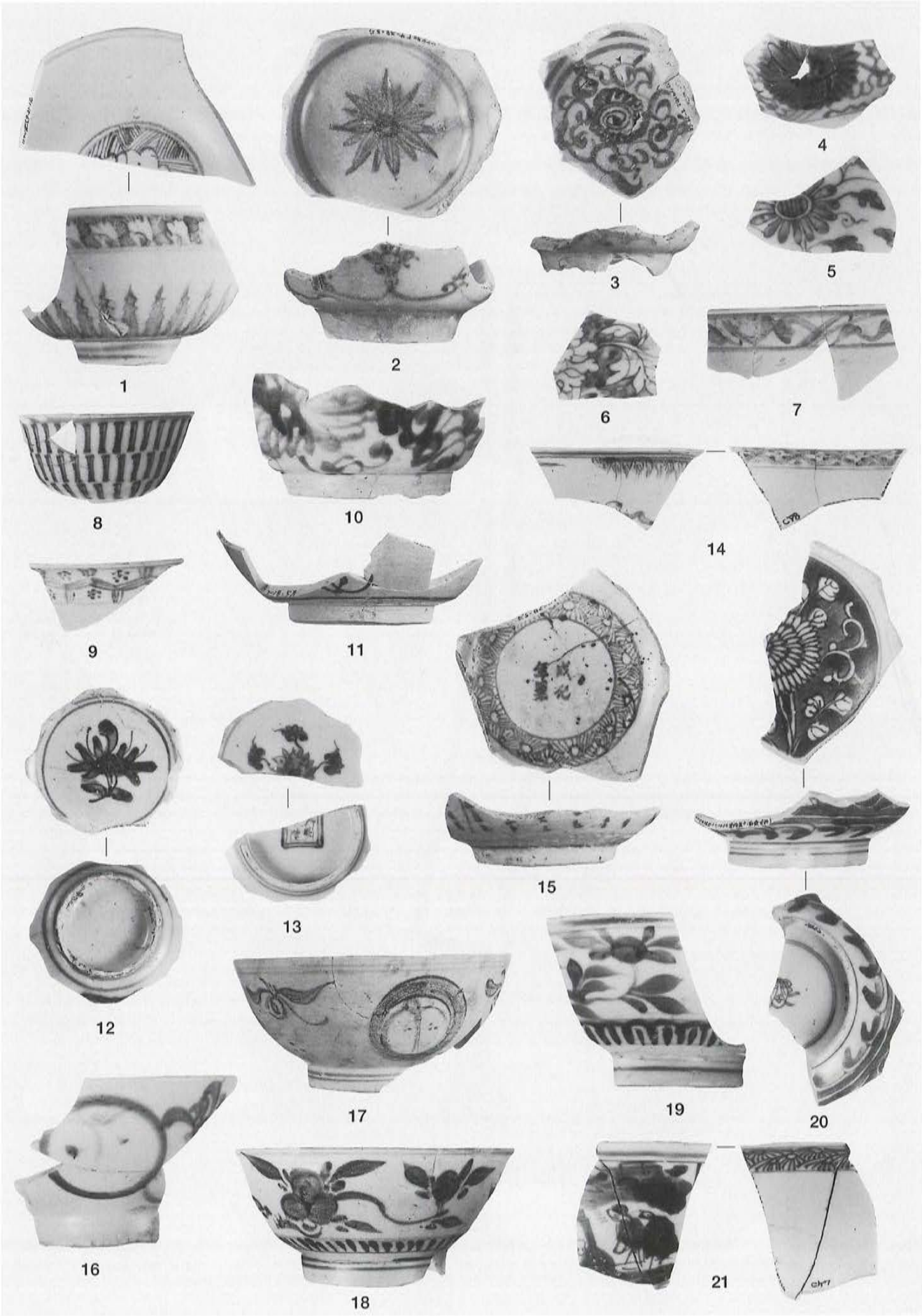
図版７　青磁（１）碗・鉢



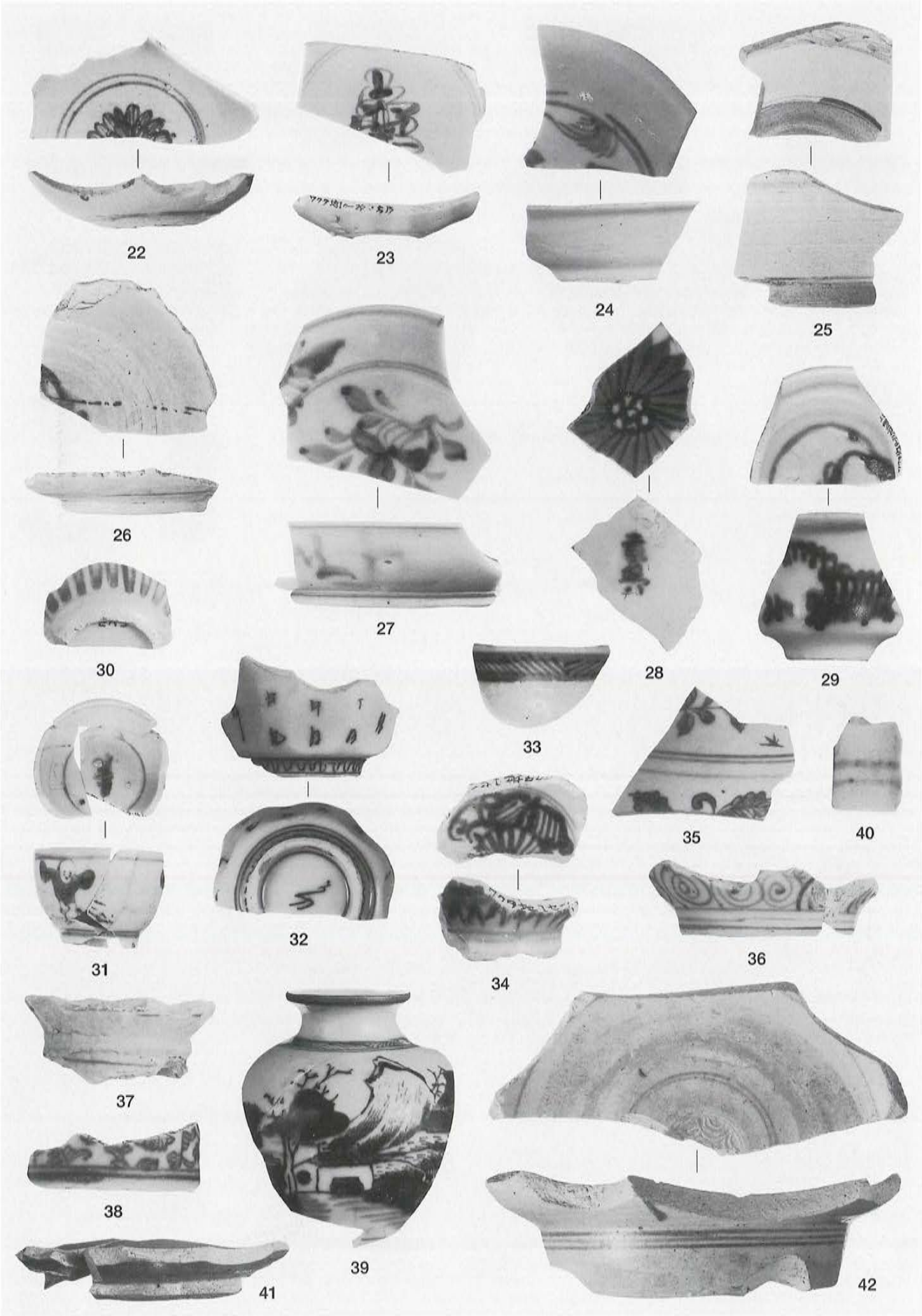
図版8　青磁（2）皿・盤・瓶・壺・香炉



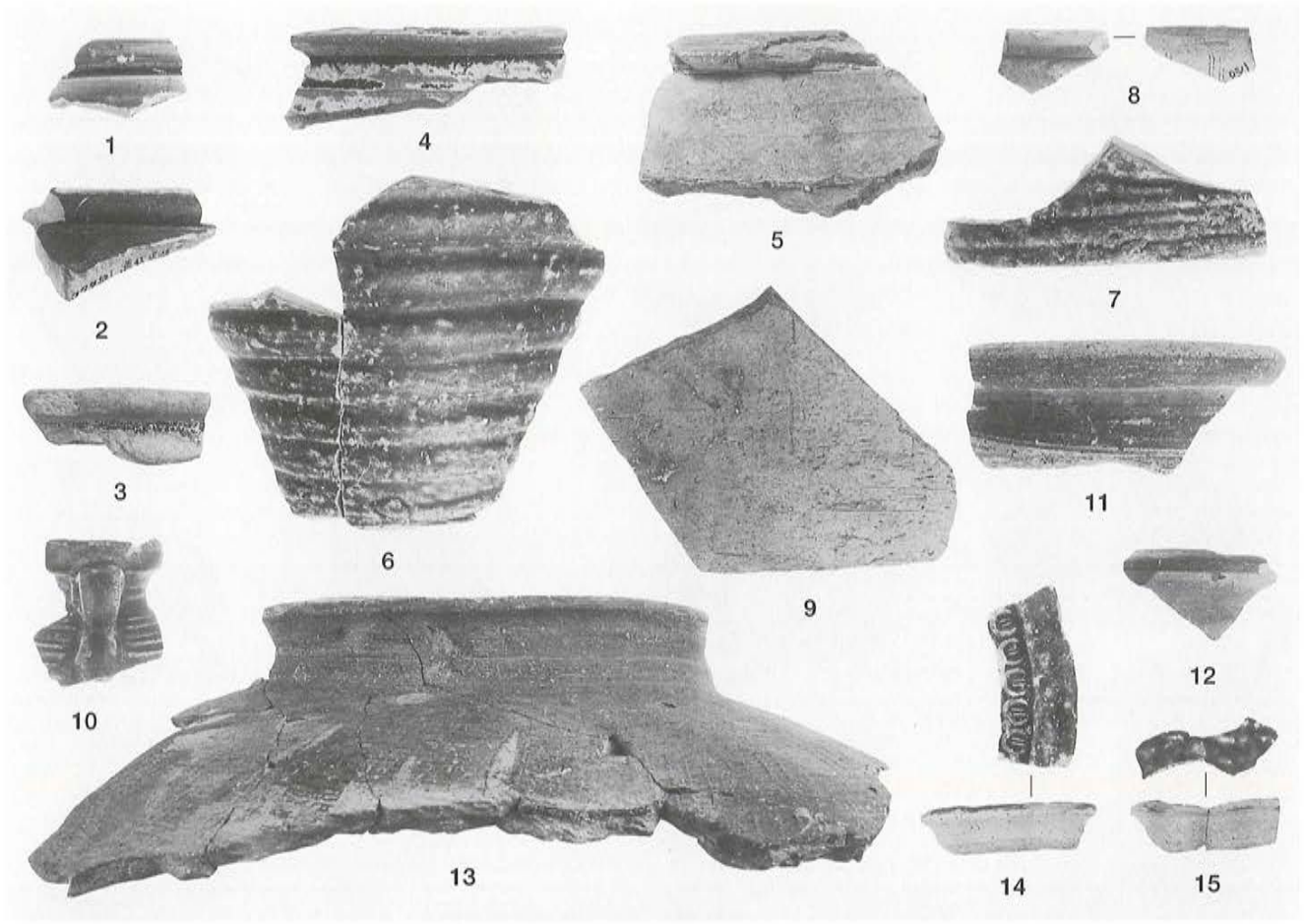
図版 9　白磁

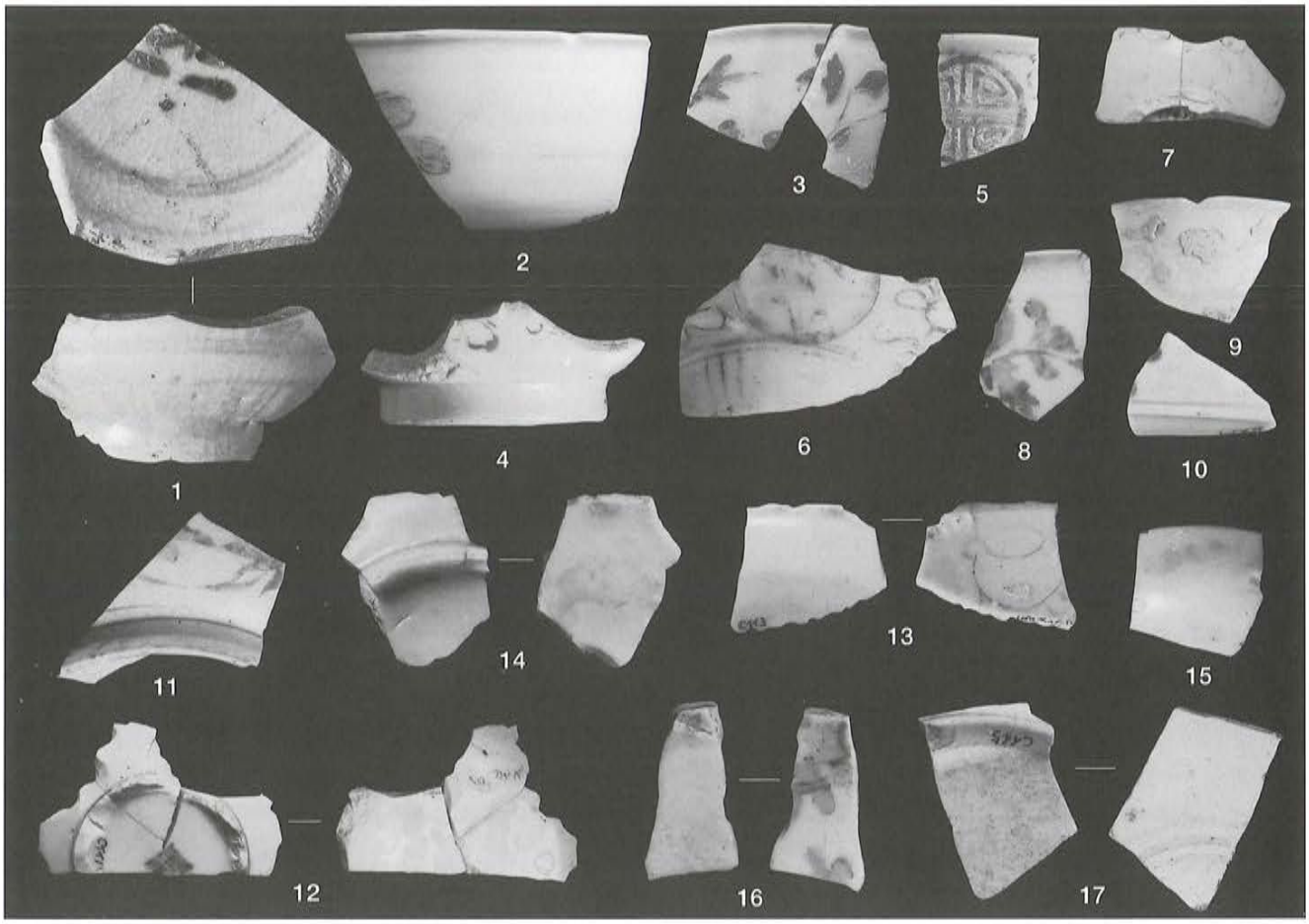


図版10　染付（1）碗

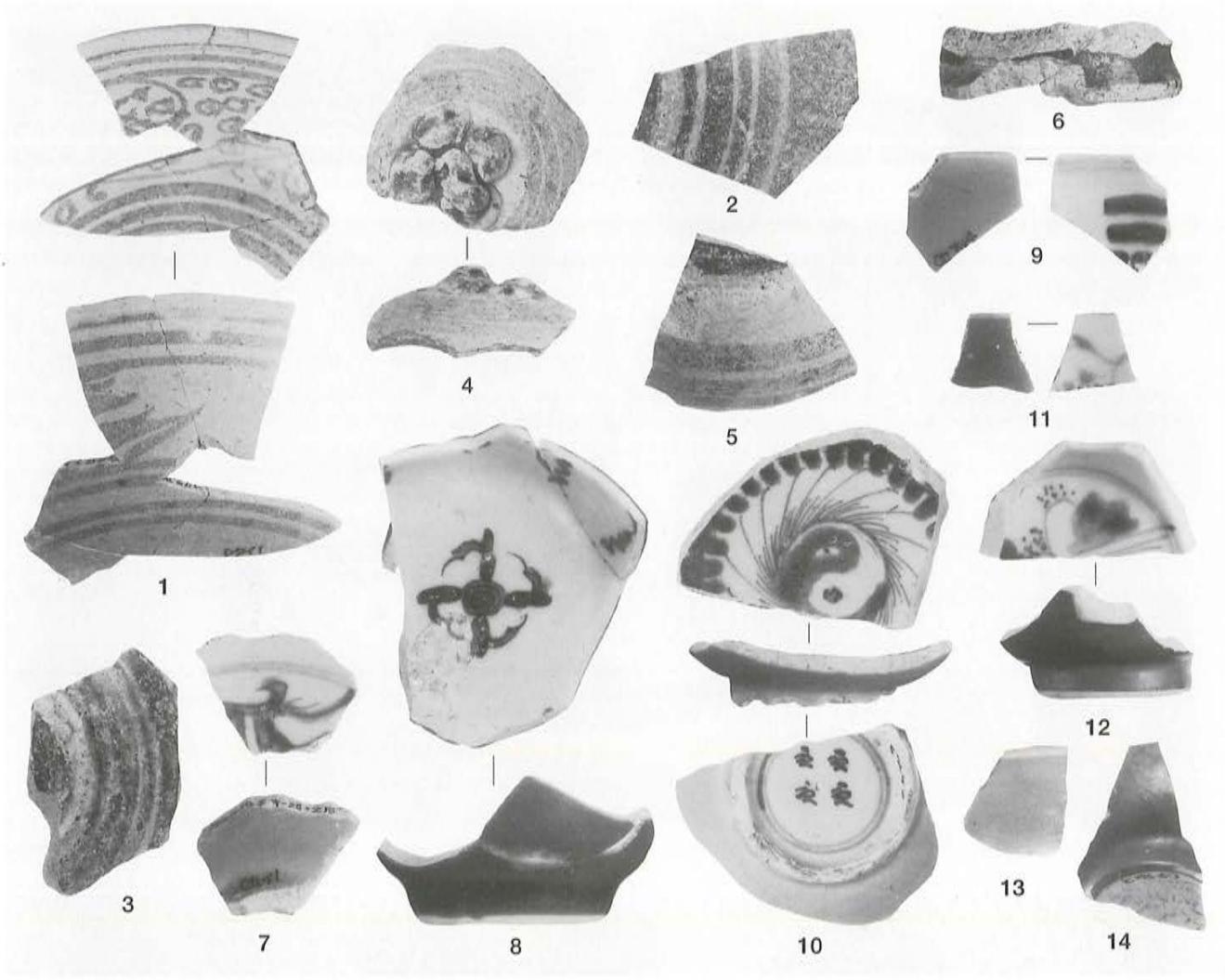


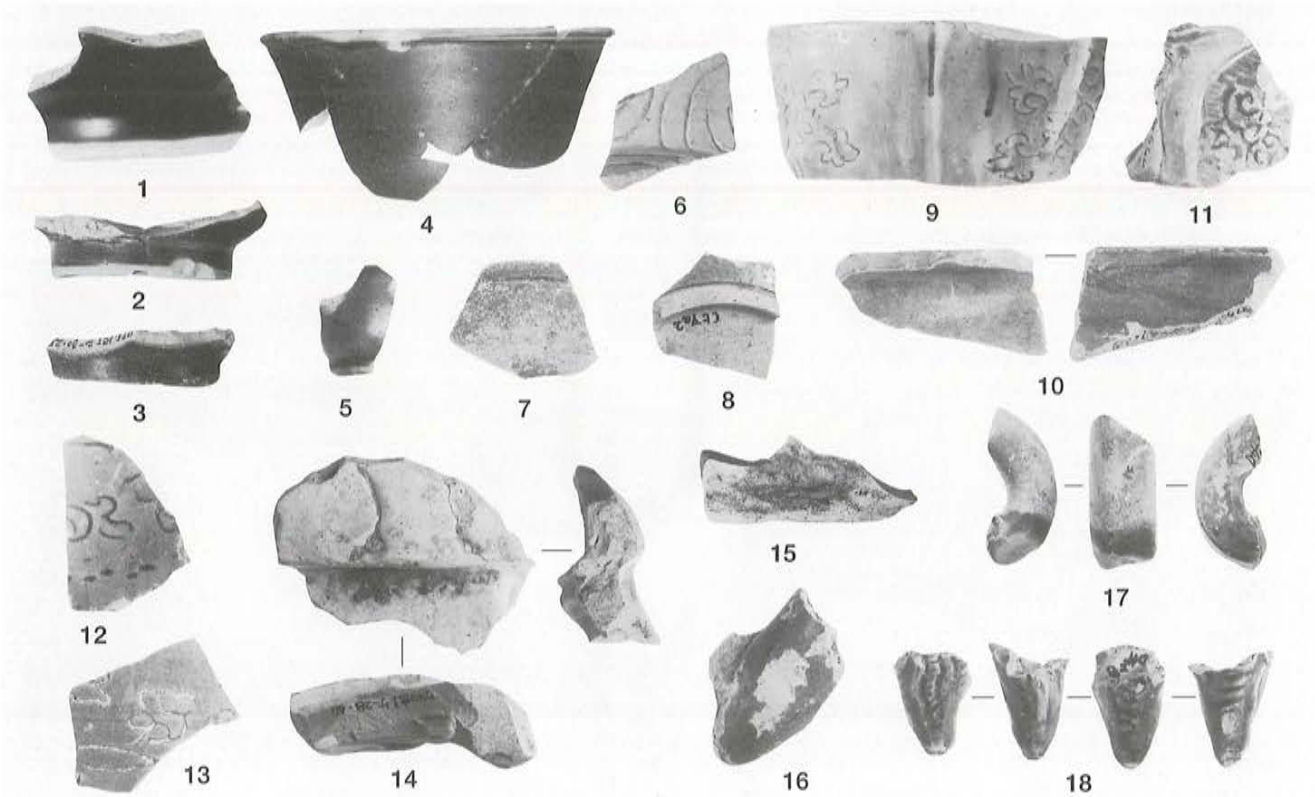
図版11　染付（２）皿・小碗・小杯・瓶・鉢・その他



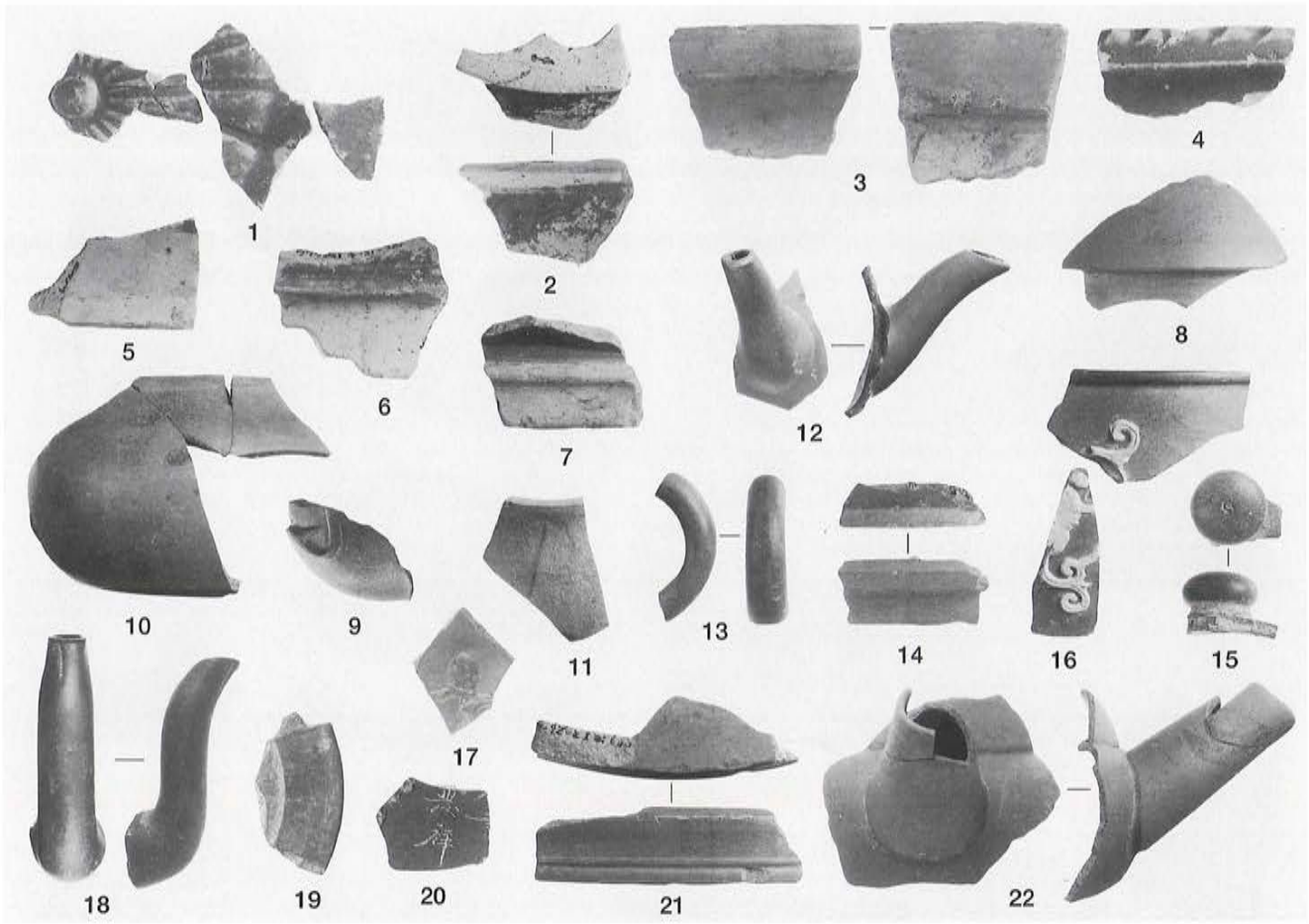


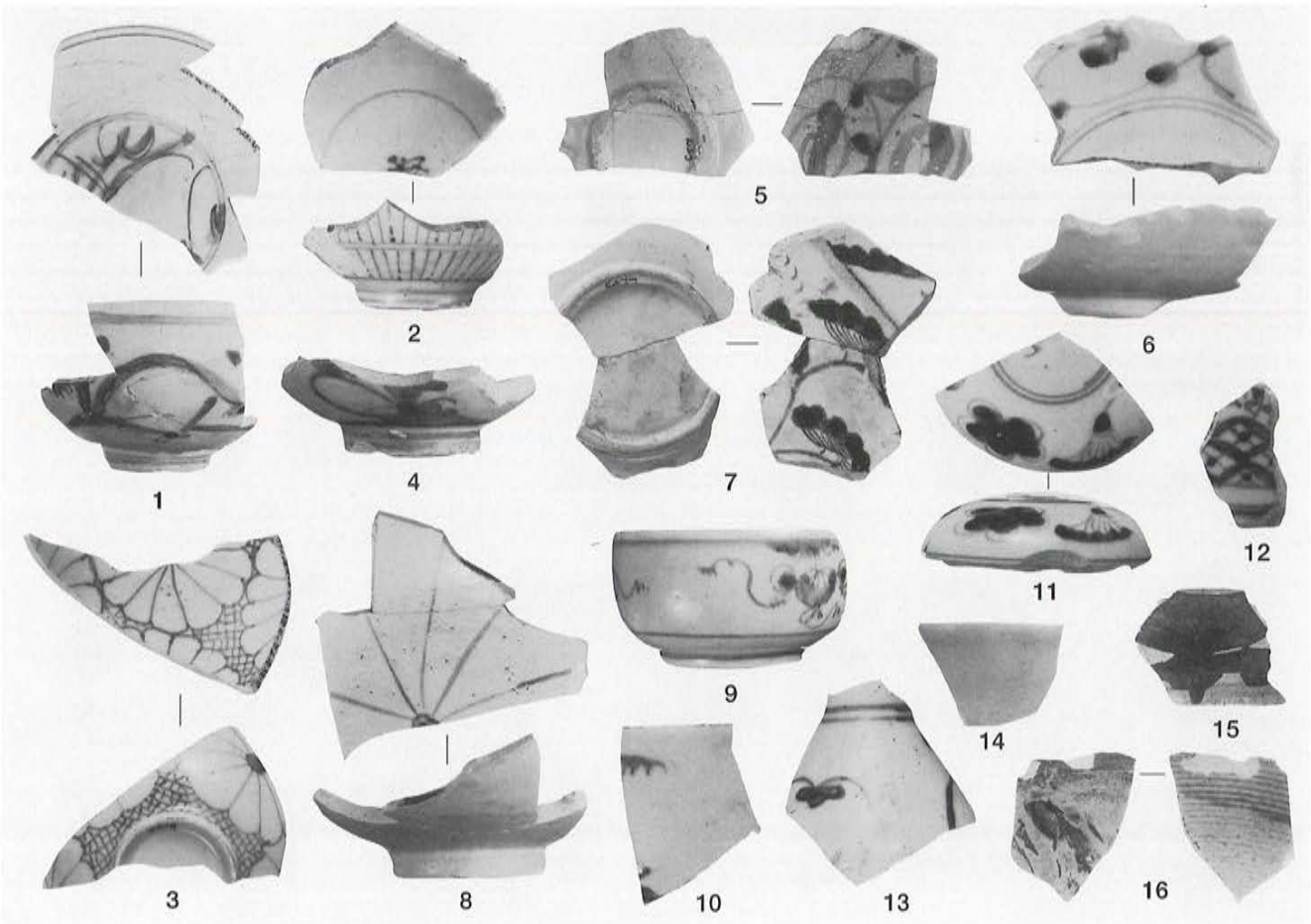
図版12　上：褐釉陶器　下：中国色絵



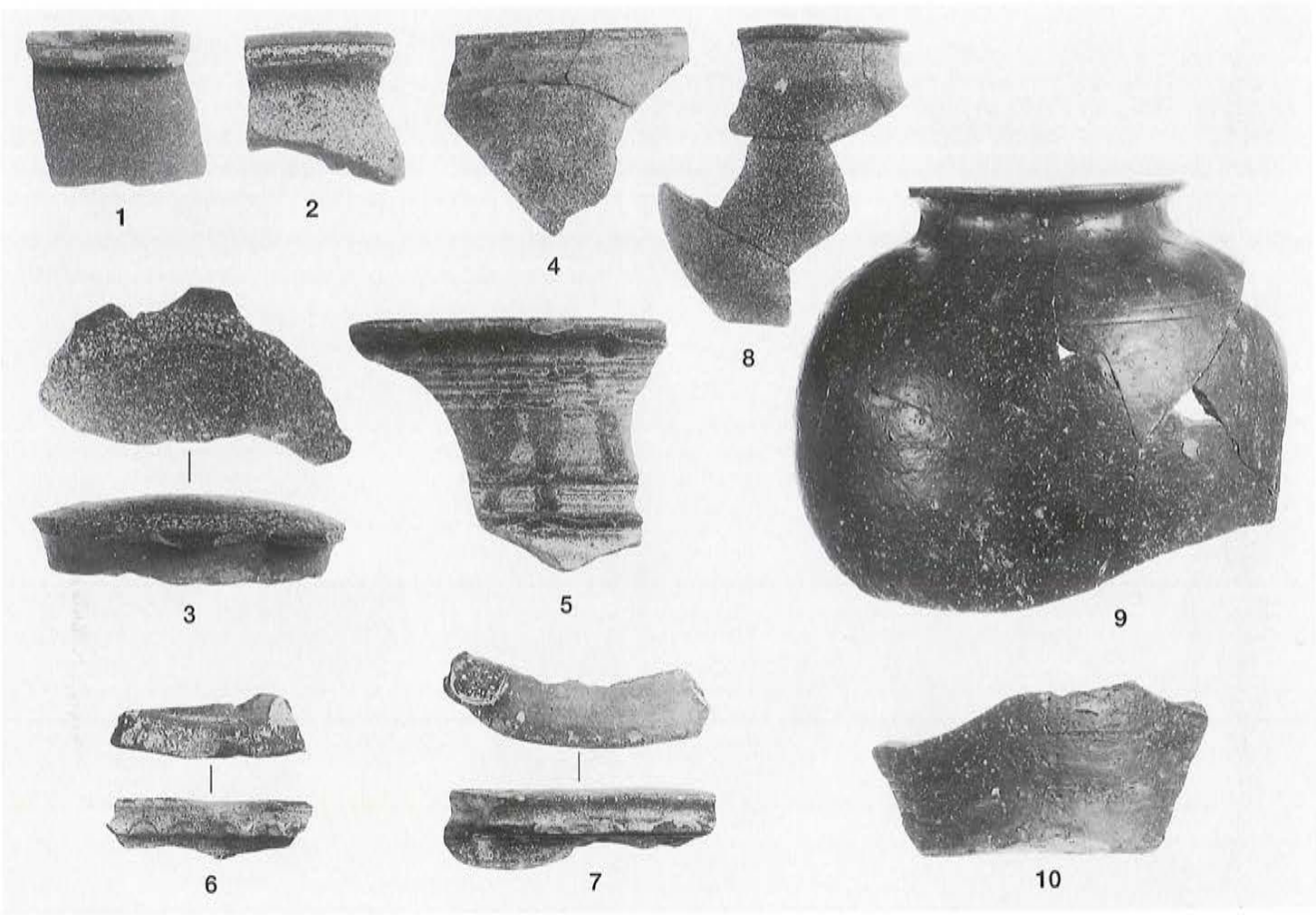


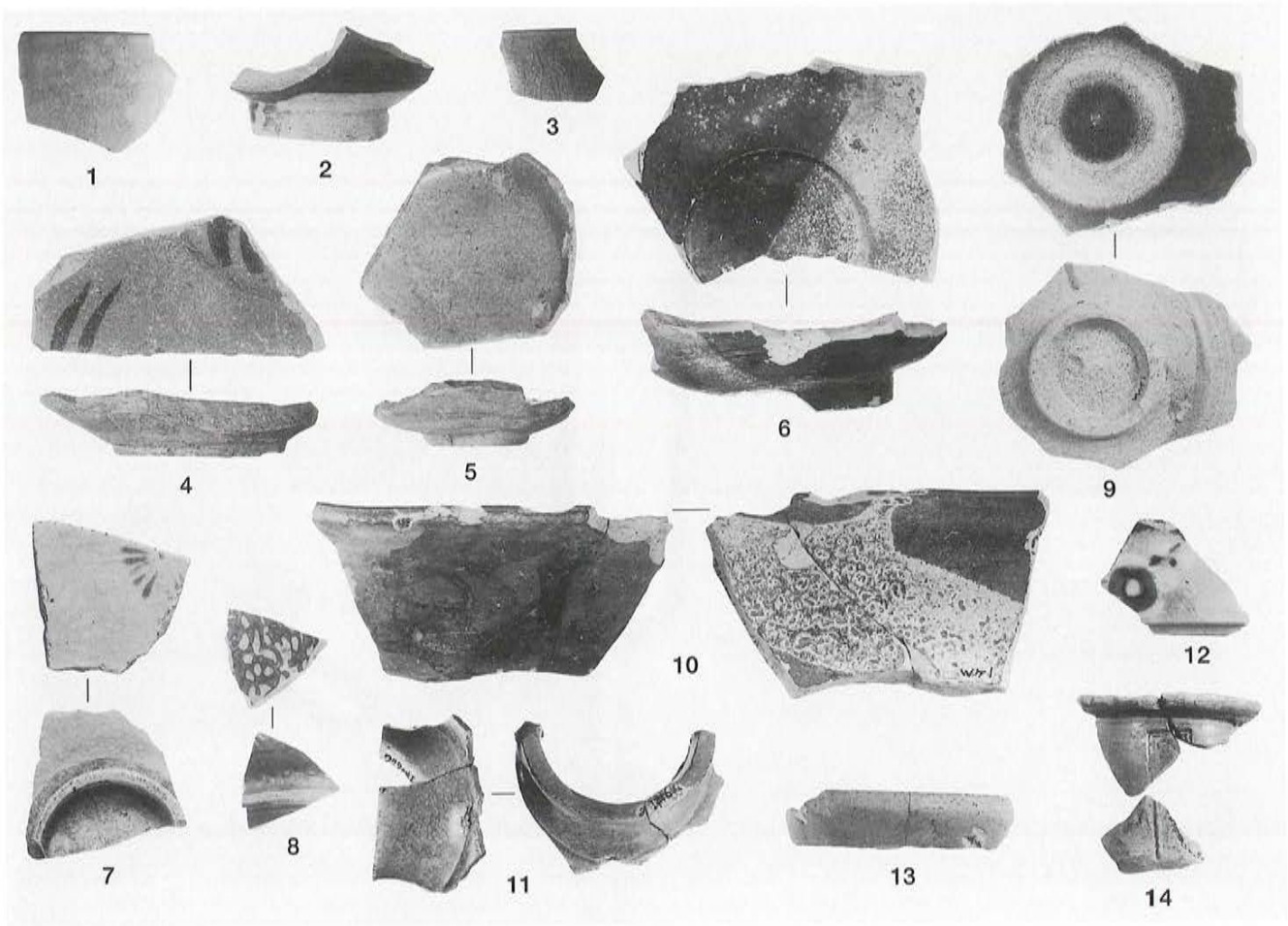
図版13　上：タイ鉄絵（1~6）・青磁染付（7~10・13）・銹釉染付（11・12・14）下：瑠璃釉（1~5）・翡翠釉（6~8）・三彩（9~18）



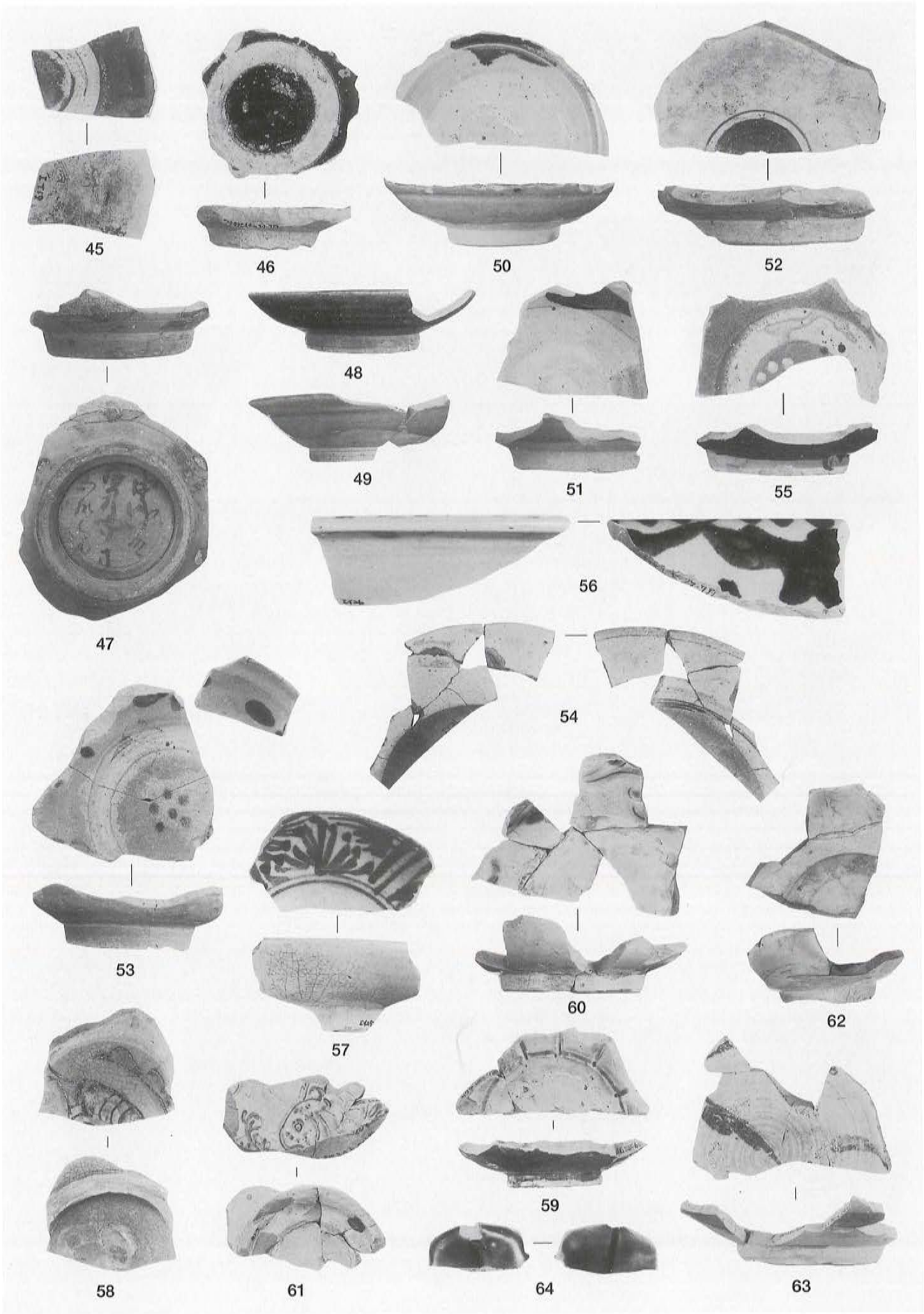


図版14　上：その他の中国産陶器　下：本土産磁器

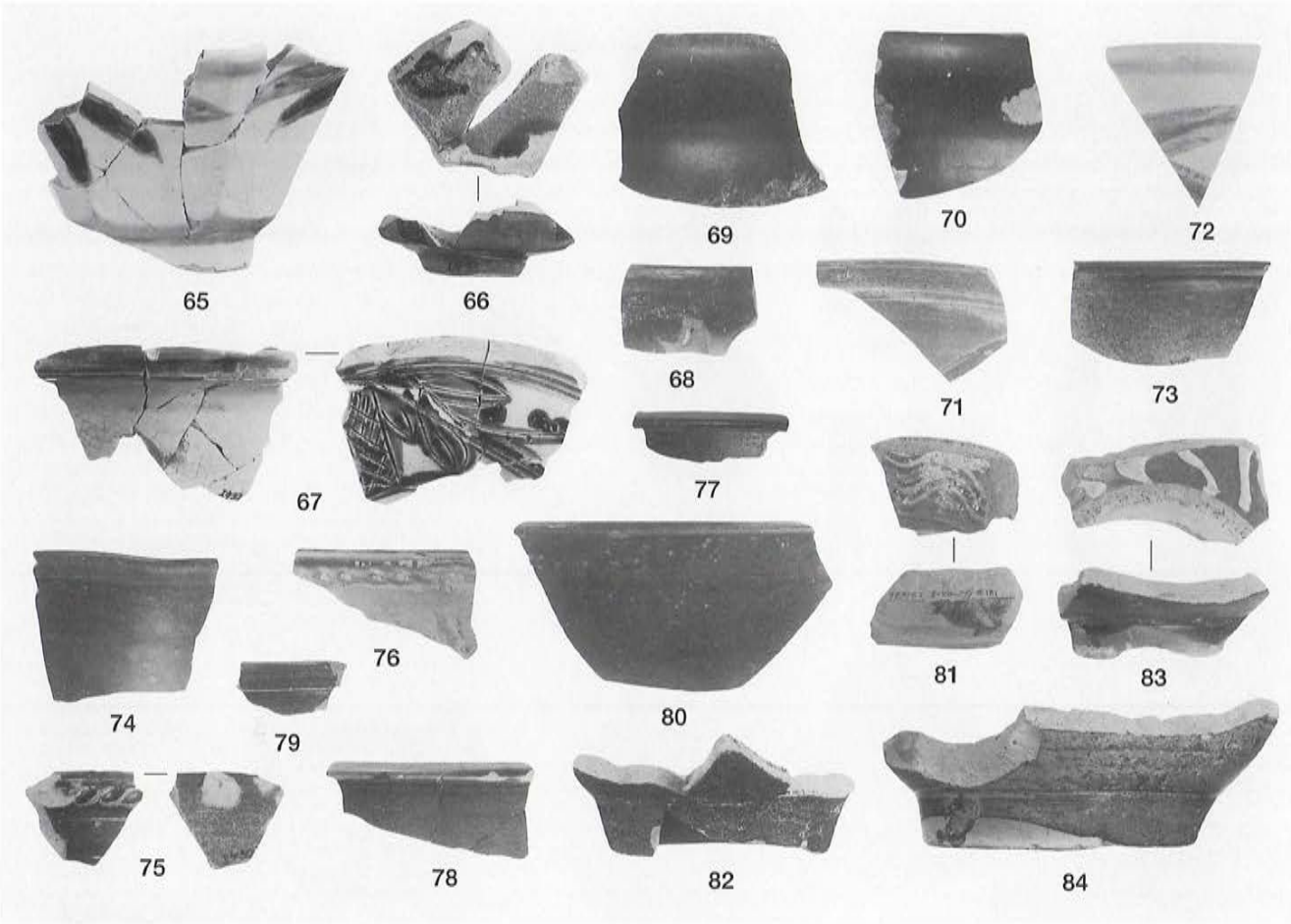


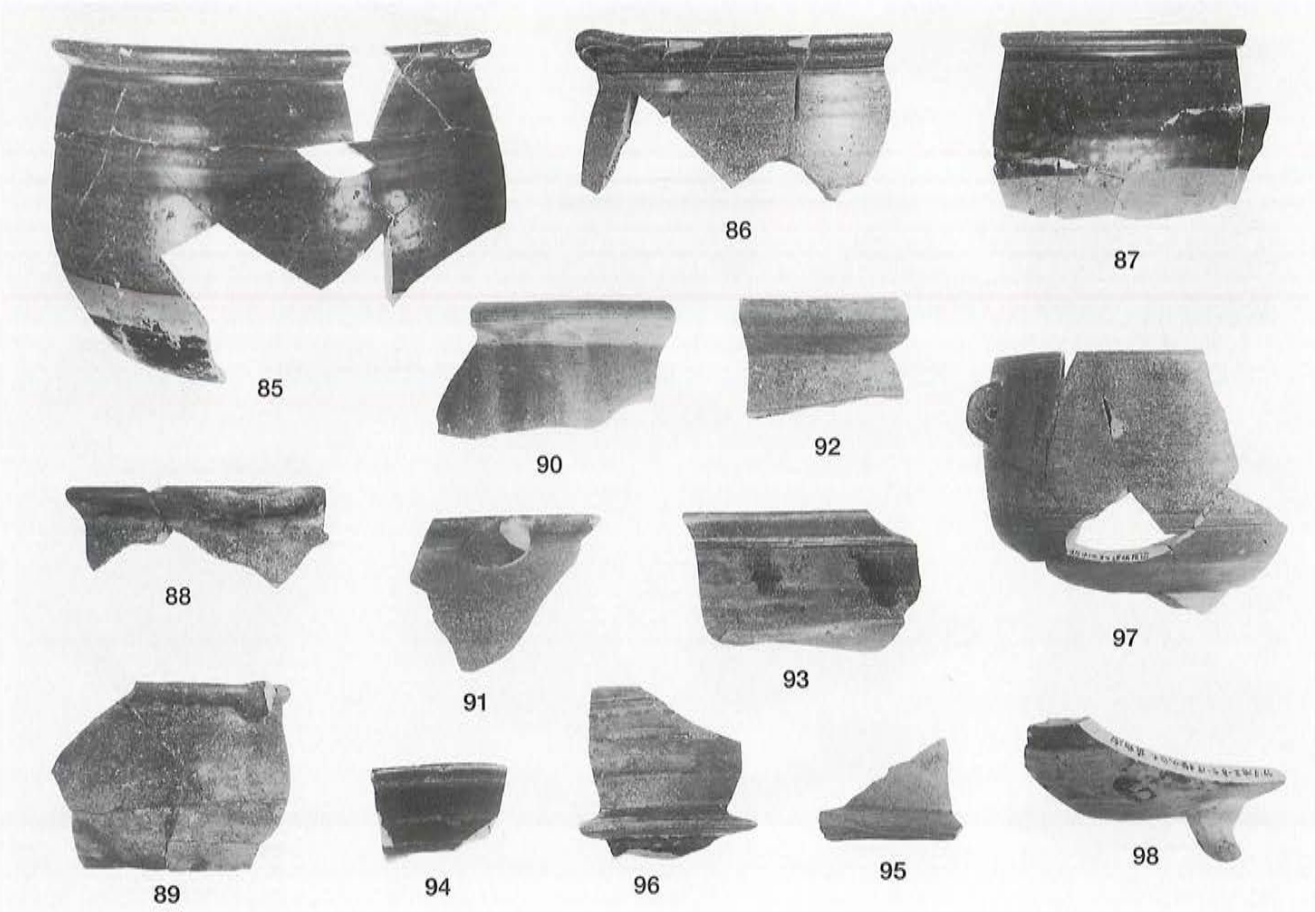


図版15　本土産陶器　上：薩摩焼　下：その他の陶器

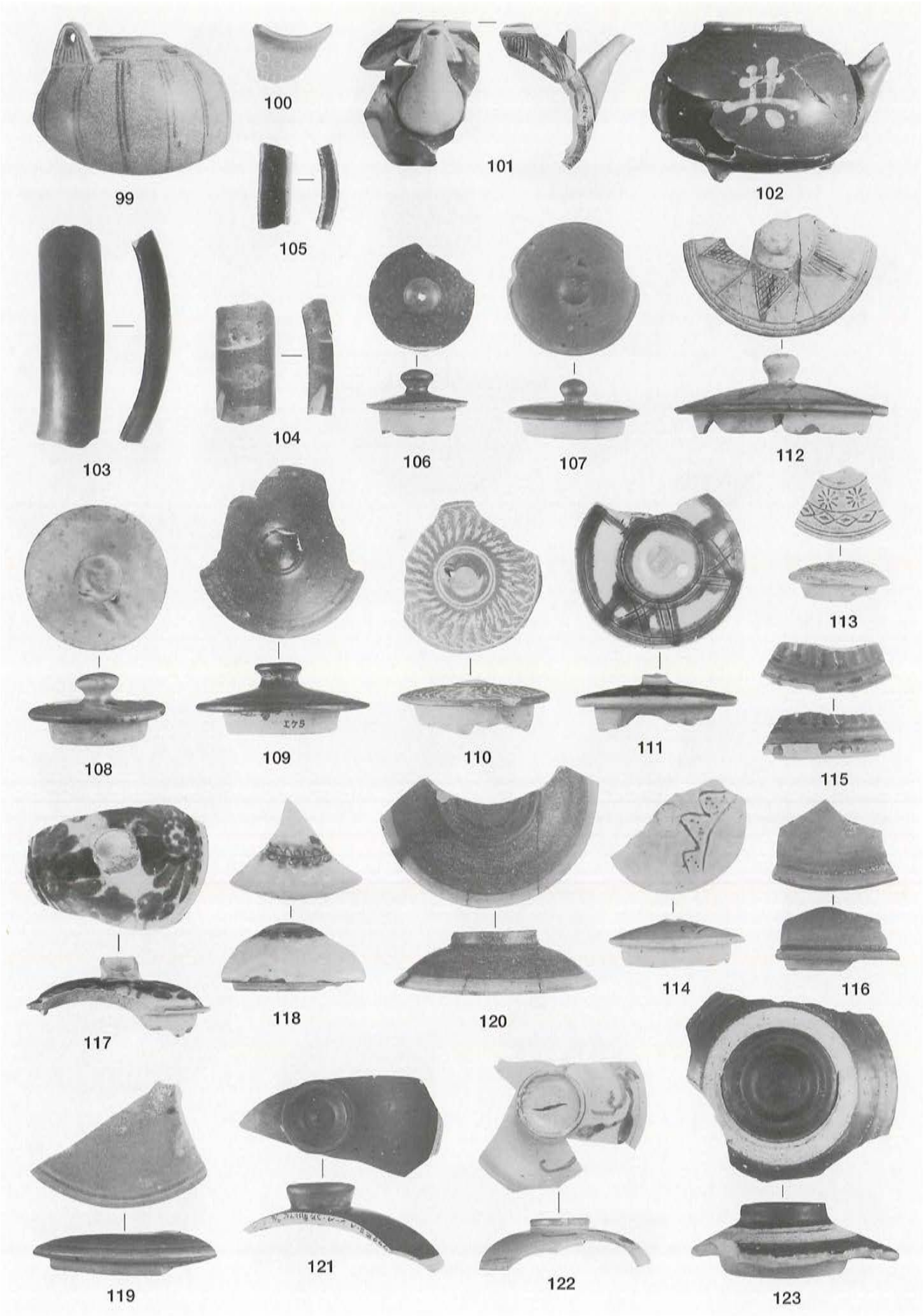


図版18　沖縄産施釉陶器（3）Ⅲ

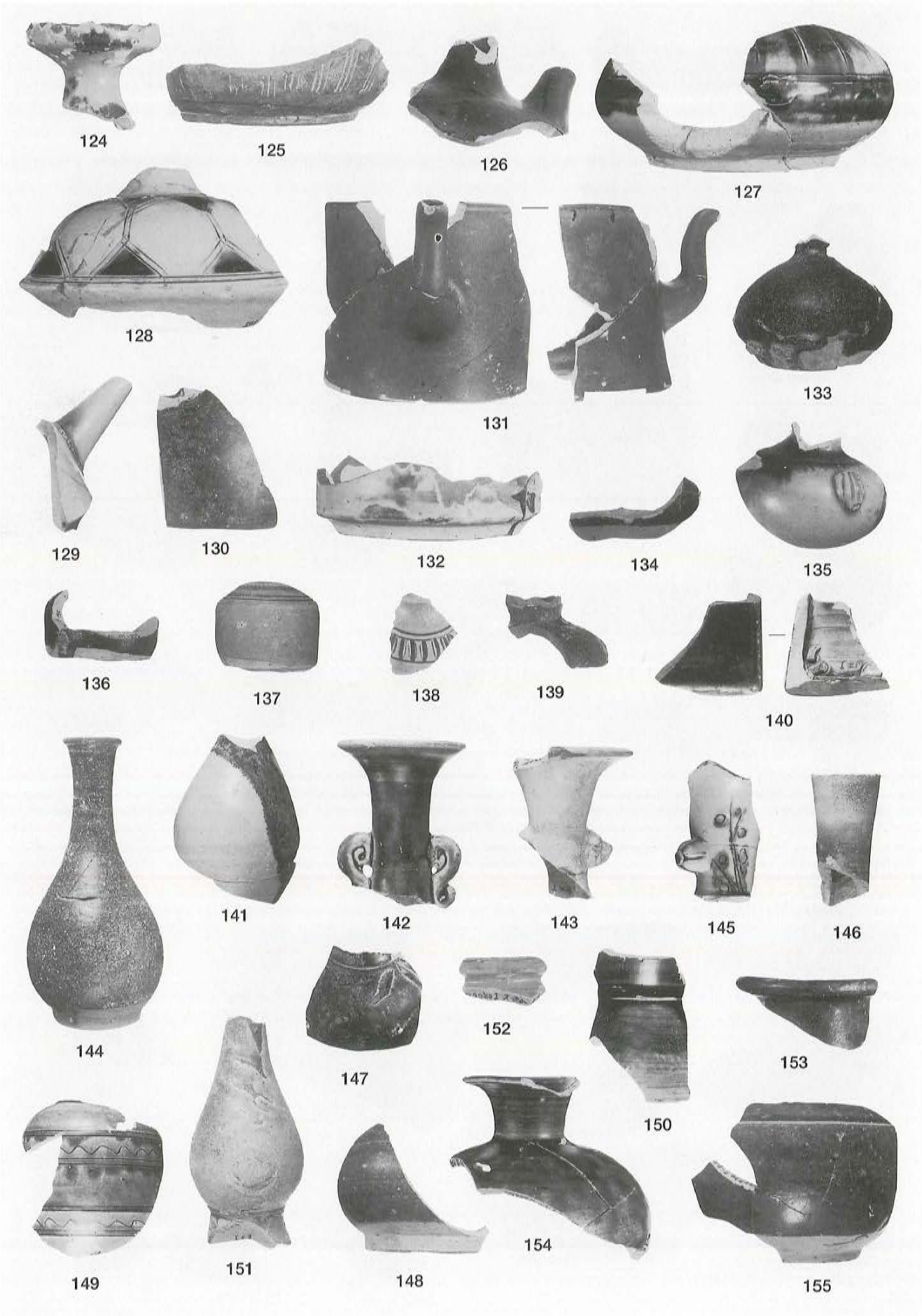




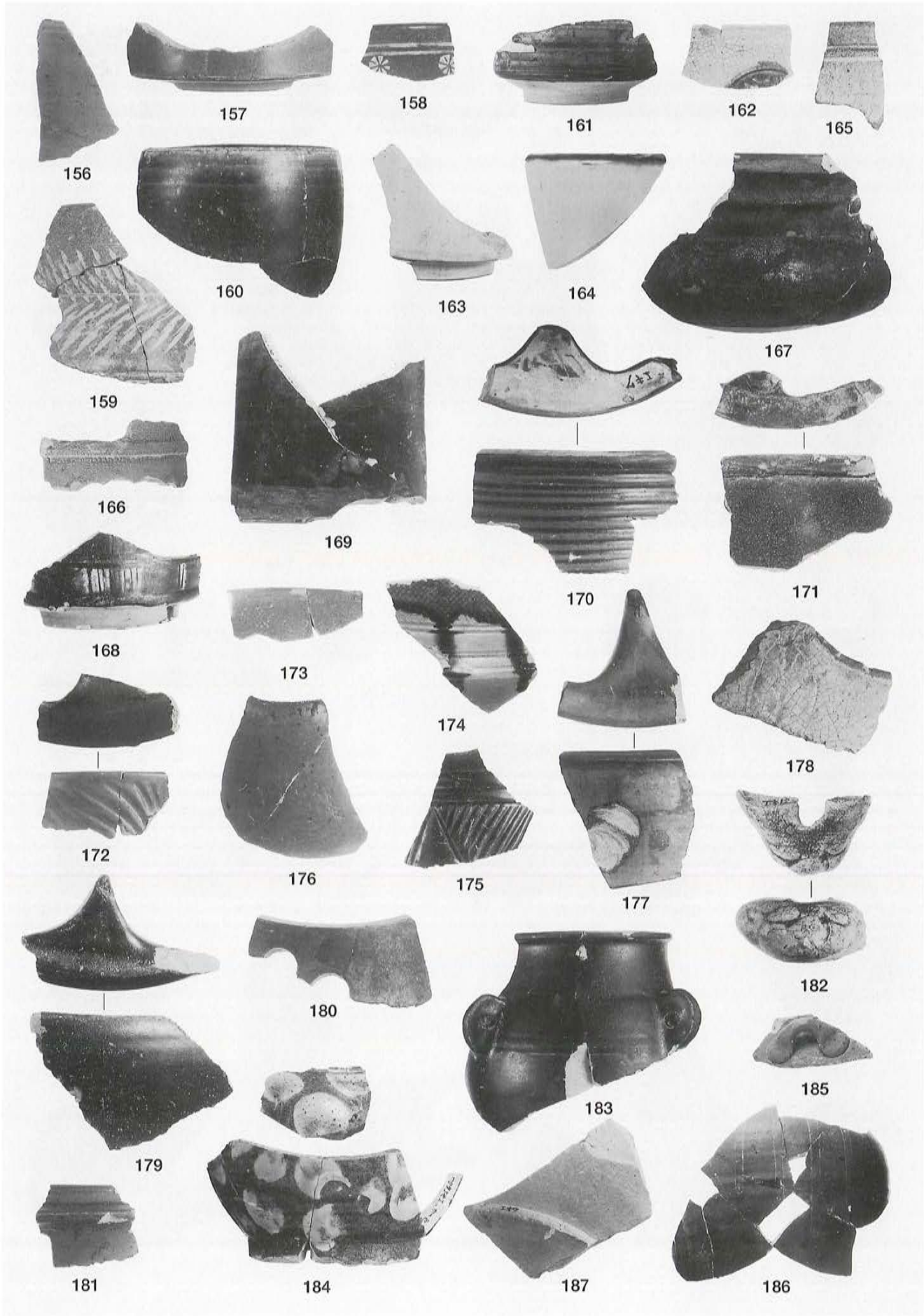
図版19　沖縄産施釉陶器（4）　上：鉢　下：鍋



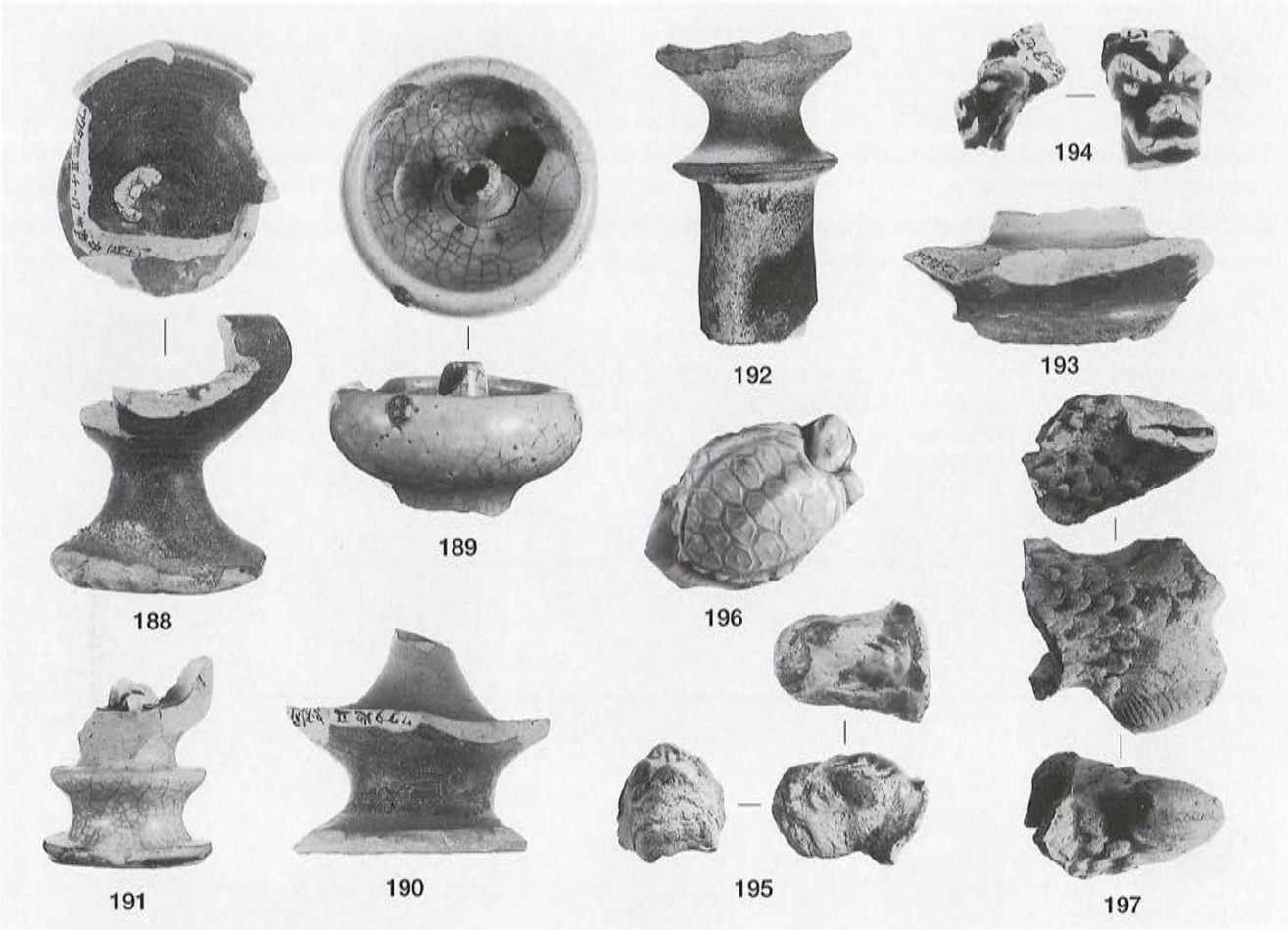
図版20　沖縄産施釉陶器（5）急須・蓋

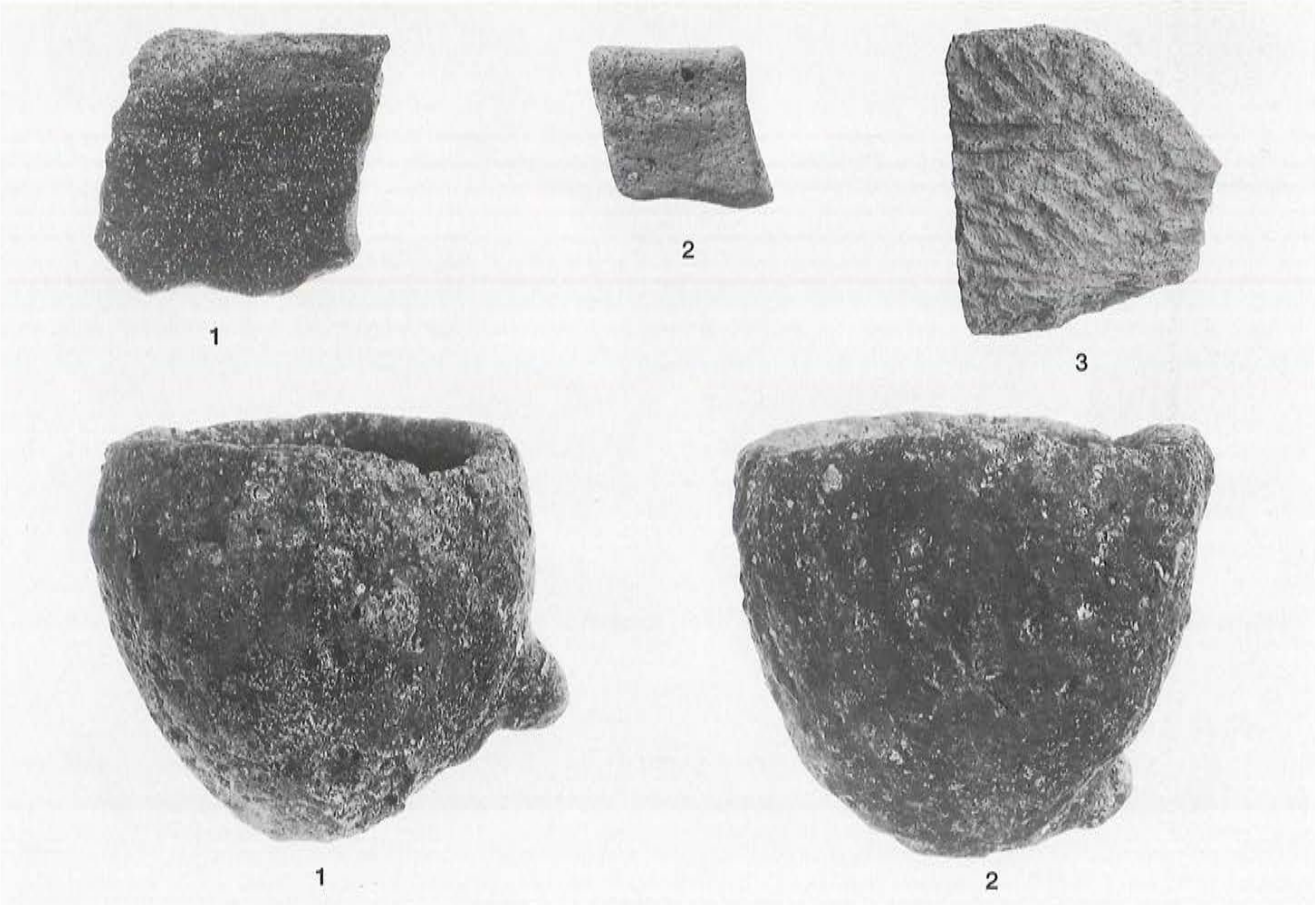


図版21　沖縄産施釉陶器（6）酒器・瓶

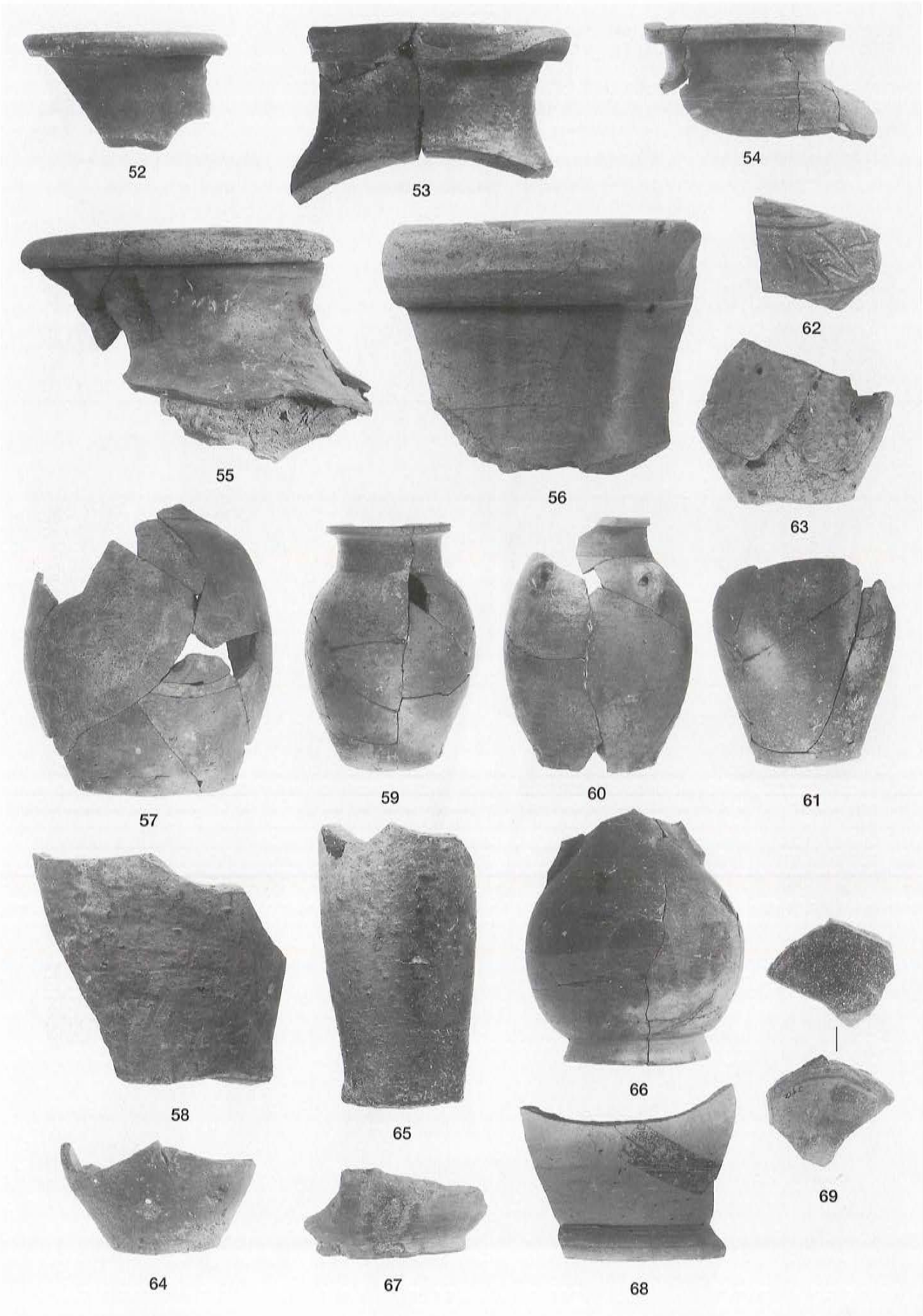


図版22　沖縄産施釉陶器（7）火取・香炉・火炉

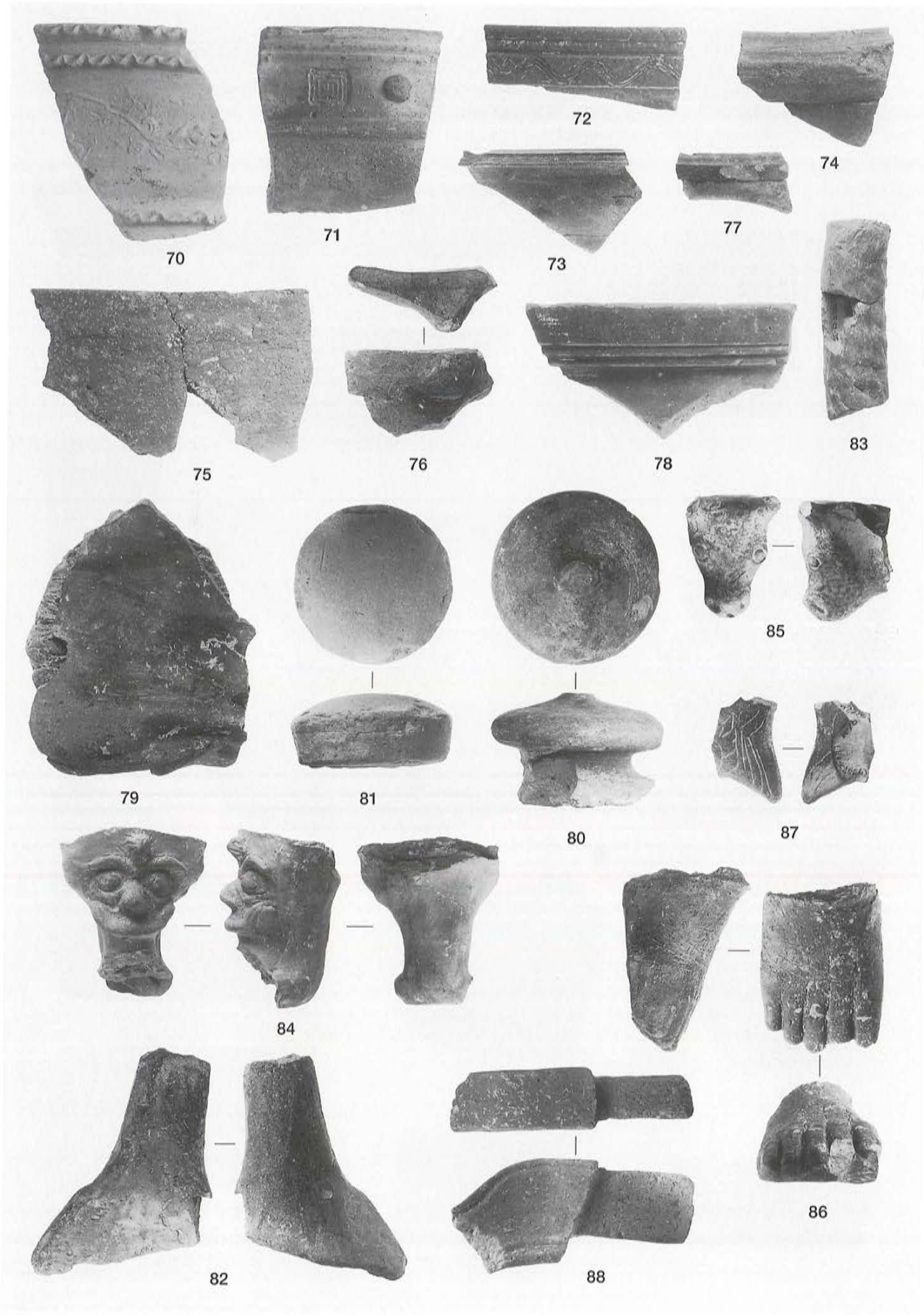




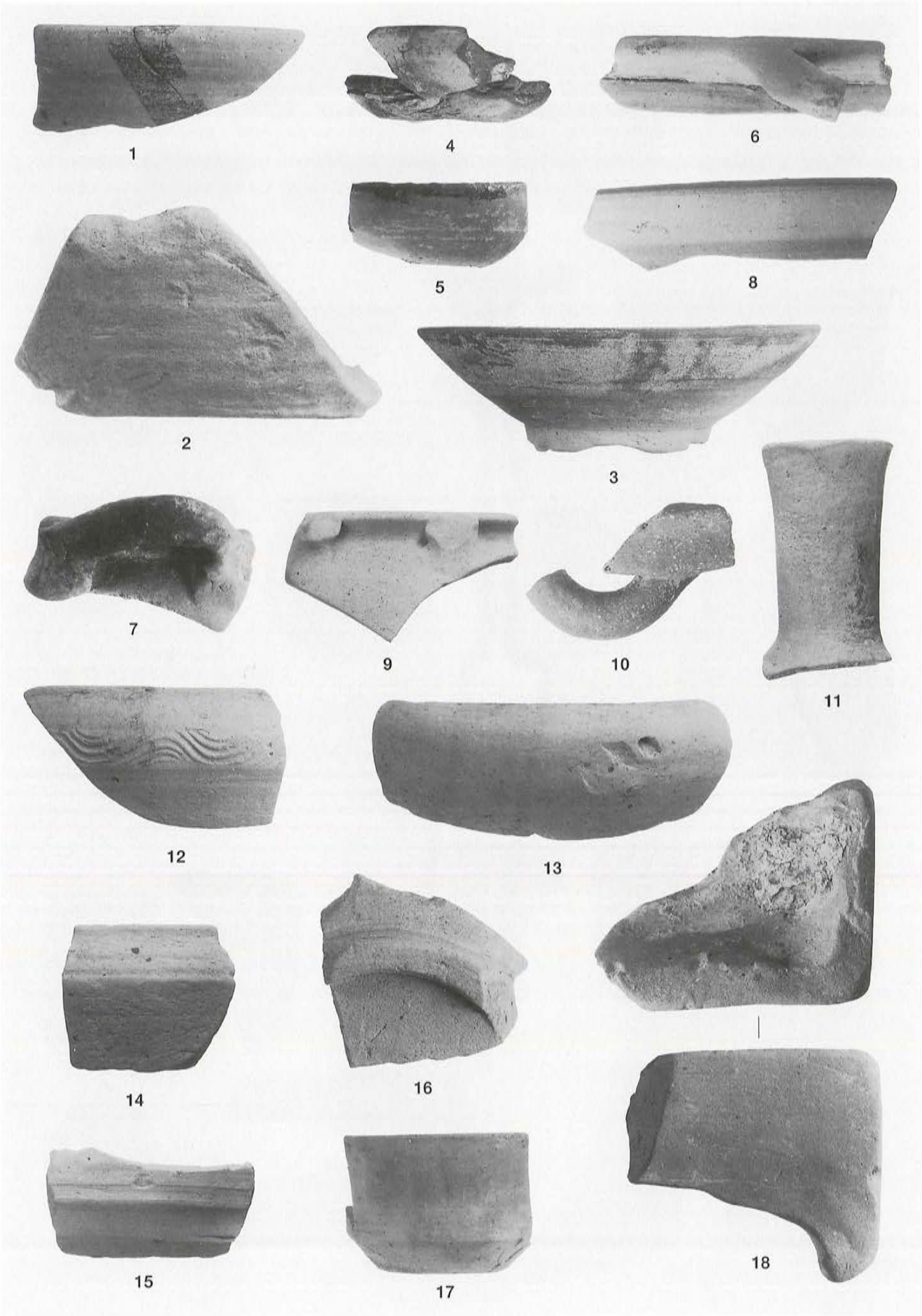
図版23　上：沖縄産施釉陶器（8）灯明具・その他　下：土器・坩堝



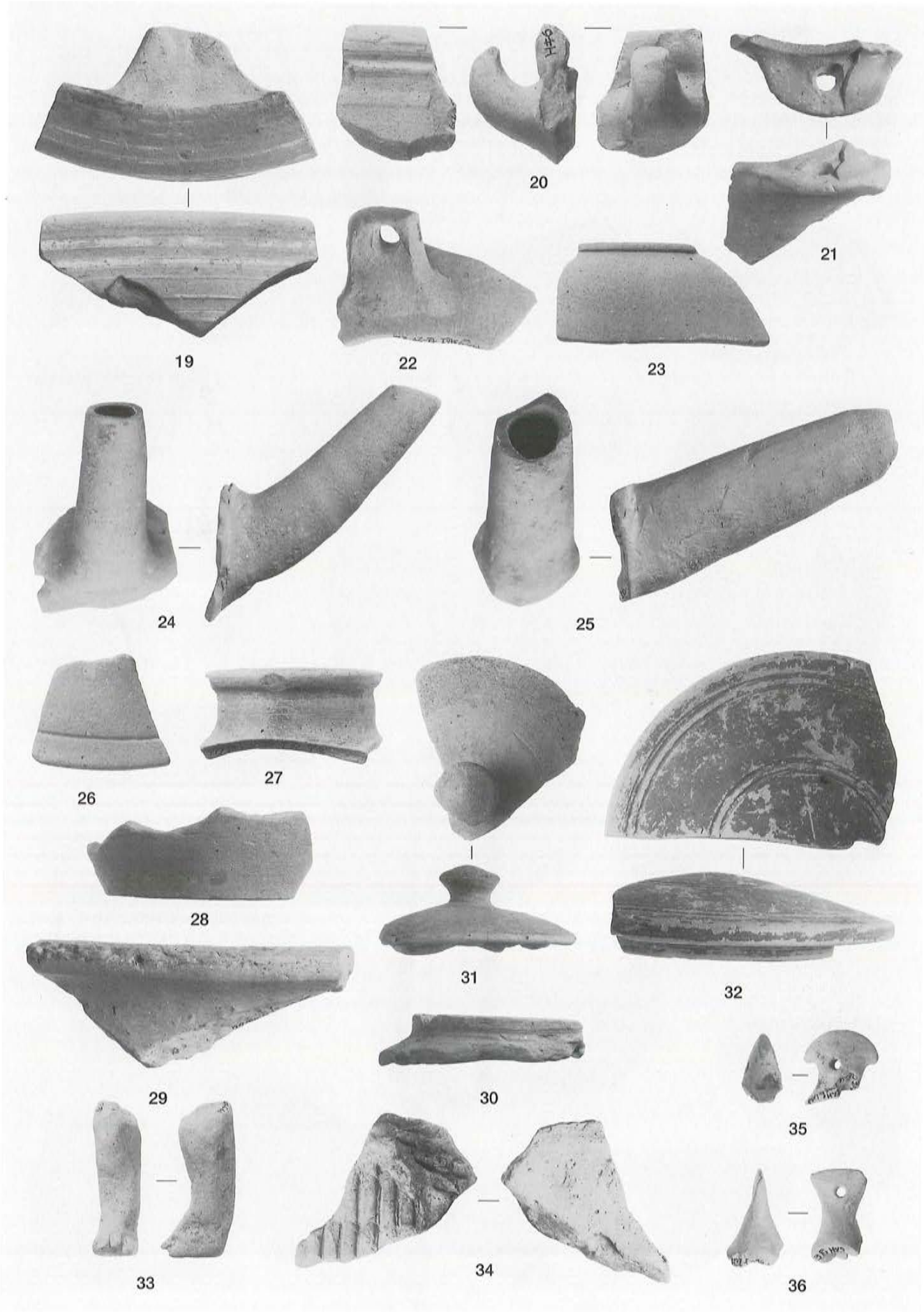
図版26　沖縄産無釉陶器（3）壺・瓶・その他



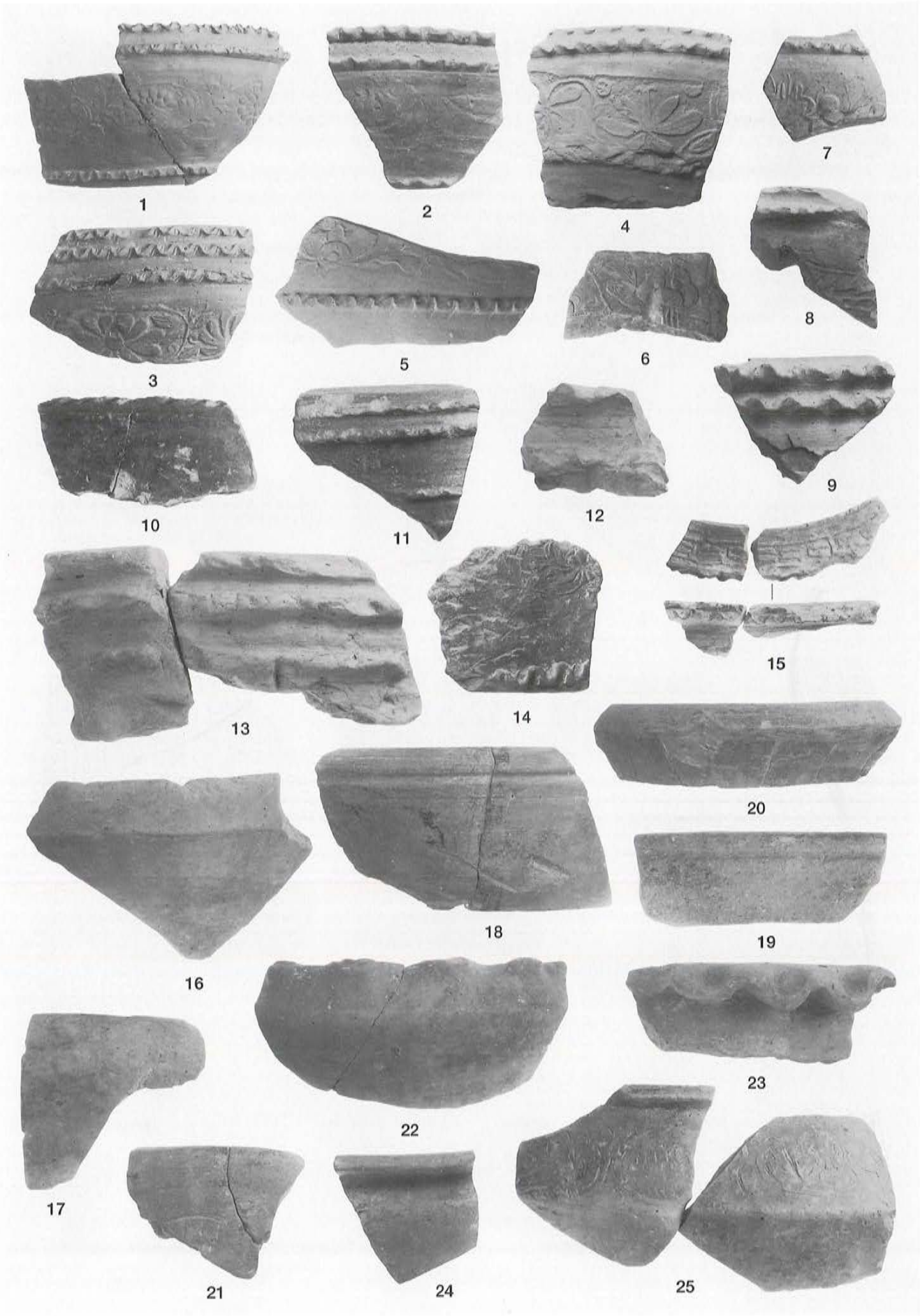
図版27　沖縄産無釉陶器（4）大鉢・甕・その他



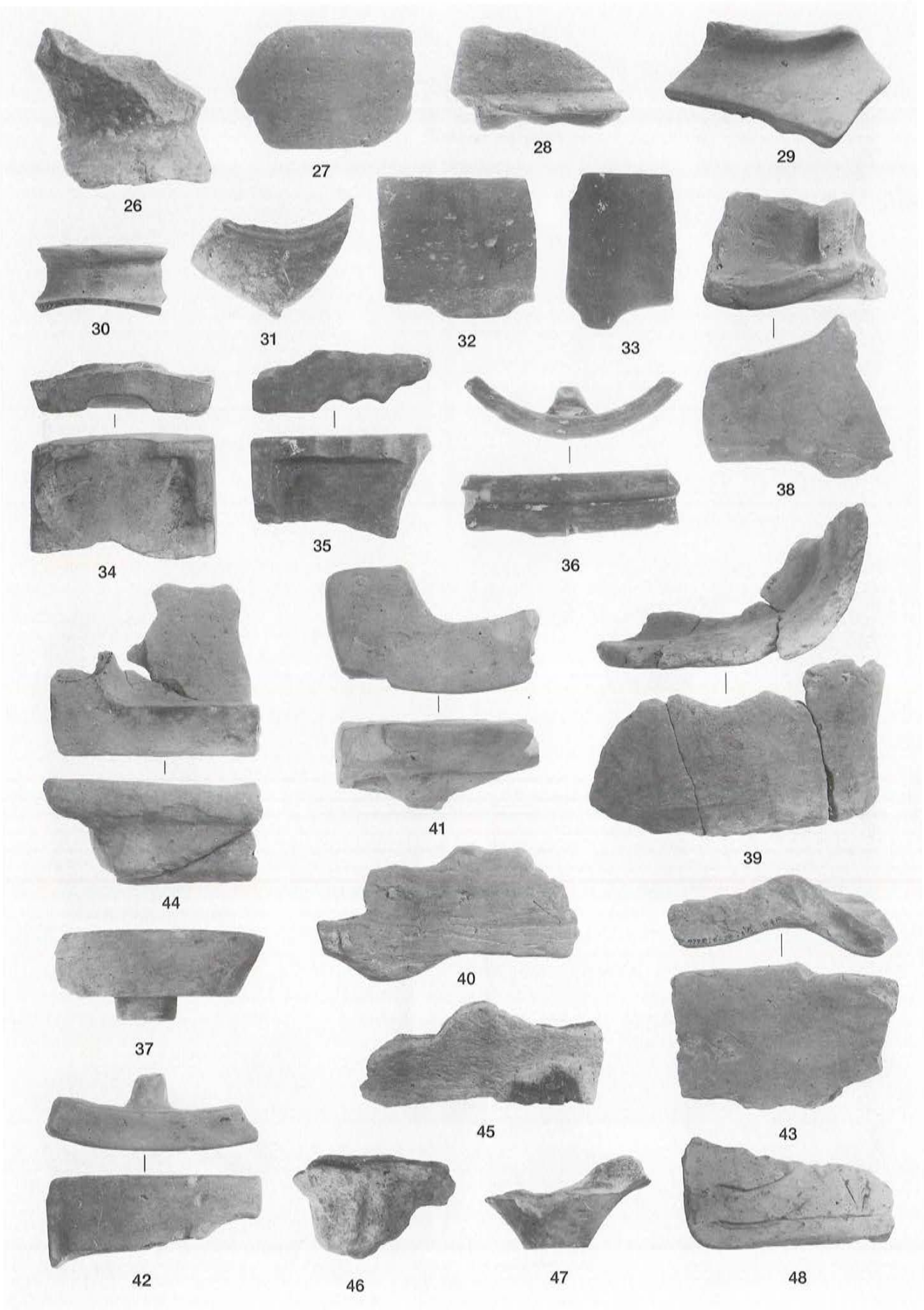
図版28　陶質土器（1）皿・鍋・鉢・火炉



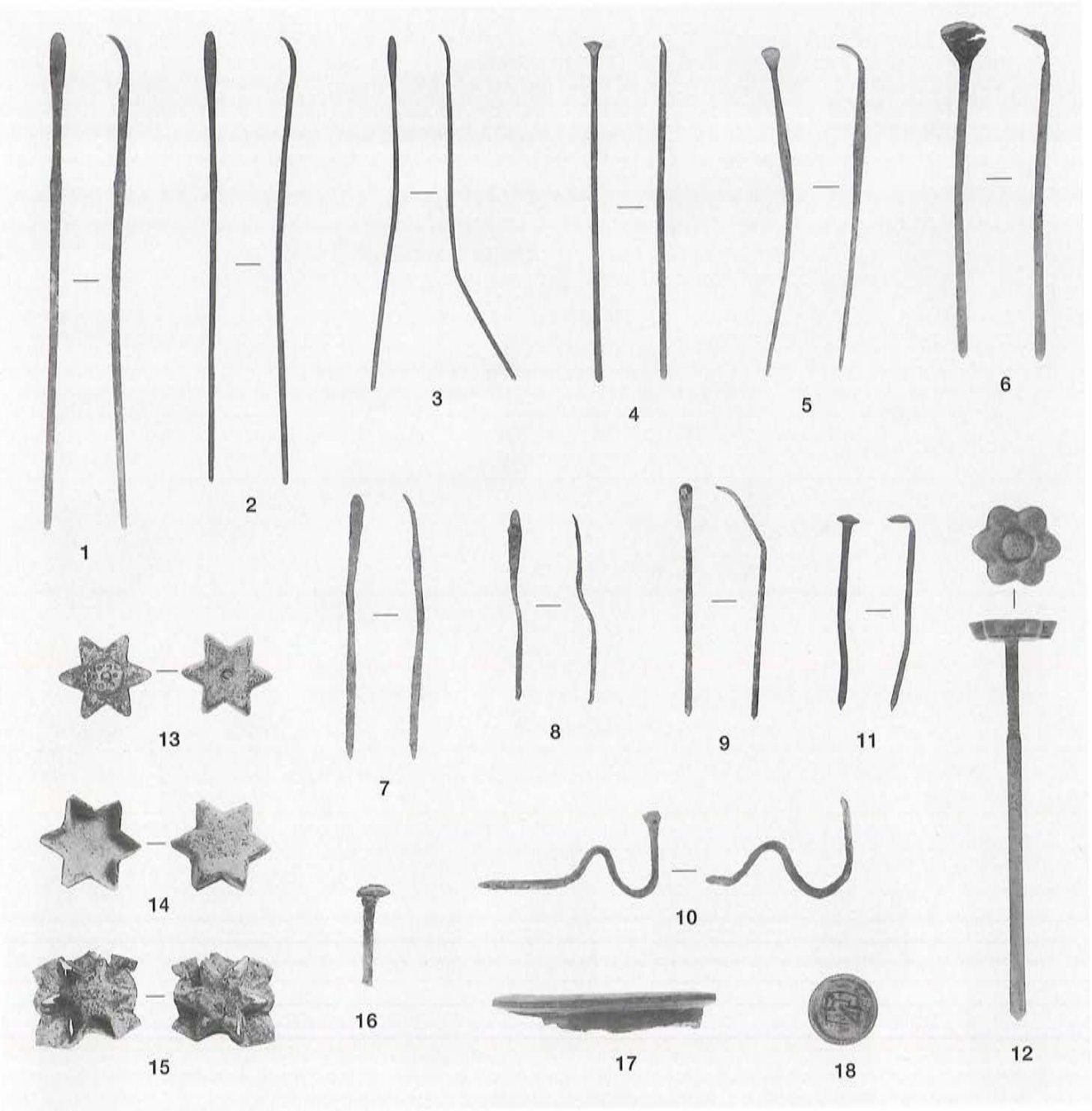
図版29　陶質土器（2）火炉・急須・瓶・壺・鉢・蓋・型物・その他

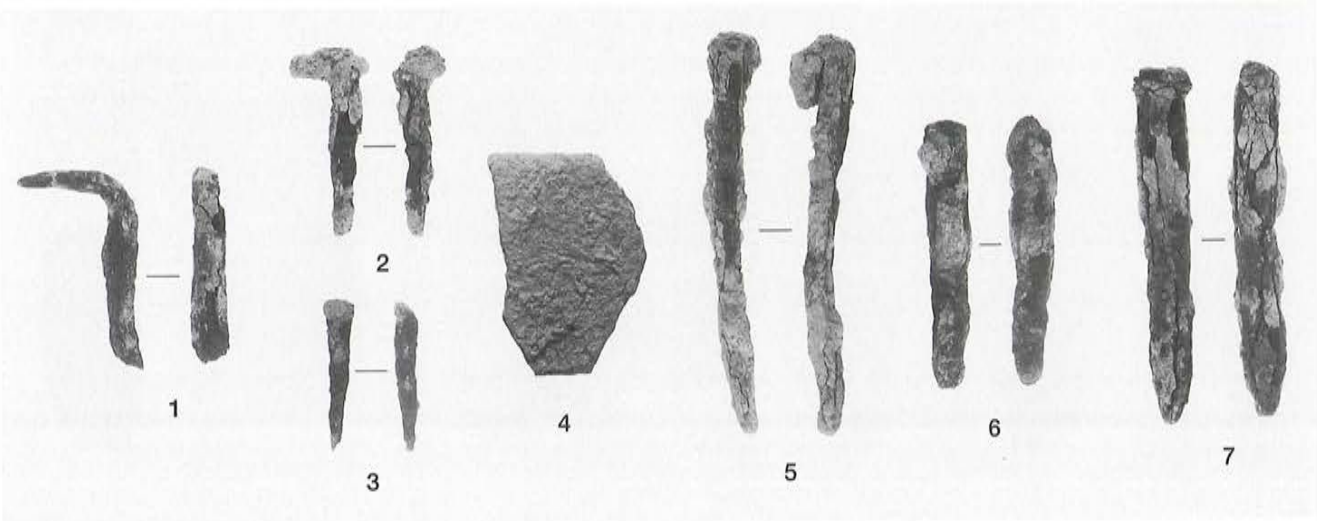


図版30　瓦質土器（1）植木鉢・鉢

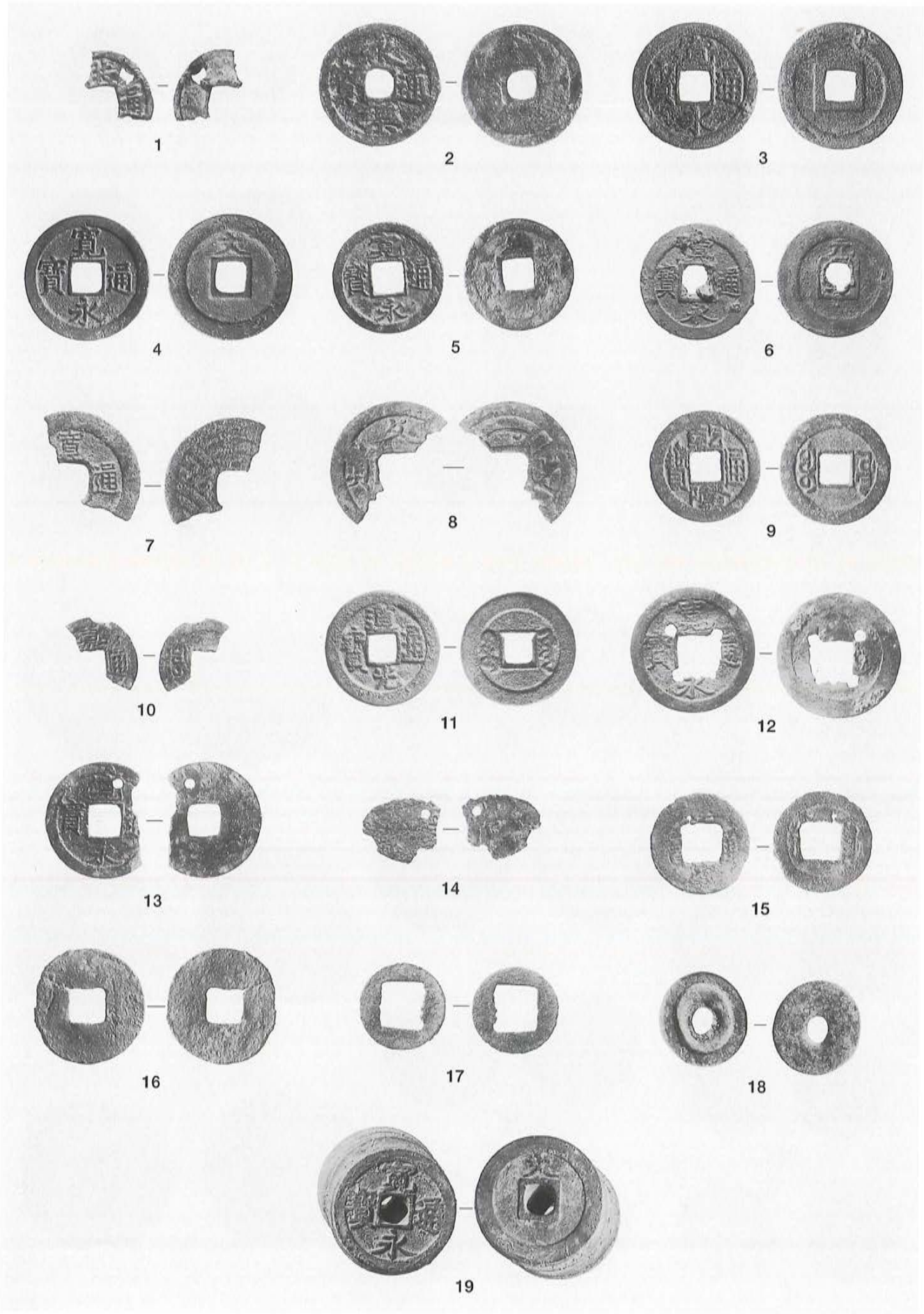


図版31　瓦質土器（2）鉢・壺・香炉・火炉・竈

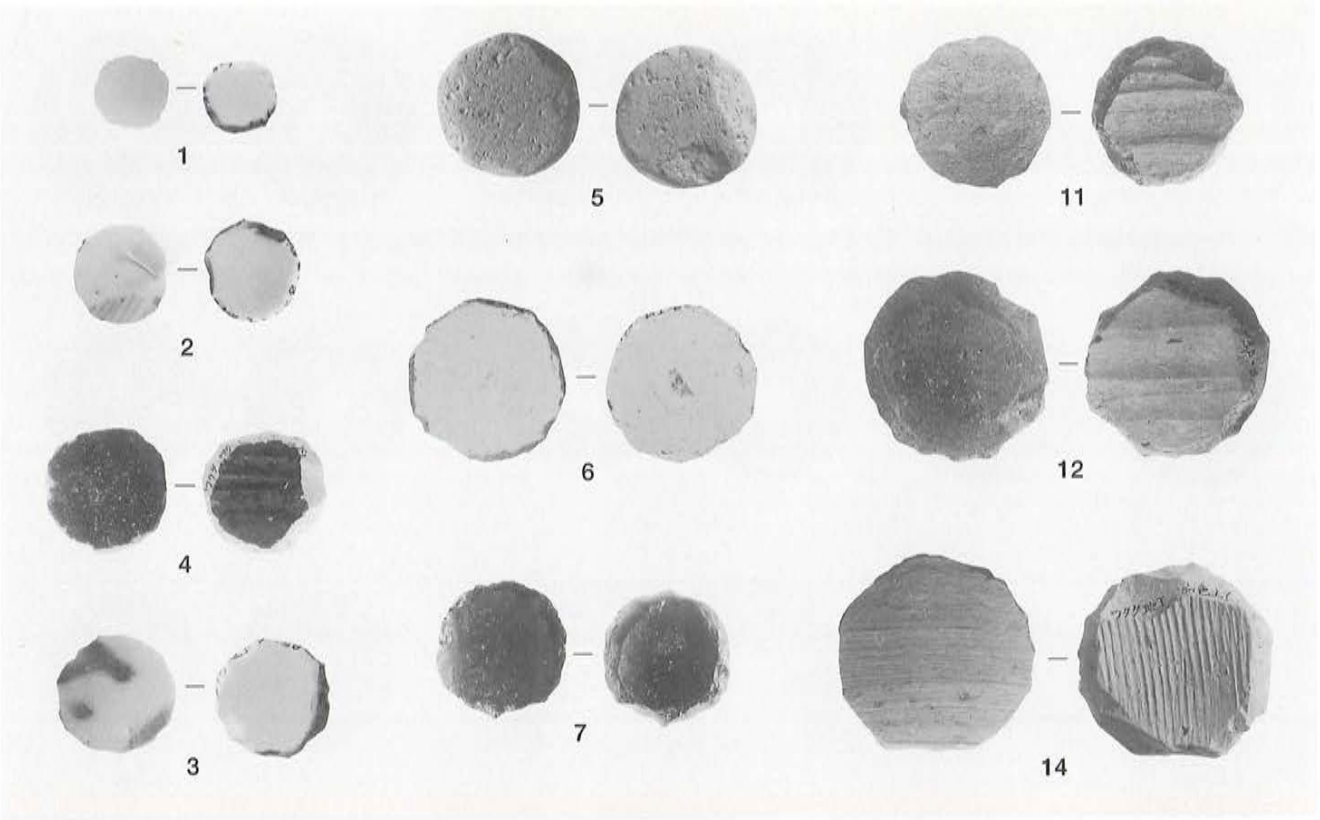


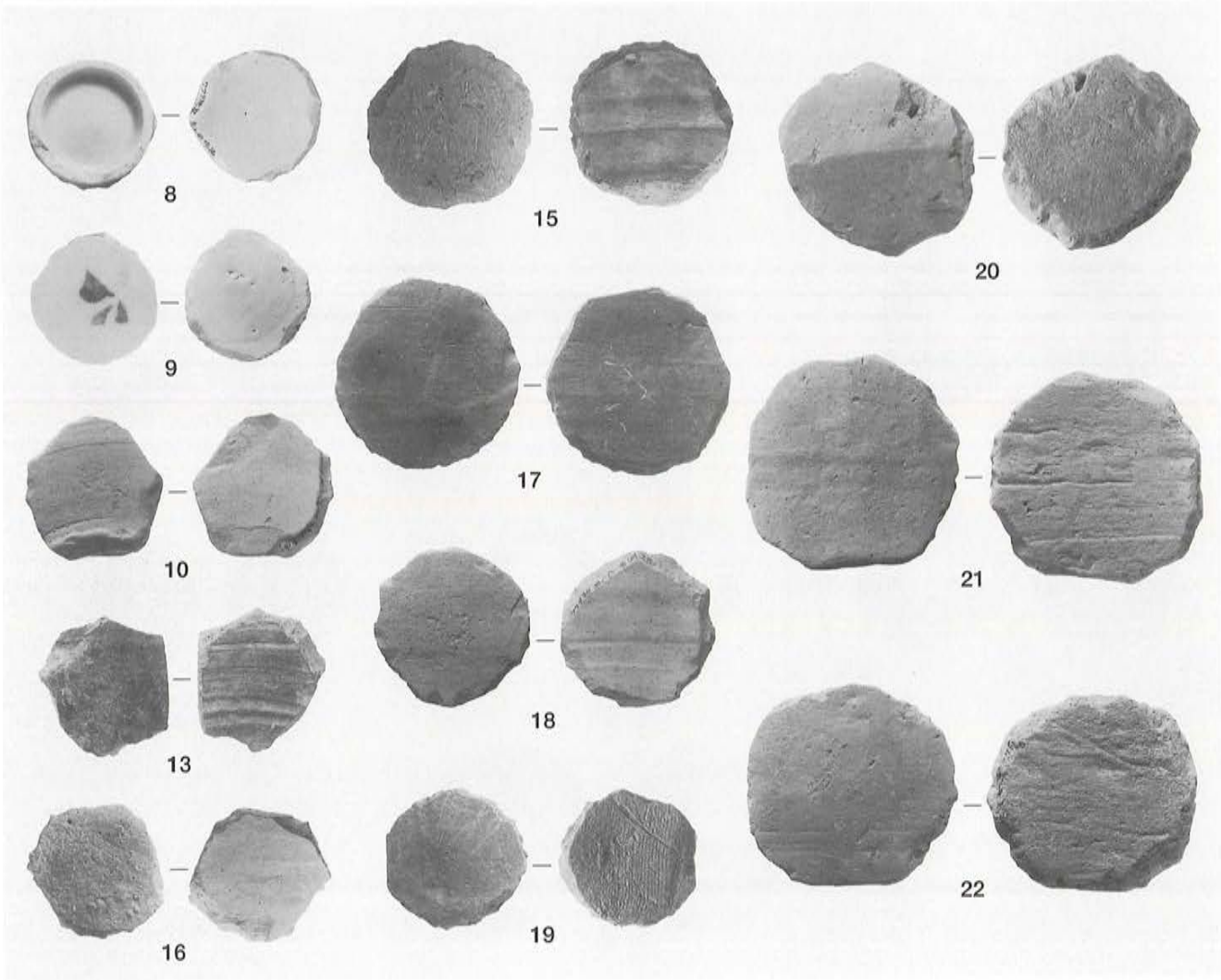


図版34　青銅製品・鉄製品

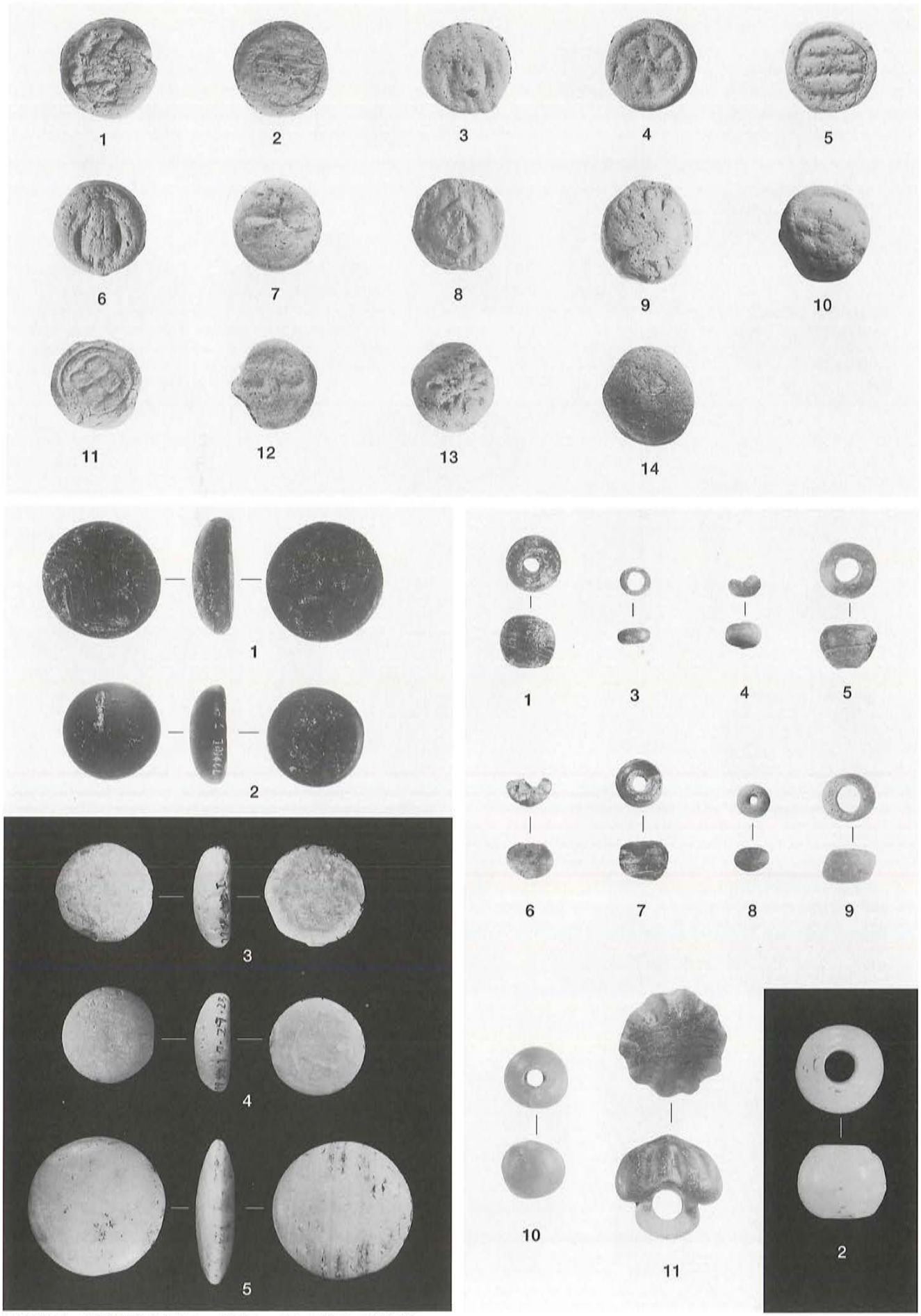


図版35　古銭

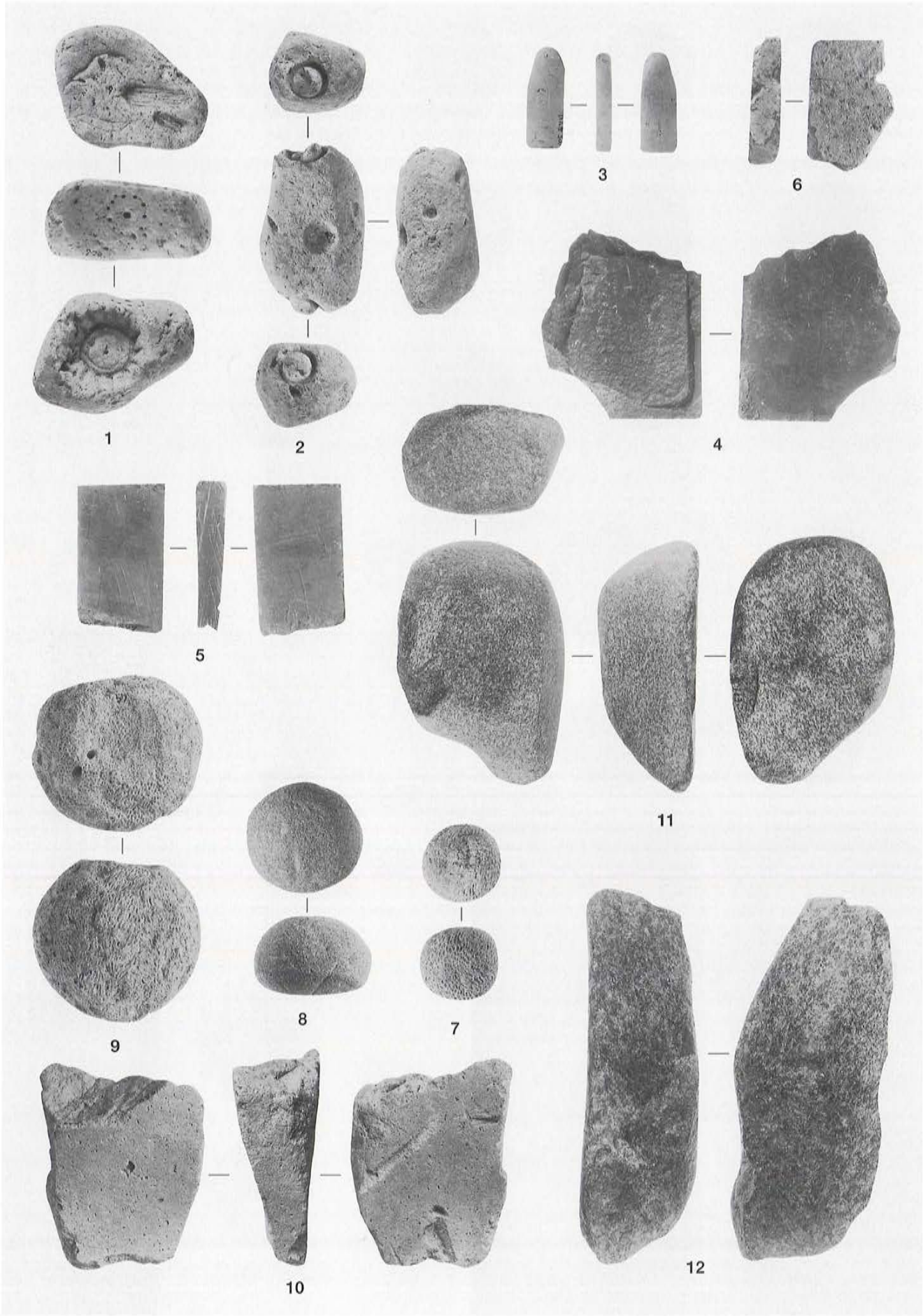




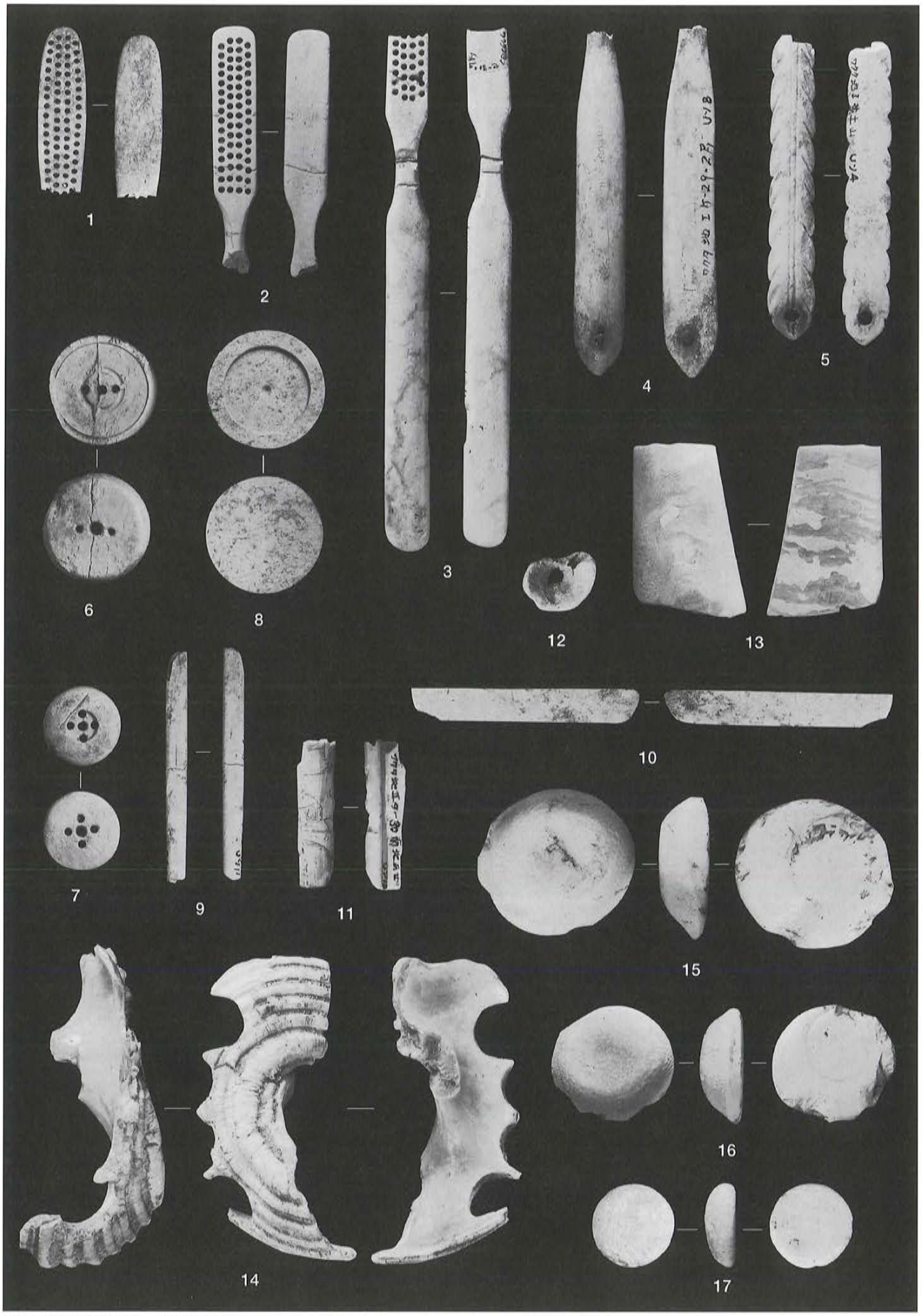
図版36　円盤状製品



図版37　円盤状土製品・碁石・玉（ガラス製品）

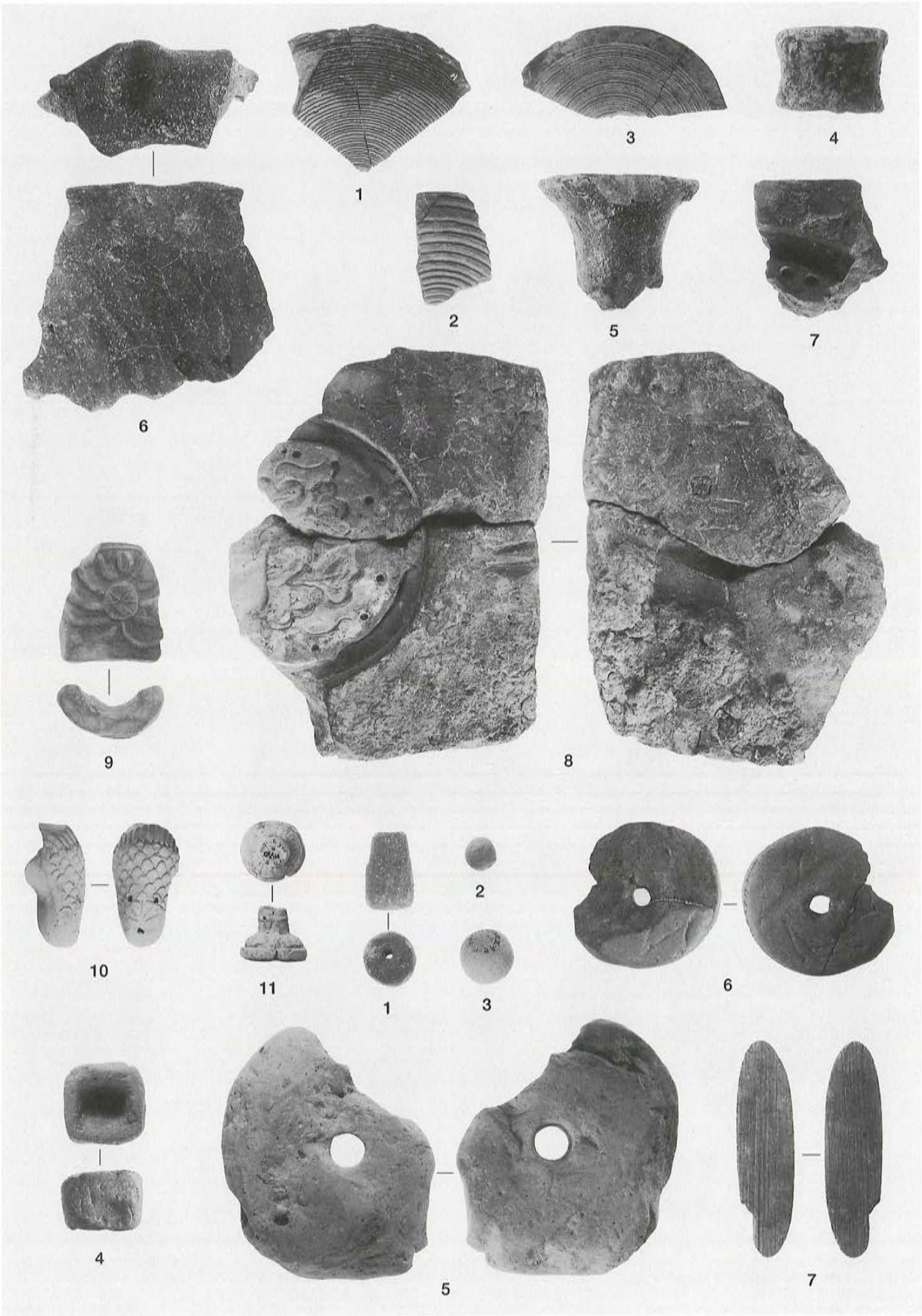


図版38　石製品・石器

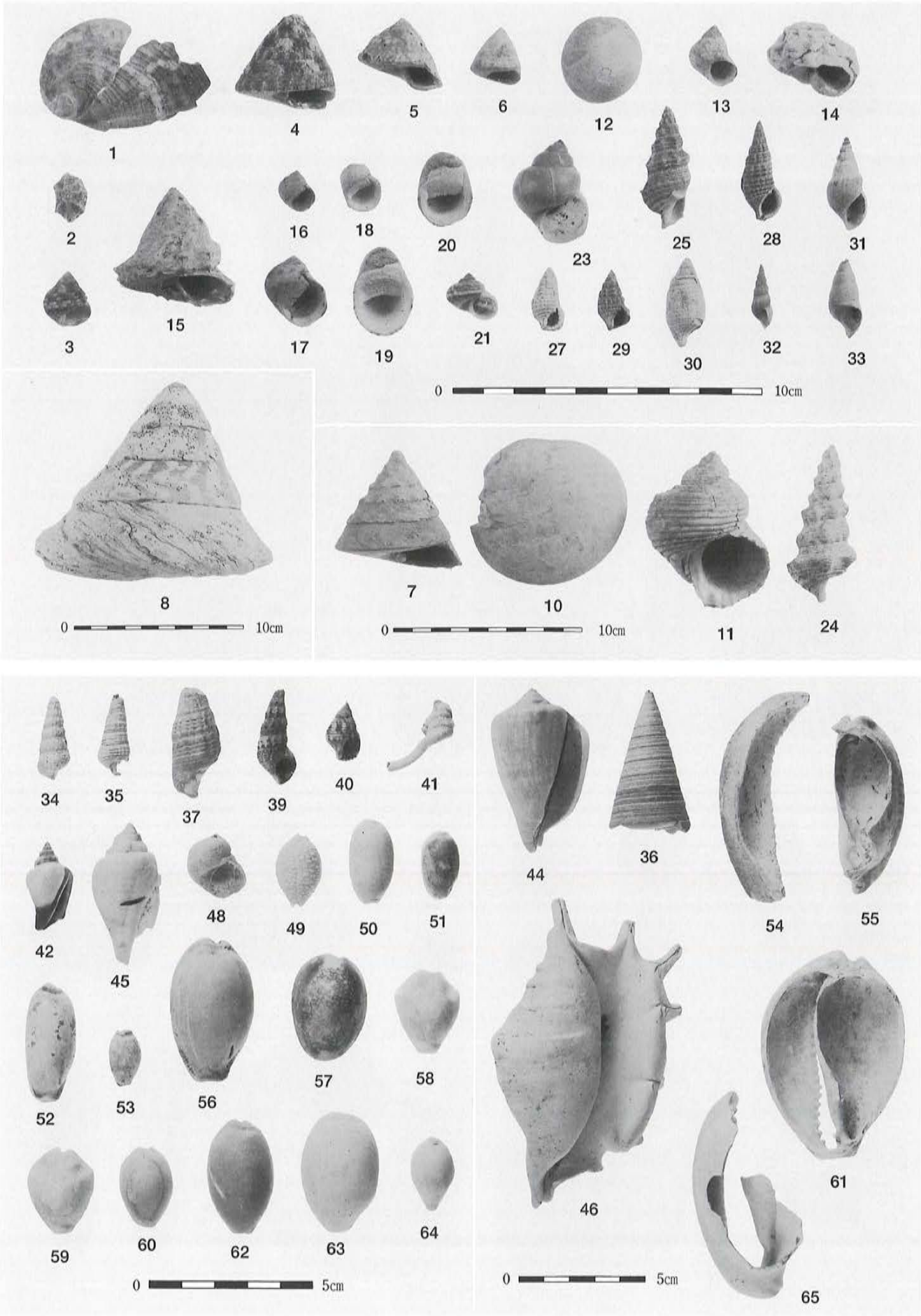


図版39　骨製品・貝製品

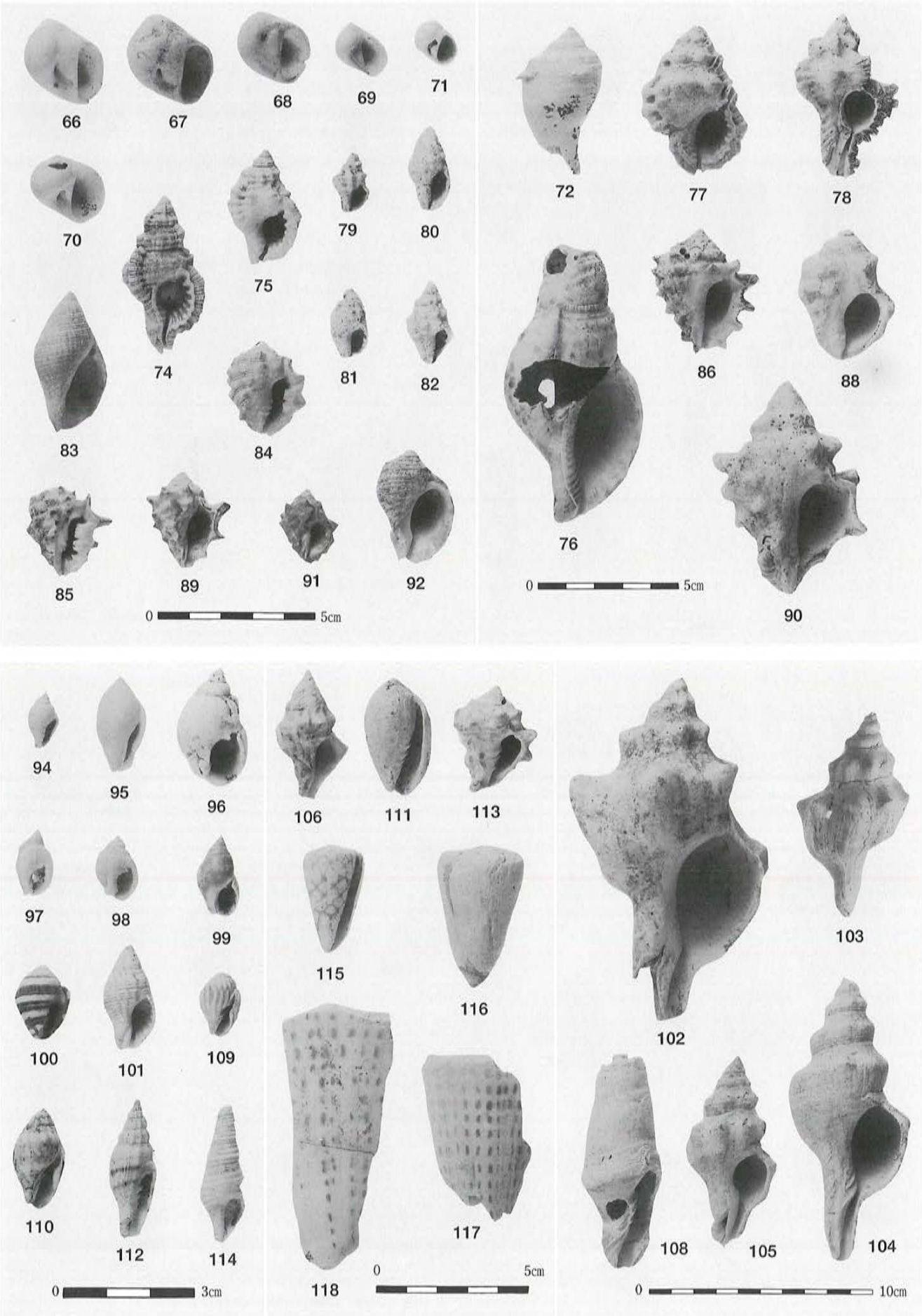
図版40　貝製品



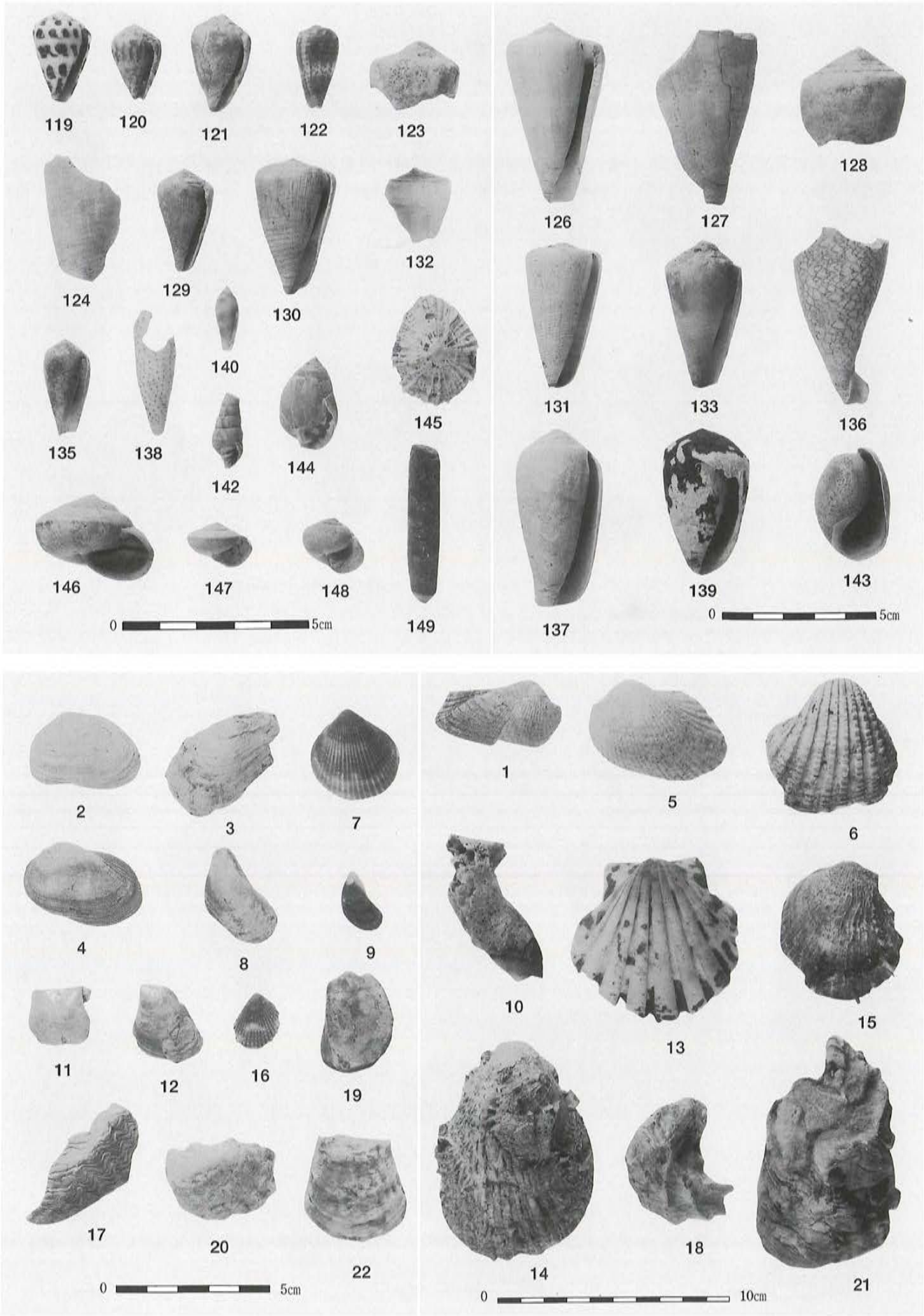
図版41　製作道具・その他



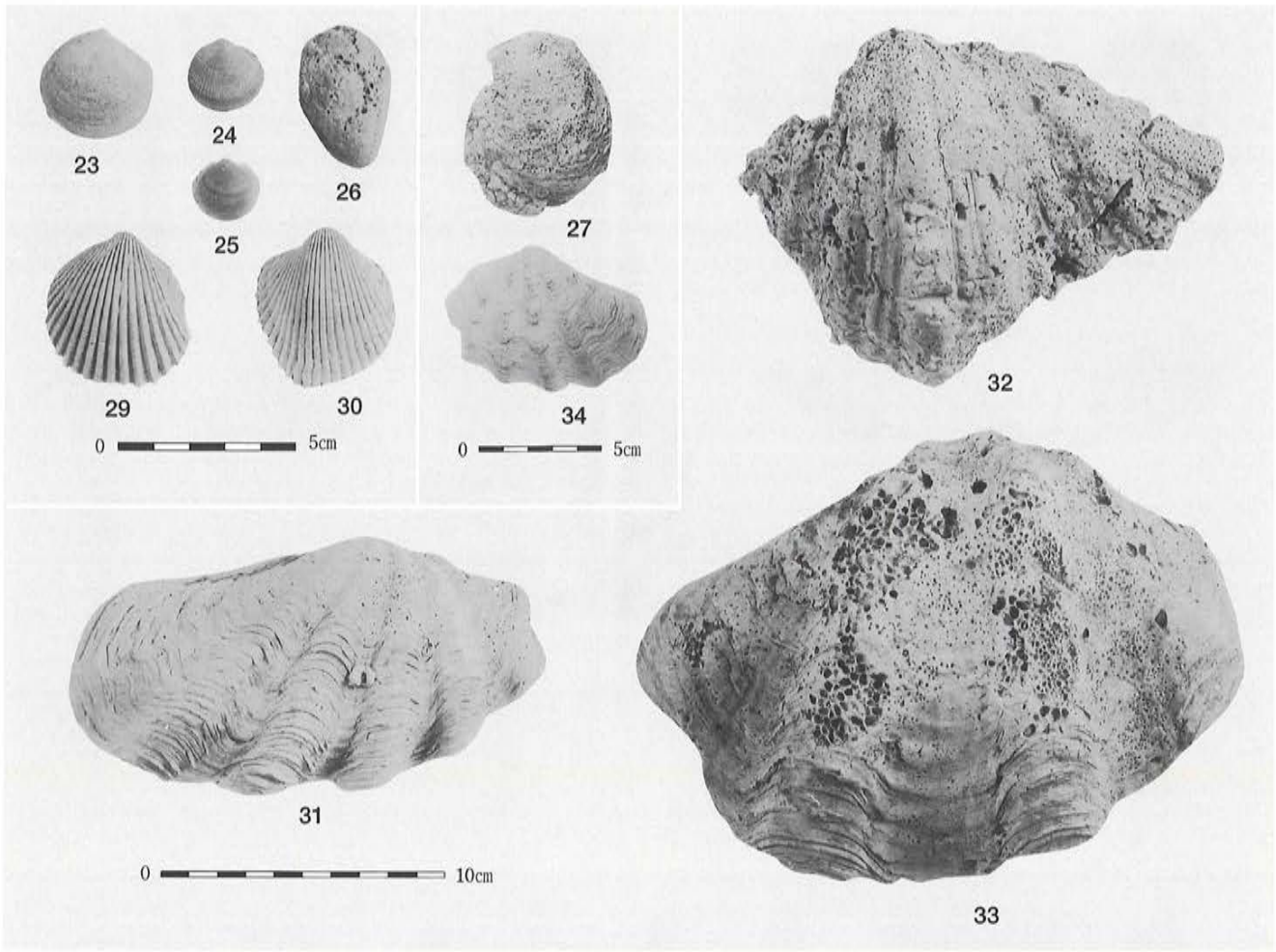
図版42　貝類（1）巻貝（番号は表と一致）

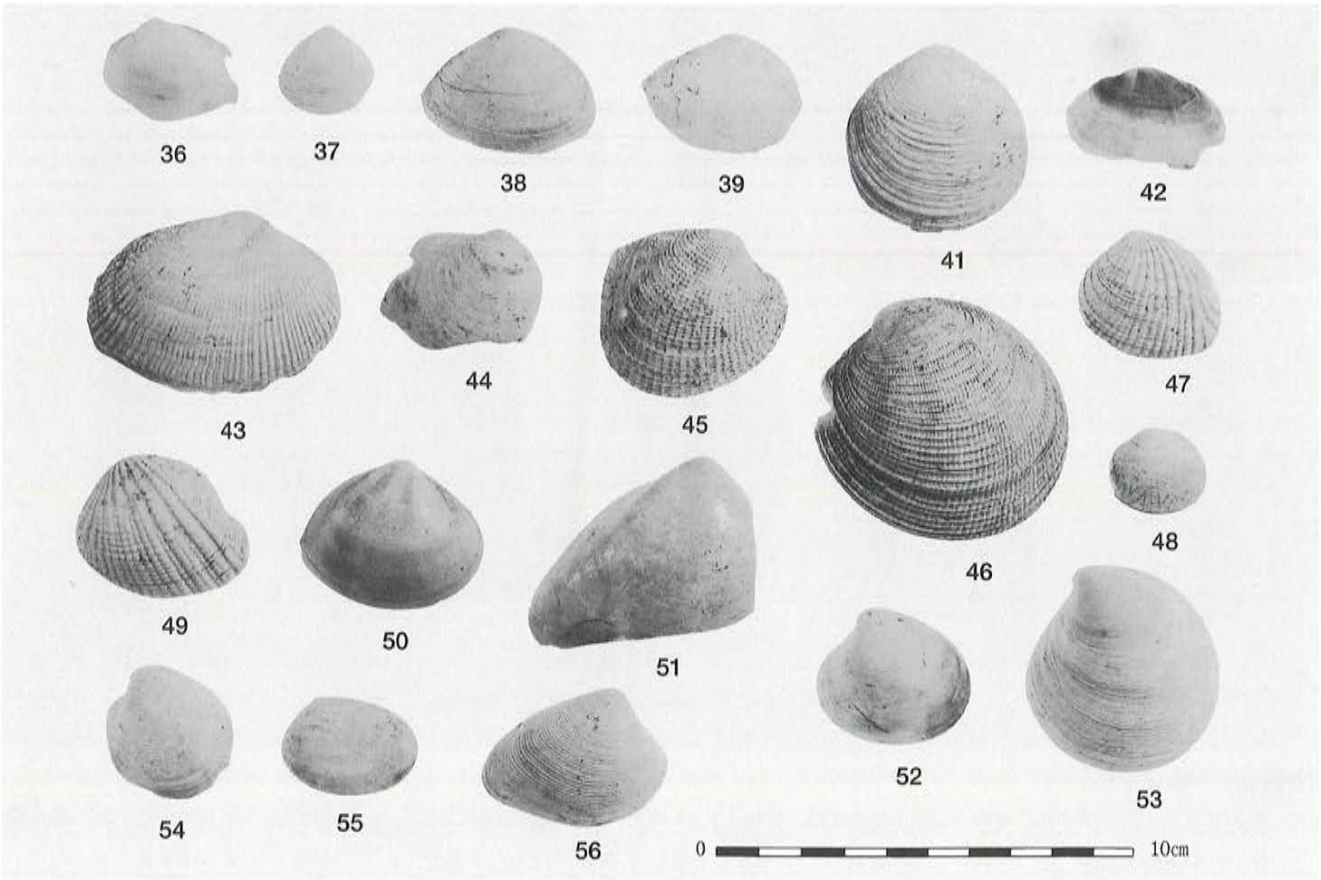


図版43　貝類（2）巻貝（番号は表と一致）

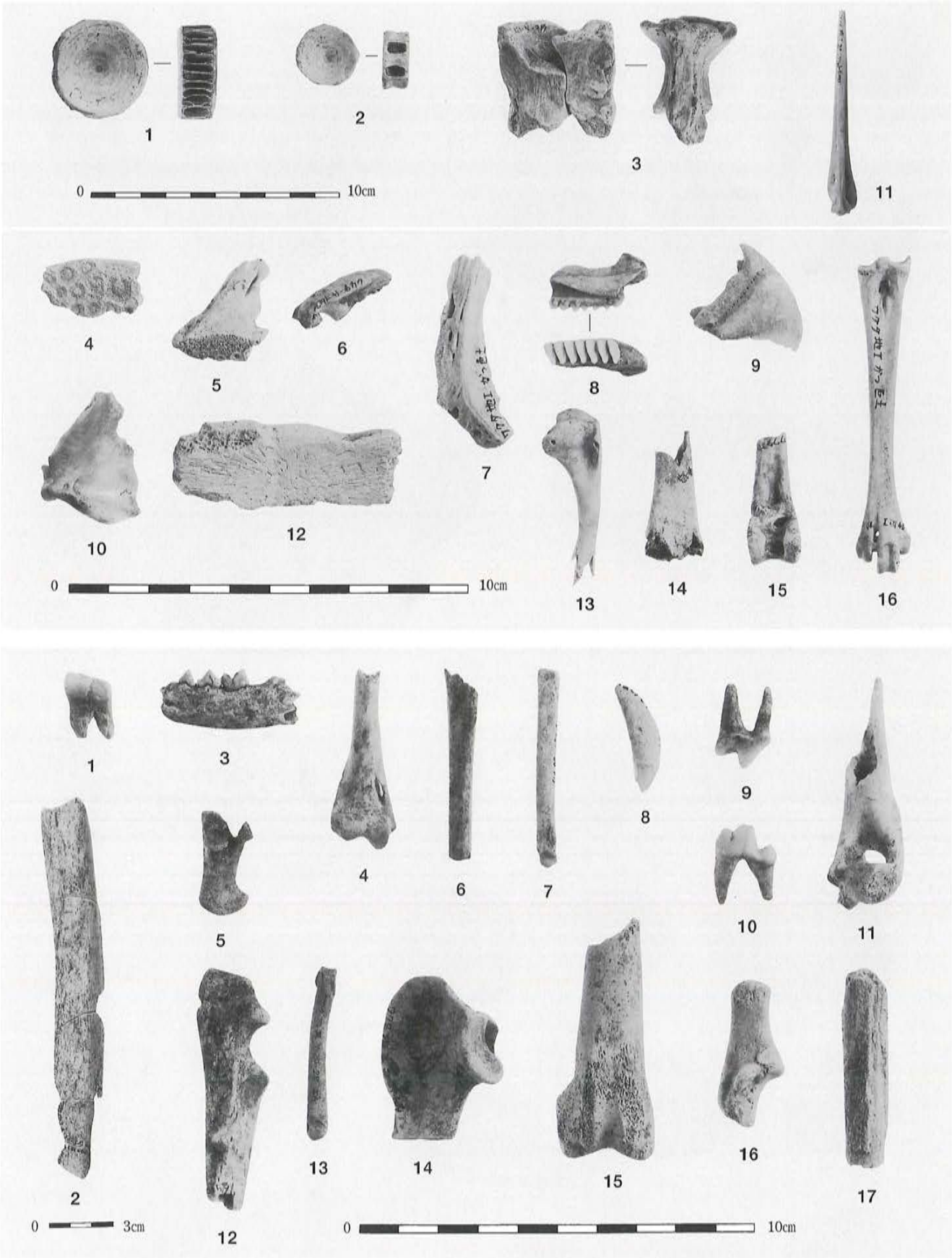


図版44　貝類（3）巻貝・二枚貝（番号は表と一致）





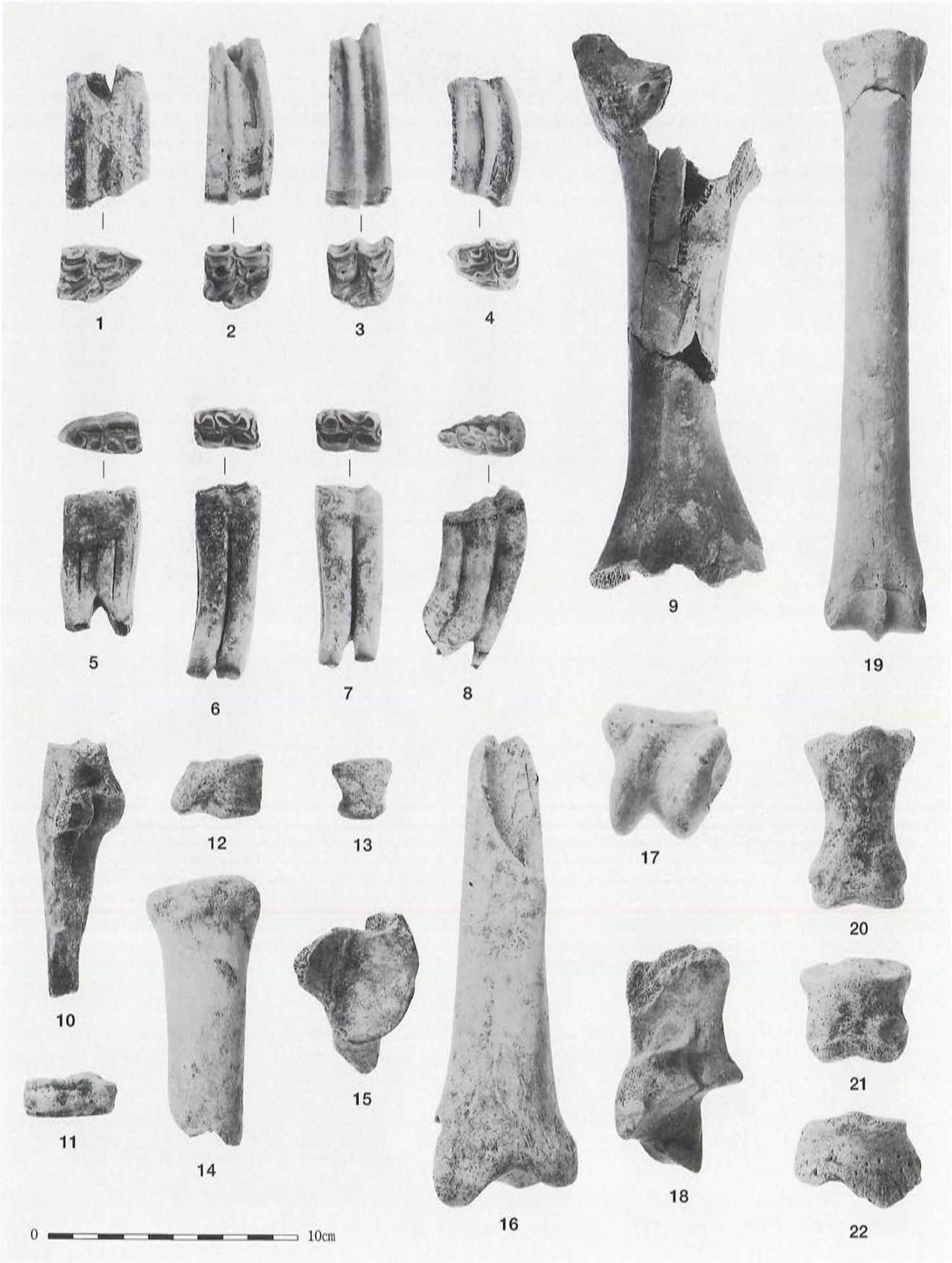
図版45　貝類（4）二枚貝（番号は表と一致）



図版46　骨（1）

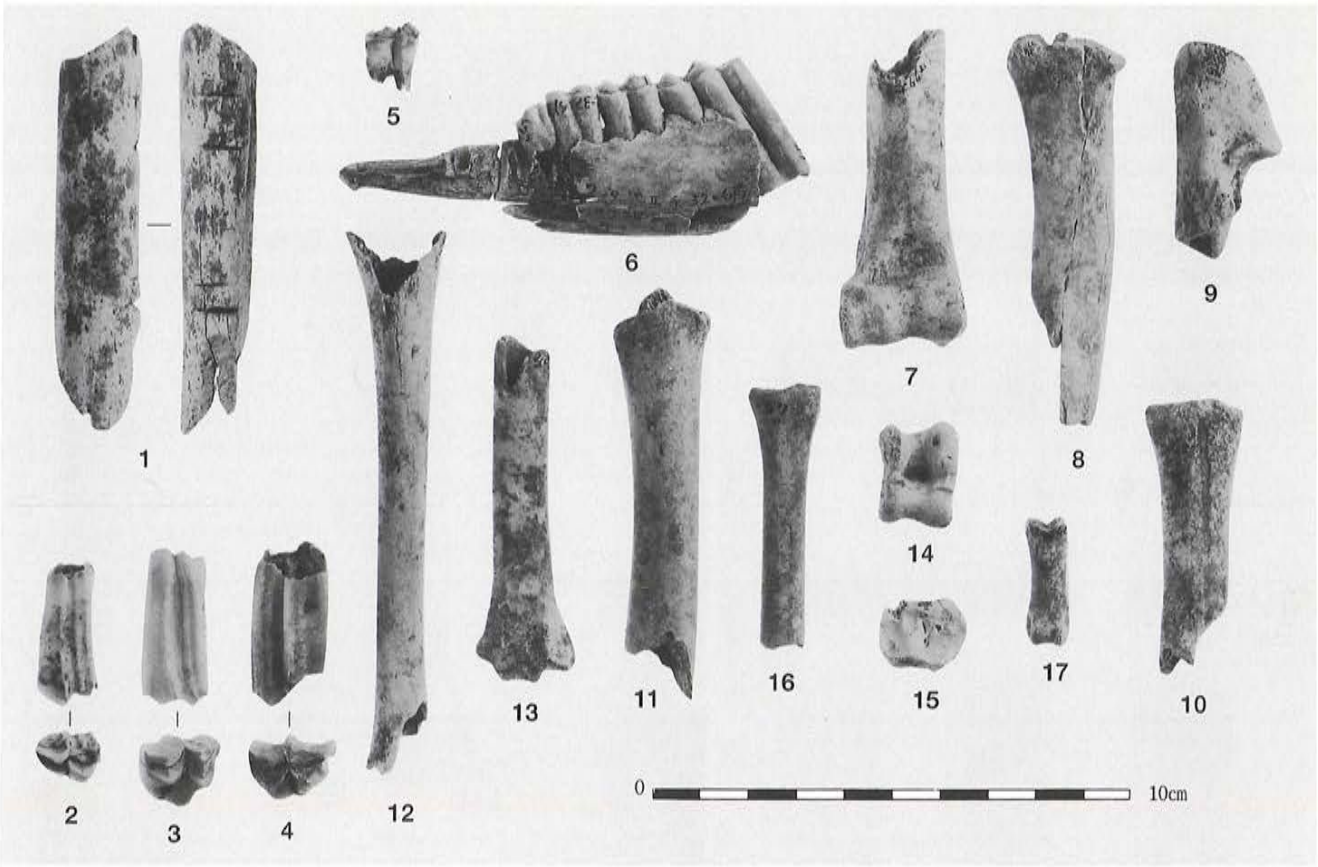
上　**サカナ**：1.ネズミザメ科　脊椎　2.メジロザメ科　脊椎　3.カジキ?　脊椎　4.タイ科　歯骨　左右不明　5.ハマフエフキ　右　前上顎骨　6.ハマフエフキ　左　口蓋　7.ハマフエフキ　右　前鰓蓋骨　8.ナンヨウブダイ　右　上咽頭骨　9.ブダイ科　右　前上顎骨　10.左　方骨　11.臀鰭血管間棘　**ウミガメ**：12.縁骨板　**ニワトリ**：13.左　上腕骨　14.右　大腿骨　15.右　脛骨　16.右　中足骨　♀

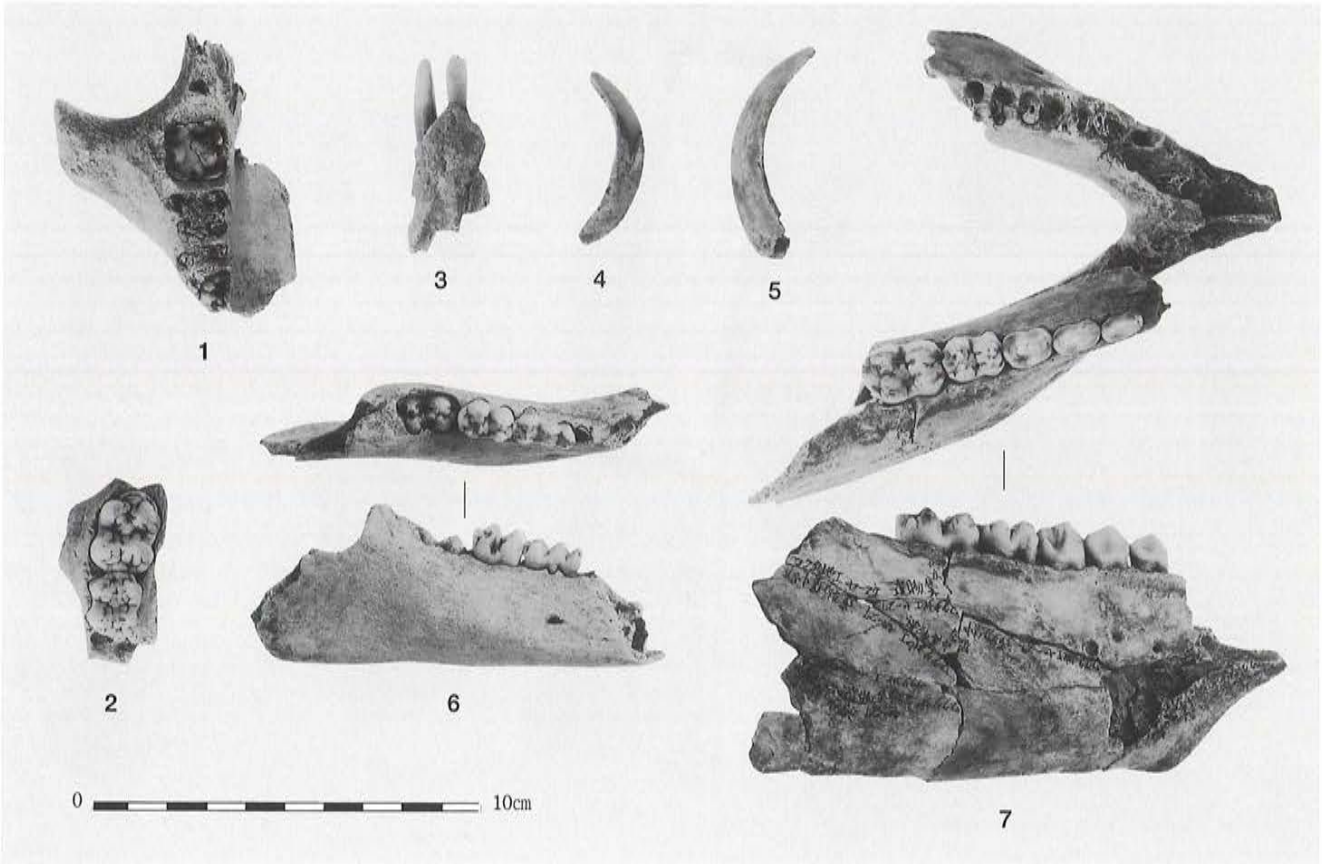
下　**ヒト**：1.歯　2.不明　**ネコ**：3.左　下顎骨　$P_{3-4}M_1$　4.右　上腕骨　5.右　寛骨　臼部～坐骨　6.左　脛骨　7.右　中足骨Ⅲ　**イヌ**：8.左　上顎骨　犬歯　9.右　上顎骨　P^1　10.左　下顎骨　M_1　11.左　上腕骨　12.右　尺骨　13.右　中手骨Ⅲ　14.左　寛骨　臼部　15.右　大腿骨　16.左　踵骨　**ジュゴン**：17.肋骨



図版47　骨（2）ウマ

1.右　上顎骨　P^2　2.右　上顎骨　P^3～M^2　3.右　上顎骨　P^3～M^2　4.右　上顎骨　M^3　5.右　下顎骨　P_2　6.右　下顎骨　P_3～M_2　7.右　下顎骨　P_3～M_2　8.右　下顎骨　M_3　9.左　上腕骨　10.右　尺骨　11.左　手根骨（第3）　12.左　手根骨（橈側）　13.左　手根骨（中間）　14.左　中手骨　15.寛骨　臼部　16.右　脛骨　17.右　距骨　18.左　踵骨　19.左　中足骨　20.基節骨　21.中節骨　22.末節骨

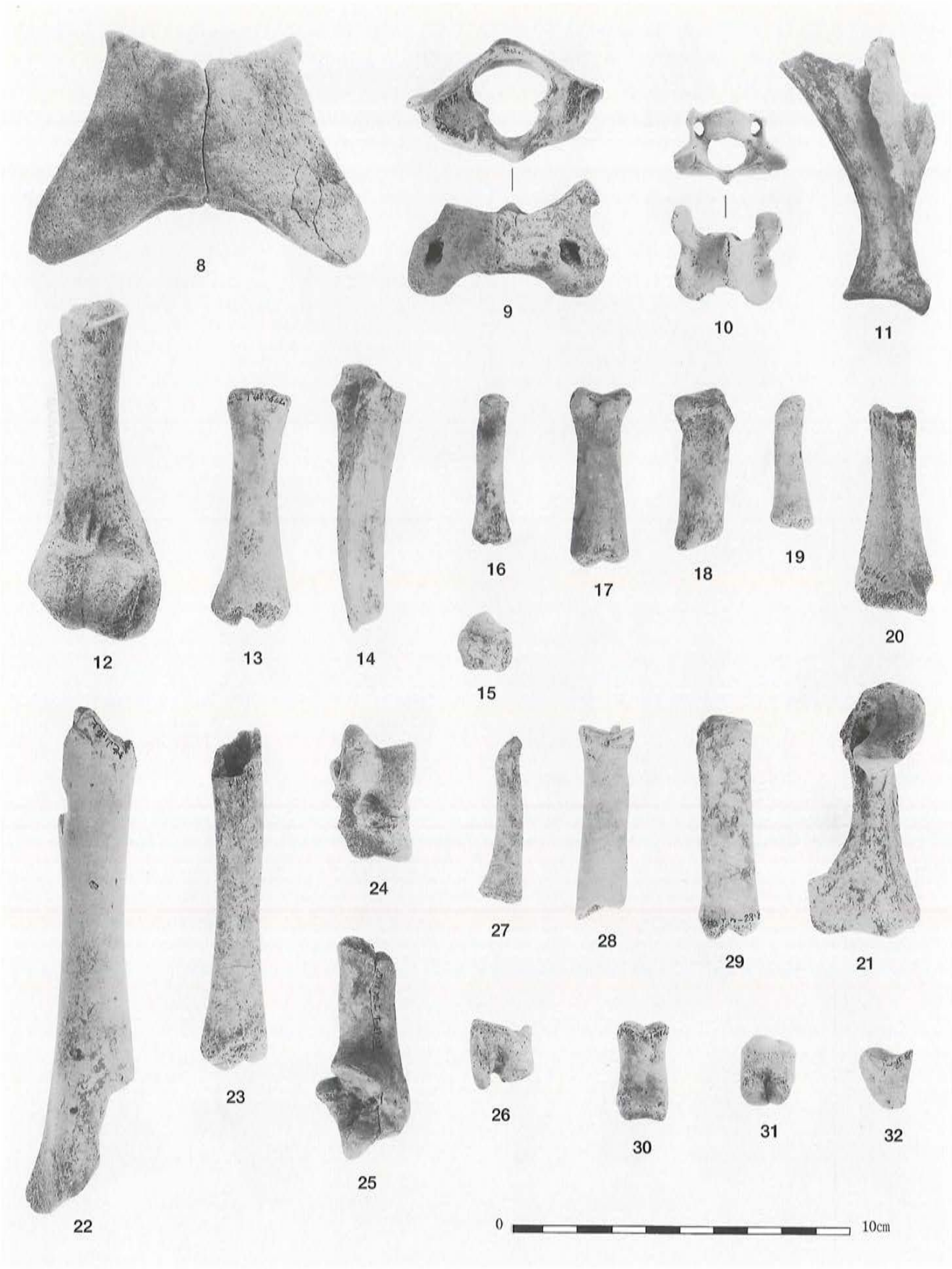




図版48　骨（3）

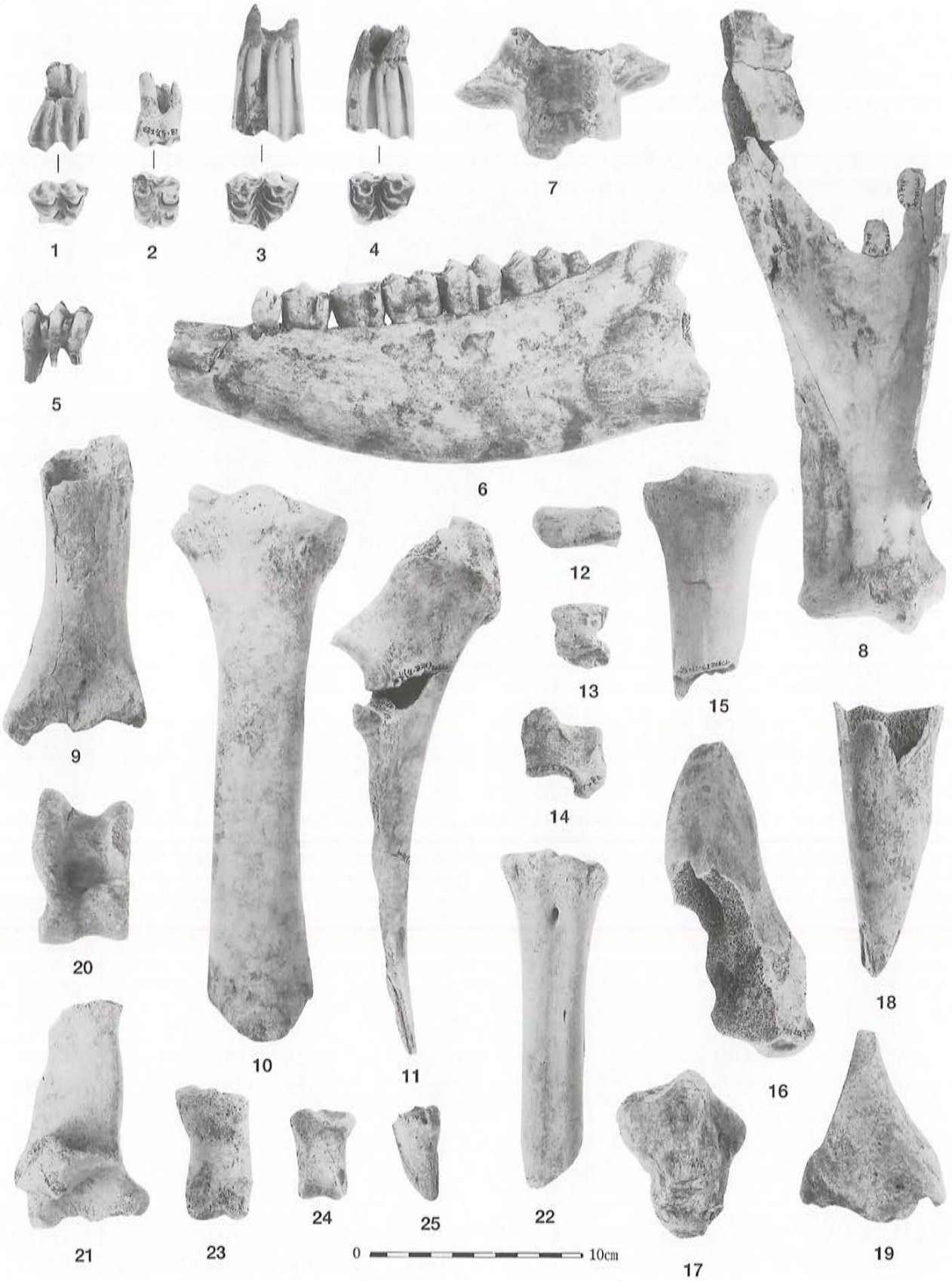
上　**シカ**：1.左　中手骨　**ヤギ**：2.右　上顎骨　M^1　3.右　上顎骨　M^2　4.左　上顎骨　M^3　5.左　下顎骨　dm_4?　6.左　下顎骨　$P_4M_{1,2,3}$
7.右　上腕骨　8.右　橈骨　9.右　尺骨　10.左　中手骨　11.右　大腿骨　12・13.右　脛骨　14.左　距骨　15.左　足根骨(第4中心)
16.右　中足骨　17.右　基節骨

下　**ブタ**：1.左　上顎骨　P^4　2.左　上顎骨　$M^{1,2}$　3.左右　下顎骨I_1　4.左　下顎骨♀C　5.右　下顎骨♂C　6.右　下顎骨　dm_4 $M_{1,2}$
7.右　下顎骨　$P_{2,3,4}M_{1,2}$



図版49　骨（4）ブタ

8.頭頂骨　9.環椎　10.頸椎　11.右　肩甲骨　12.左　上腕骨　13.右　橈骨　14.左　尺骨　15.右　手根骨（橈側）　16.中手骨Ⅱ　17.左　中手骨Ⅲ　18.右　中手骨Ⅳ　19.左　中手骨Ⅴ　20.右　寛骨　腸骨部～臼部　21.左　寛骨　臼部～坐骨　22.左　大腿骨　23.右　脛骨　24.右　距骨　25.右　踵骨　26.右　足根骨（第4）　27.右　中足骨Ⅱ　28.左　中足骨Ⅲ　29.左　中足骨Ⅳ　30.右　基節骨　31.右　中節骨　32.右　末節骨



図版50　骨（5）ウシ

1.右　上顎骨　dm^4　2.右　上顎骨　M^1　3.左　上顎骨　M^2　4.左　上顎骨　M^3　5.右　下顎骨　dm_4　6.左　下顎骨$P_{2,3,4}$ $M_{1,2,3}$　7.軸椎　8.右　肩甲骨　9.右　上腕骨　10.右　橈骨　11.右　尺骨　12.左　手根骨（2+3）　13.左　手根骨（中間）　14.右　手根骨（尺側）　15.右　中手骨　16.右　大腿骨　17.右　膝蓋骨　18.左　脛骨　19.右　脛骨　20.右　距骨　21.左　踵骨　22.右　中足骨　23.右　基節骨　24.左　中節骨　25.右　末節骨

©

沖縄県文化財調査報告書　第136集

湧田古窯跡（Ⅳ）

－県民広場地下駐車場建設に係る発掘調査－

印刷　平成11年3月31日
発行　平成11年3月31日
編集　沖縄県教育庁文化課
発行　沖縄県教育委員会
〒900-0021　那覇市泉崎1丁目2-2
TEL　098（866）2731～2733
FAX　098（866）4350

印刷　グローバル企画印刷（株）
〒901-1111　南風原町字兼城577
TEL　098（889）3222

湧田古窯跡(Ⅳ)正誤表　1999.3

頁	行	誤	正
112	13	検出された遺構は	Ⅰ地区の検出された遺構は
112	16	Ⅰ・Ⅱ地区より小高くなっている	Ⅰ・Ⅲ地区より小高くなっている。
113	17	先述した石敷き遺構	先述した集石遺構
80	20	浅草橋 註	浅草橋 註14
116	註14	浅草橋	「きせる」　たばこと塩の博物館　1988年.3月